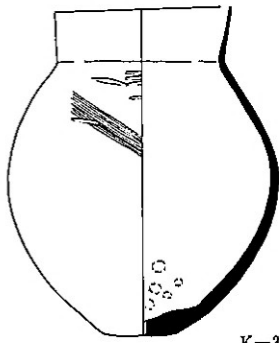
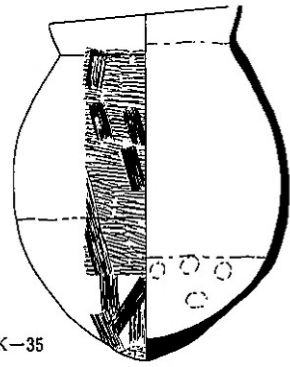


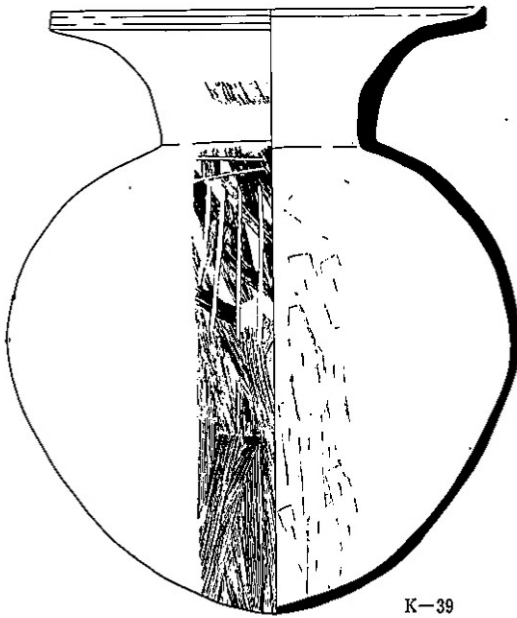
第71图 3号墓上层堆积出土土器



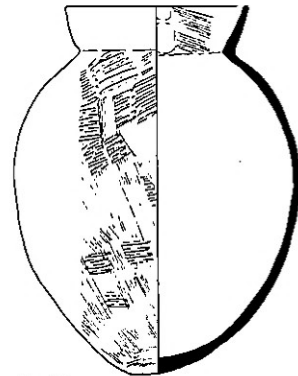
K-34



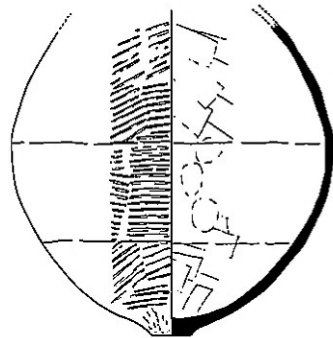
K-35



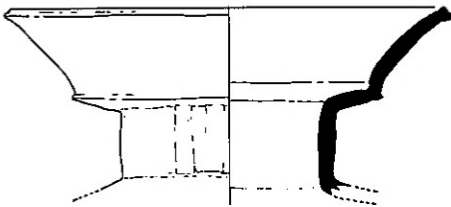
K-39



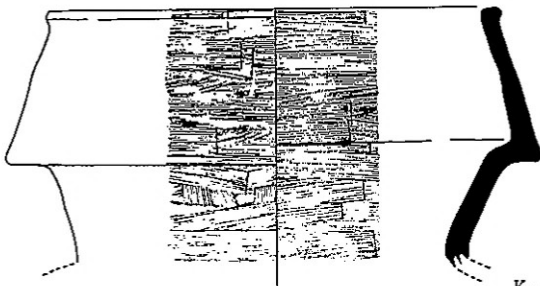
K-36



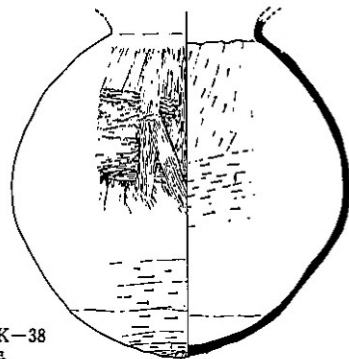
K-37



K-40

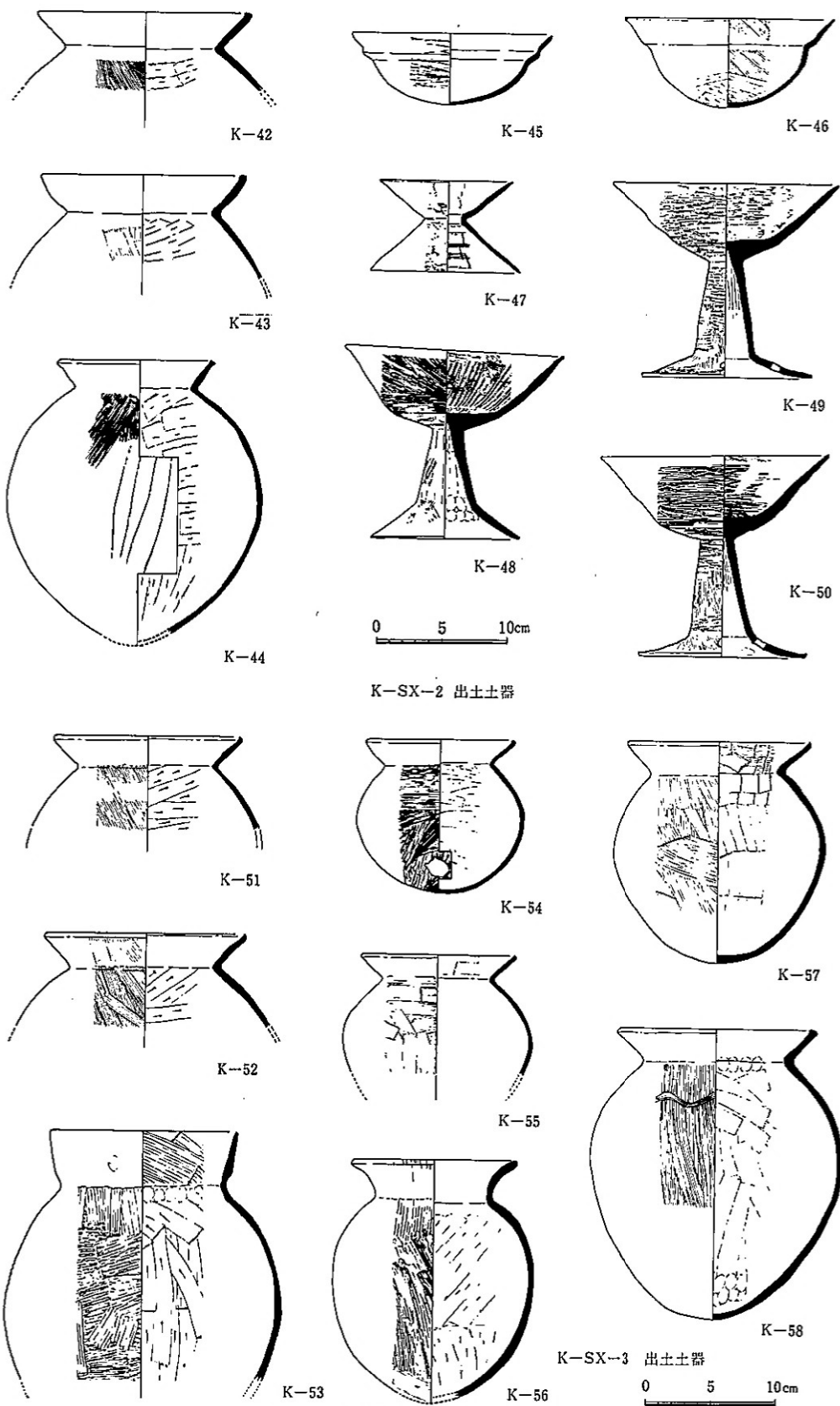


K-41

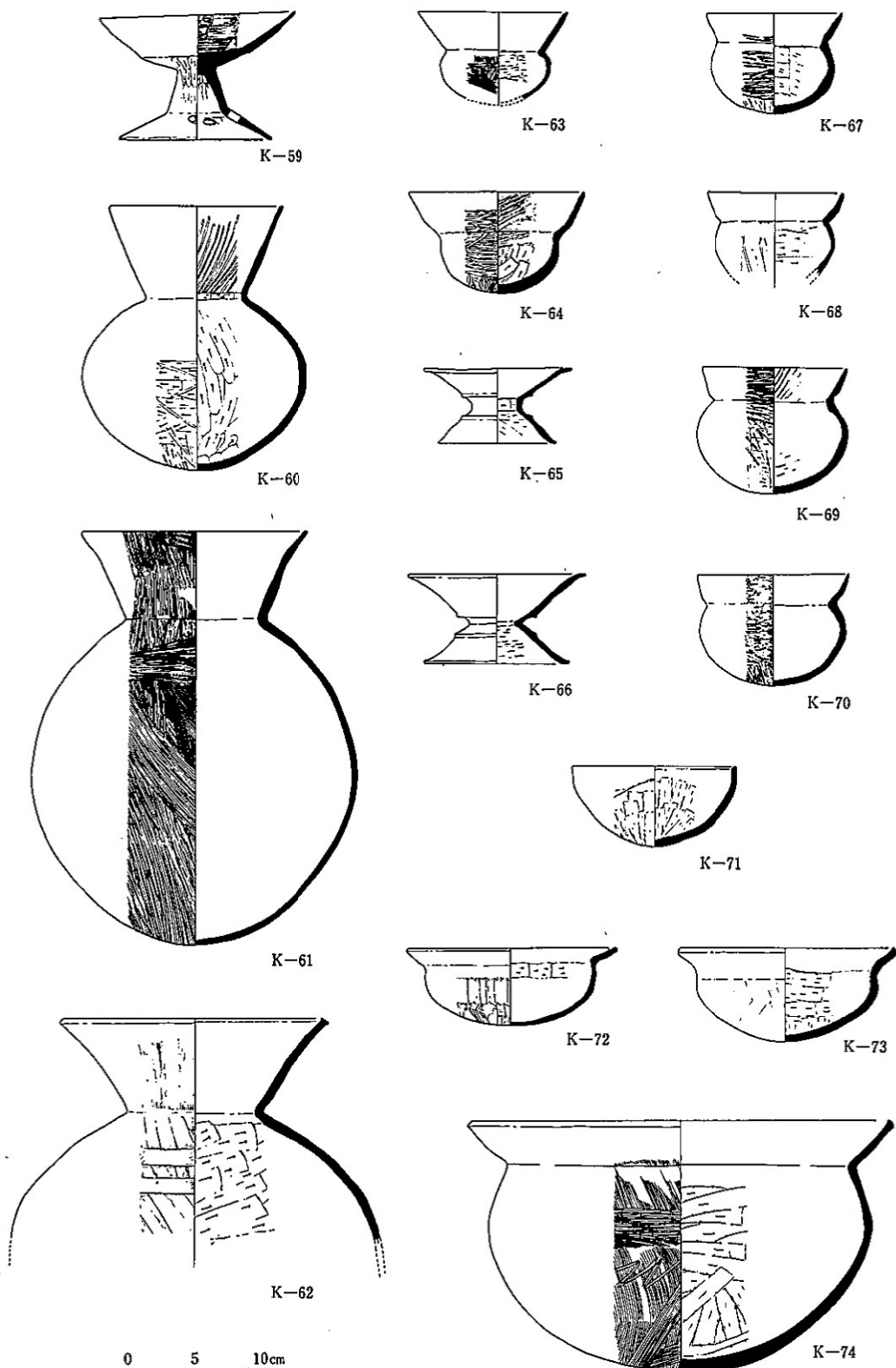


K-38

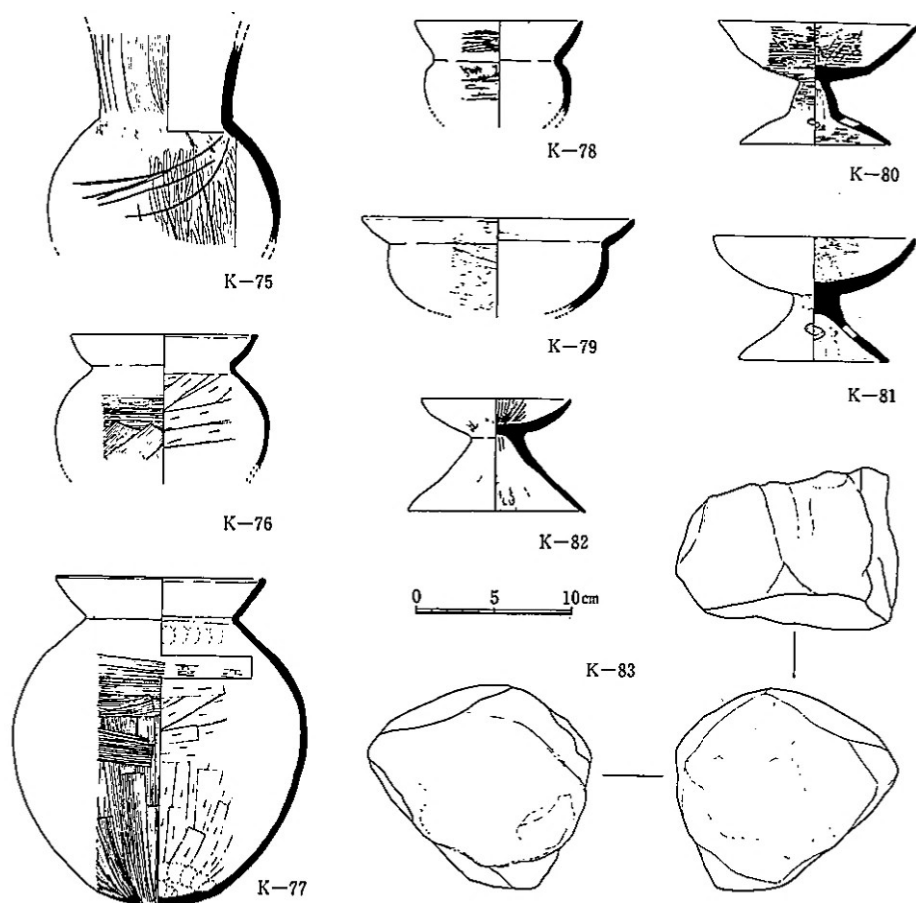
第72图 3号墓上層堆積出土土器



第73图 3号墓周溝外土器集積出土土器

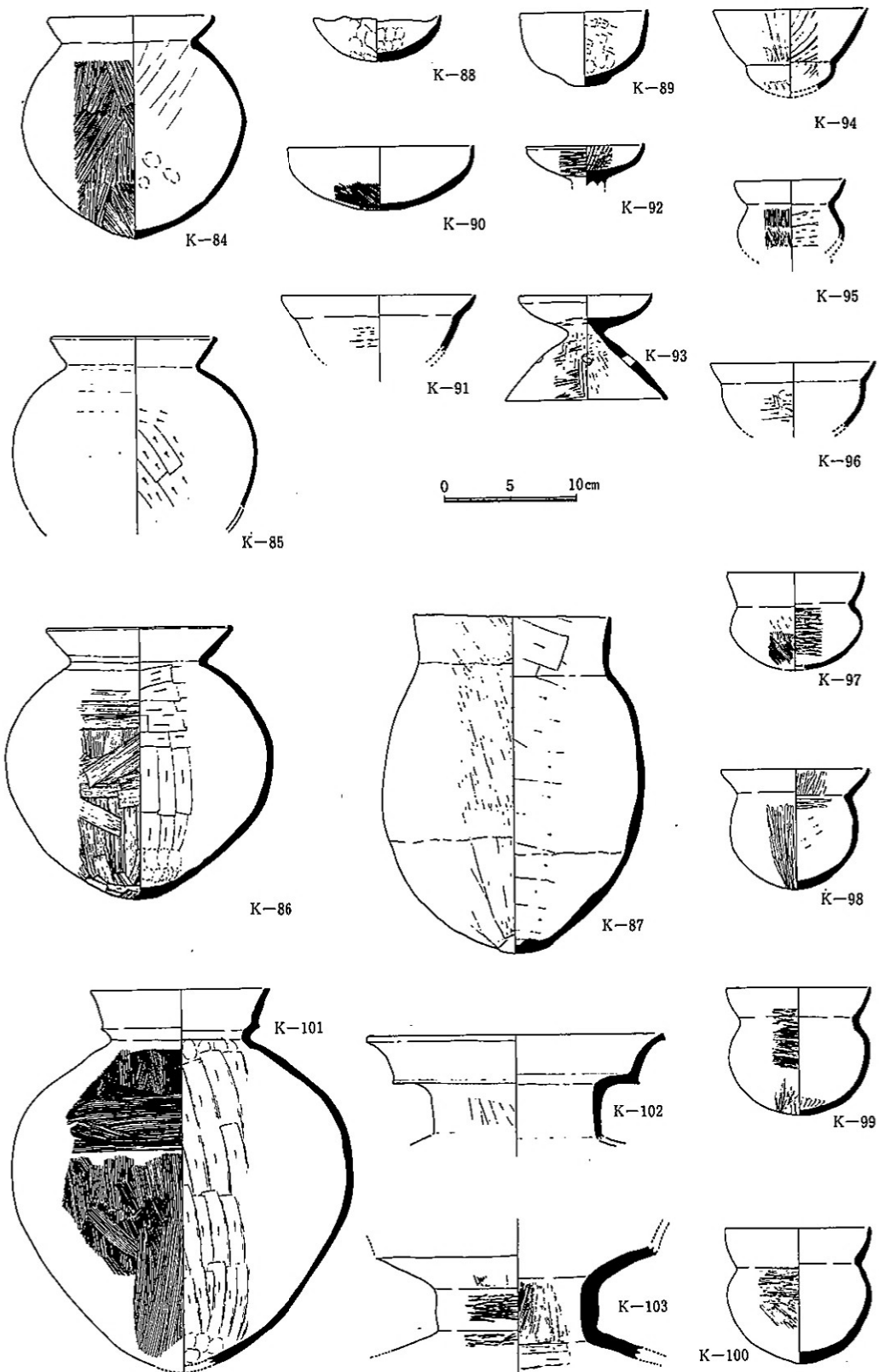


第74图 3号墓周溝外土器集積出土土器 (K-SX-3)

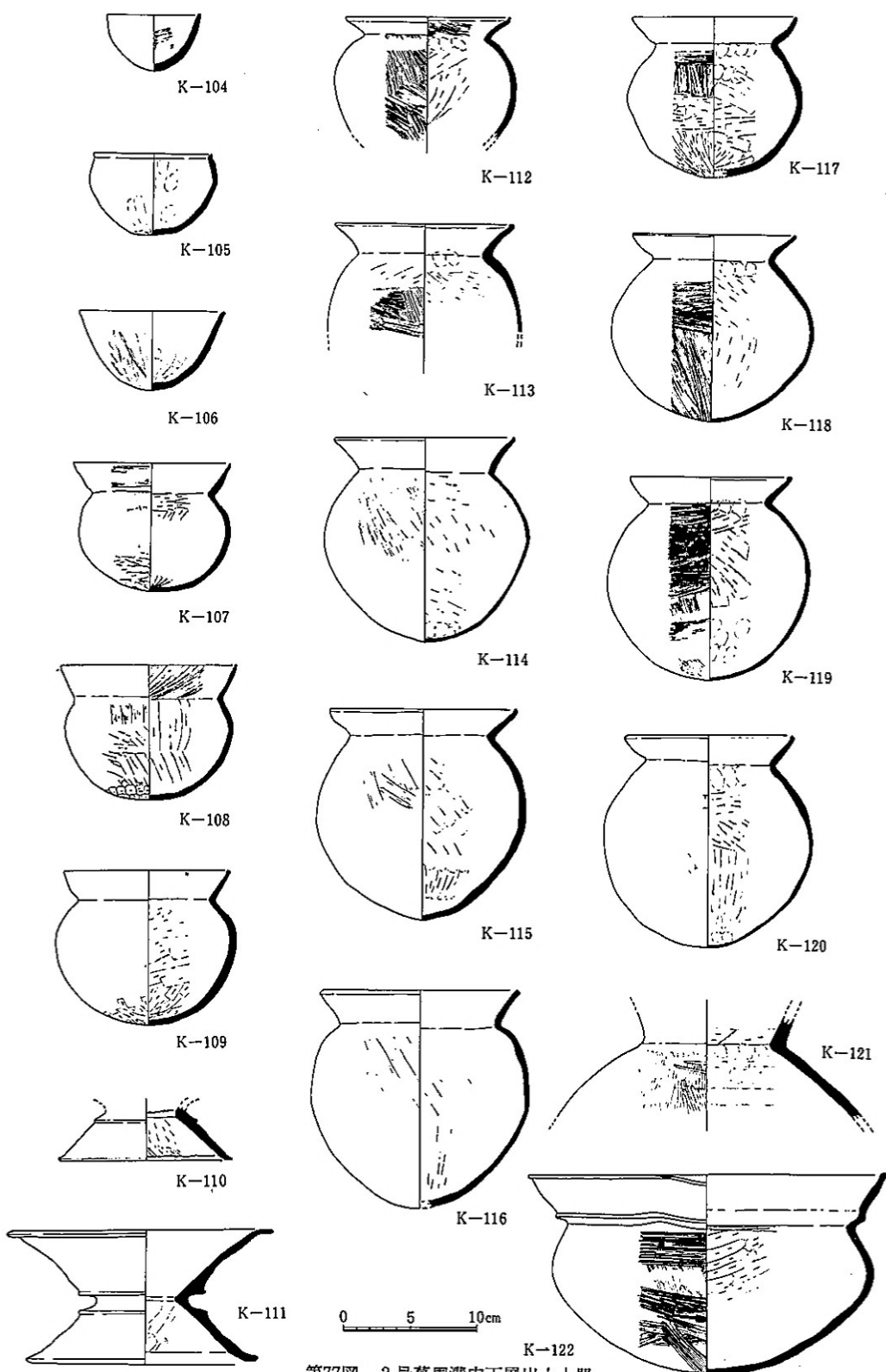


第75図 3号墓周溝外土器集積出土土器 (K-SX-4)

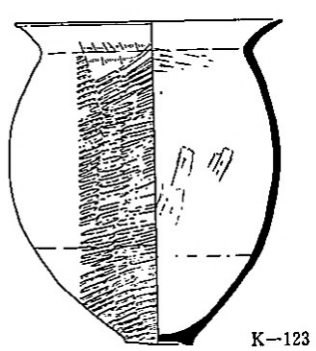
たと考えている。K-111とK-164はセット関係と考えられK-122も含めて接してあった。こうした関係は、その他の土器のかなりのものについても、その出土位置から推察できる状態である。また、前述したように土層の堆積状況から周溝外土器集積との時間的關係は判断できないが、土器の形式的見地からはほぼ平行するものと考えている。以上が3号墓関連の土器の出土状況及びその理解である。周溝内下層及び、K-SX-3・4・6出土の土器について時期的には、1号墓とほぼ平行するものかやや後出するものと考えている。K-SX-2出土の土器は、明確に布留式と分類しうる一群である。上層堆積出土土器については、明らかに層位的にこれらの土器よりも後出するものである。4号墓から出土したK-176~180の土器であるが、本概報では時期を示せる最小限の個体数しか図化しておらず、ほとんど未整理のため、資料として非常に不十分なものである。K-176~178は甕の口縁部片であるが、その端部の特徴において庄内式から布留式への特徴を示しており、1号墓及び、3号墓の周溝内下層や土器集積 (K-SX-3・4・6) などとほぼ併行するか、やや後出する時期を考えている。K-179・180は周溝内より検出した3



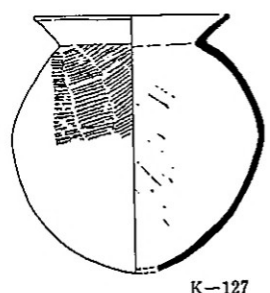
第76图 3号墓周溝外土器集積出土土器 (K-SX-6)



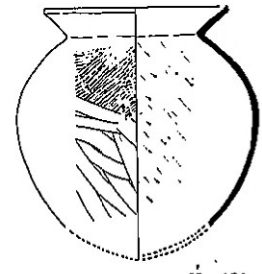
第77图 3号墓周溝内下層出土土器



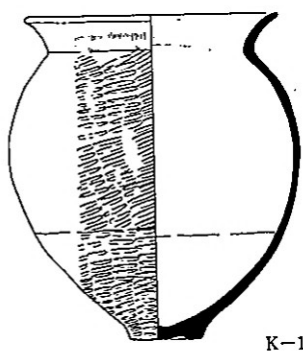
K-123



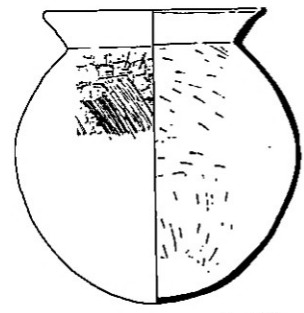
K-127



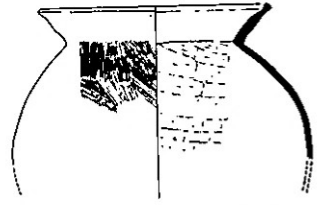
K-131



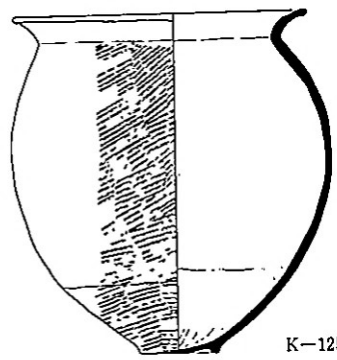
K-124



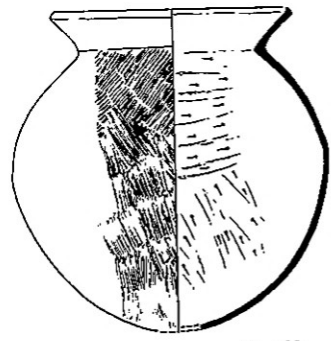
K-128



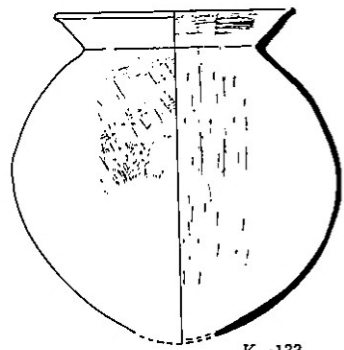
K-132



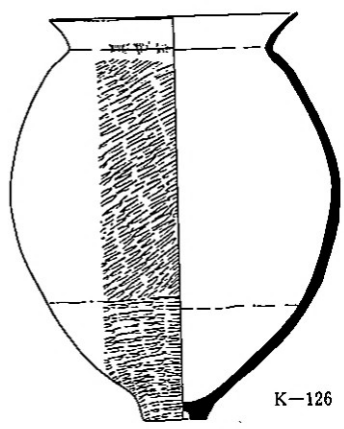
K-125



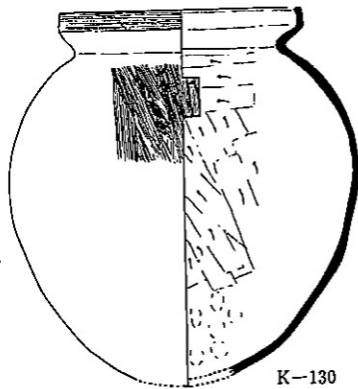
K-129



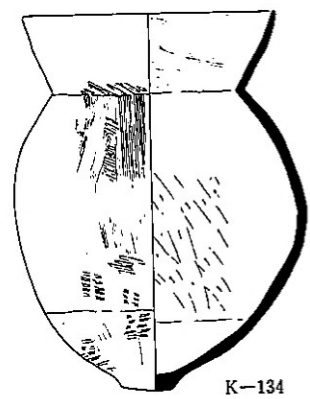
K-133



K-126

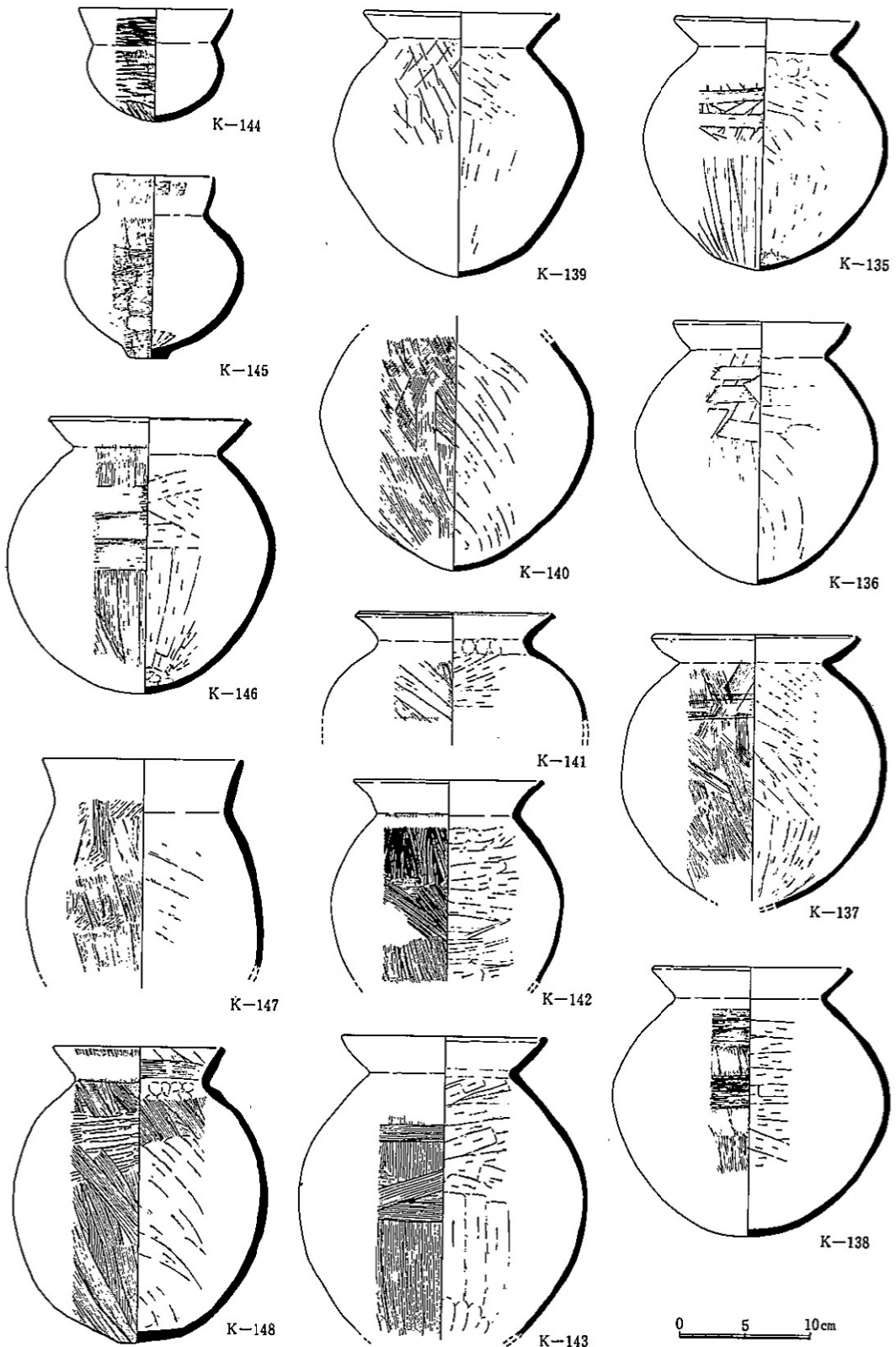


K-130

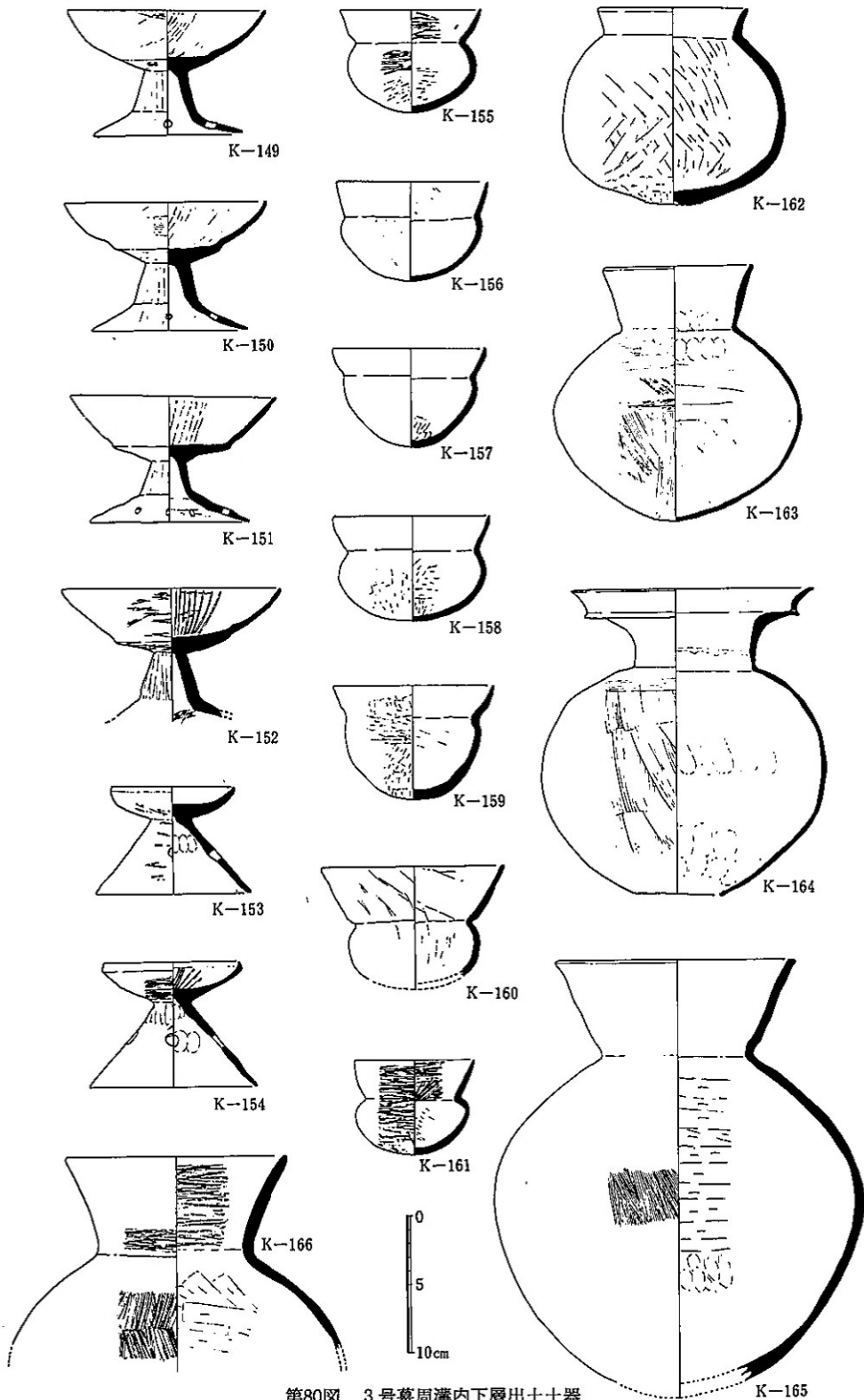


K-134

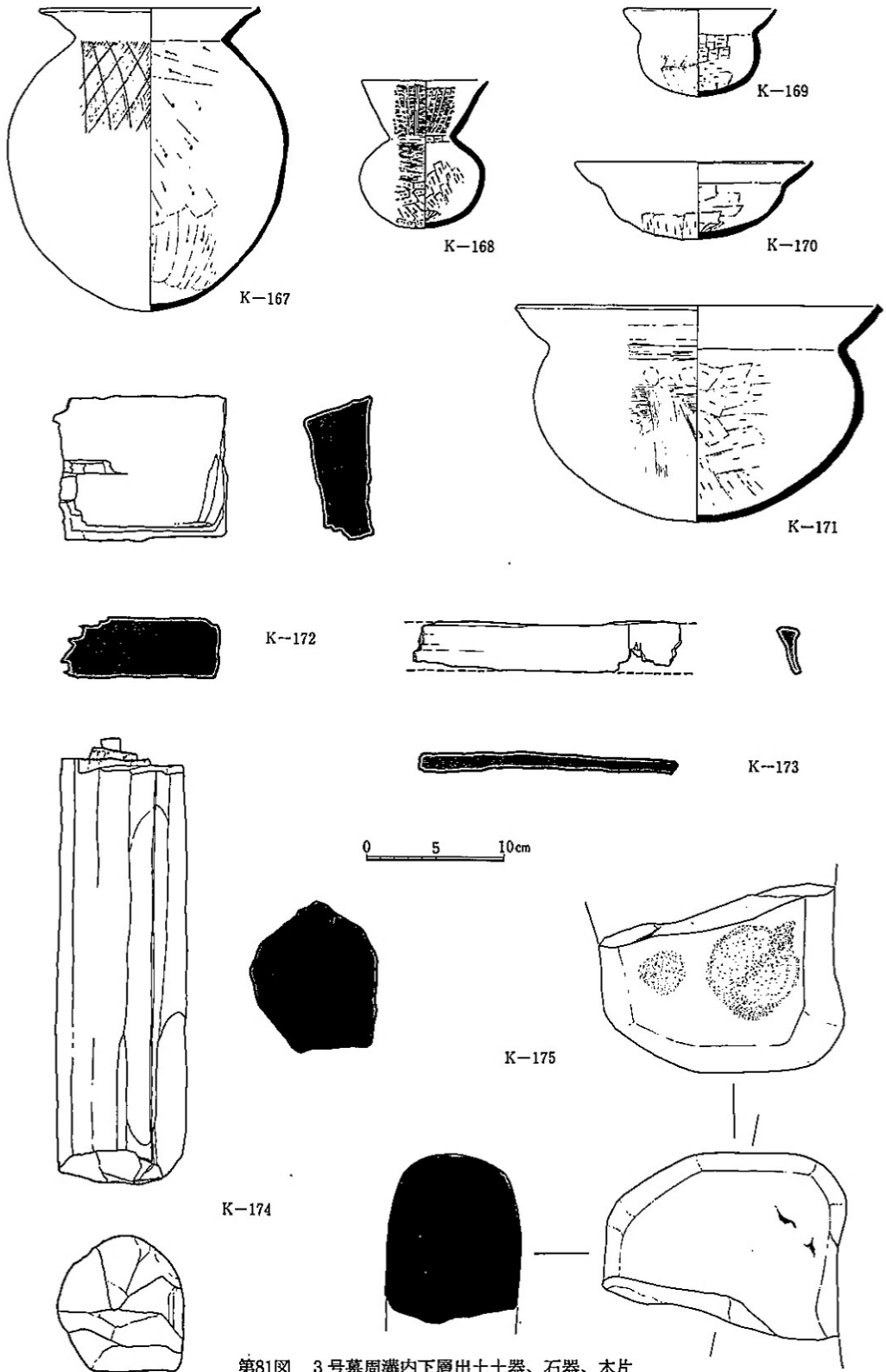
第78图 3号墓周溝内下層出土土器



第79图 3号基周沟内下层出土土器



第80图 3号墓周溝内下層出土土器

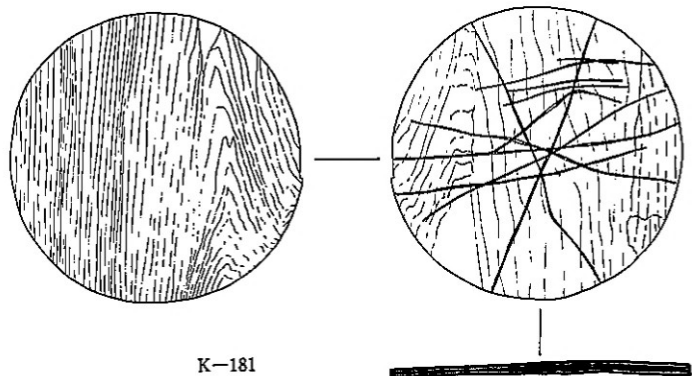
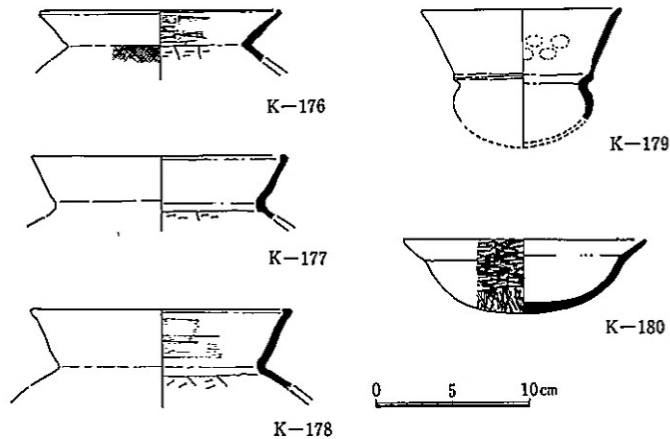


第81图 3号墓周溝内下層出土土器、石器、木片

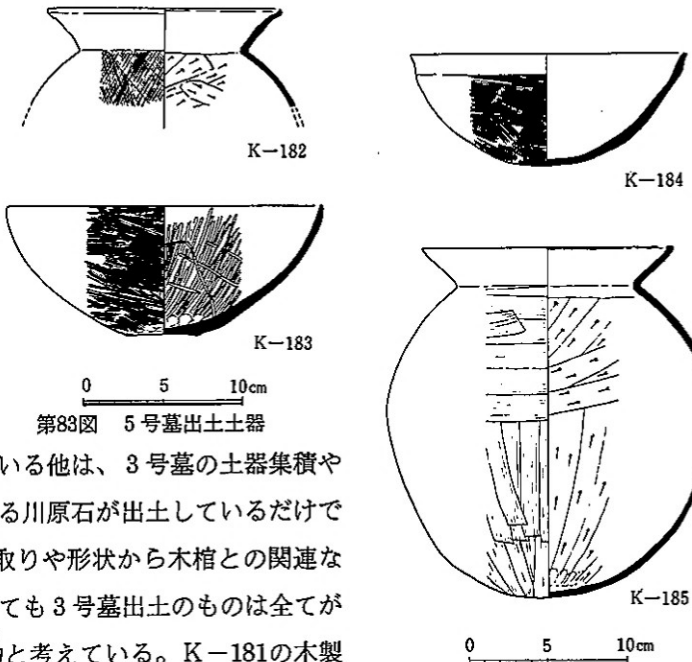
箇所の土壌の一つ（K-SK-3）から出土したもので、K-179の小型壺は山陰系の土器であり周溝内の土器とは同時期と考えている。時間の関係上図化して報告できなかったが、K-SX-5とした土器集積はこの4号墓に伴うものであり、3号墓の同じく土器集積（K-SX-2）とはほぼ同形式の土器群で構成されている。5号墓から出土したK-182・183の土器である。甕（K-182）は、口縁から肩にかけての破片で1号墓との併行関係が考えられる。6号墓から出土したK-184・185の土器は、甕・鉢共に明らかに5号墓のそれよりも後出で、3号墓の土器集積（K-SX-2）や、4号墓周溝内出土の甕（K-42・43・177・178）などとの類似が指摘でき同形式と考えている。

その他の遺物

土器以外の遺物はあまり出土しておらず、3・4号墓の周溝や土壌から木製品、及び加工痕のある木片が検出されている他は、3号墓の土器集積や周溝内から使用痕跡が認められる川原石が出土しているだけである。K-172などは、その木取りや形状から木棺との関連なども考えられるが、いずれにしても3号墓出土のものは全てが製品ではなく、制作過程の産物と考えている。K-181の木製円板は唯一の製品である。形状は両面共に平面ではなく凸面と

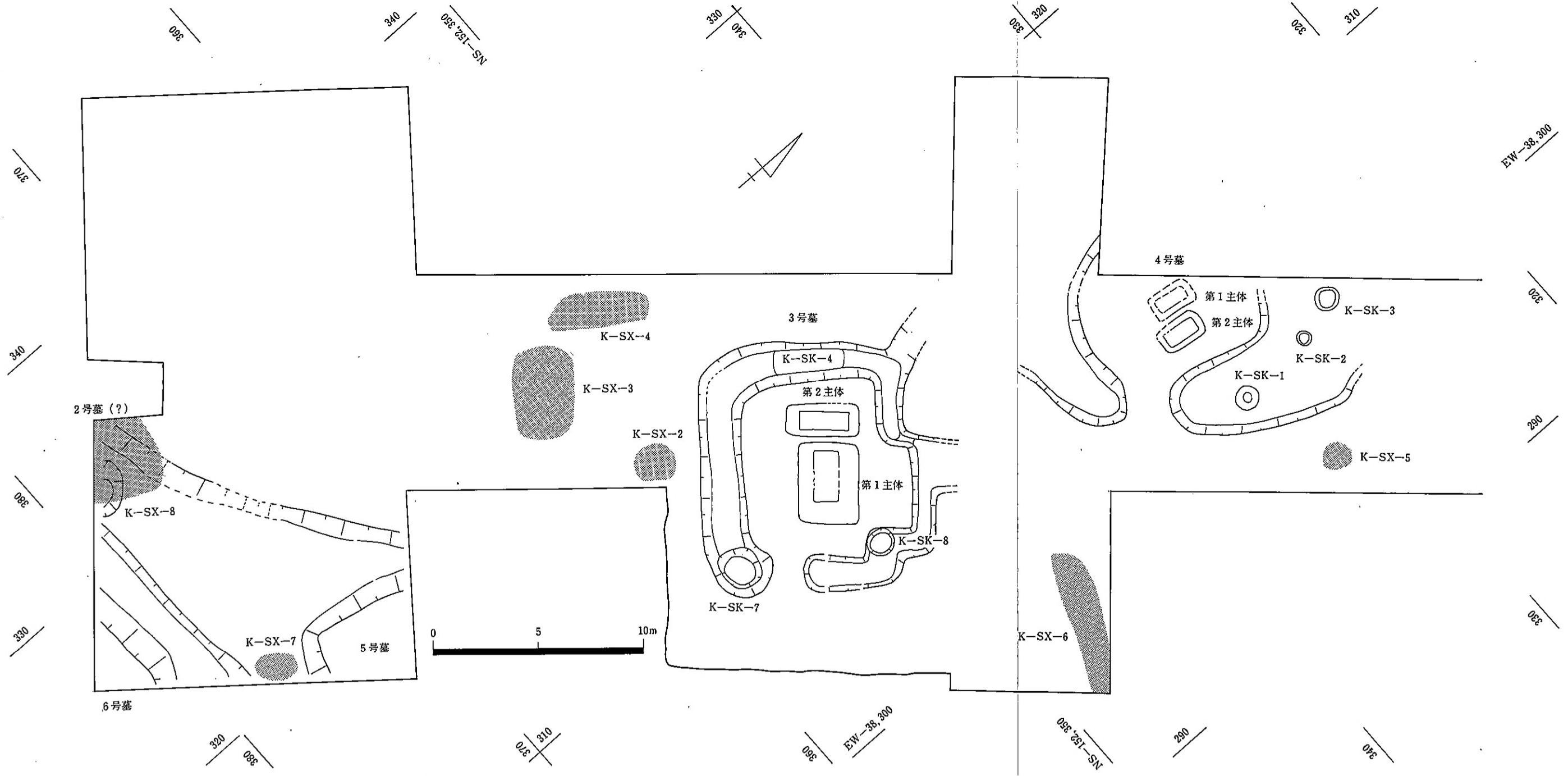


第82図 4号墓周溝、及び周溝内出土遺物

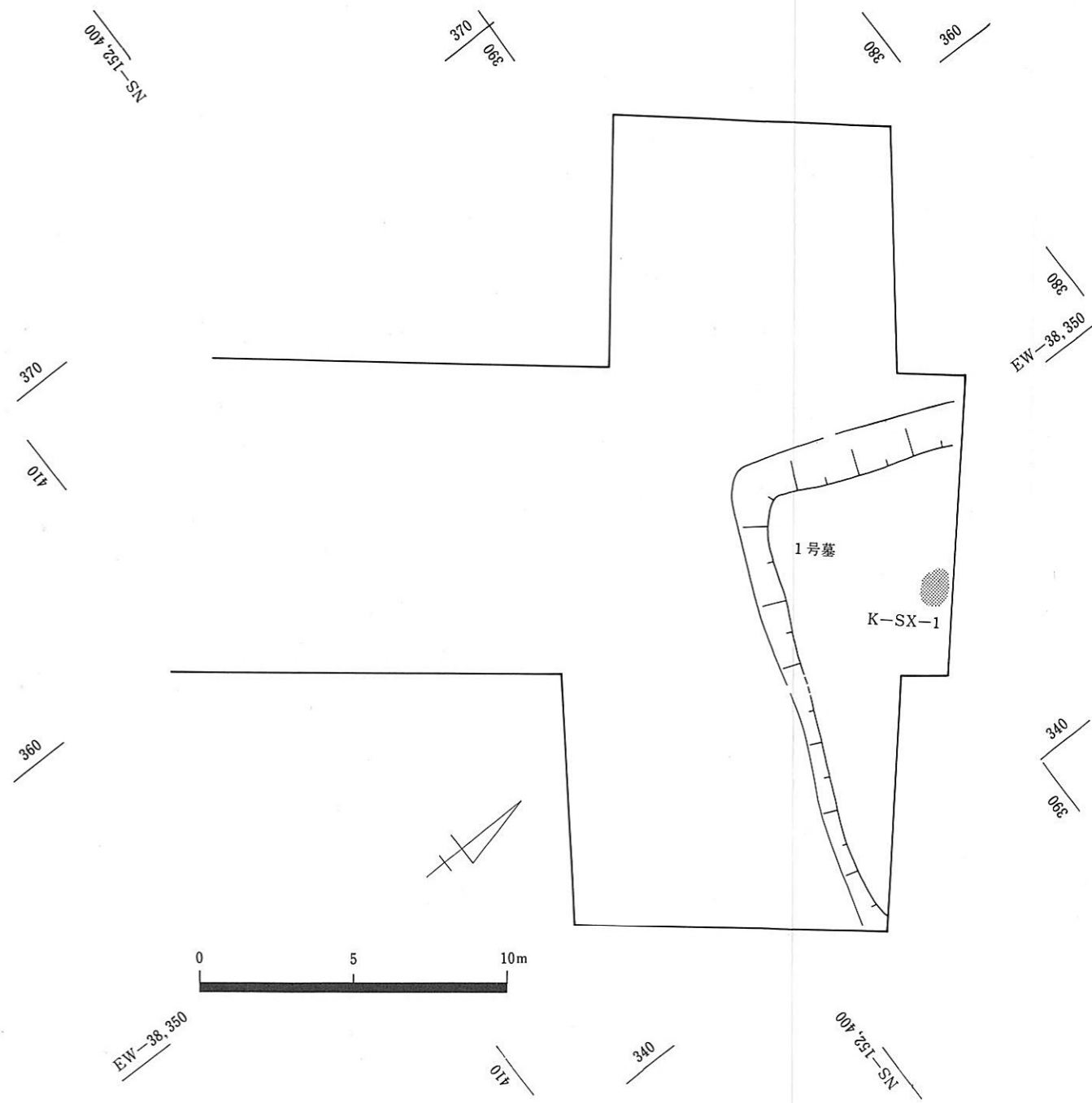


第83図 5号墓出土土器

第84図 6号墓出土土器



第85图 古墳時代第3遺構面(1)



第86図 古墳時代第3遺構面(2)

凹面で、凸面側に弦状に線刻（陰刻）を施し、さらに赤色顔料を塗っている。円周の縁取り部分の一箇所に段状の削り込みを作りだしており、4箇所に留め釘様の竹櫛が遺存している。遺物の性格としては、器の一部とも考えられるが他の構成部分が出土しておらず、形状が平面でないなどの理由から何等かの祭器の可能性もある。川原石であるが、K-83としたものは花崗岩で一部に熱を受けた変色が認められる。小片に割れた土器の下から出土しており、土器を壊す時に使用したものであろう。K-SX-4からはもう1点、K-SX-6からも1点出土しているが土器との関係が今一つ明確でないため図化して報告していない。K-175は西側周溝内から土器と共に出土した砂岩の川原石である。中央部で割れたと思われる半分で、平面の片側と割れた面に打痕と擦痕らしきものが認められる。

c. 小結

この遺構面は、C調査区の北端からB調査区の中央部、古墳時代前・中期の自然河川跡（K-SR-1）までの区域でしか検出していない。しかし、時を併行して調査していた南-2地区及び大阪市の加美遺跡での調査成果や、このあたりの微地形の変化などから推定すると、B調査区側はほぼその分布範囲の東端にあたと考えてよさそうである。C調査区側は、やや沼地状の地形が存在するものの、さらに数十メートル南になると微高地状の安定した地形でもあり、現に数基検出されているため、さらに分布範囲は広がるものと考えられる。このように分布範囲を想定した場合、南北1.5km、東西0.5km以上にもなる大墓域が復原でき、その墓域のほぼ東北端に位置するのがB、C調査区であると現段階では理解している。時期的には、1号墓・3号墓周溝内下層・5号墓などが古く、2号墓・4号墓・6号墓等が後出と考えられ、庄内式から布留式への過渡期から布留式の段階を考えている。

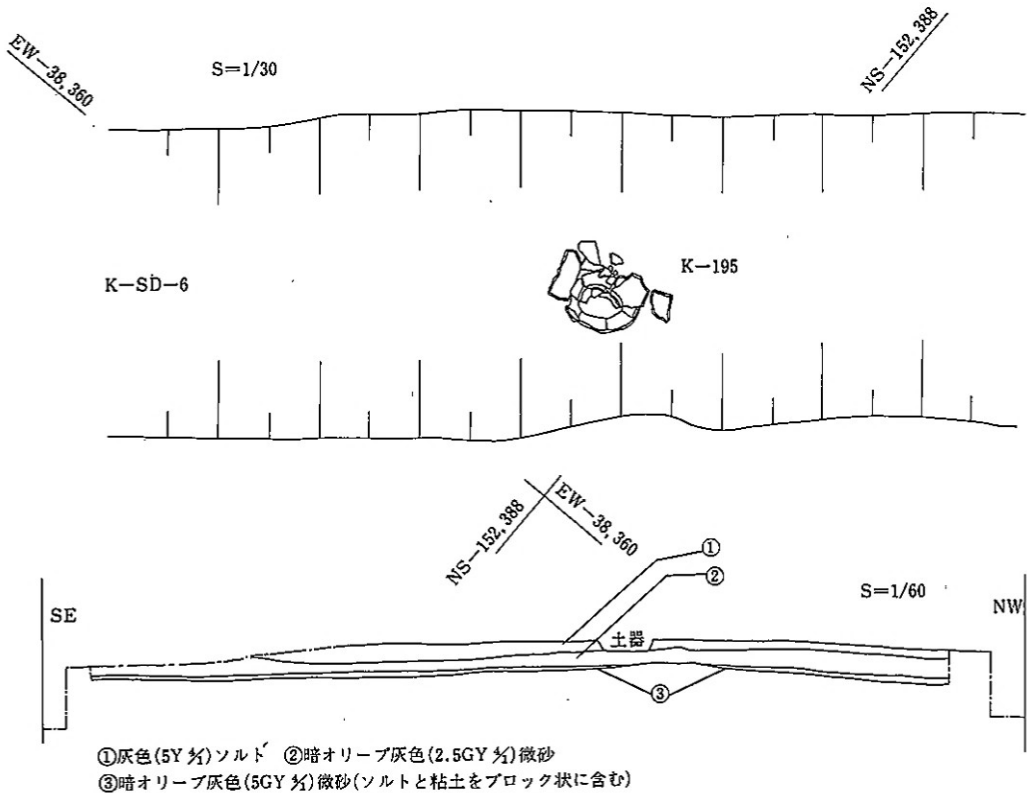
D. 古墳時代第4遺構面（第89、90図）

基本層序V層の上部堆積であるオリブ灰色粘質微砂上面がこれにあたる。この遺構面はベースが北から南にかけて砂層からシルト層に変化しており、堆積土も同様の変化を示す。また地形はB調査区の北から南にかけて穏やかに高くなっていき、B調査区の南端では比高差0.1mと最も高位となり、そこから南側、C調査区へ向かってまた穏やかに低くなっていく。そしてC調査区の中央から南側では、遺構面のベースとなるシルト層がみられず、かわりに灰色粘土層が存在し、沼地状地形を呈している。主な遺構としては畑状遺構・溝状遺構・竪穴住居址1棟・貯蔵穴がある。

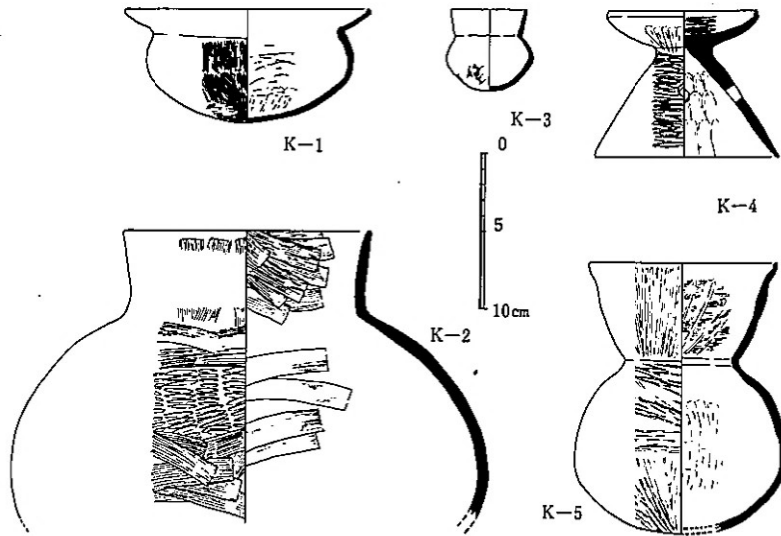
a. 遺構

畑状遺構

Bトレンチの古墳時代・自然河川（K-SR-1）の流路となって流失している地域以外のほぼ全域とCトレンチでは、多数の交錯する溝が検出されている。これらは北側では黒色粘質微砂、南側では黒色粘質土によって埋没しており同一の遺構と考えられ、上面埋没土全体にわたって灰が混在していることから、畑である可能性を持つ。B-5拡張区での検出例からみて、比較的太い溝が南北に走り、それらの間を東西に走る細い溝が結ぶという形態である。これは大溝に水を



第87図 畑状遺構内土器出土状況図（縦断）



第88図 畑状遺構出土土器

集め、小溝を通じて各畝の給排水を行ったためと考えられる。また各畝における盛土の存在についてはわずかにC-1 拡張区の断面でその遺存することを確認しただけで平面的には検出されなかった。しかし、K-SD-6の溝内堆積土に畝の崩壊土と思われるものがあり、また、遺構面において畝の構築・耕作に伴うと考えられるブロック状の堆積がみられないことから、検出したのは畝の基底部と思われ、畑状遺構はかなり削平を受けていると理解するのが妥当と思われる。そして、検出面の北側にみられるような小溝間の切り合いは、畑が何度も作り直された結果を示すものと思われる。南北に走る大溝としては北からK-SD-2・3・5・6が挙げられる。K-SD-2はK-SR-2によって削られているためB-4 拡張区では明確に確認できなかったが、Bトレンチ・B-3 拡張区での検出状況から見て畑状遺構に伴うものであろう。K-SD-3はB-3 拡張区でのみ検出されたが、これも畑が何度か作り直された結果として理解したい。K-SD-5はBトレンチのみ検出されており、K-SD-3と同様のことが考えられる。K-SD-6は埋没土中より壺1点が口縁部を真上に向け、胴部下半を周溝構築時の削平によって失った状態で出土しており、これが畑状遺構の時期を推定しうる出土状態を示す唯一の遺物である。畑状遺構上面ではK-SD-3のものも含め多数の土器が出土しているが、これらは遺構が埋没した直後に遺棄されたものと考えられる。

その他の遺構

溝状遺構 (K-SD-4)

Bトレンチ及びB-5 拡張区において畑状遺構に切られた状態で検出された。堆積土も畑状遺構とは異なった黑色粘土である。したがって畑開作以前のものであり、B-5 拡張区から南に、Bトレンチから東に延びるものと考えられるが、その性格については不明である。

竪穴式住居 (K-SH-1)

Bトレンチの南端で検出された円形プランの竪穴式住居である。一連のものと考えられる土壌(K-SK-6)が東側に接しており、内部にはピットの他外周にそって円弧状にのびる溝が検出されている。ピットのうち6ヶ所(K-SP-1~6)は柱穴と考えられるが、残りの1ヶ所(K-SP-7)については不明である。遺物としてはSK-6から若干の土器小片が出土しているが、いずれも時期を推定しうるものではないが、切り合い関係から畑状遺構よりも後世のものである。

不定形土壌

B-3・5拡張区で畑状遺構を切った状態で検出され、土器が多数出土している。B-3拡張区のもの2m×3mの隅丸方形を呈し、B-5拡張区のもの長さ3.5m、幅0.5~2mの不定形である。

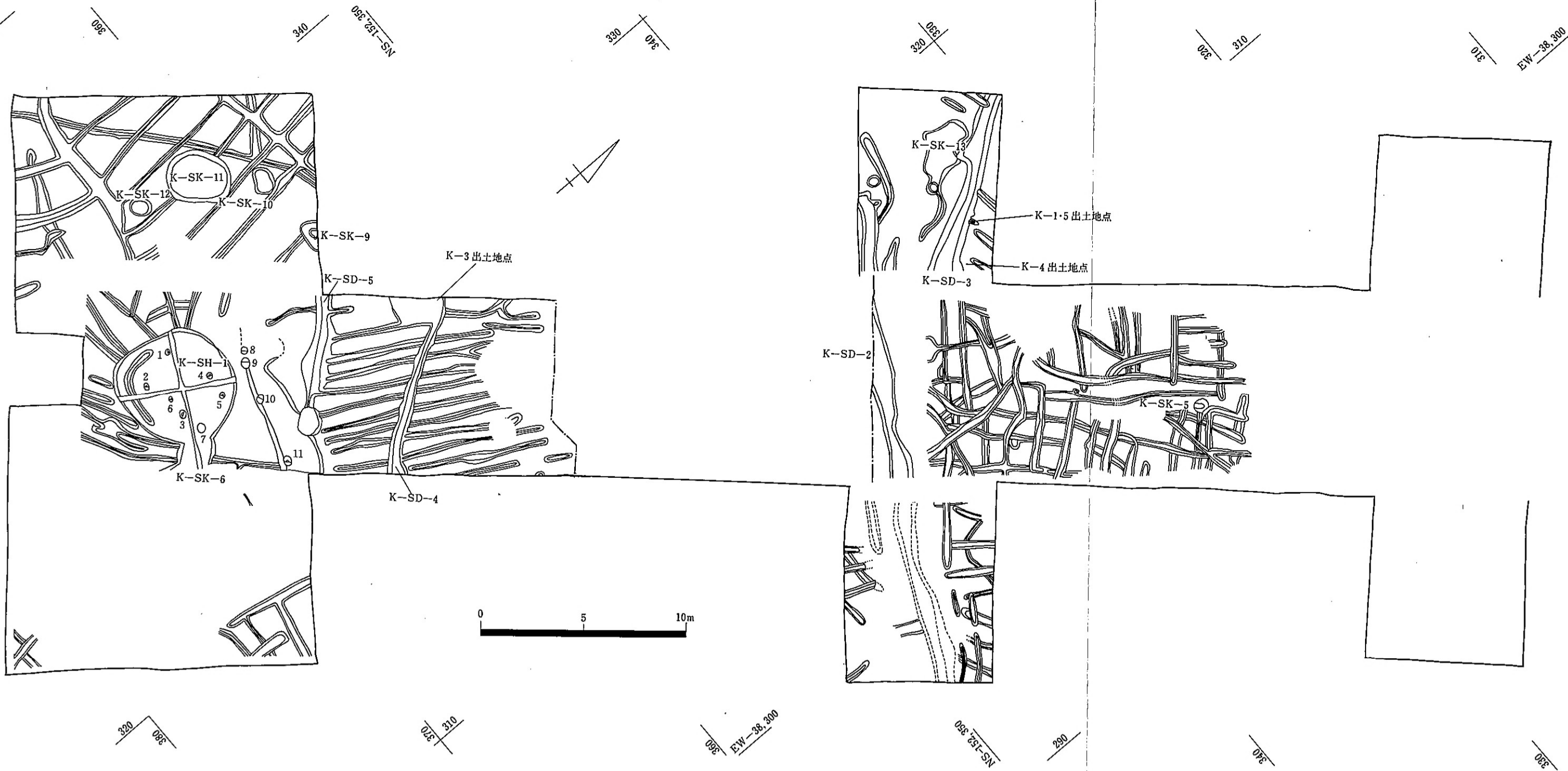
K-SH-1と不定形土壌は畑状遺構より後世であり、また古墳時代第3遺構面の周溝墓群検出の際には確認されなかったことから、周溝墓築造時の施設であった可能性が考えられる。

貯蔵穴(K-SK-5)

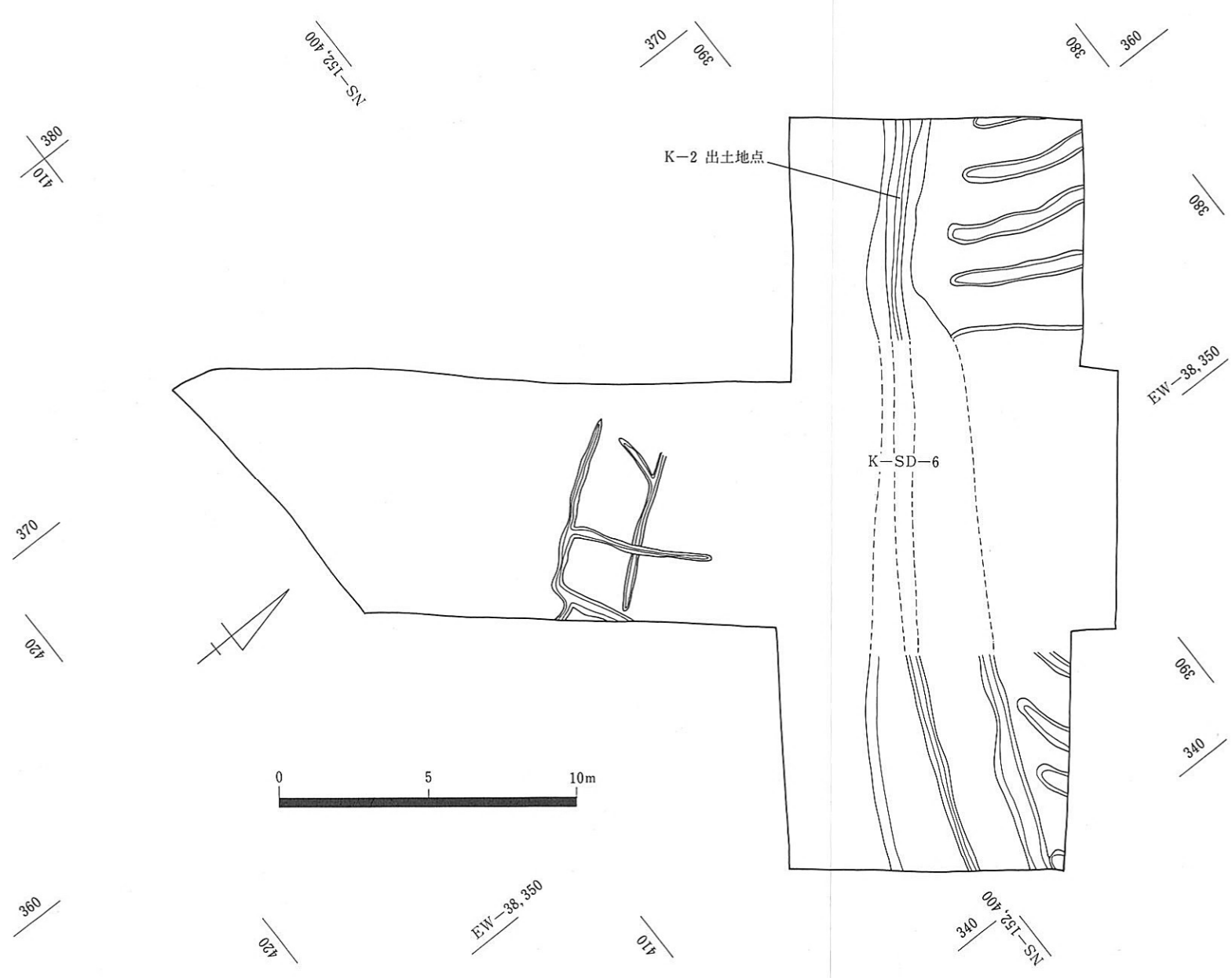
畑状遺構検出面北端のBトレンチ中央付近で検出された。底から用途不用木製品が1点出している。畑状遺構との切り合い関係が明確でないため、畑状遺構・周溝墓群のいずれに伴うものかは不明である。

b. 小結

この遺構面で検出したのは、畑状遺構と考えている中小の溝群、及びこれら溝群を切り込んで造られている土壌群や、竪穴式住居である。まず前者は、古墳時代前期の畑としては、非常にその形状がよく判る例として貴重なものである。また、本来ならば水田一辺倒に考えられがちな古墳時代の生業が、決してそうではないと改めて認識される資料でもある。こうした小溝群の分布は、加美・久宝寺遺跡の随所で認められ、その分布範囲が想像を絶して広大であることも推定でき、この遺跡を特徴づけている古墳時代前期の方形周溝墓群形成を理解する一つのメルクマールになるかもしれない。後者は、少なくとも畑より後出であるのは間違いないが、その性格を推定するのは現状では困難であり、畑か上層の周溝墓との関連、或いは、どちらとも直接関係のない遺構のそれぞれの可能性を理解して、将来の新しい知見にその判断を委ねたい。



第89図 古墳時代第4 遺構面 (1)



第90図 古墳時代第4遺構面(2)

表5 古墳時代遺物観察表

土器番号	器形	出土地点・遺構	質量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-1	鉢	B-3区 畑状遺構	口径 15.8 胴部径13.9 器高 7.2	扁平で浅い椀状を呈する胴部と内弯気味に大きく開く口縁部を持つ。口縁端部は面を持って終わる。	底部外面は、一方向に平行なハケ、胴部外面はタテ方向のハケ、内面はヘラケズリ、口縁部内外面はヨコナデで胴部外面上部にかけてハケをナデ消す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい褐色	
K-2	短頸壺	C-1区 畑状遺構 K-SD-6	口径 15.4 胴部径30.0 残存高19.4	球形の胴部とやや外反気味に直立した短い口縁を持ち、口縁端部は丸く終わる。	外面は胴部にタタキの後ヨコ方向のハケ、口縁から頸部にタテ方向のハケの後板状工具による回転ナデ、内面は胴部に板ナデ、口縁から頸部にヨコ方向のハケを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 灰白色	
K-3	小壺	B区 畑状遺構	口径 4.8 胴部径 5.1 器高 5.9	胴中央の張る体部で口縁はほぼ直立し口縁端部は尖る。	外面は胴部下半にハケの後全体にナデ、内面は頸部にヘラケズリ、胴部に指ナデ、口縁内面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-4	器台	B-3区 畑状遺構	口径 9.55 裾径 11.85 器高 9.4	杯部は深い皿状で口縁は稜をもってまっすぐ立ち上がり、端部は丸く終わる。脚部は内弯気味にラッパ状に伸び端部は外反して尖る。	杯部内面は丁寧なヘラミガキ、外面は杯底部にタテ方向のヘラケズリ、端部内外面にヨコナデ、脚部外面は丁寧なヘラミガキ、内面はほとんど無調整で、端部にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-5	壺	B-3区 畑状遺構	口径 12.0 頸部径 7.4 胴部径13.2 器高 17.6	胴部下方に最大径を有する。頸部から口縁は内弯気味に外へ広がって伸び、口縁端部はわずかに内側に肥厚して丸くおさめる。	外面は底部にタテ方向のヘラミガキ、胴部にヨコ、ナナム方向のヘラミガキ、頸部にヨコナデ。内面は胴部でヘラケズリの後ナデ、頸部にヘラケズリ、口縁外面にタテ方向のヘラミガキ、内面はヨコ方向のヘラミガキの後放射状の暗文、口縁端部にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい褐色 ・内面 にぶい黄褐色	
K-6	甕	C区 第1号墓 K-SX-1	口径 14.0 胴部径18.6 器高 21.8	丸底でやや縦長の胴部上半に最大径を有する。ゆるやかに外反する口縁を持ち、端部は内側に折り曲げて面を持って終わる。	胴部外面はハケ目調整を施した後、頸部にかけてヨコナデを施している。内面は底部から頸部にかけてヘラケズリを施し口縁部はヨコナデを施している。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい褐色	
K-7	甕	C-2区 第1号墓 K-SX-1	口径 13.2 胴部径18.5 器高 19.5	丸底で胴部上半に最大径を有する。口縁は外反して伸び、端部は内弯気味に斜め上方にまみ上げて終わる。	外面は底部にナデ、胴部上半にタテ方向のハケの後、ヨコ方向に回転するハケ。胴部内面はヘラケズリ。口縁部内面はヨコ方向のハケ後、端部はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 黒斑を有す。 灰白色	
K-8	甕	B-6区 第2号墓上層	口径 16.4 残存高 6.4	口縁は頸部から「く」の字形に外反し伸び端部のあたりで少し内に屈曲し端部は上方にまみ上げている。	胴部内面は斜め方向にケズリを頸部まで施す。外面は、肩部では、タタキ様のハケの後ナデている。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色～灰色	口縁部から肩にかけての破片。
K-9	甕	B-6区 第2号墓上層	口径 14.4 残存高 4.7	口縁部は頸部から「く」の字形に外反し端部は上方に8～9mmほど二重口縁様に上げて面を持って終わる。	胴部内面はヨコ方向のケズリが頸部まで及ぶ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰黄色～灰色	口縁部から肩にかけての破片。

土器番号	器形	出土地点・遺構	流量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-10	壺	B-6区 第2号墓上層	残存高31.6 胴部径27.0	やや尖り気味の丸底で、球形の体部から外へ真直ぐに伸びる口縁を持つ。端部は欠損のため不明。	胴部外面は肩付近では不定方向のハケ。他は、胴部上方より底部にかけてタテ方向のハケ後ナメ方向にハケを施す。胴部上方の内面はヨコ方向のケズリで肩下方に指圧痕。胴部中央はナメ方向のケズリ。胴部下方はタテ方向のケズリ。底部内面は指圧痕。	・外面 淡黄色 ・内面 にぶい黄橙色	口縁端部のみ欠損。 胴下部に黒斑を有する。
K-11	長頸壺	B-6区 第2号墓上層	口径 13.1 残存高23.2	内弯気味に直立する頸部、頸部最下位と頸部中央にタガ状突帯をめぐらす。端部は水平に面を持つ。	外面は全体にナデ。内面は下半にハケの後、上半にナデ。口縁端部内外面にヨコナデを施す。タガ状突帯は上がつまみ出し、下が貼り付けにより成形する。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 灰黄色	頸部のみ復元、肩以下は復元困難。
K-12	壺	B-6区 第2号墓上層	口径 10.8 胴部径10.0 残存高 6.0	やや楕円の胴部。口縁はやや外弯気味に外上方に伸び端部はやや薄く尖る。	胴部外面は放射状のハケ、口縁外面から口縁内面にかけてヨコ方向のナデ。胴部内面はヨコ方向のケズリ。	・胎土 微砂粒を少し含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	口縁から体部中央まで遺存。
K-13	壺	B-6区 第2号墓上層	口径 10.5 胴部径10.0 器高 7.2	丸底で球形の体部、口縁は内弯して外上方に伸び、端部は直立して丸い。	外面は胴部中央より下部にかけてタテ方向のケズリ。外面胴部中央より内面下部にかけてヨコナデ。内面底部ケズリ。	・胎土 1~2 mm程度の微砂粒を含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 にぶい黄橙色	完形

3号墓上層

K-14	甕	B区 第3号墓上層	口径 19.4 胴部径16.9 器高 16.5	尖り気味の丸底で胴の中央部の張る体部と外反する口縁で、端部をつまみ上げて終わる。	外面はタタキのあと胴部上半にタテ方向のハケ下半に不定方向のハケ。内面は底部指オサエの後板状工具によるナデ。体部に指ナデ、口縁下に指圧痕が残る。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 密。 ・外面 灰白色 ・内面 褐色	
K-15	甕	B区 第3号墓上層	口径 14.1 胴部径18.5 器高 18.8	胴の張る球形に近い体部から、内弯して外上方へ伸びる口縁部、端部は外方に肥厚し水平に面をつくる。	体部外面は、下半部がタテ方向の細かいハケ、胴部からはタテ方向の後、不定方向の細かいハケ。内面は下からタテ方向ナメ方向の三段のヘラケズリ。口縁部内外面は丁寧なヨコナデ。	・胎土 密。 ・外面 灰白色 ・内面 灰オリーブ色	
K-16	甕	B区 第3号墓上層	口径 13.7 胴部径19.1 器高 21.0	丸底でやや縦長の体部。口縁は内弯気味に伸びる。端部は面を持つ。	外面は底部にナデ、体部に不定方向のハケ、内面は頸部以下にヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄褐色 煤附着 ・内面 にぶい黄褐色	ほぼ完形
K-17	甕	B区 第3号墓上層	口径 15.7 残存高10.7	胴の張らない体部から大きく外反する口縁部。端部は丸くおさめる。	体部外面はタタキによる成形の後不定方向の粗いハケ、内面はヨコ方向のヘラケズリ。口縁部外面はタテ方向のハケの後ヨコナデ。内面は板状工具によるヨコナデ。	・胎土 微小な砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 浅黄褐色	胴部以下欠損
K-18	甕	B区 第3号墓上層	口径 18.4 胴部径25.2 残存高18.0	胴部最大径を上方に持つ体部。口縁は外反して伸び、端部をつまみ上げ尖り気味におさめる。	外面は不定方向のハケ、内面は不定方向のヘラケズリ。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	底部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-19	壺	B区 第3号墓上層	口径 8.7 胴部径 8.5 器高 7.0	平底で偏平な球形の体部。口縁は内弯気味に伸び端部はやや尖り気味に丸くおさめる。	外面は体部にタテ方向のハケ。頸部に指ナデ。内面は底部にタテ、胴部にヨコ方向のヘラケズリ、頸部下に指ナデ、口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 橙色 ・内面 浅黄褐色	
K-20	壺	B区 第3号墓上層堆積	口径 8.8 胴部径 7.9 器高 7.5	丸底でやや偏平な球形の体部。口縁は内弯気味に伸び、端部は内側に面をつくり尖り気味に終わる。	体部外面はヨコ方向のヘラミガキ、内面は底部に指圧痕が残る、体部にヨコ方向のヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-21	壺	B区 第3号墓上層	口径 9.7 胴部径10.0 器高 7.8	やや偏平な体部から内弯して伸びる口縁部。端部はやや尖り気味に終わる。	体部外面は下半部はタテ方向、上半部はヨコ方向の細かいヘラミガキ。内面はヘラケズリの後指ナデ。口縁部から頸部外面は指ナデ。口縁部から頸部内面はヨコ方向の細かいヘラミガキ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 にぶい橙色	
K-22	壺	B区 第3号墓上層堆積	口径 8.25 胴部径 9.2 器高 11.3	偏平な球形の胴部から内弯気味に伸びる口縁で端は少し尖る。	外面は底をヘラケズリ。体部に不定方向のハケ。口縁外面にナメ方方向のハケ。内面は底部に粗い板ナデ。体部にナデ、口縁にハケを施し最後に口縁内上半から胴部外面にかけて指ナデを行う。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 にぶい橙色	完形
K-23	高杯	B区 第3号墓上層堆積	口径 15.2 残存高 7.7	平坦な杯底部から斜上方にまっすぐ伸びる口縁、端部は尖り気味におさめる。脚部は中空で細りラップ状に下方に開く。	外面は杯部にヨコ方向の丁寧なヘラミガキ。脚部はタテ方向のヘラケズリの後ヨコ方向のヘラミガキ。内面は杯部でヘラミガキの後端部外面までヨコナデ。脚部は指ナデを施す。	・胎土 微小な砂粒を少量含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 にぶい黄褐色	脚部欠損
K-24	高杯	B区 第3号墓上層	口径 22.0 残存高11.5	平坦な杯底部から斜上方に直線的に伸びる口縁で、端部は内弯し尖り気味に丸くおさめる。脚柱状部は細りラップ状に広がる。	外面は脚柱状部にタテ方向のヘラケズリ後タテ方向のハケ。杯部にヨコ方向のヘラミガキ、最終的に全体にナデ。内面は杯底部に回転ハケ。口縁にナデを施している。	・胎土 密。 ・外面 にぶい橙色 ・内面 橙色	脚柱状下半以下欠損
K-25	器台	B区 第3号墓上層	口径 9.3 裾径 10.4 器高 8.0	深い皿状受部で口縁は短く直立し、端部は尖る。脚部は大きくラップ状に広がり、裾端部は内弯気味でやや尖る。脚部三方向穿孔。	外面はヨコ方向の細かいヘラミガキ。口縁部及び受部内面はナデで、放射状暗文を施す。脚部内面はヘラケズリで、端部にヨコナデ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 黒斑を有す。橙色	
K-26	壺	B区 第3号墓上層	口径 12.3 胴部径12.7 器高 12.0	体部は半球状から内傾して頸部となり、内弯して長く伸びる口縁部。端部は尖り気味に終わる。	底部外面ヘラケズリ、体部外面はタテ方向のハケの後ヨコ方向のヘラミガキ。内面はヘラケズリ。口縁部内外面とも指ナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 明黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	完形 体部中央穿孔(焼成後)
K-27	杯	B区 第3号墓上層堆積	口径 5.5 器高 5.5	尖り気味の丸底からゆるやかに立ち上がる体部。頸部の屈曲は弱く口縁は外反して端部を丸くおさめる。	内外面とも指オサエ、指ナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 黒斑を有す。灰白色	口縁の一部を欠く。
K-28	杯	B区 第3号墓上層	口径 10.4 器高 4.8	丸底で半球状の体部。口縁端部は直立気味に丸くおさめる。	割離が著しいが口縁内面にヘラミガキを施した後、内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい橙色。 ・内面 浅黄褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺構	流量 (cc)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-29	杯	B区 第3号基上層	口径 13.8 器高 6.0	丸底で内弯して立ち上がる体部。口縁端部はやや外反気味で尖る。	外面全体にヘラケズリの後、底部に指圧痕。内面は底部をヘラケズリ、口縁にナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 淡黄色	
K-30	鉢	B区 第3号基上層	口径 17.0 残存高 6.0	扁平な碗状を呈す体部から外反した後屈曲して立ち、さらに外反する口縁部。端部はやや尖り気味に終わる。	体部外面はヘラケズリで全体に粗粒。内面は細かいヨコ方向のヘラミガキ。口縁内外面はヨコナデ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 淡黄褐色	底部欠損
K-31	鉢	B区 第3号基上層	口径 22.4 胴部径19.1 器高 11.8	平底から内弯気味に伸びた後ほぼ直立する体部から外上方へ伸びた後内弯気味に丸く終わる口縁部。	体部下半及び底部外面は伏せた状態で時計廻りのハケ。上半はナメ方向のハケ。口縁部外面はハケをヨコナデで消す。体部内面は弱いヘラケズリ。底部内面に指圧痕が残る。口縁部内面は板状工具によるヨコナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色。 ・内面 淡黄褐色。	
K-32	鉢	B区 第3号基上層堆積	口径 24.0 胴部径21.8 器高 16.0	平底気味でやや扁平な球形の体部から「く」の字形に屈曲し、そのあと直線的に伸びる口縁で端部は面をもつ。	外面は不定方向のハケ、内面は頸部付近までヘラケズリ、口縁部はヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 オリーブ黄色 ・内面 灰白色	完形
K-33	鉢	B区 K-SK-3 第3号基上層	口径 28.8 胴部径26.8 器高 16.7	丸底で扁平な球形の体部で、頸部は「く」の字形を呈する。口縁は内弯気味に伸び、端部は凹縁状に押さえる。	外面は頸部以下に粗いハケ、その後底部に板状工具によるナデ。内面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 淡黄褐色 ・内面 灰白色	完形
K-34	甕	B区 第3号基上層	口径 11.7 胴部径17.6 底径 4.6 器高 21.1	厚い平底で、やや胴の張る縦長の楕円形の体部。ほぼ直立する口縁部で端部はわずかに面を持つ。底部に径6.0mmの焼成前の小円孔を穿つ。	体部下外面にタテ方向、上半外面にヨコ方向の板状工具によるナデを施した後、頸部下方に粗いタタキ。さらにハケを施す。内面は下半部に指圧痕が残り、上半部は板状工具によるナデ。口縁部内外面は板状工具によるナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 灰白色	底部穿孔
K-35	甕	B区 第3号基上層	口径 12.4 胴部径17.7 器高 22.9	尖った底部と縦長の楕円形の体部。やや内弯気味に外上方へ伸びる口縁部。	底部をヘラ削りで尖り気味にする。底部から体部下方はハケ。体部外面はタタキで成形後縦方向のハケを部分的に施す。内面はナデ。底部に指圧痕が残る。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 灰白色 黒斑を有す。	
K-36	甕	B区 第3号基上層	口径 12.2 胴部径19.2 器高 24.3	歪な平底で縦長の楕円形に近い体部と内弯して外上方へ伸びる口縁部。端部は僅かに面を作る。	体部外面はタタキで成形後、タテ方向のハケを行う。底部はタタキで平坦にし、ヘラケズリを行い最終的にハケを施す。内面はナデ。口縁内面は指押さえて成形後粗いハケ、外面は指ナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 にぶい黄褐色	
K-37	甕	B区 第3号基上層	口径 不明 胴部径21.0 残存高20.3	平底で球状の体部を呈す。	外面は底部をヘラケズリ後、三段にわかれたタタキ。内面は底を板状工具によるナデ、体部中央を指押さえ、体部上半に板状工具によるナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 明黄褐色 ・内面 灰白色	口縁部及び頸部欠損
K-38	甕	B区 第3号基上層	胴部径21.8	丸底で最大径が中央より下にある内弯気味の球形の体部。	外面上部は不定方向のハケ。外面下部はヨコ方向のケズリ。	・胎土 微砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	口縁部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-39	壺	B区 第3号墓上層	口径 28.0 頸部径13.1 胴部径32.8 器高 38.7	やや尖り気味の丸底で最大径が胴部上方にある体部。大きく三段階に外反する口縁部で口縁は短く直立し、端部は丸く終わる。	体部外面はナメ及びタテ方向のハケ。口縁部はハケをヨコナデで消す。頸部直下にヨコ方向の暗文。頸部直下から体部中央付近まで放射状の暗文。内面は全体にヘラケズリ、指圧痕がわずかに残る。口頸部内面から口縁部内外面はヨコナデ。口縁外面に2条の凹線文	・胎土 密 ・外面 赤色 黒斑を有す。 ・内面 にぶい黄褐色	
K-40	壺	B区 第3号墓上層	口径 28.8 頸部径13.6	直立する頸部から水平気味に外へ伸び、段をもって屈曲して立ちさらに外反し斜上方に伸びる口縁で、端部は外側に肥厚する。	外面は頸部にタテ方向のハケ、2度目の屈曲点と口縁端部を指ナデ。内面は口縁の立ち上がり部を指ナデ後、内面から外面全体に板状工具によるナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 暗灰色	口頸部のみ遺存 二重口縁
K-41	壺	B区 第3号墓上層	口径 28.6 残存高16.5	外傾する頸部から短く水平に伸び、直立して内傾気味に伸びる口縁端部が外側に肥厚し、水平に面を持つ。	内外面とも丁寧なヨコ方向のハケを施す。	・胎土 微砂粒を少量含む ・外面 にぶい褐色 ・内面 褐色	胴部欠損 二重口縁

3号墓周溝外土器集積

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-42	甕	B区 K-S X-2	口径 16.4 残存高 6.0	「く」の字状に屈曲する頸部から直線的に伸びる口縁で端部は内側に肥厚する。	体部外面にハケ。内面はヘラケズリ。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 灰黄色	体部下半欠損
K-43	甕	B区 K-S X-2	口径 16.0 残存高 7.8	口縁は内弯気味に伸び端部はわずかに肥厚し上方に面を作る。	外面はハケ。内面はヘラケズリ。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰黄色 ・内面 にぶい黄褐色	体部下半欠損
K-44	甕	B区 K-S X-2	口径 16.2 胴部径20.0 残存高20.5	胴下方の張る体部から「く」の字形に屈曲する頸部。口縁は外反して伸び端部は面を持つ。	外面は頸部以下のハケ。後、肩より下にナデ。内面は底部にタテ、胴部にナメ方向のヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 微砂粒を多量に含む。 ・外面 浅黄褐色 黒斑を有す。 ・内面 浅黄褐色	底部欠損 胴部にタテ方向の篋描き文様4条有す。
K-45	鉢	B区 K-S X-2	口径 14.8 器高 5.4	丸底の深い皿状の体部。二重口縁風に立ち上がる口縁で、端部は丸く終わる。	底部はヘラケズリ、外面はヨコ方向の細かいヘラミガキ。口縁部及び内面は丁寧なナデ。	・胎土 微小砂粒を多く含む ・外面 にぶい褐色 ・内面 にぶい褐色	ほぼ完形
K-46	鉢	B区 K-S X-2	口径 16.1 胴部径11.8 器高 6.9	丸底で杯状の体部、一旦外反しそこから上へ屈曲してさらに広がる口縁で端部は丸くおさめる	底部にヘラケズリ後、外面はナデ。底内面にハケ。体部内面はヘラケズリ。口縁内面にハケ後、口縁内外にナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-47	器台	B区 K-S X-2 上層	口径 10.4 裾部 11.8 器高 7.2	受部は内弯の後外反し、端部は尖り気味に終わる。脚部は外下方へ伸び端部は内弯気味に丸く終わる。中空である。	受部内外面及び脚部外面はヨコ方向の細かいヘラミガキ。脚部内面はヨコ方向のハケで端部にヨコナデを施す。	・胎土 微小な砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-48	高杯	B区 K-SX-2	口径 16.5 裾径 11.3 器高 14.3	平坦な杯底部から屈曲し外上方に内彎気味に伸び、端部は外反気味に尖って終わる。長い脚柱状部から広がる裾部で端部は丸く終わる。	杯部外面はナナメ方向の後ヨコ方向のハケ、杯底部内面は放射状ヘラミガキ、内面はヨコ方向のハケの上から放射状暗文。脚柱部及び裾部外面はヘラケズリの後不定方向のハケ。脚柱状部と裾部の縫ぎ目に指圧痕が残り、裾部内面は細かいハケ。口縁及び裾端部にヨコナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 浅黄褐色	
K-49	高杯	B区 K-SX-2	口径 19.2 裾径 12.6 器高 15.0	杯底部から短く外上方へ伸びた後屈曲して長く伸びる口縁部。端部は尖り気味に終わる。長い脚柱状部から大きく広がる裾部で、三方向に円孔を穿つ。端部はやや返り気味で面を持つ。	杯部は内外面ともヨコ方向のヘラミガキ。脚柱状部外面はタテ方向の後ヨコ方向のヘラミガキ。裾部はタテ方向の後ヨコ方向のヘラミガキ。口縁及び裾端部にヨコナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	脚柱状部に意識的に一周するヘラミガキが数条認められる。
K-50	高杯	B区 K-SX-2	口径 17.0 裾部 12.4 器高 15.7	杯底部から内彎気味に伸びゆるく上方へ屈曲した後、外反して長く伸びる口縁で、端部は丸く終わる。長い脚柱状部から大きく広がる裾部で端部はほぼ水平に伸び面をもつ。裾部三方向に穿孔。	杯底部外面はハケの後ヨコ方向のヘラミガキ。杯部外面はヨコ方向のヘラミガキ。杯底部内面は同心円状のヘラミガキ。杯部内面はヨコ方向のヘラミガキ。柱状部はタテ方向のハケの後、ヨコ方向ヘラミガキ。裾部外面はタテ方向のハケ。内面は指圧痕が残る。口縁及び裾端部にヨコナデ。	・胎土 微少な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-51	甕	B区 K-SX-3	口径 15.1 残存高 7.3	口縁は頸部より鋭く屈曲し端部は内傾してつまみ上げている。	胴部外面はハケを施した後ヨコ方向のナデ。口縁外面はヨコ方向のナデ。口縁内面は板状工具によるナデ。体部内面はケズリ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 にぶい褐色	口縁から胴部のみ遺存
K-52	甕	B区 K-SX-3	口径 16.0 残存高 7.3	口縁は頸部より鋭く屈曲し端部はつまみ上げている。	外面はハケを施した後頸部にヨコナデ。体部内面はケズリ。口縁内面は板状工具によるナデ。	・胎土 密 ・外面 暗灰黄色 ・内面 にぶい黄褐色	
K-53	甕	B区 K-SX-3	胴部径21.2 口径 14.4 残存高19.1	縦長の胴部からほぼ直立するように伸びる口縁で端部は尖り気味に終わる。	外面は胴部に左下がりのタクキの後、頸部下にタテ方向のハケ。内面は頸部に指圧痕が残り、体部にヘラケズリ、口縁部外面は指オサエの後ナデ、内面はナナメ方向のハケを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 黄灰色 ・内面 黄灰色	底部欠損
K-54	甕	B区 K-SX-3	口径 10.8 胴部径12.5 器高 11.6	やや扁平な球形に近い体部と内湾して立ち上がる口縁部。端部はややつまみ上げる。	体部外面は不定方向のハケ。内面はヨコ方向のヘラケズリ。口縁内外面は丁寧なナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 黄褐色	体部下方穿孔。
K-55	甕	B区 K-SX-3	口径 11.6 胴部径14.4 残存高 9.0	やや扁平な球形の胴部で口縁は直線的に伸び、端部はわずかに肥厚して面をもつ。	胴部外面に不定方向のハケ、頸部から口縁内外面にヨコ方向のハケを施す。内面は剥離が著しく不明。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 黄褐色 ・内面 にぶい褐色	底部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	方量 (cc)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-56	甕	B区 K-S X-3	口径 12.6 胴部径18.7 残存高18.7	縦長の卵形をした体部。 直立気味に外反して伸びる口縁で、端部は丸くおさめる。	外面全体と口縁内面にハケ。 体部内面にヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 暗灰色 ・内面 黒色	
K-57	甕	B区 K-S X-3	口径14.1 胴部径16.0 器高 16.9	丸底で胴の張る体部。 口縁は外反気味で端部は直立気味につまみ上げる。	外面は胴部上半にタテ、下半に不定方向のハケ類部に指ナデ。内面は頸部下にヨコ、胴部にタテ方向のヘラケズリ。口縁内面にハケ、端部から口縁外面にかけてヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 灰黄褐色	
K-58	甕	B区 K-S X-3	口径 14.6 胴部径19.5 器高 22.2	尖り気味の丸底で縦長の体部。口縁は内弯気味に伸び、端部は内側に肥厚し平坦気味におさめる。	外面は体部下半にナデ、上半にタテ方向のハケ。内面は底部と頸部に指圧痕が残り体部は板状工具によるナデ、口縁内外面に板状工具による回転ナデを施す。肩部に波状文風のハケ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 浅黄褐色	ほぼ完形
K-59	高杯	B区 K-S X-3	口径 14.1 裾部 9.3 器高 11.3	杯底部から外上方に伸び屈曲して内弯気味に広がる口縁。裾部で三方向に円孔を穿つ。	杯外面はナデ。杯内面はヨコ方向のハケ。脚柱状部から杯底部にかけてケズリ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 灰白色	
K-60	壺	B区 K-S X-3	口径 12.6 胴部径16.6 器高 19.5	やや扁平な球状の胴部とまっすぐラッパ状に広がる口縁で、端部は外反気味に丸くおさめる。	外面は胴部から底部にかけてヘラケズリの後ヘラミガキ、内面は底部に指圧痕が残り、胴部に指ナデ、頸部に板状工具によるケズリを施し、面を作る。口縁内外面はヨコナデ、口縁内面にヘラによる放射状の暗文を施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい褐色 ・内面 褐色	
K-61	甕	B区 K-S X-3	口径 17.0 頸部径10.5 胴部径24.4 器高 30.7	丸底でやや縦長の球形の胴部。口縁は外反し端部付近でさらに外反して上方に面をもつ。	外面は不定方向のハケ。胴部内面は板状工具によるナデ、頸部は指ナデ、口縁部にハケ、最終的に口縁内外面をナデ、口縁端部外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-62	甕	B区 K-S X-3	口径 19.8 頸部径10.0 残存高16.5	球形の胴部から外反気味に開く口縁で、端部は内側にわずかに肥厚する。	胴部外面はタテ方向のハケの後ヨコ方向のハケ。胴部内面はヘラケズリ、口縁外面にタテ方向のハケの後、口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 小礫を多く含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 褐灰色	胴部下半を欠損。
K-63	壺	B区 K-S X-3	口径 11.0 胴部径 8.1 器高 7.0	碗状の胴部から斜め上方に直接的に開く口縁で端部は外反気味に少し尖る。	胴部外面にハケ、胴部内面にヨコ方向のヘラケズリ、口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 浅黄褐色 ・内面 浅黄褐色	
K-64	甕	B区 K-S X-3	口径 12.9 胴部径 8.7 器高 7.6	丸底で碗状の胴部から内弯して長く伸びる口縁で端部は丸く終わる。	外面は底部にタテ方向のヘラミガキ、胴部から口縁外面にヨコ方向のヘラミガキ、内面は胴部にタテ、口縁内面はヨコ方向のハケ。口縁内面に放射状暗文を施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-65	器台	B区 K-S X-3	口径 11.0 器高 5.6 裾部 9.8	杯部は、中胴部から後をつくり内弯気味に外上方へ伸び端部は水平近くなる。脚部は、中胴部の稜から内弯して外下方へ伸び端部は、わずかに水平に伸びる	外面全体にヘラケズリの後ナデ。内面は杯部にヘラケズリの後ナデ、中胴部、脚部にヘラケズリ。脚端部にナデを施す。	・胎土 石英を多量に含む。 ・外面 淡赤褐色 ・内面 淡赤褐色	鼓形器台

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-66	器台	B区 K-SX-3	口径 13.2 中胴径 3.9 裾径 12.8 器高 6.6	杯部は中胴部から内湾 気味に外反し端部は外 側に水平に伸びる。脚 部は杯部よりやや小さ く同形である。	杯部内外面、脚部外面はヨコ ナデ、中胴部内部はヘラケズ リで面を持ち脚部内面はヘラ ケズリの後端部付近にヨコナ デを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 灰黄色 ・内面 灰白色	鼓形器台
K-67	壺	B区 K-SX-3	口径 10.1 胴部径 9.3 器高 7.6	丸底で碗状の体部から 真っ直ぐに外上方へ伸 びる口縁で端部は内傾 気味に終わる。	外面は底部ヘラケズリ、頸部 にハケを施し、その上にヘラ ミガキ。口縁内はヨコナデ、 内面は板状工具によるナデを 施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-68	壺	B区 K-SX-3	口径 10.2 胴部径 8.9	底部より内湾気味の体 部。 頸部より口縁は内湾。	体部外面はタテ方向のハケ。 体部上方に、回転するヨコ方 向のナデ。口縁は外面内面と も回転するヨコ方向のナデ。 体部内面はヨコ方向のケズリ。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 赤褐色～ 黄褐色 ・内面 赤褐色～ 黄褐色 ・断面 茶褐色	破片のみ遺存
K-69	壺	B区 K-SX-3	口径 10.7 胴部径 9.4 器高 9.4	丸底で碗状の体部から 内湾気味に外上方へ伸 びる口縁で端部は尖る。	外面は胴部下半にヨコ方向の ヘラケズリの後タテ方向のヘ ラミガキ。頸部から口縁外面 にヨコ方向のヘラミガキ。内 面は底部にヘラケズリ、体部 上半から口縁にかけてナデ。 口縁内面にヘラによる放射状 の暗文を施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	完形
K-70	壺	B区 K-SX-3	口径 11.25 胴部径 8.3 器高 11.0	丸底で碗状の体部から 外反後、内湾して上方 へ伸びる口縁で、端部 は尖り気味に丸くおさ める。	外面は体部下半にヘラケズリ、 上半にハケの後口縁から底部 までヘラミガキ。内面は体部 に指ナデ、口縁内面にヨコナ デを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	
K-71	鉢	B区 K-SX-3	口径 11.5 器高 6.0	丸底で碗状の体部。口 縁端部は内湾し内側に 面をもつ。	内外面とも底部から体部をヘ ラケズリ、口縁部はヨコナデ を施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 灰黄褐色 煤付着 ・内面 にぶい黄褐色	篋描き文様を 有す。 完形
K-72	鉢	B区 K-SX-3	口径 15.2 胴部径12.7 器高 5.8	丸底で内湾して伸びる 体部。口縁は大きく開 く端部は面をもつ。	外面は底部に不定方向、体部 にタテ方向のハケ。内面は口 縁下にヨコ方向のヘラケズリ、 頸部に板状工具によるケズリ のほか指ナデ。口縁内外面に ヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 橙色	完形
K-73	鉢	B区 K-SX-3	口径 15.9 胴部径13.5 器高 6.9	丸底で碗状の体部で口 縁は外反後わずかに内 湾し、端部はつまみ上 げ気味におさめる。	体部外面にハケ、内面はヨコ 方向のヘラケズリ、口縁内外 面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多量含 む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-74	鉢	B区 K-SX-3	口径 31.8 胴部径28.6 器高 15.8	平底気味の底部と偏平 な球状の体部。口縁は 内湾し、端部は内側に つまみ上げ肥厚する。	外面はタテ方向のハケの後一 部にヨコ方向のハケ。内面は 不定方向のヘラケズリ。口縁 内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 にぶい橙色 ・内面 淡橙色	胴部に鋸歯状 の線刻三条を 有す。

4号墓

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-75	長頸壺	B区 K-SX-4	頸部径 8.4 胴部径 13.6	球形の胴部と直立気味の頸部を有す。胴部にヘラ描きの絵画(舟?)を有する。	外面は胴部にタテ方向のハケの後丁寧なヘラミガキ、頸部にタテ方向のハケ。内面は胴部にナデ、頸部に不定方向のハケの後ナデを施す。	・胎土 密 ・外面 淡黄色 ・内面 灰白色	口縁部及び体部下半部欠損 赤色顔料の痕跡
K-76	壺	B区 K-SX-4	口径 12.2 胴部径 14.8 残存高 7.8	胴の張る体部。口縁は内弯して伸びる。端部はわずかに内側に肥厚して丸くおわる。	体部外面はヨコ方向のハケの後タテ方向のハケ。体部内面はヘラケズリ。口縁内面から頸部外面にかけてヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 明褐色	底部欠損
K-77	壺	B区 K-SX-4	口径 13.7 胴部径 19.0 器高 21.2	胴上部の張る体部と「く」の字形に屈曲した頸部から内弯気味に伸びる口縁で、端部は内側に肥厚する。表面に米粒状の刺突が4ヶ所ある。	外面は頸部以下にハケ、内面は底部と口縁下指圧痕が残り、体部はヘラケズリ、口縁内外面から頸部にかけてヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 赤褐色 ・内面 黄灰色	
K-78	壺	B区 K-SX-4	口径 10.8 胴部径 9.4 器高 8.4	碗状の体部からゆるやかに外反し、内弯気味に立ち上がる口縁で端部は少し外反し丸くおさめる。	外面は体部にハケの後ヨコ方向のヘラミガキ、口縁にヘラミガキの後、頸部にナデ。内面は口縁にハケの後体部から口縁端部にナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡黄褐色 ・内面 にぶい橙色	底部欠損
K-79	鉢	B区 K-SX-4	口径 17.6 残存高 5.9	体部は直立気味に内弯し、口縁は内弯気味に伸び端部は丸くおさめる。	外面はヘラケズリの後、頸部から口縁部外面及び内面にハケを施した後、体部内面から頸部外面にかけてヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 にぶい橙色 ・内面 明褐色	底部欠損
K-80	高杯	B区 K-SX-4	口径 13.0 裾径 9.8 器高 8.0	平坦な杯底部から斜め上方に伸びる杯部で、口縁端部は外反し尖り気味に終わる。脚柱状部は短く、脚は内弯気味に開き、端部はやや尖る。	外面は杯部にナメ方向のハケの後ヨコ方向の丁寧なミガキ、脚柱状部に粗いタテの後ヨコ方向の丁寧なヘラミガキ、裾径はナデ、内面は杯部にヨコ方向のハケの後放射状のヘラミガキ、最終的に口縁端部にヨコナデ、脚部にナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 橙色	
K-81	高杯	B区 K-SX-4	口径 12.9 裾径 9.6 器高 8.0	杯底部からゆるやかに伸びる杯部で端部は丸く終わる。短い脚柱状部から内弯気味に広がり裾部に二対の円孔を穿つ。	杯部内面に平行方向の丁寧なヘラミガキの後口縁付近にヨコ方向のヘラミガキ。杯部外面下半から脚柱部にかけて、指圧痕が残るが、外面全体にヨコナデ、脚部内面は粗いハケを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	ほぼ完形
K-82	器台	B区 K-SX-4	口径 9.55 裾径 11.35 器高 7.4	皿状の杯部で口縁は直立気味で端部は尖る。脚部は外反して伸びた後内弯気味になり端部は丸くおさめる。	外面は杯部脚部ともにハケの後ナデ。杯部内面にナデの後放射状の暗文を施す。脚部はハケの後指ナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	

6号墓

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-84	壺	B区 K-SX-6	口径 12.8 胴部径 17.9 器高 16.7	尖り気味の丸底で球形に近い胴部。内弯気味に立ち上がりわずかにつまみ上げる口縁端部。	胴部外面はタテ方向のハケ、底部は刺刺が著しい。内面は、下半部は指圧痕が残る。上半部はヘラケズリ。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 にぶい黄色 ・内面 にぶい黄褐色 黒斑を有す。	

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cc)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-85	甕	B-4区 K-SX-6	口径 12.4 胴部径18.1 残存高12.8	口縁「く」字状に外上方へ伸び、端部を内側につまみ上げている。胴部は球形。	口縁部は外面内面ともヨコ方向のナデ。表面剝離のため調整不明。胴部内面はケズリ。	・胎土 密。微小な砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄橙色 ・内面 浅赤橙色	口縁部より体部中央まで遺存
K-86	甕	B-4区 K-SX-6	口径 13.8 胴部径20.0 器高 20.5	やや尖り気味の丸底と胴の中央が張った体部、頸部は「く」の字状に屈曲し口縁端部は内弯気味に伸びる。口縁端部は内側に肥厚して尖り気味に終わる。	外面は胴部下半にタテ方向のハケの後不定方向のハケ。頸部付近にヨコ方向のハケ。内面は底部に指圧痕が残り、胴部下半にタテ、上半にヨコ方向のヘラケズリ、頸部から口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密。 ・外面 灰色 ・内面 煤付着 ・内面 灰色	
K-87	甕	B-4区 K-SX-6	口径 15.0 胴部径19.8 器高 25.4	口縁は楕円形。口縁はほぼ垂直で口縁端部が少し外へ反っている。平底ではあるが少し歪。縦長の歪な楕円型。	外面はヘラミガキのような調整が見られる所もあるがほとんど板ナデが上から下の方向に放射状に施されている。内面は板ナデがうずまき状に下から上へと施されている。	・胎土 0.5mm~1mm程度の砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-88	杯	B-4区 K-SX-6	口径 9.6 器高 3.4	丸底でゆるやかに内弯して立ち上がり、口縁は波うつ。口縁端部は直立気味で尖る。	内外面とも指圧痕による成形	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄橙色 ・内面 浅黄橙色	手捏ね
K-89	杯	B-4区 K-SX-6	口径 9.7 器高 6.7	突出した平底、胴部は内弯して外上方へ伸びた後直立気味に立ち上がる。	外面は無調整。内面は粗いハケ。口縁はつまみだしただけの無調整。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形
K-90	鉢	B-4区 K-SX-6	口径 14.0 器高 4.8	平底気味で胴部はゆるやかに立ち上がり口縁付近で内弯し口縁端部は内弯気味に丸くおさめる。	外面はハケの後ミガキ。内面はナデ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 浅黄橙色 ・内面 橙色	完形
K-91	鉢	B-4区 K-SX-6	口径 14.4 残存高 4.1	口縁端部は頸部から外反した後内弯して伸び、端部は丸くおさめる。	体部外面はヘラケズリ。口縁端部内外面に指ナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄橙色 ・内面 にぶい黄橙色	体部下半欠損
K-92	器台	B-4区 K-SX-6	口径 9.0 残存高 2.5	やや平坦な底の浅い杯部で、口縁端部は直立気味に内弯し端部は丸くおさめる。口縁端部下に一条凹線様のものをめぐらす。	内外面ともヨコ方向のヘラミガキで内面に放射状の暗文を施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 橙色 ・内面 橙色	
K-93	器台	B-4区 K-SX-6	口径 10.1 裾径 12.3 器高 8.0	浅く平坦な底部をもつ杯部。口縁端部は直立気味に尖る。脚は杯部直下から内弯して大きく開き、端部はさらに内弯して下方に面を作る。	外面は杯部にヘラミガキ。脚部はタテ方向のヘラケズリの後不定方向のヘラミガキ。最終的にナデ。内面は杯部にヨコナデ。脚部にヘラケズリの後ナデを施す。	・胎土 砂粒含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形
K-94	壺	B-4区 K-SX-6	口径 11.6 胴部径 6.8	杯状の体部で口縁部は「く」字状に屈曲し外上方へ内弯気味に長く伸びる。	胴部外面はナメタテ方向のケズリ。口縁下部の外面にケズリを施した後口縁全体にタテ方向のハケ。内面全体に放射状のハケ。	・胎土 ほとんど砂粒を含まない。 ・外面 黄褐色 ・内面 黒斑有り ・断面 黄褐色 ・断面 褐色	破片のみ遺存

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-95	甕	B-4区 K-S X-6	口径 8.2 胴部径 8.0 残存高 5.0	胴の張る偏平な体部から内弯して伸びる口縁で端部は丸くおさめる。	体部外面に不定方向のハケ、内部にヨコ方向のヘラケズリ、口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 橙色 ・内面 浅黄橙色	
K-96	鉢	B-4区 K-S X-6	口径 12.3 胴部径10.9	碗状の体部から「く」字状にゆるく屈曲し、内湾気味に短く外上方に伸びる口縁。	体部外面はヨコ方向のケズリ。頸部より上部外面と内面はナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 にぶい黄橙色 ・内面 にぶい黄褐色	破片のみ遺存
K-97	壺	B-4区 K-S X-6	口径 9.9 胴部径 9.9 器高 7.4	やや偏平な胴部から内弯して立ち上がる口縁部。端部は尖る。	胴部外面はヘラケズリ。内面は頸部にヘラケズリ。胴部内面はヨコ方向のヘラミガキを施す。口縁端部内外面は丁寧なヨコナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄色 ・内面 灰黄色	
K-98	壺	B-4区 K-S X-6	口径 10.9 胴部径 9.6 器高 9.0	やや尖り気味の丸底から内弯した後屈曲して内側に入る肩部。内弯して外上方へ伸びる口縁部。端部は尖る。	胴部外面はタテ方向のヘラミガキ。内面もやや雑ながらヘラミガキを施す。口縁端部外面から頸部にかけて丁寧なヨコナデ。内面はナデの後、タテ方向のヘラミガキ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 橙色	
K-99	壺	B-4区 K-S X-6	口径 10.6 胴部径10.6 器高 9.7	胴上部に最大径のある体部から内弯して立ち上がる口縁部。口縁端部は尖り気味に終わる。	胴部外面は細かいヨコ方向のヘラミガキ。底部はタテ方向のヘラミガキ。口縁端部は途中までヨコ方向のヘラミガキ。内面は指ナデで底部に強い板状工具によるナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 黄褐色 ・内面 黒斑を有す ・内面 褐色	
K-100	壺	B-4区 K-S X-6	口径 10.8 胴部径10.8 器高 10.2	やや尖り気味の丸底から内弯して伸びた後短く内側に入る肩部から内弯して立ち上がる口縁部。端部は尖り気味。	胴部外面は板状工具によるナデの後上半部にヨコ方向のヘラミガキ。内面は板状工具によるナデ。口縁端部外面にヨコ方向のハケ、後に内外面にヨコナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 にぶい褐色	
K-101	甕	B-4区	口径 13.5 胴部径25.8 残存高28.6	尖り気味の丸底部と上部が張る胴部。口縁端部は外反し後を成形後、再び直立気味に外反し、口縁端部は水平に面を持つ。	外面は体部に不定方向のハケの後頸部指圧痕。内面は底部と頸部に指圧痕が残る他はタテ方向のヘラケズリ、口縁端部内外面はヨコナデ後、内面屈曲部に指圧痕が残る。	・胎土 密。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 黒斑を有す。 ・内面 淡黄色	二重口縁
K-102	壺	B-4区 K-S X-6	口径 22.6 残存高 7.7	直立する頸部から水平に伸び、さらに外反して立ち上がる口縁で端部はやや肥厚外方に面を持って終わる。	頸部外面にタテ方向のハケの後内外面ともヨコナデを施す。	・胎土 密。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	胴部欠損 二重口縁
K-103	壺	B-4区 K-S X-6	頸部径12.0 残存高 8.5	胴部から直立する頸部より外反して伸びる狭口縁になっている。	外面は狭口縁にタテ方向のハケ、頸部と肩部にヨコ方向にヘラミガキ後全体にナデ。内面は肩部にヘラケズリ、頸部にタテ方向のハケ、頸部から狭口縁にかけてナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 浅黄褐色	口縁部及び体部を欠損。 二重口縁。

B区 第3号墓 周溝内下層

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-104	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 7.0 器高 4.2	丸底でゆるやかに内弯する体部で口縁はわずかに外反し、端部は尖り気味に終わる。	底部内面にハケの後内外面にナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰黄褐色 ・内面 灰白色	
K-105	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 9.0 胴部径 9.7 器高 6.1	やや平坦な丸底で体部は内弯して立ち上がり、後上部で内傾して伸び端部は外反して尖る。	外面は底部ヘラケズリ。体部は、下方を指押さえた後ナデ。内面は、指押さえた後ナデ。口縁部は内外面共にナデ。	・胎土 微砂粒を含む ・外面 灰黄色 ・内面 灰黄褐色	
K-106	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 10.8 器高 6.0	平底で体部は内弯気味に伸びた後わずかに外反し、口縁部は尖り気味に終わる。	外面は底部上方と口縁部までの2段のハケ、内面はヘラケズリの後全体にナデ。最終的に口縁内外面に丁寧なヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい橙色 ・内面 にぶい橙色	
K-107	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 11.3 胴部径10.6 器高 14.7	丸底でやや扁平な球形の体部と内弯気味に伸びる口縁で、端部は尖る。	底部外面はヘラケズリ、体部から口縁部外面はハケで部分的にヨコナデ。体部内面はヘラケズリの後ナデ。口縁部内面はヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 淡橙色 ・内面 底部黒斑 にぶい黄褐色	
K-108	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 13.0 胴部径12.4 器高 10.2	やや扁平な球形の体部と内弯して立ち上がる口縁で、端部は尖り気味に終わる。	体部外面はヘラケズリで後底部と体部上方にハケを施し、最終的にナデ。内面はヘラケズリ、底部に指圧痕が残る。口縁部内外面はヨコナデ、内面に放射状暗文。	・胎土 密 ・外面 にぶい橙色 ・内面 にぶい橙色	
K-109	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 12.4 胴部径13.4 器高 12.7	丸底で体部は内弯気味に伸び、口縁端部は内側にわずかに肥厚する。	外面はナデの後底部にヘラケズリ。内面は底部にタテ方向のヘラケズリ、胴部にヨコ方向のヘラケズリ、頸部にナデ、口縁内外面に板状工具による回転ナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 全体的に煤付着 ・内面 灰白色	完形
K-110	器台	B区 第3号墓周溝内下層	口径 13.0 残存高 3.9	脚は上部に段をつくり、内弯気味に下方へ伸び、端部は外反して家側に面を持つ。	外面は回転ヨコナデ、中胴部にオサエを行い段をつくる。内面は中胴部にナデ、脚部にヘラケズリ後、端部にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 黒斑を有す ・内面 灰白色	脚の一部残存
K-111	器台	B区 第3号墓周溝内下層	口径 18.7 中胴径 7.2 口径 17.1 器高 10.0	受部は中胴部直上で段を作り外反気味に伸び端部は水平に伸び面を持つ。脚部は中胴部から外反し、段を作り内弯気味に伸び端部はわずかに水平に伸びて丸くおさめる。	外面は受部、脚部とも丁寧なヨコナデ。受部内面はヘラケズリの後ヨコナデ。中胴部内面はヘラケズリによる面を有す。脚部内面はヘラケズリで、端部にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 黒斑を有す ・内面 灰白色	鼓形器台 二重口縁 壺(K-164)と セット関係 完形
K-112	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 12.1 胴部径13.6 残存高11.8	やや扁平気味の球形に近い体部で外反する口縁部、端部はつまみ上げている。	体部外面はタテ方向の後ナメ方向のハケ、内面はヘラケズリ。口縁部内面にハケ、外面はヨコナデ。頸部内面に成形の際の指圧痕が残る。	・胎土 密 ・外面 淡黄褐色 ・内面 暗灰黄色	底部欠損
K-113	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 13.1 残存高 8.0	胴の強く張らない体部から外反する口縁部。端部は肥厚し丸くおさめる。	体部外面は板状工具によるナデの後不定方向のハケ。内面はヘラケズリで下半部にナデがみられる。頸部内面に指圧痕が残る、外面は回転ナデ。口縁部内外面とも回転ナデ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 浅黄褐色	体部下半部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-114	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 13.3 胴部径15.5 器高 15.2	最大胴径を体部やや上方に有す。口縁部は、「く」の字形に外反する。端部はつまみ上げる。	体部外面はハケで、下半部は後にナデ。内面はナナメ方向のヘラケズリ、上方はヨコ方向のヘラケズリ、頸部に板状工具によるナデを施し、後に口縁部内外面ともヨコナデ。底部に指圧痕が残る。	・胎土 砂粒を含む ・外面 にぶい橙色 煤付着 ・内面 にぶい褐色	
K-115	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.0 胴部径16.0 器高 15.8	やや底部が尖り気味の丸い体部と外反した後内弯気味に短く立つ口縁で端部は丸くおさめる。	体部外面は剥離が著しく不明瞭であるが、ハケと思われる。内面はヘラケズリ。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 浅黄褐色 煤付着 ・内面 浅黄褐色	ほぼ完形
K-116	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.4 胴部径16.0 残存高16.4	最大胴径を体部中央やや上方に有し、底部はやや尖り気味。口縁は外反し、端部は面をなす。	体部外面は不定方向のハケ、内面は上半部がナナメ、下半部がタテ方向のヘラケズリで、底部に成形の際の指圧痕が残る。口縁部内面は、板状工具によるナデ。頸部外面はハケが一周する。最終的に頸部内面から口縁部外面にかけてヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 浅黄褐色 煤付着 ・内面 にぶい褐色	底部欠損
K-117	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 12.4 胴部径13.1 器高 12.1	偏平な丸底で球形の体部。口縁は内弯して伸び、端部は丸く終わる。	外面は体部下半部にヘラケズリの後上半部にタテ方向のハケ。内面は指押さえた後ヘラケズリで一部にナデ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 暗褐色 黒斑を有す。 ・内面 にぶい黄褐色 黒斑を有す。	
K-118	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 12.0 胴部径15.2 器高 14.1	丸底で胴の張る体部と外反した後内弯して立つ口縁部。端部はわずかにつまみ上げる。	体部外面は全体にタテ方向のハケ、上半部は後にヨコ方向のハケ。内面はヘラケズリで、頸部に成形の際の指圧痕が残る。口縁部内外面ともヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 黄褐色 大部分煤付着 ・内面 黄褐色	
K-119	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 12.2 胴部径15.6 器高 15.2	球形に近い体部で口縁は内弯して伸び、端部はややつまみ上げる。	体部外面はタテ方向のハケの後ヨコ方向のハケを全面に施す。内面下半は成形時の指圧痕が残るナデ。上半がヘラケズリ。頸部内面に指圧痕が残る。口縁部内外面は回転ナデ。	・胎土 密 ・外面 淡褐色 煤付着 ・内面 灰白色	
K-120	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 12.4 胴部径15.7 器高 15.8	丸底で球形に近い体部から屈曲して内弯気味に立ち上がる口縁部。端部はわずかに内方に肥厚する。	体部外面はハケの後ナデ。内面は下半がタテ方向、上半がヨコ方向のヘラケズリ。口縁部内外面は回転のヨコナデ。頸部内面と底部内面に成形の際の指圧痕が残る。	・胎土 密 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 浅黄褐色	ほぼ完形
K-121	壺	B区 第3号墓周溝内下層	頸部径10.4	大きく胴の張る体部からやや外方へ開く口縁で端部は水平な面を持つと推定できる。	外面はタテ方向のヘラミガキで頸部に丁寧なヨコナデ、口縁部はヨコナデ。内面は指圧痕で、成形後ヘラケズリ、口縁部はさらにナデを施す。	・胎土 密 ・外面 浅黄褐色 ・内面 灰白色	口縁部及び体部下層欠損
K-122	壺	B区 第3号墓周溝内下層	口径 26.4 胴部径23.0 器高 15.0	丸底で体部はやや内弯気味に伸びた後胴部で大きく屈曲し内側に短く入る肩部から一旦外反し縁を作って直立し後内弯気味に外上方へ立ち上がる口縁部。端部は外方にわずかに肥厚し、上に水平な面を持つ。	体部外面はタテ方向のハケの後下半部に不定方向のハケ。頸部下方に二条のヨコハケ。内面下半部はナデ、上半部はヘラケズリ。頸部内面はヨコ方向のヘラケズリで面をつくる。口縁内外面は丁寧なヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 淡褐色 ・内面 褐色	ほぼ完形 片口を有する

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-123	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 17.2 胴部径17.4 底径 4.5 器高 20.6	わずかに中央を上げた平底で縦長の体部と外反する短い口縁部。端部はわずかに面をつくる。	体部をタタキで成形し、粘土ひもを加えて底部をつくり、タタキで成形の後、口縁部外面はタテ方向のハケ。底部内外面はヘラケズリの後板状工具によるナデ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 黒斑を有す。 ・内面 灰白色	
K-124	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 16.2 胴部径16.3 器高 20.4	丸底に粘土ひもを加えた平底で、最大胴径を体部上方に有す。外反する口縁で端部は丸く終わる。	外面は底部にヨコ、体部に右上がりのタタキを施す。内面は底部にヘラケズリが残るが体部は指ナデ。口縁部外面はタテ、内面はヨコ方向のハケで、端部に丁寧な回転ナデを施す。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 橙色 煤付着 ・内面 灰褐色	
K-125	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 18.9 胴部径20.6 底径 5.0 器高 21.9	丸底に粘土ひもを加えて平底で最大胴径を上方に有す体部と短く外反する口縁部。端部は丸くおさめる。底部に穿孔。	底部をタタキで成形後体部及び口縁部を作る。タタキは底・体部とも右上がり、雑目をナデ消す。底部内面はヘラケズリ及びハケで、体部内面は板状工具によるナデ。口縁部外面はタテ方向のハケ、後、内外面ともヨコナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 にぶい橙色 黒斑を有す。 ・内面 浅黄色	底部穿孔 (焼成後)
K-126	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 16.1 胴部径21.3 器高 25.6	径の小さい丸底に粘土ひもを加えた平底で胴のあまり張らない菱形に近い体部。外反し、やや尖り気味に終わる口縁部。	底部はヨコ、体部は右上がりのタタキで、底部外面はナデ。内面は底部にヘラケズリ、体部はナデ。口縁内外面はハケの後ヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-127	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.3 胴部径16.7 残存高16.2	胴の張る体部と鋭く「く」の字形に外反する口縁部で、端部はややつまみ上げ気味に終わる。	体部上半部に細い平行のタタキを施し、下半部はナデ。内面はヘラケズリで頸部内面部分にハケが残る。口縁内外面はヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 褐灰色 煤付着 ・内面 明褐色	
K-128	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 14.3 胴部径18.0 器高 18.7	丸底でほぼ球形の体部と外反する口縁部で、端部はつまみ上げる。	体部は細かいタタキの後、タテ方向のハケを施し、下半はさらにナデ。内面はヘラケズリ。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 黒褐色	体部下方に一ヶ所穿孔
K-129	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 15.0 胴部径20.2 残存高20.6	偏平気味で胴の張る体部。口縁は外反し端部はつまみ上げてやや尖り気味に終わる。	外面は全体にナメ方向の細かいタタキの後胴下半部に不定方向のハケ。内面は胴下半部にタテ、上半部にヨコ方向のヘラケズリ、口縁内外面は板状工具によるヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰褐色 煤付着 ・内面 にぶい黄褐色	底部欠損
K-130	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 15.5 胴部径22.4 残存高24.5	最大胴径をやや上方に有す縦長気味の体部からやや内傾気味に上方へ伸び、更に立ち上がる二重口縁で、端部は水平に面を持つ。端部内面は丸く肥厚している。	体部外面は不定方向のハケで下半はナデ消す。内面はタテ及びヨコ方向のヘラケズリ。底部内面に、指圧痕が残る。口縁部内外面ともヨコナデ。口縁部に目の細かい櫛歯文。	・胎土 密 ・外面 黒色 ・内面 にぶい黄褐色 底部に黒斑	底部欠損 二重口縁
K-131	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.0 胴部径15.6 残存高14.3	胴の張る体部で「く」の字形に外反した後、つまみ上げて丸く終わる口縁部。	体部外面は右上がりのタタキを施し、上半は後に右下がりのハケ。下半は不定方向の粗いハケ。内面はヘラケズリで、口縁部内外面にハケを施した後、上半から頸部外面までヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 にぶい橙色 煤付着 ・内面 灰褐色	底部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cc)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-132	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.5 胴部径19.5 残存高15.3	球形の体部から肥厚して外反する口縁。頸部は内側に丸く肥厚する。	外面は体部に左下がりのタタキの後右下がりのハケ。内面はヨコ方向のヘラケズリ。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 褐色 ・内面 全体に煤付着にぶい褐色	底部欠損
K-133	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 15.0 胴部径21.4 残存高21.2	胴の大きく張る球形に近い体部と鋭く外反する口縁部。頸部はつまみ上げる。	体部外面は右上がりのタタキの後ハケを施す。下半部はさらにナデ。内面はタテ方向のヘラケズリ。口縁内面にヨコハケを施し、内外面にヨコナデ。頸部外面に板状工具によるナデ。	・胎土 密 ・外面 明褐色 ・内面 煤付着 灰白色	底部欠損
K-134	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 16.4 胴部径19.0 底径 3.3 器高 23.8	平底で、歪なやや縦長の体部。口縁部は、内弯気味に伸びる。頸部は丸くおさめる。	底面をヨコ方向のタタキで成形後、体部をナメ方向のタタキで成形、最後に口縁部をつくる。タタキの後に全体にタテ方向のハケ。内面は底部がハケの後ナデ。体部下段がヘラケズリ、上段が板状工具によるナデ。口縁部内外面に最終的に丁寧なヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 煤付着 浅黄褐色	
K-135	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 13.6 胴部径18.6 器高 19.2	胴の張る体部で底部はやや尖り気味。口縁部は外反した後内弯気味に伸び、頸部はつまみ上げる。	体部外面はタテ方向のハケの後上半部に不定方向のハケを施す。二条のヨコ方向のハケを上方に直線文様を施し、最大胴径部にヨコナデ。内面は頸部と底部に成形の際の指圧痕が残る。体部はヘラケズリ。口縁部内外面と頸部にヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 煤付着 褐色	完形
K-136	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 13.3 胴部径18.6 器高 20.1	やや尖り気味の底部で胴の張る体部。内弯して立つ口縁部。頸部は面を持つ。	体部外面下半はタテ方向、上半は不定方向のハケを施し、上からナデ。内面はヘラケズリ。口縁部内外面はハケの後ヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 浅黄褐色 ・内面 煤付着 浅黄褐色	ほぼ完形
K-137	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 16.2 胴部径20.4 残存高20.6	球形に近い体部で、口縁は内弯気味に伸びる。頸部は内側上方につまみ上げ、外上方に面を持つ。	体部外面下方はタテ方向、体部上半に不定方向のハケを施す。頸部下方は直線文様のヨコ方向のハケを施し、内面はヘラケズリ。口縁部内外面に、板状工具によるナデを施し、最終的に丁寧なヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐灰色 ・内面 煤付着 褐灰色	底部欠損
K-138	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.8 胴部径21.3 器高 20.6	丸底で胴の張るやや扁平な球形の体部。口縁は内弯気味に伸び頸部は内側に肥厚する。	外面はタテの後ヨコ方向のハケ、内面はヘラケズリ、頸部と口縁部の内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む ・外面 淡黄色 ・内面 煤付着 浅黄褐色	
K-139	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.8 胴部径19.1 器高 20.2	やや尖り気味の底部で胴の張る体部。鋭く「く」の字形に外反する口縁で頸部はつまみ上げる。	体部外面は不定方向のハケの後下半はナデ消す。内面はヘラケズリ。口縁部内面にハケで面取りをし、内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐色 ほぼ全面に煤付着	
K-140	甕	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.8 胴部径21.3 残存高17.7	尖り気味の底部で胴の張る体部。	体部外面は上段が格子状のハケ、中段が不定方向、下段がタテ方向のハケで、底部はナデ消す。内面はヘラケズリで底部に指圧痕が残る。	・胎土 砂粒を少量含む ・外面 にぶい赤褐色 ・内面 煤付着 灰褐色	口縁部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-141	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 14.9 残存高 8.3	やや扁平気味の肩部から一旦短く直立した後外反する口縁で、端面に一条の凹線を施す。	体部外面はタテ方向の後、不定方向のハケを肩部まで施し、さらに頸部にヨコナデを施す。内面はヘラケズリ。頸部内面内傾部分に成形時の指圧痕が明瞭に残る。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 灰白色	体部下半部欠損
K-142	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 14.2 胴部径18.0 残存高15.0	縦長の体部と外反する口縁部で端部は内側に肥厚し丸くおさめる。	体部外面はヨコ方向のハケの後、ナナメ方向のハケを施し、頸部から胴部にかけてさらにタテ方向の丁寧なハケを施す。頸部及び口縁内外面はヨコナデ。頸部内面に指圧痕が残る。体部内面はヘラケズリ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 浅黄褐色	体部下半部欠損
K-143	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 15.7 胴部径22.2 残存高22.4	胴の張る菱形に近い体部で口縁は内弯して伸び端部は内側に肥厚する。頸部内面はヘラケズリによる面を持つ。	体部外面はタテ方向のハケの後上半部にヨコ方向のハケを施し、上方はナデ消す。内面はヘラケズリ。口縁部内外面は丁寧なヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 浅黄褐色 煤付着 ・内面 淡褐色	底部欠損
K-144	壺	B-4区 K-SK-7下層	口径 11.6 胴部径10.6 器高 8.8	丸底で腕状の体部から内弯気味に外上方へ伸びる口縁。端部は尖る。	外面は丁寧なヘラミガキ、体部内面に板ナデ、口縁内面から外面端部にかけてヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	
K-145	壺	B-4区 第3号基周溝内下層	口径 9.05 胴部径13.4 器高 14.0	平底でやや扁平な球状の体部で口縁は内弯気味に立ち、端部は丸く終わる。	外面は底部から不定方向のタタキの後、胴部上半にタテ方向のハケ、頸部にヨコ方向の板状工具によるナデ。内面は底部に粗い板状工具によるナデ、胴部をナデ、口縁外面にタテ方向のハケ内面はヨコ方向のハケの後ナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰色	完形
K-146	甕	B区 K-SK-7	口径 14.7 胴部径20.2 器高 21.1	丸底で球形の体部。口縁は頸部から「く」字状に内弯しながら外上方へ伸びる。端部は肥厚し、わずかにつまみ上げる。	外面はタテ方向のハケの後体部中央にヨコ方向のハケ。内面は底部に指圧痕が残る、体部下半部にタテ、上半部に不定方向のヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 煤付着 ・内面 にぶい黄褐色(口縁部)・黒褐色(体部)	外面全体に煤付着
K-147	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 15.3 胴部径18.2 残存高16.0	縦長の歪な楕円形の体部からやや外弯気味に立つ口縁部で端部は丸くおさめる。	体部外面はナナメ方向のタタキの後タテ方向のハケを施し、内面はヘラケズリの後ナデ。口縁部は内外面とも丁寧な指ナデ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 灰白色	底部欠損
K-148	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.9 胴部径19.2 器高 22.3	やや縦長の楕円形の体部と外反する口縁で、端部は面を持つ。	体部外面は右上がりのタタキで成形後、頸部下方と、体部下半部にタテ方向のハケを施す。内面は、頸部に成形の際の指圧痕が残る、頸部下方にハケ、体部大部分はヘラケズリ。口縁部外面はタテ方向、内面はヨコ方向のハケの後、ヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 浅黄褐色 煤付着 ・内面 黄褐色	完形
K-149	高杯	B区 第3号基周溝内下層	口径 14.4 裾径 10.8 器高 9.2	杯部は底部から斜上方に伸びわずかに段をもち屈曲して内弯気味に伸びる口縁で端部は丸く終わる。脚柱状部から大きく広がる裾部。裾部四方向穿孔。	杯部内外面ともヘラミガキ後ナデ。内面には放射状暗文。脚柱状部はヘラケズリ後ナデ。裾部外面はヘラミガキの後ナデ、内面はナデ。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 橙色	

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-150	高杯	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.6 裾径 11.3 器高 9.4	杯部は底部から斜上方に伸び一旦屈曲した後さらに屈曲し、内寄気味に斜上方に伸びる口縁で、端部は立ち気味に丸く終わる。短く太い脚柱状部。大きく広がる裾部で四方向穿孔	杯部内外面ともヘラミガキ後ナデ。内面に放射状暗文。柱状部はヘラケズリ後ナデ。裾部外面はハケ、内面はナデ調整。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 褐色	ほぼ完形
K-151	高杯	B区 第3号墓周溝内下層	口径 14.9 裾径 11.8 器高 9.1	杯部は底部からほぼ水平に伸び、屈曲して長く伸びる口縁部。短い脚柱状部から大きく広がる裾部。裾部四方向に穿孔。	杯部外面はヘラミガキの後ナデ。脚柱状部から杯底部外面はヘラケズリで成形の後、最終的にナデ。裾部はナメ方向のハケ。杯部内面はハケの後放射状暗文。裾部内面はハケ、端部はナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 褐色 ・内面 にぶい黄褐色	ほぼ完形
K-152	高杯	B区 第3号墓周溝内下層	口径 15.5 残存高 9.6	杯底部からゆるやかに内弯し、一旦屈曲した後さらに内寄気味に斜上方に伸びる口縁で端部は尖る。短い脚柱状部分で裾部四方向穿孔。	杯部外面はヨコ方向のヘラミガキ後ナデ、内面はハケ放射状暗文。脚柱状部分はヘラケズリで成形後ナデ。裾部内面にハケ目残る。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 にぶい褐色	裾部欠損
K-153	器台	B区 第3号墓周溝内下層	口径 8.7 裾径 11.0 器高 7.9	浅い碗状の受部で口縁端部はつまみ上げて直立する。大きく広がる脚部で、四方向穿孔。	受部内外面ともヘラミガキの後ナデ。脚部外面はヘラミガキの後ナデ、内面はナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 淡褐色 ・内面 黒斑を有す。 ・内面 淡褐色	完形
K-154	器台	B区 第3号墓周溝内下層	口径 9.8 裾径 12.2 器高 9.2	浅い碗状の受部で口縁は内傾気味に直立し、端部は丸くおさめる。脚部は裾で大きく広がり、端部は尖り気味に丸くおさめる。三方に透しを有する。	受部外面はヨコ方向の細かいヘラミガキ、内面はナデの後、放射線状に暗文。端部はナデ。脚部外面上方を粗いヘラケズリで成形後全体にナデ、内面は指圧痕で成形後ナデ。	・胎土 密 ・外面 にぶい褐色 ・内面 にぶい褐色	完形
K-155	壺	B区 第3号墓周溝内下層	口径 10.1 胴部径 9.2 器高 7.5	丸底で扁平な球形の体部と内弯して立ち上がる口縁で端部は尖る。	底部から体部下外面はヘラケズリ、体部上半及び口縁外面はヨコ方向のヘラミガキで、口縁部は後にナデ。体部内面はヘラケズリ、粘土継ぎ目付近はナデ。口縁内面はヨコ方向のヘラミガキ。	・胎土 密 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 黒斑を有す。 ・内面 にぶい黄褐色	
K-156	壺	B区 第3号墓周溝内下層	口径 11.0 胴部径 10.2 器高 7.2	丸底で碗状の体部で体部上方で内弯する。口縁部はわずかに内弯して立ち上がり、端部は尖る。	体部外面及び口縁部内面はハケ。体部内面及び口縁内面はナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 煤付着 ・内面 淡黄褐色	完形
K-157	壺	B区 第3号墓周溝内下層	口径 11.1 器高 6.4	やや尖り気味の丸底で碗状の体部から内寄気味に伸びる口縁部で、端部は丸く終わる。	外面は剝離が著しいが、ハケと思われる。体部内面はヘラケズリの後ナデ。口縁内外面は丁寧なヨコナデ。底部内面に指圧痕が残る。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 煤付着 ・内面 褐色	
K-158	壺	B区 第3号墓周溝内下層	口径 11.3 胴部径 7.7 器高 10.8	丸底で碗状の体部。頸部のくびれは弱く、口縁はゆるやかに立ち上がり、端部はわずかに内弯し、尖り気味に終わる。	外面は体部下半にクテ方向のヘラケズリ。内面は底部にクテ、胴部にヨコ方向のヘラケズリ。頸部内面から口縁内外面、頸部下まで指ナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 煤付着 ・内面 淡黄色	
K-159	壺	B区 第3号墓周溝内下層	口径 10.0 胴部径 9.4 器高 7.2	やや尖り気味の丸底で碗状の体部から内寄気味に伸びる口縁で端部はわずかに面をもつ。	外面は口縁下半までヘラケズリ、内面はナデ。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 明黄褐色 ・内面 明黄褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺溝	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-160	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 13.2 残存高 8.1	扁平な球形の体部から内弯気味に長く伸びる口縁部で、端部は丸くおさめる。	体部内外面はヘラケズリ、口縁内外面はハケを施し、最終的にナデ。頸部は板状工具によるナデ。	・胎土 密 ・外面 淡褐色 ・内面 淡褐色	
K-161	壺	B区 第3号基マウンド上	口径 8.7 胴部径 8.2 器高 7.0	丸底で腕状の体部。大きく内弯した肩部から内弯気味に外上方へ伸びる口縁で端部はやや尖り気味に丸い。	外面および口縁内面はヨコナデの後丁寧なヘラミガキ。体部内面はヘラケズリを施す。	・胎土 微砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 黒斑を有す。 ・内面 灰白色	
K-162	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 10.9 胴部径 15.5 器高 21.9	横長の楕円形に近い体部から削り出しの痕跡程度の底部を有す。口縁部はわずかに外反して立ち上がり端部は丸くおさめる。	頸部外面はヘラによるオサエが残る。体部外面はヘラケズリ、体部上半に連珠状の板状工具によるナデを施す。内面はヘラケズリ。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-163	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 9.6 頸部径 7.2 胴部径 17.1 器高 20.0	底がやや尖り、胴中央がゆる体部とわずかに外反して長く伸びる口頸部。端部は丸くおさめる。	体部外面はヨコ方向のハケの後下半部にタテ方向のハケを施す。内面は上半がヨコ方向下半がタテ方向のヘラケズリ。底部と頸部の成形の際の指圧痕が残る。口縁部内外面から体部上方までヨコナデ。	・胎土 微小な砂粒を少量含む。 ・外面 淡褐色 煤付着 ・内面 淡褐色	
K-164	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 17.3 頸部径 8.9 胴部径 20.8 器高 22.4	やや横長の楕円形の体部から直立した頸部を有し、外反して水平に伸びた縦口縁から外反して伸びる短い口縁部。端部は丸くおさめる。底部に焼成前に径約6.0caの孔を穿つ。	体部外面は全体にタテ方向のハケ。内面は全体に、成形時の指圧痕が残り、上方にのみヨコナデを施す。内面はヨコハケ、最終的に内外面ともヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 褐色 ～淡褐色 ・内面 にぶい褐色	二重口縁壺 底部穿孔 (焼成前)
K-165	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 17.4 頸部径 11.0 胴部径 27.1 残存高 30.4	球形に近い体部とわずかに内弯気味に伸びた後やや外反する口縁部。端部はほぼ水平に面を持つ。	体部外面はハケの後ナデ消し、胴部にハケが残る。内面は下半部に指圧痕が残るが、全体にヨコ方向のヘラケズリ。口縁部内外面は丁寧なヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	底部欠損
K-166	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 16.2 残存高 14.0	外反気味に長く伸びる口縁で、端部は内弯気味に丸くおさめる。	外面は体部にタテ方向のハケ、口縁端部付近はタテ方向のハケ、下半部はヨコ方向のヘラミガキ。頸部に板ナデ。内面は体部にヘラケズリ、口縁にヨコ方向のヘラミガキ、頸部にナデ、口縁端部はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 明オリブ灰色	体部下半欠損
K-167	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 16.4 器高 22.6	体部は丸底球形で最大径を胴部中央よりやや上方に有し長胴化の傾向を示す。器壁は薄く仕上げる。口縁はやや外反気味に上方へ「く」の字形に伸び、端部は上方に短く上がつて終わる。	外面は頸部から胴部にかけて一見タタキ風の左下り方向と右下がり方向のハケ調整。胴部から底部にかけてはタテ方向のハケを施した後ナデ消している。口縁部はヨコナデ。胴部内面はヘラケズリで口縁部内面はヨコナデ。	・胎土 密で雲母・石英を含む。 ・外面 茶褐色 ・内面 茶褐色	
K-168	壺	B区 第3号基周溝内下層	口径 9.5 頸部径 5.0 胴部径 9.5 器高 11.3	やや扁平な球形の体部から内弯気味にラップ状に長く伸びる口縁で端部はさらに外反し尖り気味に終わる。	口縁外面はヨコ後タテ方向のヘラミガキ、内面はヨコ方向ヘラミガキ後放射状暗文。体部外面上半はヘラミガキ、下半はヘラケズリ。内面は下半にヘラケズリ。頸部内面はヨコ方向のケズリ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ～淡褐色 ・内面 にぶい褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-169	碗	B区 第3号墓周溝内下層	口径 11.4 胴部径 9.1 器高 6.6	丸底で碗状の体部から内弯気味に大きくひろく口縁で端部は丸くおさめられる。	外面は全体にハケ、内面は体部にヨコ方向のヘラケズリ、その後口縁部内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい橙色 ・内面 にぶい橙色	
K-170	碗	B区 第3号墓周溝内下層	口径 17.7 胴部径14.0 器高 5.7	丸底で深い皿状からゆるやかに立ち上がる体部で口縁は内弯気味に外へ伸び端部はわずかに内側に肥厚し丸く終わる。	外面は胴部下半をヘラケズリ。内面は板状工具によるナデ。口縁内外面から胴部上半にかけヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい橙色 ・内面 浅黄橙色	ほぼ完形
K-171	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 26.6 胴部径24.2 器高 16.3	やや扁平な半球状から内側に屈曲する体部で、内弯気味に伸びる口縁部。端部は面を持つ。	体部外面は上方はヨコ方向、下半はタテ及びナメ方向のハケの後ナデ。内面はヘラケズリで底部に指圧痕が残る。口縁内外面はヨコナデ、端部は丁寧なナデ。頸部に指ナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 浅黄橙色 ・内面 灰白色	

4号墓周溝及び周溝内土塊

K-176	甕	B区 第4号墓上層	口径 15.0 残存高 3.2	口縁は胴部から鋭く外反し口縁端部をつまみ上げている。	外面胴部は格子状ハケ。外面口縁はヨコナデ。内面胴部はヘラケズリ。内面口縁はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 赤黒色 黒斑。 ・内面 にぶい橙色	口縁部のみ遺存
K-177	甕	B区 第4号墓上層	口径 16.1 残存高 4.0	口縁は胴部から内弯しながら外上方へ伸びる。口縁端部は肥厚し、上に面をもつ。	外面胴部は指ナデ。口縁部は板状工具によるヨコナデ。内面胴部はヘラケズリ。内面口縁はヨコナデ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 にぶい黄橙色 黒斑。 ・内面 にぶい橙色	口縁部のみ遺存
K-178	甕	B区 第4号墓上層	口径 16.4 残存高 4.8	口縁は胴部から内弯しながら外上方へ伸びる。口縁端部は肥厚し、上に面をもつ。	外面胴部は指ナデ。口縁部は板状工具によるヨコナデ。内面胴部はヘラケズリ。内面口縁はヨコハケの後ヨコナデで消している。	・胎土 微小な砂粒を多く含む。 ・外面 オリーブ黒色 黒斑。 ・内面 にぶい黄橙色	口縁部のみ遺存。
K-179	壺	B区 第4号墓上層	口径 15.8 残存高 9.2	頸部は外反して壁をつくり、そこから直立気味に外反し長く伸びる。口縁端部はさらに外反して丸くおさめられる。	口縁内面に指圧痕が残る、その上から内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 オリーブ黒色	体部欠損 煤付着
K-180	碗	B区 第4号墓周溝内土塊	口径 15.6 器高 4.8	やや平坦な丸底で皿状の胴部。口縁は内弯気味に伸び端部は丸くおさめられる。	外面全体にヘラミガキ。内面はヘラケズリの後ナデ、口縁にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 にぶい黄橙色 ・内面 灰黄色	

5号墓出土土器

K-182	甕	B-6区 第5号墓マウンド肩部	口径 14.6 残存高 6.1	口縁は頸部から鋭く外反して伸び端部はまっすぐつまみ上げている。	胴部外面は格子状にハケ。胴部内面は不定方向のケズリ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 黒褐色 ・内面 褐色	口縁部のみ遺存
K-183	鉢	B区 第5号墓マウンド内	口径 20.2 器高 8.2	高台状の平底で胴部はゆるやかに内弯して立ち上がる。口縁端部は直立し丸く終わる。	外面は底部にヘラによる押さえが残り、全体に丁寧なヘラミガキ。内面は、底部に指圧痕が残る、全体に丁寧なヘラミガキの後、口縁内外面にヨコナデを施す。内面に暗文を施す。	・胎土 砂粒を少量含む ・外面 にぶい橙色 ・内面 にぶい橙色	完形 外面全体に煤付着

6号墓

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-184	鉢	B-6区 第6号周溝外	口径 17.8 器高 7.2	丸底で偏平な半球形の体部。口縁はわずかに外反し、端部は丸くおさめる。	外面はヨコ方向のハケ。内面はナデ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 微砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形 内外面に多量の鉄分の沈着がみられる。
K-185	甕	B-6区 第6号墓	口径 15.8 胴部径 20.6 器高 22.2	底部から内弯する球形の体部。口縁は頸部より屈曲し端部は水平に面をもつ。黒斑が体部と底部の2ヶ所ある。全体に鉄分が付着。	体部外面は全面板ナデ。体部中央はヨコ方向、底部は不定方向、その他はタテ方向、体部内面は全面にケズリ。	・胎土 密。1mm程度の砂粒を少し含む。 ・外面 褐灰白色 ・内面 黒褐色 ・断面 灰色	

水田及び畦畔

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-186	高杯	B区 水田	口径 21.0 裾部 12.6 器高 17.2	杯部は、底部から外上方に伸び屈曲して外反気味。脚柱状部は長く脚裾部は小さい。	脚柱状部内面はヨコ方向のケズリ。杯底部外面はナデ。あとは剝離のため不明。	・胎土 密。微小な砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 淡黄色	
K-187	甕	B区 大あぜ下	口径 12.9 胴部径17.0 器高 16.5	丸底でやや偏平な球形の体部。口縁は外反気味に伸びさらに外反した後短く直立し、端部は尖る。	外面は体部上半にハケ、下半に板状工具によるナデ。内面は底部が指圧度。体部にヘラケズリ。頸部はナデで面を作る。口縁内面にヨコ方向のハケ、後内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む ・外面 褐色 ・内面 褐色	完形 外面全体に煤付着

河川1

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (ca)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-188	壺	B区 K-SR-1	口径 8.4 胴部径 8.7 器高 6.2	碗状の体部でやや内弯気味に伸びる口縁。端部は丸く終わる。	外面は体部下半にヘラケズリ。内面から体部上半にかけナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-189	壺	B区 K-SR-1	口径 8.0 胴部径 7.7 器高 7.8	平底気味でやや偏平な球状の体部。口縁は斜上方に直線的に伸び、端部は丸く終わる。胴部に一對の篋描き沈線文を有する。	外面は胴部にハケの後ナデ。内面はヘラケズリのあと口縁下に指圧度が残る。口縁内面はハケのあと内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 褐色	ほぼ完形
K-190	甕	B区 K-SR-1	口径 10.6 胴部径10.8 器高 10.0	やや尖り気味の丸底で球形の体部を持つ。口縁は外反して伸び、端部はつまみ上げ気味に直立してやや尖る。	外面は頸部付近にタテ方向のハケ。それ以外はヨコ方向のハケ。底部付近は放射状のハケ。内面は底部に指圧度と指ナデ、頸部以下にヘラケズリ、口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-191	高杯	B区 K-SR-1	口径 20.0 裾部 12.7 器高 13.5	杯体部は平坦な杯底部から斜め上方に直線的に伸びる口縁で端部は丸くおさめる。脚柱状部は内弯気味に広がり、裾部は外反気味に開く。端部は尖り気味におさめる。	外面は杯部にヘラミガキ、杯底部から脚柱状部にかけてタテ方向のケズリの後脚柱状部の下半から裾部にタテ方向のハケ、端部上面にヨコ方向のハケ。内面は杯部に丁寧なヘラミガキの後ナデ、裾部にナデ、脚柱状部に指ナデ、杯部内面に放射状の暗文を施す。	・胎土 密 ・外面 にぶい褐色 ・内面 にぶい黄褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-192	須恵器蓋	B区 K-SR-1	口径 13.3 器高 4.0	上端が平らで中央部が窪むつまみを有し体部は全体として偏平である。天井部はかなり偏平で口縁部との境界にかなり明瞭な稜を有す。口縁部は短く、まっすぐ下方に伸び、端部はやや内傾しながら面を持って終わる。	外面は回転によるナデを施した後、天井部に櫛による刺突文帯を二条、その間に圓線を一条施す。内面は粗いナデ。	<ul style="list-style-type: none"> 胎土 砂粒を若干含む。 外面 暗灰色 (1/2くらい白く灰をかぶる) 内面 暗灰色 堅緻 	
K-193	高杯	B区 K-SR-1	口径 13.2 残存高 4.7	平坦な杯底部。碗状の杯部で内弯して伸びる口縁で端部は内傾気味に丸くおさめる。	外面は一部にハケ目が残る。内外面ともヨコナデを施している。	<ul style="list-style-type: none"> 胎土 砂粒を含む。 外面 灰黄色 内面 褐灰色 	杯部のみ遺存
K-194	高杯	B区 K-SR-1	口径14.8 裾部 10.2 器高 12.0	やや平坦な底部を持つ碗状の杯部。端部は丸くおさめる。脚柱状部は外反し、さらに外反する裾部。端は反り気味に丸くおさめる。	裾部はヘラミガキ。内面は杯底部に板状工具による調整痕が残り、裾部にハケ、最終的に杯部及び裾部にヨコナデを施す。	<ul style="list-style-type: none"> 胎土 密 外面 橙色 内面 橙色 	

4. 歴史時代

A. 歴史時代第1遺構面

基本層序Ⅰ層下位の褐色粘質土、及び灰褐色粘質土の上面がそれにあたる。

この遺構面は、ほとんどが後者の土層面で、水田跡と考えており、整然とした地割を検出している。ただB調査区中央部では、こうした水田区画に混じって比高差0.3m～0.5mほどの水田とは考え難い高まり部分も検出している。遺存状況は、現表土からの埋没が浅いため、中央環状線建設工事等の土木工事による土層攪乱の影響を受けやすく、あまり良好であるとは言えないが、一応その原状を推定できる状態ではある。

a. 遺構

水田跡

B調査区中央で検出した高まり部分を除けば、この遺構面で検出される遺構のすべてがこの水田、及び水利に関するものである。

検出状況は第91、92図でも分かるように方形地割が施行されており、時代性は別として条里制遺構として理解できるものと考えられる。まず、南北方向の地割として、B調査区で検出した大型畦畔（R-畦-1）が指摘できる。他にC調査区の小型畦畔（R-畦-5、8）がある。この前者と後者の間には規模や構造において明確な差異が認められ、前者は坪を画する可能性が非常に高く、後者は坪区画の中をさらに一段単位以上に細分する畦畔であろうと考えられる。次に東西方向の地割として、小中型畦畔（R-畦-2～4、6、7）や溝（R-SD-1、2）がある。現在地図、及び航空写真などで坪区画を復元した場合、R-SD-2が溝ではあるが坪として認識できる。しかし、第1遺構面においても、この溝を坪境と認識するのは早計で、畦畔（R-畦-6、7）と溝（R-SD-1）の1組を成す遺構群が他の東西方向の地割を示すものとは趣を異にしており、坪を画する可能性も考えられ、いずれが坪を画するものであるかの結論は、さらに広範囲の検出遺構の検討を待たねばならない。

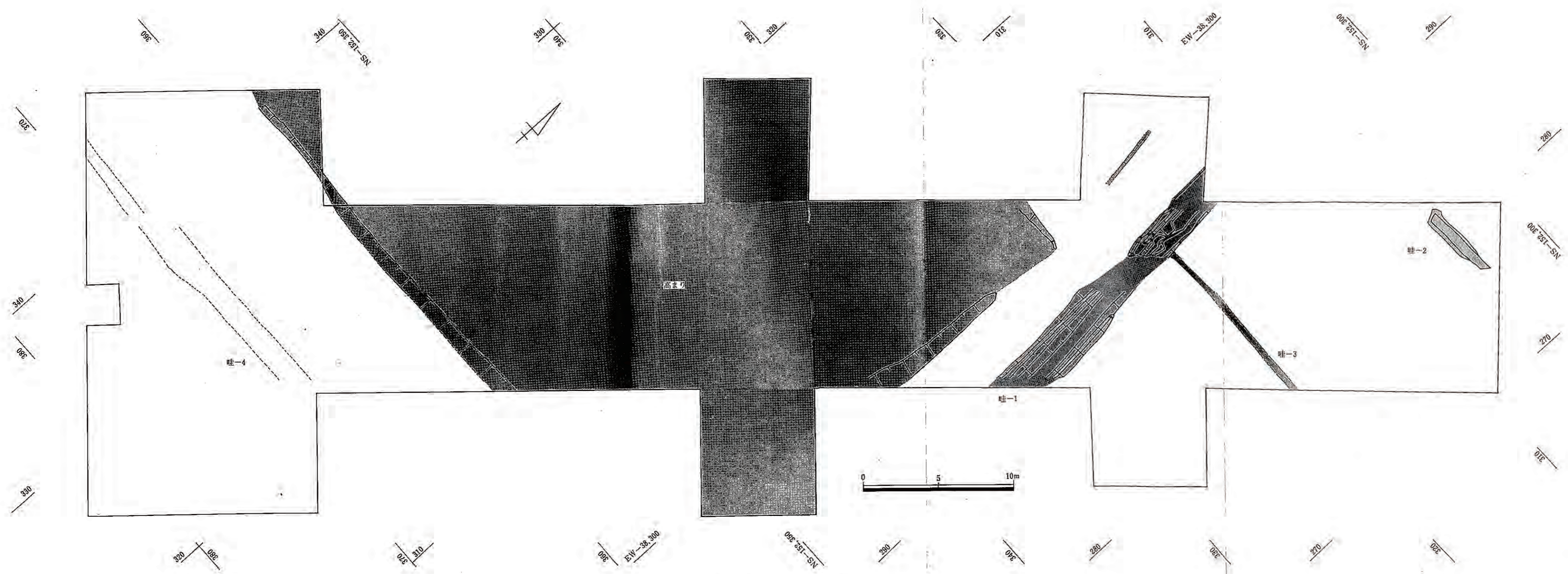
B. 歴史時代第2遺構面

基本層序Ⅱ層上位の黄灰褐色粘質土層の上面がそれにあたる。この遺構面では生産遺構である畑、及び水田を検出している。遺構の遺存状態は歴史時代第1遺構面に比べて攪乱の影響も少なく、比較的良好である。

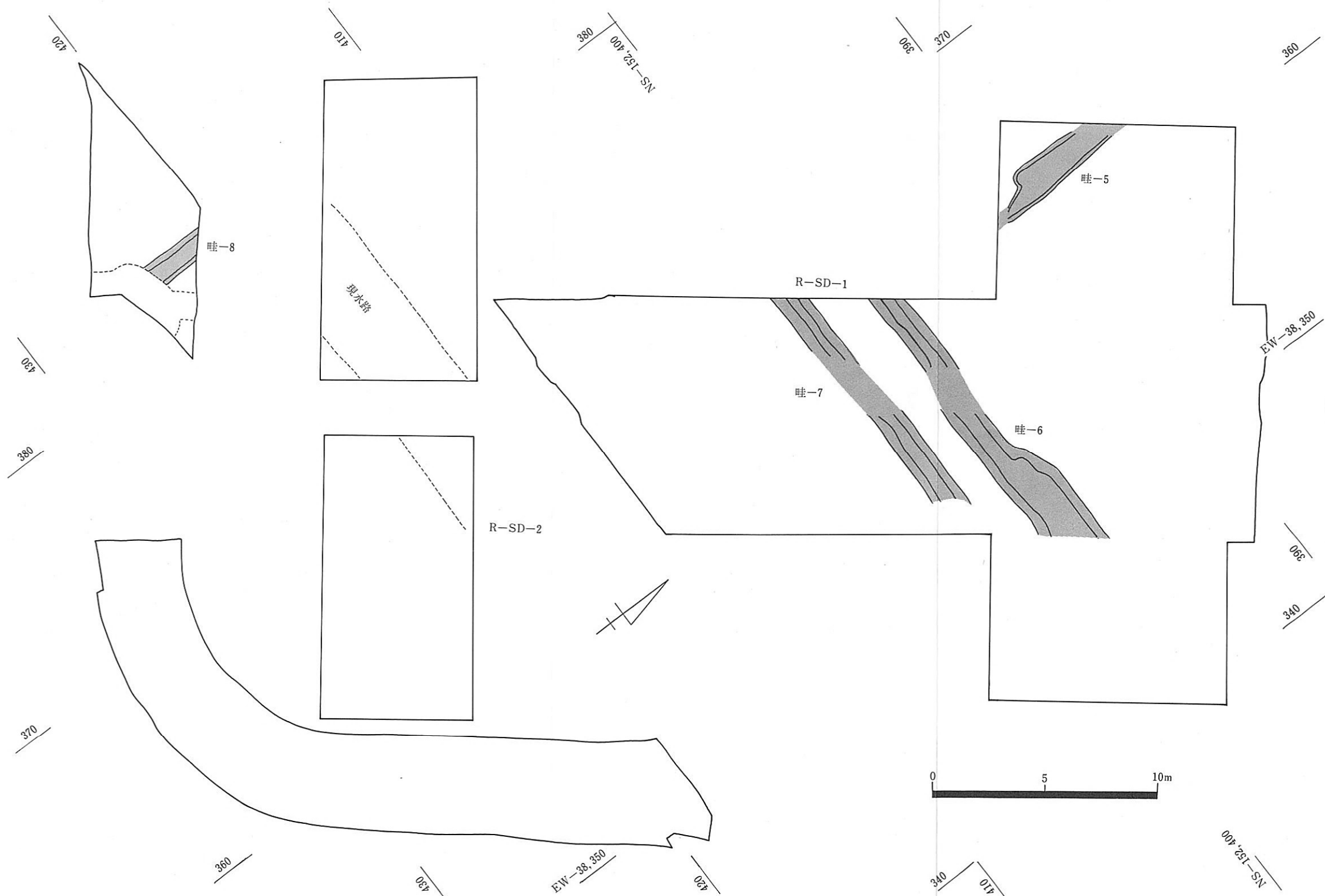
a. 遺構

畑、及び水田

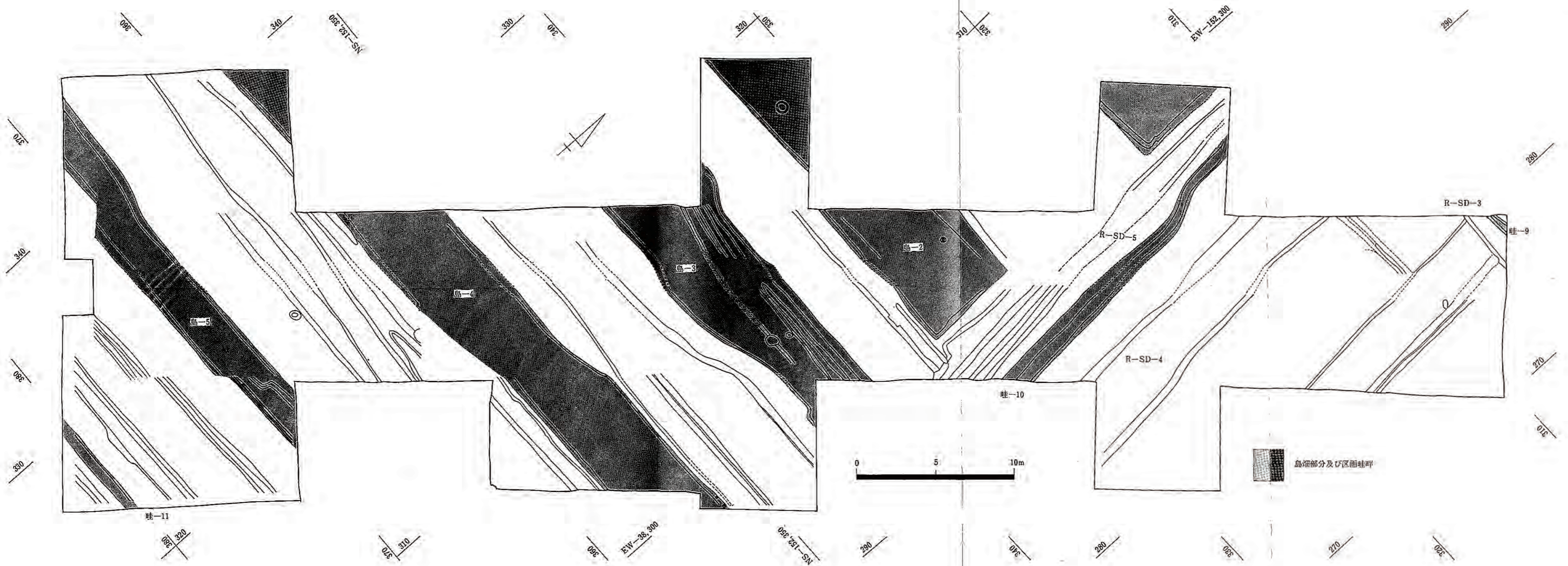
検出状況は第93、94図でも分かるように歴史時代第1遺構面と同様方形地割が施行されており、広義の条里地割として理解できる。南北方向の坪を画するような地割として、B調査区で検出した中型畦畔（R-畦-10）が指摘できる。これは歴史時代第1遺構面で検出した坪を画すると推定した大型畦畔（R-畦-1）の下層に位置する。2条の溝（R-SD-4、5）が並行しており、他の畦畔（R-畦-15～19）とは趣を異にしていることから坪を画する可能性があると考え



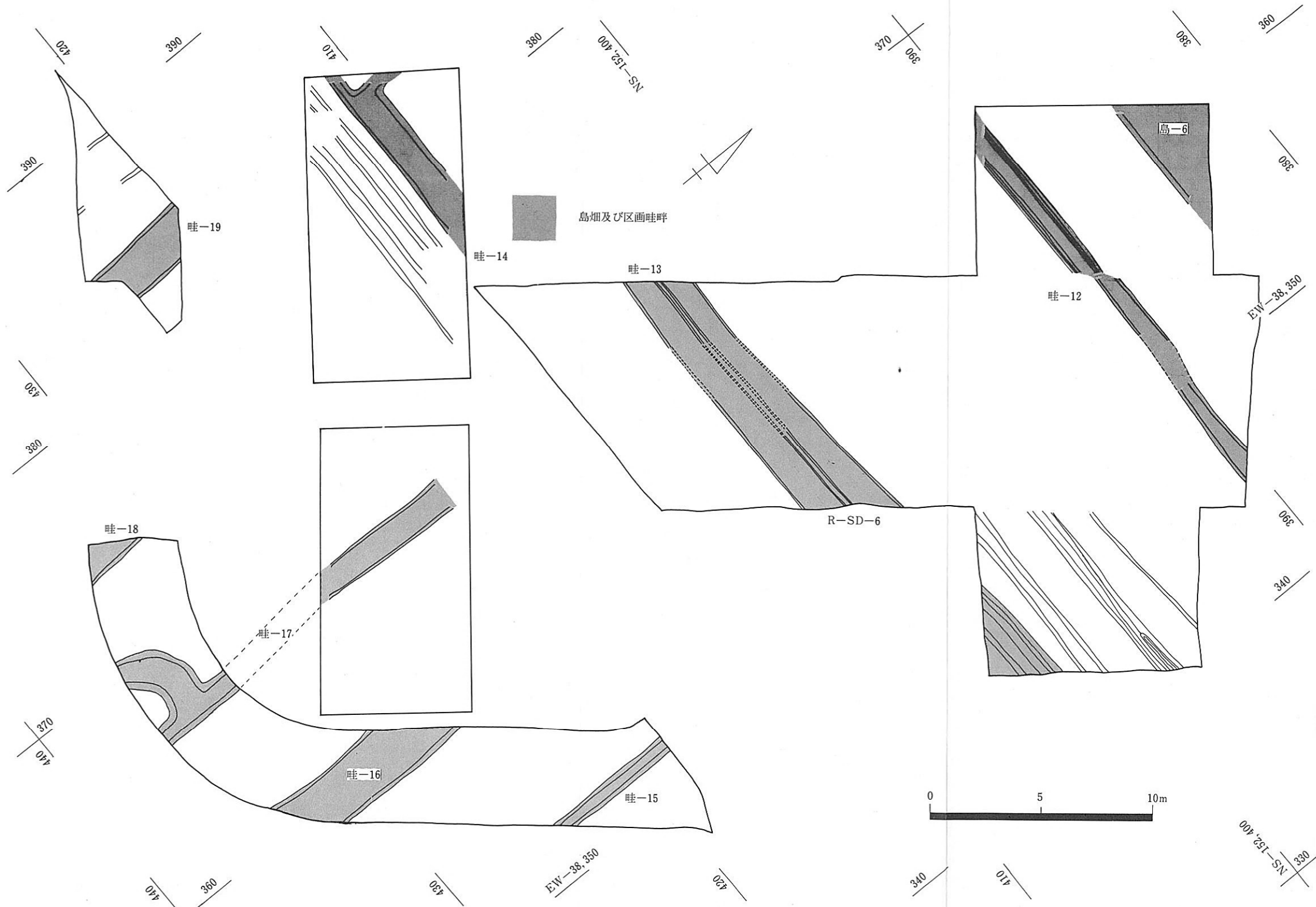
第91図 歴史時代第1遺構面(1)



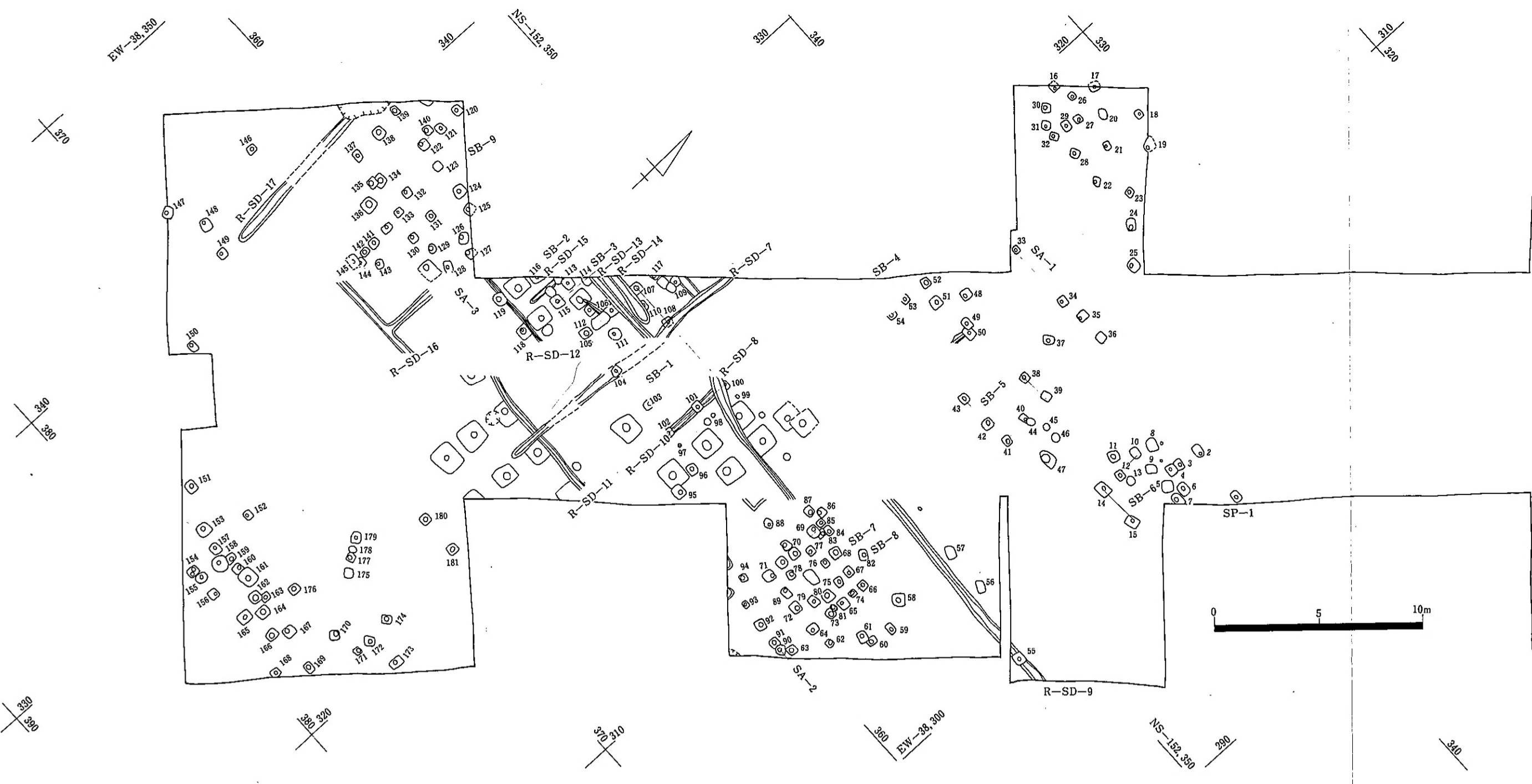
第92図 歴史時代第1遺構面(2)



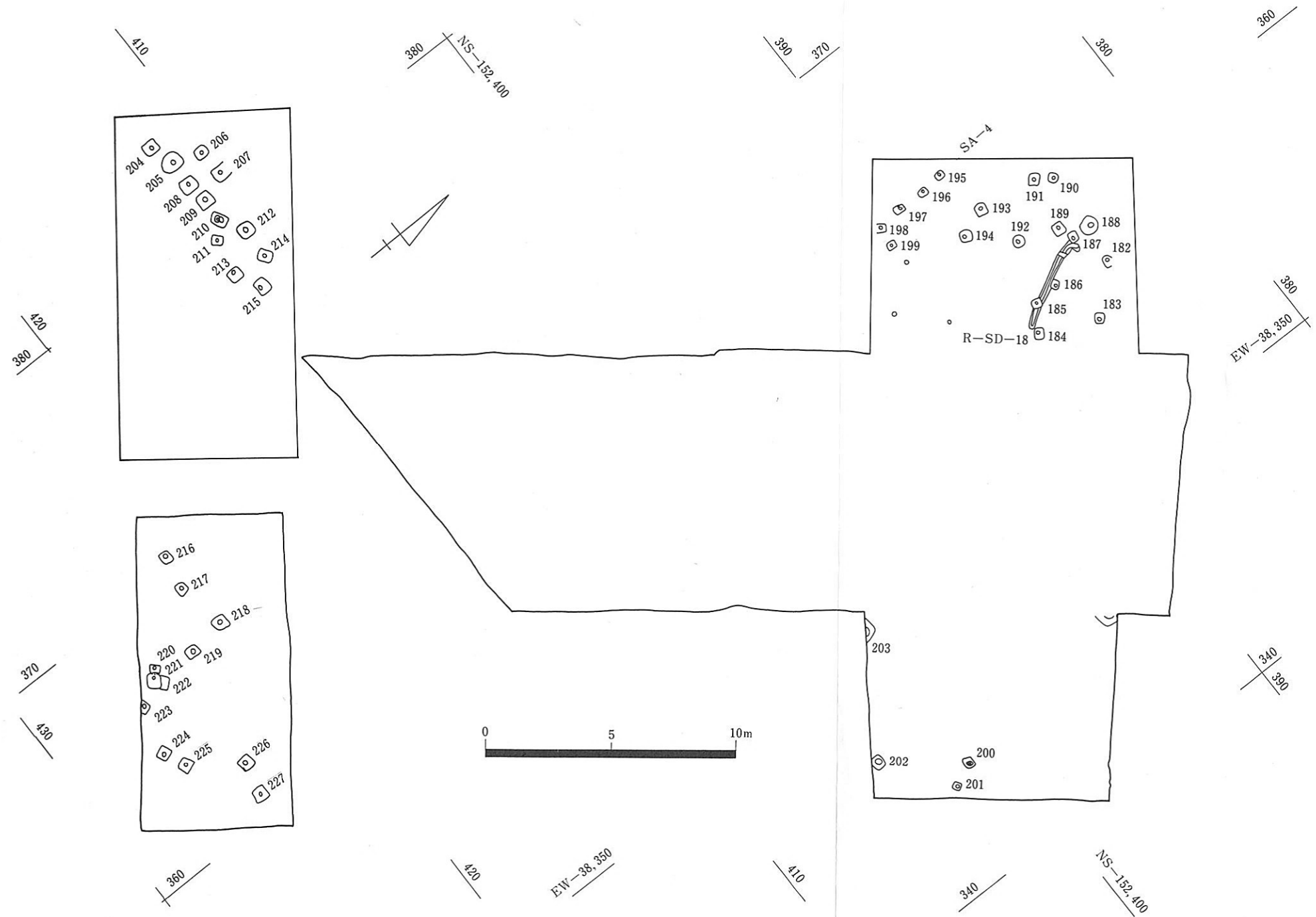
第93図 歴史時代第2遺構面(1)



第94図 歴史時代第2遺構面(2)



第95図 歴史時代第4遺構面(1)



第96図 歴史時代第4遺構面(2)

ている。次に東西方向の同様な地割としては、B調査区の北隅で検出した中型畦畔（R-畦-9）がある。歴史時代第1遺構面で検出した畦畔（R-畦-2）の下層に位置し、溝（R-SD-3）に並行しているなど、南北方向の坪境と推定した畦畔と溝の組み合わせが酷似している。この畦畔から南へ112mの距離にR-SD-1があり、この溝は河川改修の際に土層が古墳時代の層まで掘削されていた。

ここに坪を画するような遺構が存在したかどうかは分からないが、近接する大型畦畔（R-畦-13）は中央に溝が走り、他の畦畔と趣を異にしており、これも坪を画する可能性が考えられる。ただ、R-畦-9とR-畦-13との距離は1町に充たず、いずれが坪境を示すものか、結論を出すには今回の調査面積では不十分で、さらに広範囲の検出遺構の検討を待たねばならない。

坪区画の中をさらに段単位に細分する畦畔と考えられるのは、B調査区の中小型畦畔（R-畦-11、12）、大型畦畔遺構（R-島-1～6）やC調査区の中畦畔（R-畦15～19）がある。検出状況から各畦の位置、畦間の距離などから推定すると坪区画の中の地割は長地型が予想されるが、結論はさらに広範囲の検出遺構の検討を待たねばならない。

この遺構面はB調査区で検出したR-島-4を境として北側と南側では様相を異にしている。北側3/4の範囲で検出した大型畦畔状遺構は島畑と呼ばれる独特の形状を持つ畑と非常に酷似した遺構である。南側で検出されるそれは幅が狭く高さも低くなっており、畑よりむしろ水田に重きを置く経営状態が復元できる。

第91図より、大型畦畔状遺構間の窪地部分の土層堆積は3層に分層され、最低2～3回の削平を受けており、畑部分を徐々に削り、そこを水田として利用していたと考えられる。

C. 歴史時代第3遺構面

基本層序II層下位の黄褐色粘質土層上面が、それにあたる。この堆積層は、Bトレンチ付近でのみ遺存しており、他は第2遺構面で検出された島畑により大半が削平されている。検出される遺構は、東西、及び南北方向に延びる小溝群で、畑の様相を呈しているが、その遺存状態は非常に断片的で、かろうじて一つの面として考えられる程度のものである。

D. 歴史時代第4遺構面

基本層序III層上位の黄褐色粘質土の上面がそれにあたる。この遺構面では遺構の存在は島（縞）畑の畝部分に限られ、窪地部分では削平の影響で遺構はほとんど残存しない。畝部分での遺構の遺存状況は、あまり良いとはいえないが、それでも小溝や多数の柱穴を検出しており、かろうじて数棟の掘立柱建物と柵を推定復元できる状況である。

a. 遺構

検出状況は第95・96図でも分かる様に、B調査区南側半分からC調査区にかけて多数の柱跡と小溝を検出している。

(1) 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (R-S B-1)

B調査区の南で検出しており、R-S P-97~108より成る。2間東側に庇を有する2間×3間の東西棟建物で、柱間寸法は桁行が、R-S P-102と103間が1.7m、他は2.3mの等間隔、梁行が1.7mの等間隔で、庇までの距離は0.8mである。柱の掘り方は0.4~0.5m、柱穴の直径が0.2~0.3mである。庇部分は掘り方を残さず柱穴のみを検出している。

2号掘立柱建物 (R-S B-2)

R-S P-109~113より成る。R-S B-1の西側B調査区の隅で2間×2間を検出しているが、部分的な検出のため全体の間数・棟方向は不明である。柱間寸法は、東西が1.7m、南北が1.9mの等間隔で、柱の掘り方は0.5~0.6m、柱穴の直径は0.1~0.2mである。

3号掘立柱建物 (R-S B-3)

R-S P-114~116より成る。R-S B-2と同様B調査区隅で1間×1間を検出するのみで、全体の間数・棟方向などは不明である。柱間寸法は東西が1.5m、南北が1.75m、柱の掘り方は0.8mで、柱穴の直径は0.2mである。

4号掘立柱建物 (R-S B-4)

R-S P-52~54より成る。南北方向に3個の柱穴を検出しているだけである。柱間寸法は1~1.3m、柱の掘り方は0.4mで、柱穴の直径は0.1~0.2mである。

5号掘立柱建物 (R-S B-5)

R-S P-38~43より成る。R-S B-4の東側で、2間×2間を検出している。柱間寸法は東西が1.3m~1.6m、南北が1.4m、柱の掘り方は0.4~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

6号掘立柱建物 (R-S B-6)

R-S P-10、14、15より成る。R-S B-5の東側で1間×1間を検出している。柱間寸法は東西が2.1m、南北が1~1.2m、柱の掘り方はR-S P-14と15が0.5×0.7m他は0.4×0.5m、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

7号掘立柱建物 (R-S B-7)

R-S P-73~79より成る。R-S B-5の南側とB-4拡張区で検出しており、1間×3間の東西棟建物であると推定される。柱間寸法は桁行が0.8~1m、梁行が西側は1.5m、柱の掘り方は0.3~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

8号掘立柱建物 (R-S B-8)

R-S B-7の周囲を取り巻く状態で検出しており、R-S P-64~72より成る。2間×3間の東西棟建物と推定される。柱間寸法は桁行が0.9~1.5m、梁行が西側は1.5mの等間隔、東側はR-S P-64と65の間が1.9m、R-S P-65と66の間が1.4mである。柱の掘り方は0.5~0.6mで、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

(2) 柵跡

1号柵 (R-S A-1)

R-S P-33~36より成る。R-S B-4・5の北側、東西方向の柵で長さ約6mを検出している。全体の間数は不明であるが、更に西へ伸びる可能性がある。柱間寸法は1.4~3.3m、柱の掘り方はR-S P-33が0.35m他は0.5mで、柱穴の直径は0.1~0.15mである。

2号柵 (R-S A-2)

R-S P-90~93より成る。東西方向の柵で、検出長は約3mである。調査区隅での検出のため全体の間数は不明である。柱間寸法は1.2mで、R-S P-90が91を切り込んでいる。柱の掘り方は0.35~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.35mである。

3号柵 (R-S A-3)

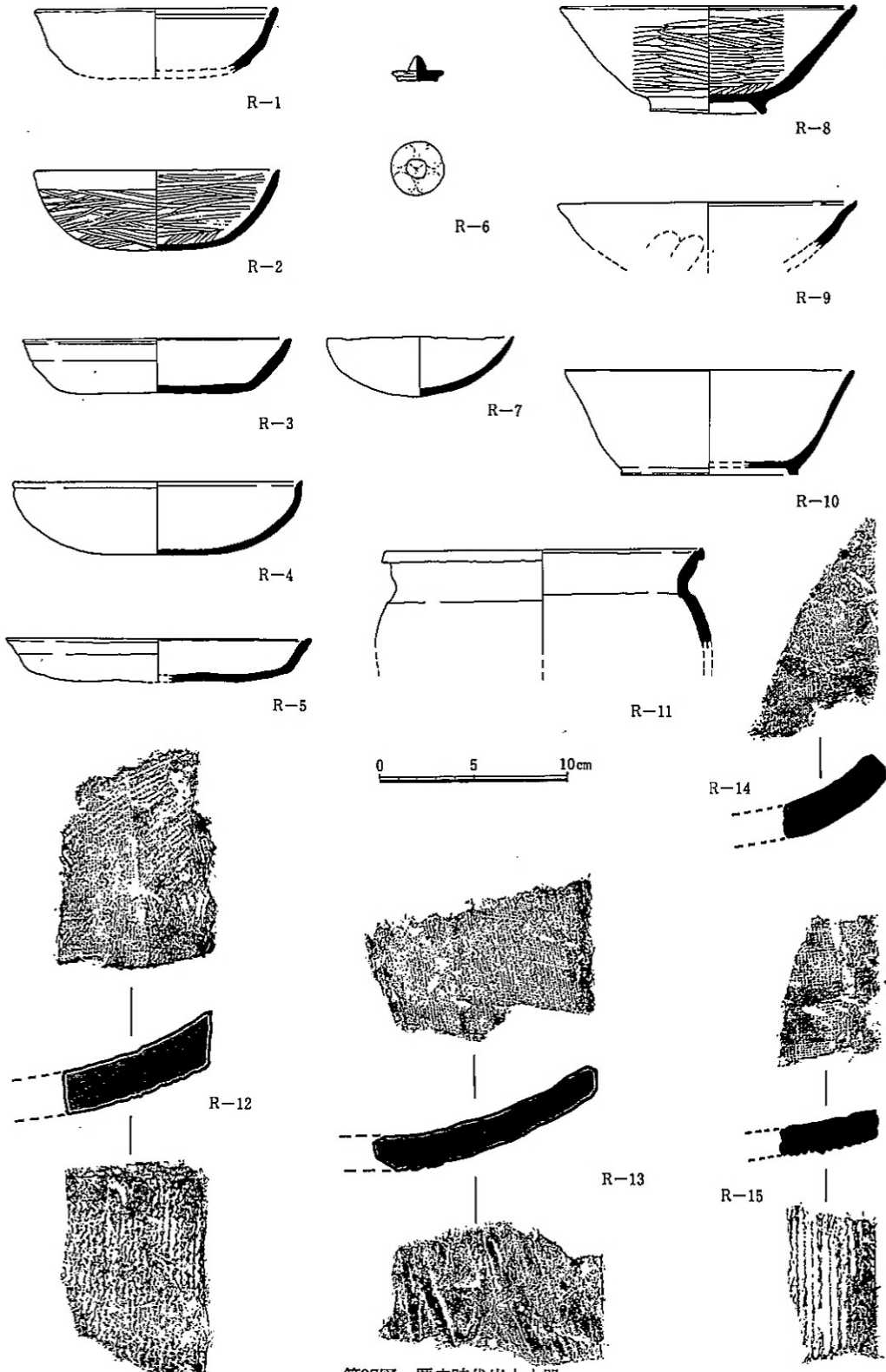
R-S P-128・129・130・133・135より成る。東西方向の柵で、検出長は約5.5mである。柱間寸法はR-S P-133と135の間が1.9m、他は1.1m~1.4mである。柱の掘り方は0.35~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.25mである。

4号柵 (R-S A-4)

C-1 拡張区の西隅で検出しており、R-S P-195~198より成る。南北方向の柵で、検出長は約3.3mである。柱間寸法は0.9~1.1m、柱の掘り方は0.35mで、柱穴の直径は0.1mである。

b. 小結

建物群の分布は、B調査区中央付近より南にその範囲が推定でき、北側へ拡がることは遺物の出土状況から考えても、あまりないものと推定される。むしろこの地域では水田や或いは荒地等、他の土地状況が考えられる。建物群は、B・C調査区の更に南へ分布を拡げるものと考えられ、その範囲の南限は、久宝寺南遺跡その2の調査区に求めることができるであろう。遺構内からは、土師器・須恵器などが出土しており、これらの出土遺物からB・C調査区においては、その時期を平安時代全般と考えている。



第97図 歴史時代出土土器

表6 歴史時代遺物観察表

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
R-1	土師器杯	B区 R-S D-8	口径 13.0 器高 3.4	平底で、体部は内弯しながら外上方に伸び、口縁部は丸みを持って終わる。	外面は板状工具による回転ヨコナデ。底部にかけては指押さえて成形後、ナデを施す。内面は口縁部底部とも回転のヨコナデ。	・胎土 白色砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 淡黄色	破片
R-2	黒色土器杯	B区 R-S D-8	口径 13.1 器高 4.3	平らな底部をもち、体部は口縁にかけて内弯しながら立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。	外面はヘラケズリを全体に施した後、ヨコ方向のヘラミガキを丁寧に施す。口縁端部はナデを施す。	・胎土 白色砂粒を少量含む。 ・外面 茶褐色 ・内面 黒色	破片
R-3	土師器杯	B-4'区 R-S P-34	口径 14.4 器高 3.0	平底で、体部は内弯しながら立ち上がり、口縁端部は丸みを持つ。	内外面とも口縁部は、ヨコナデを施し、底部は指押さえを施す。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 褐色	口縁端部と外面に篋描き沈線(4条)
R-4	土師器杯	B区 R-S D-8	口径 15.6 器高 3.9	平底で、体部は丸みを持ちながら内弯し、口縁端部は丸く終わる。	内外面とも指押さえの後ナデを施す。	・胎土 白色砂粒及び白色小石を少量含む ・外面 灰黄色 ・内面 淡黄色	口縁端部内面に篋描き沈線(1条)
R-5	土師器杯	B-2区	口径 16.4 器高 2.4	平底で、体部は口縁に向け直線的に伸びる。口縁端部は、やや外反し丸く終わる。	底部は、内外面とも指オサエの後、ナデを施す。口縁端部は、ナデを施す。	・胎土 密 ・外面 淡黄褐色 ・内面 黄灰色	口縁端部内面と外面に篋描き沈線
R-6	土師黄二彩蓋	C区 IV-b層	口径 2.8 器高 1.3	平らな外面の上に断面が三角形に近い空珠がある。底部は外面より径が小さくなっている。	外面に指頭圧痕が残る。	・胎土 密 ・外面 黄色 ・内面 黄緑色	二彩陶器で緑釉と黄釉が2ヶ所づつ交互にある。
R-7	土師器皿	B-4区	口径 10.0 器高 3.2	丸底で体部は扁平で丸く、口縁は、丸く自然に終わっている。	内外面とも指押さえによって成形する。	・胎土 密 ・外面 にぶい褐色 ・内面 にぶい褐色	
R-8	黒色土器碗	B区	口径 16.0 底部径 6.2 器高 5.7	平らな底部から上外方に伸びる体部。口縁部は立ち気味で、丸みを持って終わる。底部に断面台形の高台を持つ。	外面は、全体にヘラミガキを施す。内面はヘラミガキのあとナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰色 ・内面 黒色	外面の磨きは4単位
R-9	土師器杯	B-4'区 R-S P-29	口径 16.0 残存高 2.4	口縁部は、体部から一度内弯し端部に近づく外反し、口縁端部は丸く終わる。	体部は指オサエを施し、端部内面は、篋描き沈線文(1条)を施す。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 にぶい褐色	
R-10	須恵器杯	B区 R-S P-5	口径 15.6 底部径 9.6 器高 5.7	体部は一度内弯し口縁に近づくにつれてゆるやかに外反する。端部は丸く終わり、底部は板状工具により面が出されている。	内面と口縁外面は、ナデを施し、底部外面は、ヘラケズリの後、ナデを施す。	・胎土 密 ・外面 白色砂粒少量含む。 ・内面 灰白色	
R-11	土師器甕	B-4'区	口径 17.4 残存高 5.3	「く」の字形に外反する口縁部を持ち、口縁端部は口縁部よりさらに外反し面を持つ。	口縁端部に篋描きの沈線(1条)を施す。刺離が著しく調整は不明。	・胎土 微小の砂粒多量に含む。 ・外面 にぶい赤褐色 ・内面 浅黄褐色	
R-12	瓦	B区	厚さ 2.5		上面は布目を施し、後短いハケを施す。下面は全面に斜めのタタキを施す。	・胎土 密 ・外面 浅黄色 ・内面 褐色	
R-13	瓦	B区	厚さ 1.8	端部は一段斜め後、垂直に2段になっている。	上面は全体に布目を施し、下面は太いたたきを施す。	・胎土 密 ・外面 黄褐色 ・内面 灰黄色	
R-14	瓦	B-4'区	厚さ 1.8	角を面取りした形になっている。	上面は全体に布目を施す。	・胎土 密 ・上面 白色砂粒を多量に含む。 ・下面 灰白色 ・内面 灰黄色	
R-15	瓦	C-3区	厚さ 1.4	端部は、垂直に面を持つ。	上面は、布目を施す。下面は太いたたきを施す。	・胎土 密 ・上面 灰色 ・下面 灰色	

第Ⅳ章 A. D地区の調査

第1節 A地区の調査

1. A地区の層序

A地区は、総延長約147mあり、地表面は南端でT.P.+6.5m、北端でT.P.+7.0mを測り、比高差が約0.5mある。調査によって確認した遺構面は7枚であるが、地区全体に及ぶ遺構面は近・現代の第1遺構面と弥生時代中期後半の第4・5遺構面のみで、他の遺構面は密度も希薄で面的な広がりもさほど広くはない。

以下、基本層序の概略を上層から順に述べる。

第Ⅰ層・・・地区全域を被覆する山砂の盛土層である。中にはコンクリート塊、巨石、廃材を含む個所もある。

第Ⅱ層・・・灰黄2.5Y6/2粘土層で、昭和40年代まで存在していた田畑の旧耕土層である。

第Ⅲ層・・・近・現代まで存在していた、いわゆる掻き揚げ田のテラス状部分の盛土と溝状部分の埋土からなる。テラス状部分は灰オリーブ5Y4/2、オリーブ褐2.5Y4/4等の粘土が主な層をなし、溝状部分は灰5Y4/1、オリーブ灰10Y4/2の粘質土である。これらの層は部分的に幾度か削平を繰り返されている。この上面が第1遺構面である。

第Ⅳ層・・・褐灰10YR5/1粘質土が主な層である。調査区北部にある古墳時代前期～後期の遺物包含層で、この下面が第2遺構面である。中央部から南部にかけてはこの層がみられず、後世の削平を受けたと考えられる。

第Ⅴ層・・・褐灰10YR5/1、黄褐10YR4/2～4/4粘質土が主な層である。T.P.+5.9～6.3m付近に堆積した。層の厚さ0.4～0.6mを測り、地区中央を流れる河川—2を境に南北で様相が異なる。北半は粘質土がほぼ水平堆積しているが、中央から南側は河川—1と河川—2に挟まれているため、層の変化が著しい。この下面が第3遺構面で、水田の畦畔と足跡を検出した。

第Ⅵ層・・・浅黄5Y7/4粗砂、暗オリーブ灰2.5Y4/1シルト、オリーブ黒5Y3/1粘土、暗緑灰10G4/1シルトおよび砂の互層である。T.P.+5.4m～5.6m付近に堆積した厚さ0.8～1.0mの粘土・砂・シルト層等の層群で、時期不明の土器細片をわずかに検出した。

第Ⅶ層・・・緑灰5G5/1粘土、暗青灰5BG4/1シルト層である。T.P.+4.8m～5.0m付近に堆積した厚さ約0.2mの層である。

第Ⅷ層・・・灰7.5Y4/1粘土、暗オリーブ灰2.5GY4/1粘土、浅黄5Y7/3粗砂が主な層である。T.P.+4.6m付近に堆積し、厚さ0.2～0.6mで粘土層は薄く幾層にも細分される。遺物はT.P.+4.5m付近の灰7.5Y4/1粘土層より弥生時代中期後半の土器が数点出土している。この上面が第4遺構面で、水田の可能性が指摘できよう。

第Ⅸ層・・・緑黒10G2/1粗砂、オリーブ黒5GY2/1粘質土および粘土が主な層である。T.P.+3.6~4.4m付近に堆積した厚さ0.2~0.5mの層で、上面からは弥生時代中期の土器が数点出土している。この黒色系の層を除去すると遺構が検出でき（第5遺構面）、溝、小ピット、落込等がある。調査地区北半の70mは暗緑灰10G4/1、オリーブ黒7.5Y3/1のシルト~粘土に連続し、非常に湧水の多い層である。

第Ⅹ層・・・緑灰10GY6/1粘土、暗緑灰5G4/1粘土層である。T.P.+3.5~4.2m付近に堆積した厚さ0~0.4mほどの層である。

第Ⅺ~ⅩⅧ層・・・T.P.+3.8~1.5m付近までには、さらに多くの土層が分層できるが、概ね青灰色粘土と黒色粘土の互層からなる。黒色粘土は3~4層あり、黒色粘土3の下面から鹿の足跡を検出した。黒色粘土2・3の間から河川-3を検出した。

2. 縄文時代晩期—第6~8遺構面〔付図-2、図版94~96・112〕

A地区の南端、中央、北端部の3ヶ所で3本の自然河川と、4条の溝状落込を検出した。

第6遺構面 河川-1〔付図-2(4)、図版96下〕

A地区北端部を西から東へ流れる河川である。河川の幅は北岸部が調査区外へ伸びるため、不明であるが、深さ1.3mを測る。第5遺構面を最終切り込み面とし、最下部の灰褐色有機質粘土層以外は、大半が青灰色粗砂層である。粗砂層内からは非常に磨滅した縄文土器片だけが出土している。縄文時代晩期から弥生時代中期以前のある一時期に流れていた河川と考えられる。

なお、河床の粘土上面には、鹿、人間の足跡（図版96下）が入り乱れて印されていた。これらの足跡の多くは、河川と直交する南北方向を示しており、A-1トレンチでは河川と平行するものも見られた。

第7遺構面 河川-2〔付図-2(3)、第111図、図版94・96・112〕

A地区中央部を南から北へ流れる縄文時代晩期の河川で、最大幅約30m、深さ約4mを測る。埋土は砂が厚く堆積し、中央部が盛り上がり、両肩近くではシルトから粘土へ漸次変化していた。河川-2は、黒色粘土1・2上面からと、第Ⅺ層上面から切り込まれており、さらに土層断面から少なくとも4時期以上にわたって流れていたようである。

河川-2から出土した縄文土器は、バスケットに約1杯とわずかなものであるが、その所属時期は幅広く、前期から晩期のものまで含まれている。上流から流されてきたものと思われ、土器片の角も丸く磨滅している。弥生土器や石器等は出土していない。

第111図1・2・6・10は、前期北白川下層式のもので、2はL-R、R-Lの異原体による羽状縄文が施され、10は波状口縁をもつ深鉢でC字形3型爪形文を施している。9は中期末~後期の深鉢、5は晩期滋賀里Ⅱ式の浅鉢、3・4・7・8は滋賀里Ⅲ式の深鉢、11は長原式の深鉢である。他に、北白川上層式や宮滝式の土器片も出土している。

第8遺構面 河川-3〔付図-2(4)、第111図、図版95下〕

A地区南端のj-3区にあり、南から北へ流れる河川とそれに連なる落込の一部を含む。A地区では最も古い河川である。黒色粘土2と黒色粘土3の間層の青灰色粘土層から切り込み、幅約4m、深さ約0.4mを測る。埋土は、下層に濁青灰色粗砂、上層に青緑灰色粘土まじり粗砂が堆積していた。この河川は、A地区よりさらに南にある本流の一支流とみられる。

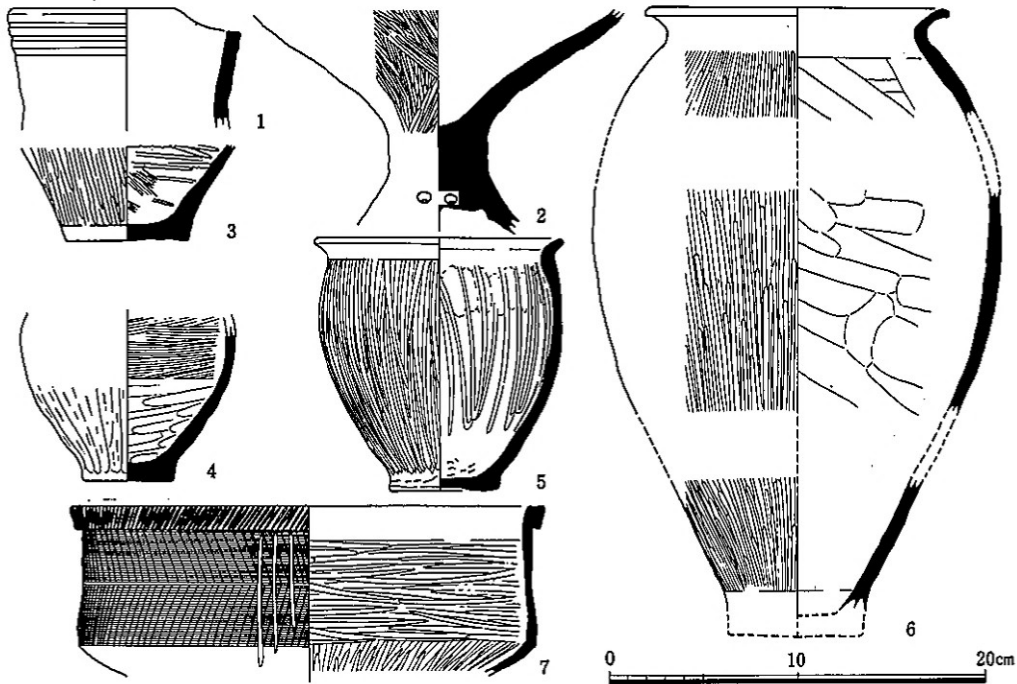
出土遺物は、第111図12、13で縄文時代晩期滋賀里Ⅲ式に比定されるものである。いずれも、土器表面の保存は良く磨滅はしていない。河川-1・2出土の磨滅した土器とは様相が異なる。

溝状落込〔付図-2(2)、図版97下〕

A地区南半、河川-2の南側で黒色粘土2の下面から4条検出した。南東から北西方向に伸び、幅0.3~0.6m、深さ0.1~0.2mを測り。埋土は上層と同一の黒色粘土が堆積していた。遺物は出土していない。

3. 弥生時代中期-第5遺構面〔付図-3(1)~(7)、第98図、図版97~100〕

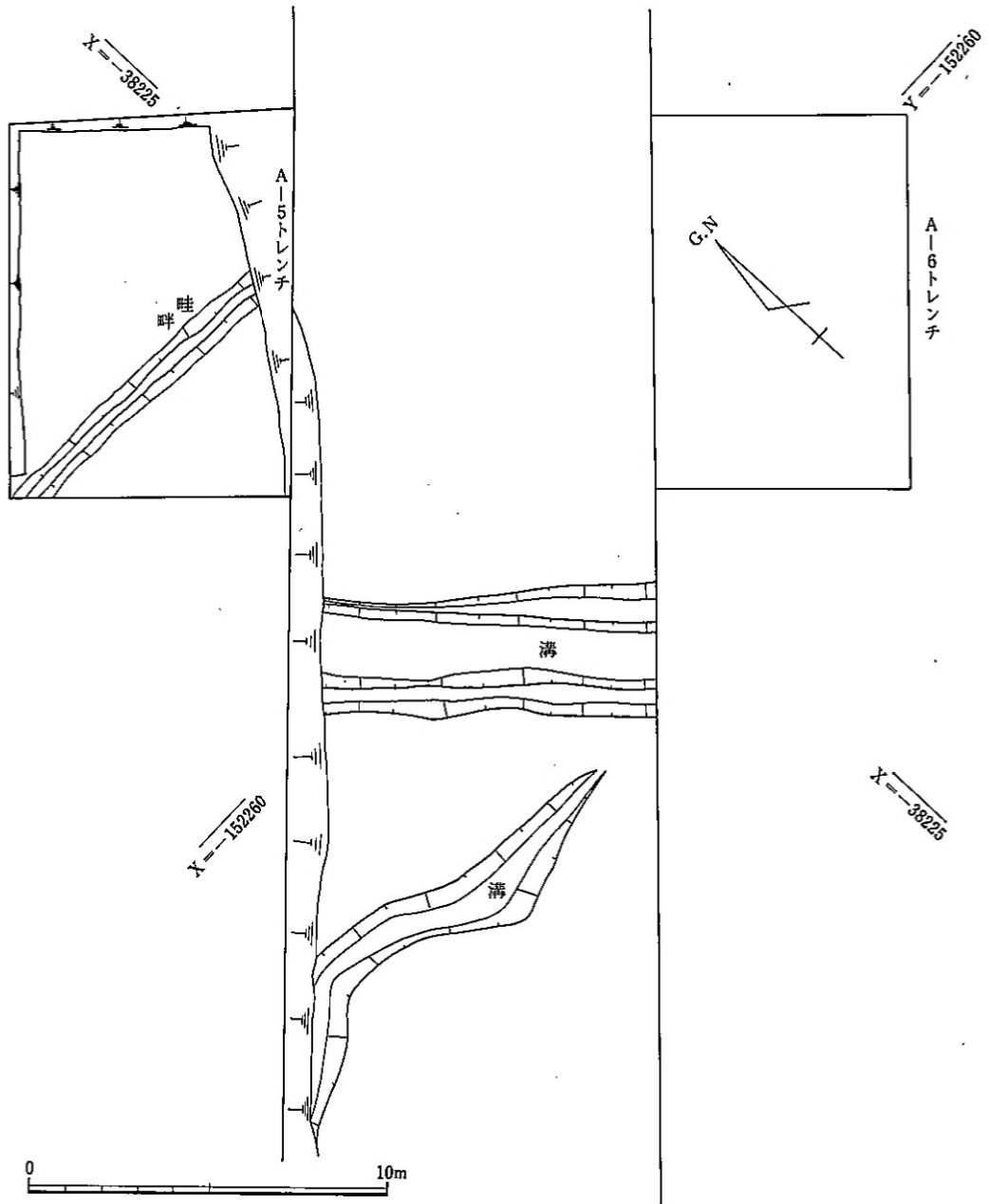
本遺構面は、黒色~暗灰色粘土および砂層の遺物包含層下、黄褐色砂~青灰色土層上面で検出された。小溝、ピット、小土塋等が主な遺構である。遺物は第98図2・6が包含層から出土した主要な土器で、出土量は極めて少ない。



第98図 第5・4遺構面出土土器実測図

溝 [付図-3 (1) ~ (4)・(6)・(7)、第98図]

溝はA地区全域で10数条を検出した。溝の規模は大小様々で、大半のものは幅約50cm、深さ約20cm前後で、長さも10m以下のものが多い。幅の広い溝はf、g-8、9区とi、j-4区の2ヶ所に集中し10条ほど検出されている。埋土は主に黒色土・暗灰色粘土層である。他に、溝-5 (図版98上)、10 (図版97上) ~14には一部黒色粘土がレンズ状に堆積していた。主な出土遺物は、溝-3から第98図7の鉢が、溝-4から第98図1の水差しが出土しているが、量的には極めて少な



第99図 第3遺構面畦畔・溝実測図

い。

南半では、ピットの多い所にも溝が多く認められるが、A地区北部に行くにつれ、遺構も希薄になる。

小ピット群〔付図-3(1)・(2)、図版100上〕

直径20~30cm、深さ5~20cmを測り、埋土は黒灰色粘質土や暗灰色粘土である。ピットの集中している地区は、e-8とj-6区の2ヶ所とその付近であるが、建物等には復元できなかった。また、他の地区からもピットを散発的に検出している。

ピットから遺物は出土していない。

その他、A地区で検出した遺構は、h-6区を中心に、一辺60~100cm、深さ5~10cmの浅い不定形な土壌(図版100下)を10数基検出している。埋土は、黒灰色粘土である。遺物は出土していない。

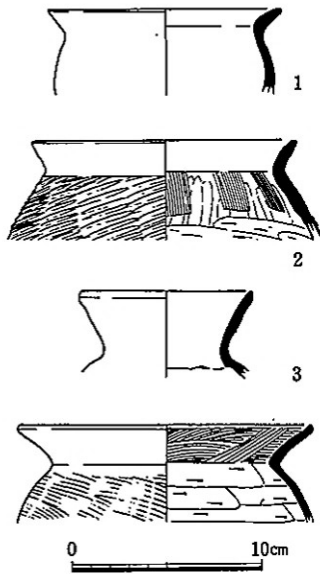
4. 弥生時代中期-第4遺構面〔付図-4、第98図、図版99・101・102〕

本遺構面は、T.P.+3.6m~4.5mと起伏に富む灰色系の軟弱な粘質土上面に認められた。主な遺構は、溝9条、畦畔4条で、畦畔-3を除いては南半部に集中している。

畦畔-1~4〔付図-4(1)~(3)、図版102〕

畦畔-1(図版102下)は、A-6トレンチで検出し、幅約1m、高さ20~30cm、検出長4mを測り、南北方向に伸びる。畦畔-2(図版102上)は、A-5トレンチで検出し、幅1.3m、高さ25cm、検出長4.5mを測り、畦畔-1と平行する。畦畔-3は、Aトレンチ北端部、およびA-2トレンチで検出し、幅1~1.3m、高さ30cm、検出長5mを測り、北西-南東方向に伸びる。畦畔-4は、Aトレンチg.h-6.7区で検出し、幅約2m、高さ20cm、検出長9.5mを測り、畦畔-3と平行する。

以上の畦畔からは、遺物はほとんど出土せず、A-2トレンチの水田の耕土と思われる暗青灰色粘土からは、甕(第98図4・5)が出土している。

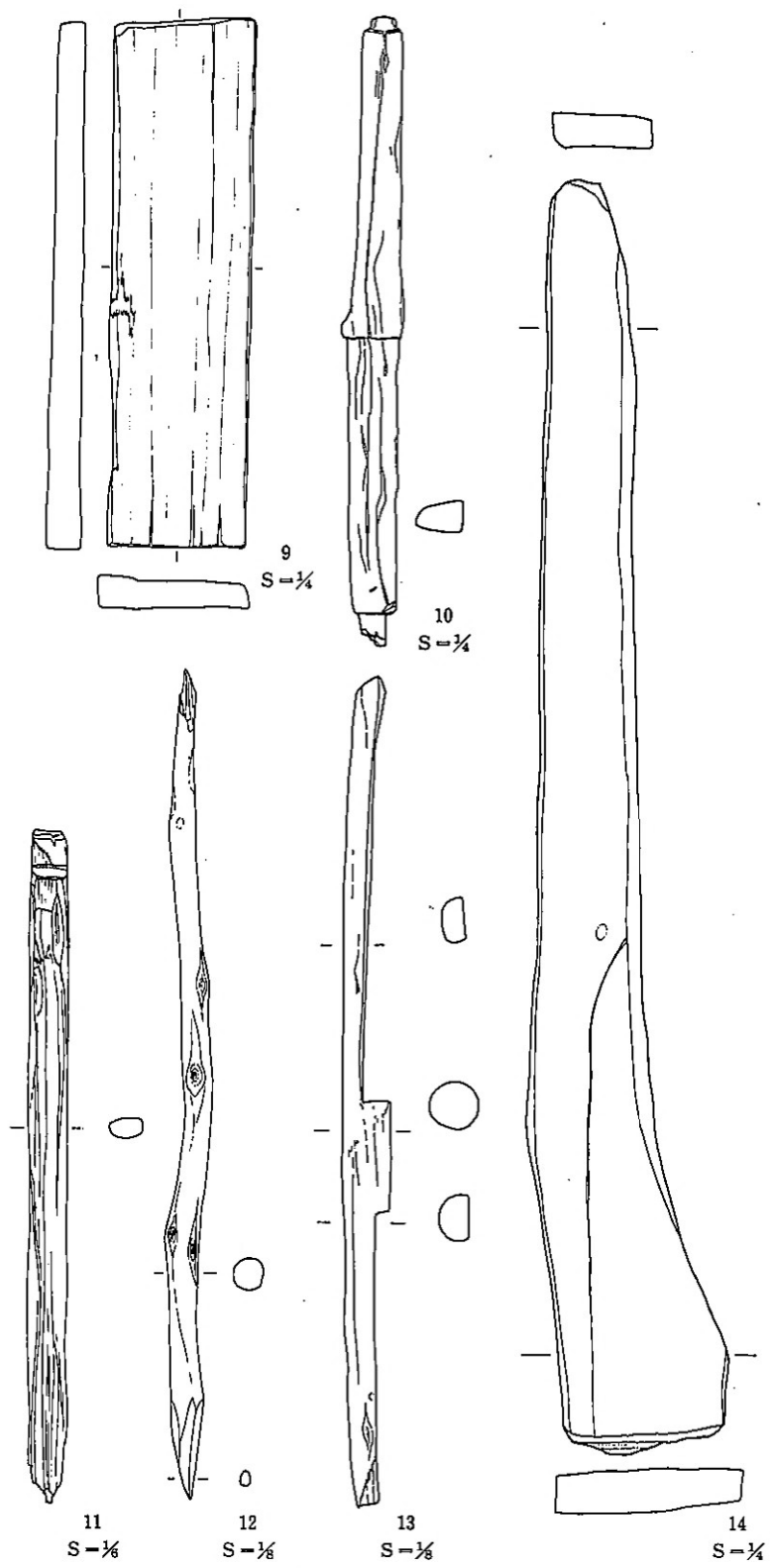


第100図 第3・2遺構面
出土土器実測図

溝-1〔付図-4(2)・(5)〕

Aトレンチ南端およびA-10トレンチで検出し、幅30~80cm、深さ20cm、検出長16mで、北北西-南南東へゆるやかに弧を描いている。埋土は、暗灰色粘土である。遺物は出土していない。

溝-2〔付図-4(2)、図版99下・101上〕



第101图 第3・2遺構面出土木器実測図

Aトレンチg-6区およびA-7トレンチで検出し、幅30~50cm、深さ約15cm、長さ18mを測り、北西-南東に伸びる。遺物は出土していない。

溝-3〔付図-4(2)・(4)、図版99下・101上〕

Aトレンチg.h-6.7区およびA-7、A-8トレンチで検出し、畦畔-4に平行する。幅0.8~1.0m、深さ0.4~0.6m、検出長23.5mを測る。溝の西側には一部堤状の箇所があり、溝底は南東部分が高くなる。遺物は、第98図3の底部が出土し、他に体部破片がある。

溝-4〔付図-4(2)、図版99下・101上〕

Aトレンチg-6区で検出し、幅30~40cm、深さ15cm、長さ1.2mを測る。この溝は溝-3とh.i-6区の小さな窪地を連結する機能を有していたのかもしれない。

以上の溝の埋土は、主に暗灰色粘土である。

溝-5〔付図-4(2)、図版99下〕

A-7トレンチで検出し、幅1.3~1.5m、深さ30~50cm、検出長10mを測り、西北西-東南東に伸び、断面浅いU字形の溝である。埋土は暗灰色系の粘土である。遺物は出土していない。

溝-6〔付図-4(2)、図版99下〕

A-7トレンチで検出し、幅30~40cm、深さ30cm、長さ8mを測り、溝-5の北側にあり、埋土も同様の暗灰色系の粘土である。遺物は出土していない。

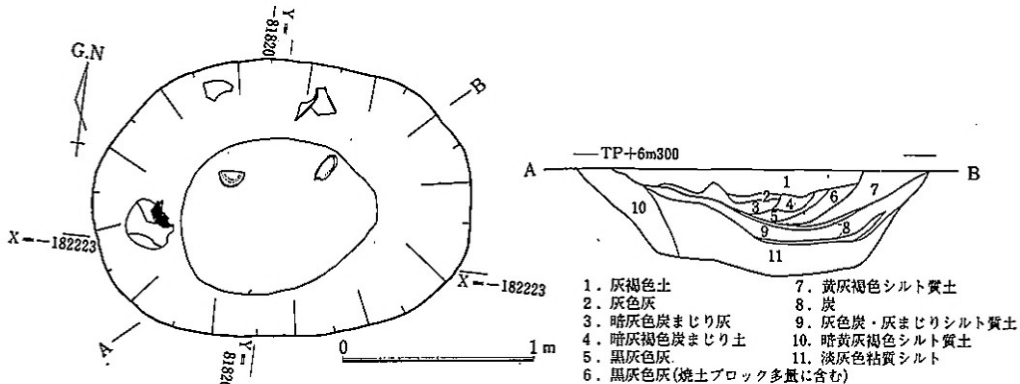
溝-7〔付図-4(2)〕

A-5トレンチで検出し、黒灰色粘土上面に掘り込まれている。幅約20cm、深さ10cm、長さ1.8mの断面U字形の東西方向に伸びる小溝である。他に小溝が2条認められた。

5. 古墳時代前期-第3遺構面〔付図-5(2)・(3)、第100・101図〕

A-3トレンチ部中央の粘土層上面(T.P.+5.5m)に残された人間の足跡とA-5トレンチで検出した幅1m、高さ4cm、検出長8mの南北方向の1条の畦畔およびAトレンチf.g-6.7区の溝2条がある。

出土遺物のうち、土器は第100図1・2が粘土層上面から、3が粘土層中から出土し、木器に



第102図 第2遺構面落込-3(炉跡-1)平面・土層断面図

は第101図9～11、13、14の柱等の建築部材が粘土層上面から出土している。

6. 古墳時代後期—第2遺構面〔付図—5(1)・(4)、図版103～110〕

A地区北端部と中央部の、T.P.+5.8～6.1mから検出した遺構は、主に近世～現代に削平を受けたため浅いものが多い。そのため遺構を検出できなかった地区は後世の削平を受け消滅したとも考えられる。検出した遺構は、溝数条、ピット数10基、炉跡1基等である。

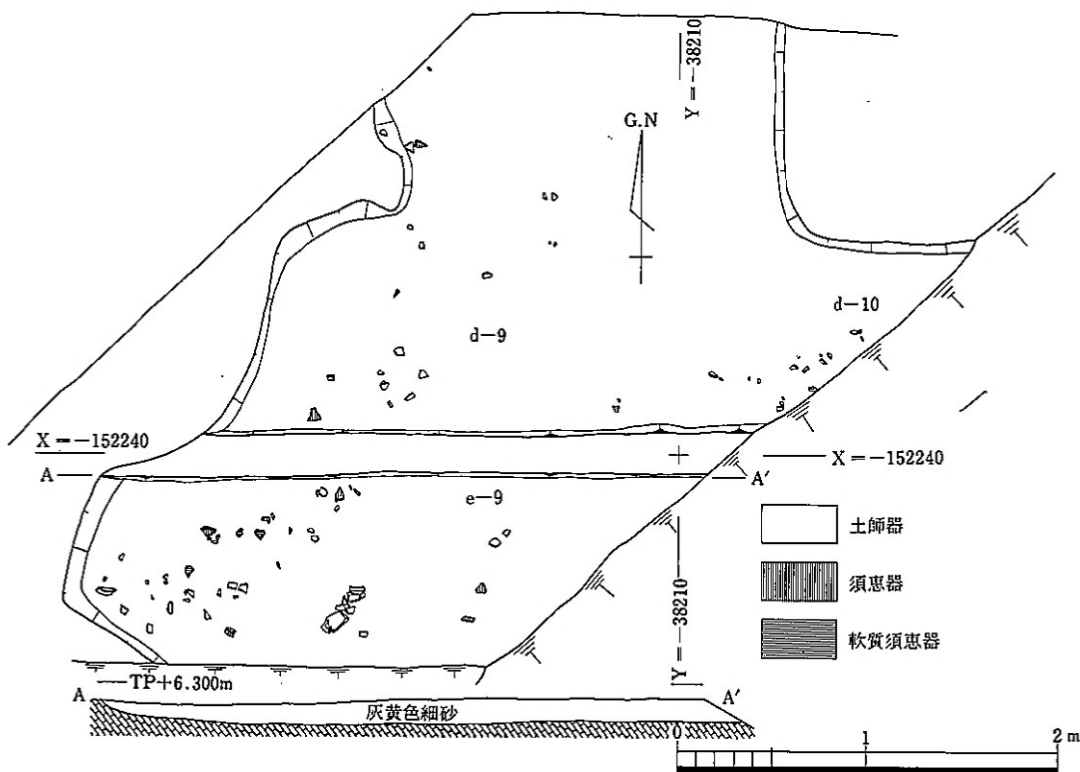
なお、第2遺構面～第3遺構面の間に河川—1、2、3が認められ、河川—2にはシガラミ、河川—1の埋土および埋没後の落込から多量の遺物が出土している。

溝—1〔第119図、図版106下・125〕

Aトレンチ部北端で検出し、幅1.0～1.5m、深さ約25cm、長さ15m以上のゆるく弧を描く東西溝で、東部の溝底が低くなる。断面は皿状で、埋土は灰色系の粘土や砂混じり土がレンズ状に堆積していた。出土遺物は、第119図1・5・8(図版125—1)の須恵器等がある。

溝—2

Aトレンチb.c-2.3区で検出し、幅1.3m、深さ20cm、検出長9mで、ゆるく弧を描き、北東—南東に伸びる。断面は逆台形で、埋土は褐色粘質シルト層である。



第103図 第2遺構面 落込—2 遺物出土状況平面・土層断面実測図

出土遺物には、須恵器の蓋杯がある。

落込-3 (炉跡-1) [付図-5 (4)、第102・119図、図版105下、124・125]

Aトレンチb-3区で検出し、長さ2.0m、幅1.5m、深さ60cmの落込である。炉跡はこの落込の中に設けられている。炉跡は、長さ1.3m、幅1.0m、深さ20cmのほぼ長方形の掘形に1段のステップをもうけ、下半部は断面U字形に深くなる。埋土は、灰色系土、砂質土と灰層、焼土ブロックで炭を多量に含んでいる。

出土遺物は、ステップから土師器高杯、甕片が、他から第119図2・7・12 (図版125-2・7) の須恵器、第119図13 (図版124-13) の土師器等が出土している。

なお、短辺の西側に1個の浅いピットがあるが、炉跡に伴うのかどうか不明である。

落込-2 [付図-5 (4)、第103・113・114図、図版107上・114・117]

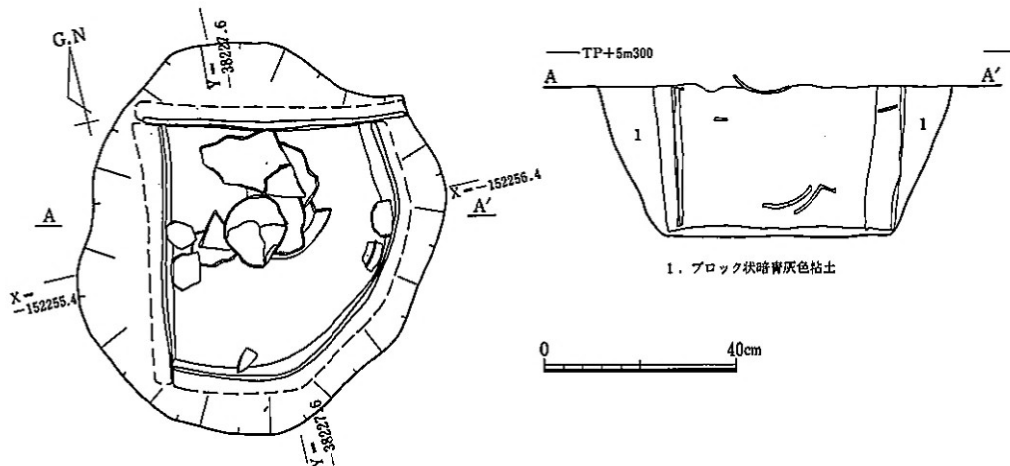
Aトレンチc.d-9区で検出し、東西3m、南北3mを測り、深さ10cm足らずの不定形の落込である。埋土は灰黄色細砂である。

出土遺物は、土師器甕、高杯、須恵器杯身等が出土している。落込内の遺物は細~小片が多く、完形品に復元しうるものはなかった。

なお、落込-2付近からA-5トレンチにかけて、第113図1・2・4・6・9・11~18・20・21 (図版114-1・2・4・6・16・17・20・21、図版117-9・11~15・18) の土器が出土しており、第113図4 (図版114-4) は瓦質の杯蓋で、第113図20・21は回転クワを使用した土師器である。

ピット群 [第119図、図版124・125]

直径数10cmのピットが数個~10数個集まった小ブロックが5ヶ所程散在している。埋土は主に灰褐色土~同色の砂質土で、出土遺物には土師器、須恵器片がある。ピット-6からは石製有孔



第104図 第2遺構面 井戸-1平面・断面実測図

円板も出土している。その他には、第119図3（図版125-3）・9（図版124-9）等の須恵器・土師器も出土しており、周辺からは第119図-14・15等の土師器も出土している。

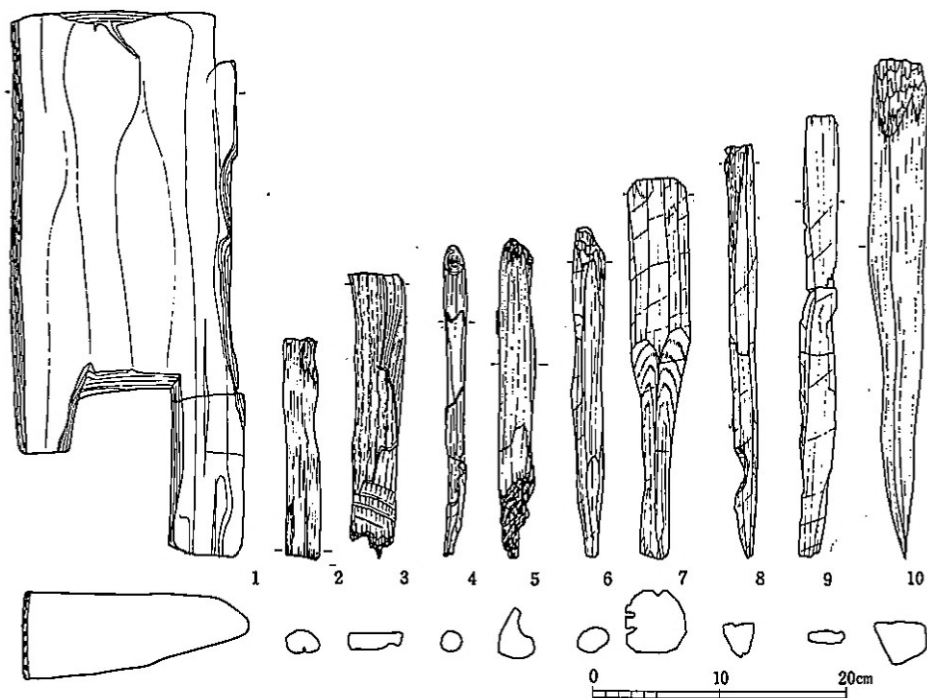
井戸-1〔第104・119図、図版105上・125〕

Aトレンチf-8区で検出した。一辺70cmの不定形の掘形内に、2枚の板材を直角に合わせて2側辺を作り、残る側は、くり抜いた丸木の割材を1/3程用いている。各部材の寸法は、板材が長さ45cm、厚さ数mm、高さ30cm足らず、割材は外側を大きく面取しているが、厚さ最大数mm、高さ4cm程しか残存していなかった。枠内からは、須恵器甕、土師器甕、小型甕（第119図10・11（図版125-11））等が出土した。掘形内の埋土はブロック状暗青灰色粘土層が一様に裏込めされ、枠内は濁黒褐色粘土層が堆積していた。

河川-1及び落込-1〔付図-5（1）、第101・105・106・114~118図、図版104・108下・109・110・115・116・120・121・127〕

A地区南端で検出し、B地区にまで拡がる幅の広い河川で、深さ約3mを測る。東西に伸びる河川の河床の中央部には数10cmの起伏が認められ、流れの激しかったことが窺われる。なお、A-10トレンチでは、下層の包含層の大半が1.2m程1段深く抉られ、流失していた。

埋土は、明黄褐10YR6/8粗砂、黄褐2.5Y5/6微砂、オリーブ褐2.5Y4/3細砂が主に堆積し、間

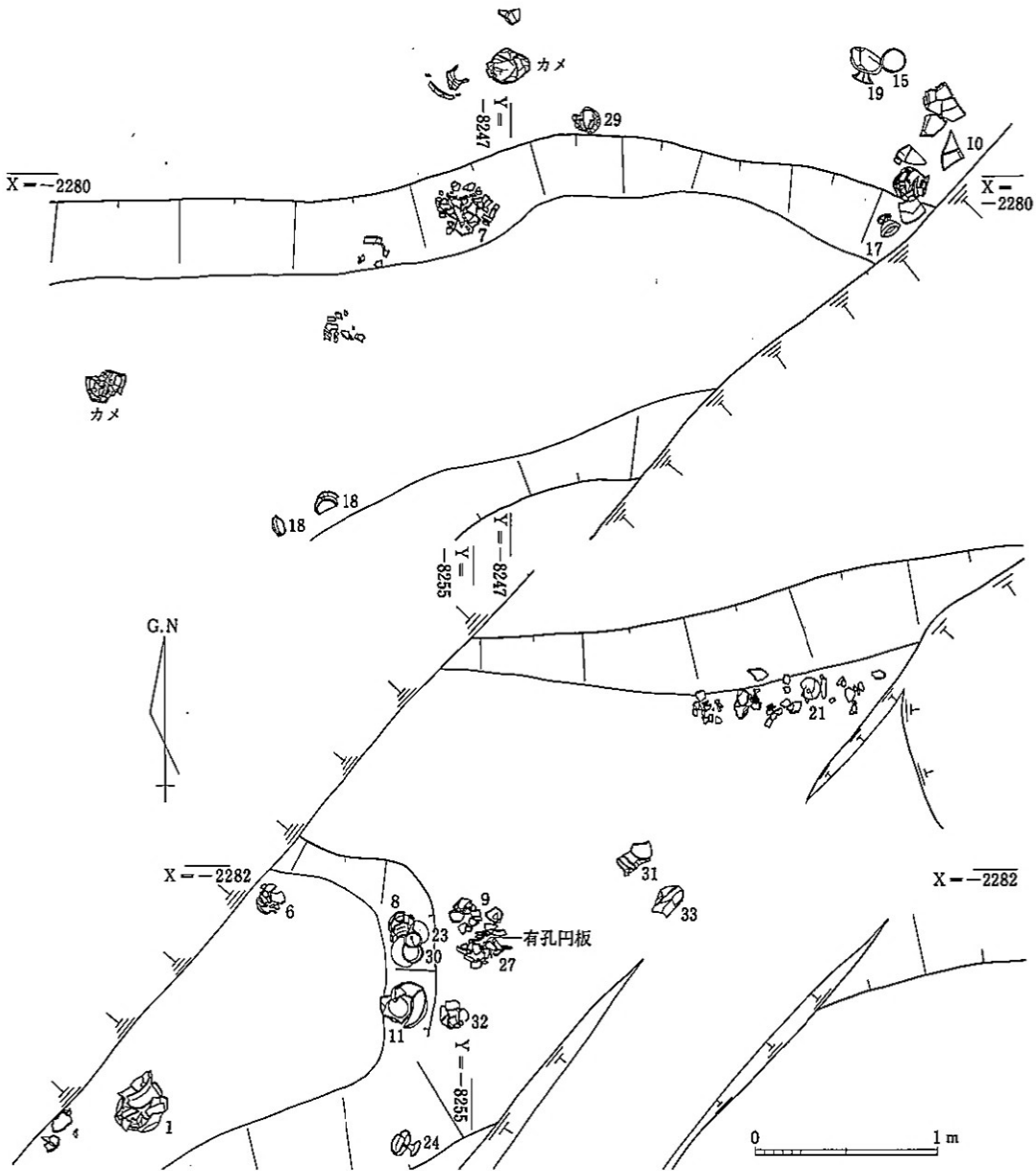


第105図 第2遺構面河川-1出土木器実測図

層に薄い粘土が数層挟まれていた。断面観察では、数層の堆積の違いが見られ、古墳時代前期～後期に流れていたものであろう。その初源は古墳時代前期にさかのぼる可能性もある。しかし、最終面は、河川-3よりも新しく、河川-2よりも後出のものである。

出土遺物には、第114図1（図版115-1）・2・3、第115図4～32（図版116-2・7、図版122-9・10・16～21・30）、第116図33・34（図版127-33）等の須恵器、土師器がある。

なお、河川-1の最終時の落込-1からは、完形に近い土器第116図1～5、第117図1～11、118図12～23、（図版119-1～4、7・8、図版120-10・21～24・28・29、図版121-12～18・



第106図 第2遺構面落込-1（河川-1埋没後）土器出土状況実測図

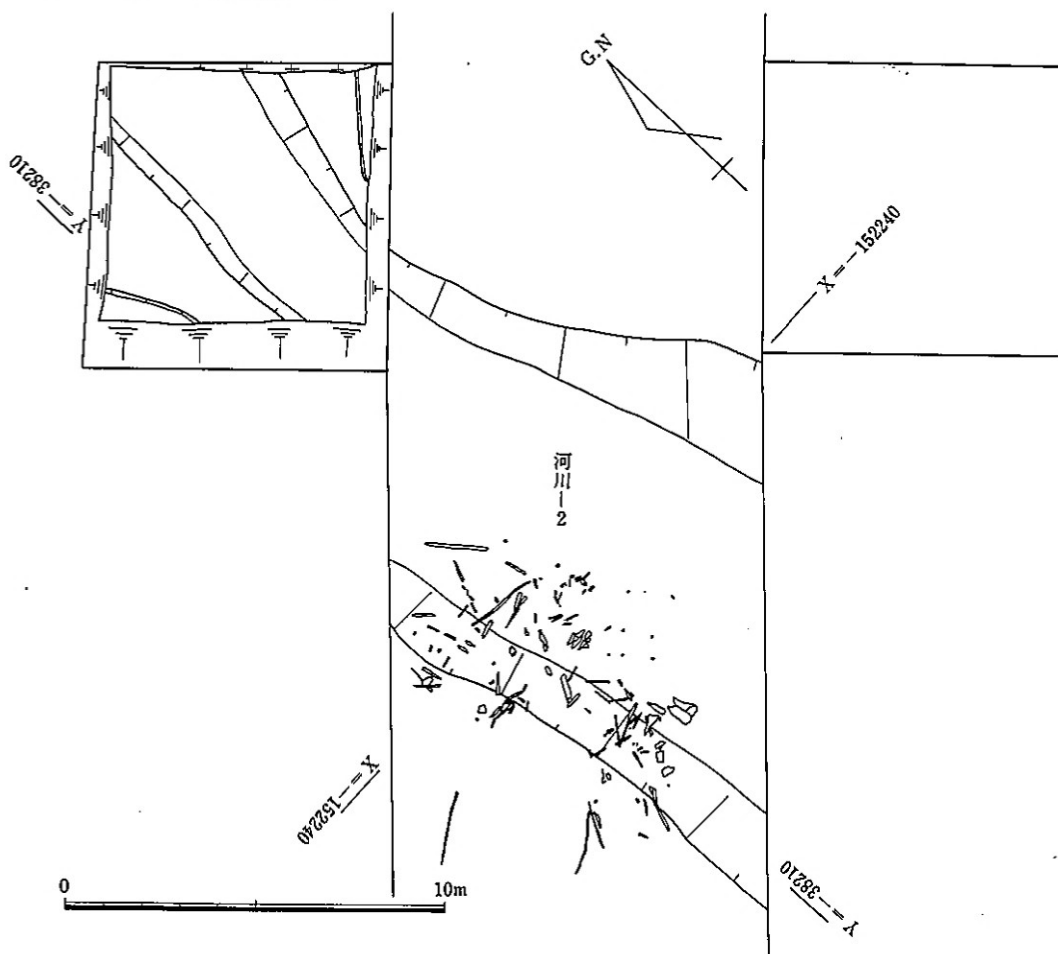
20・21))が出土し、なかには、赤色顔料を塗布したものもある。木器では、第101図-12の杭、第105図等の柱(1)、杭(2~10)が出土している。その他には、土製の有孔円板や土錘等も出土している。第116図-1のように平底のものもあり、注意をひく。

河川-2 [第107~110・112図、図版103・110・113]

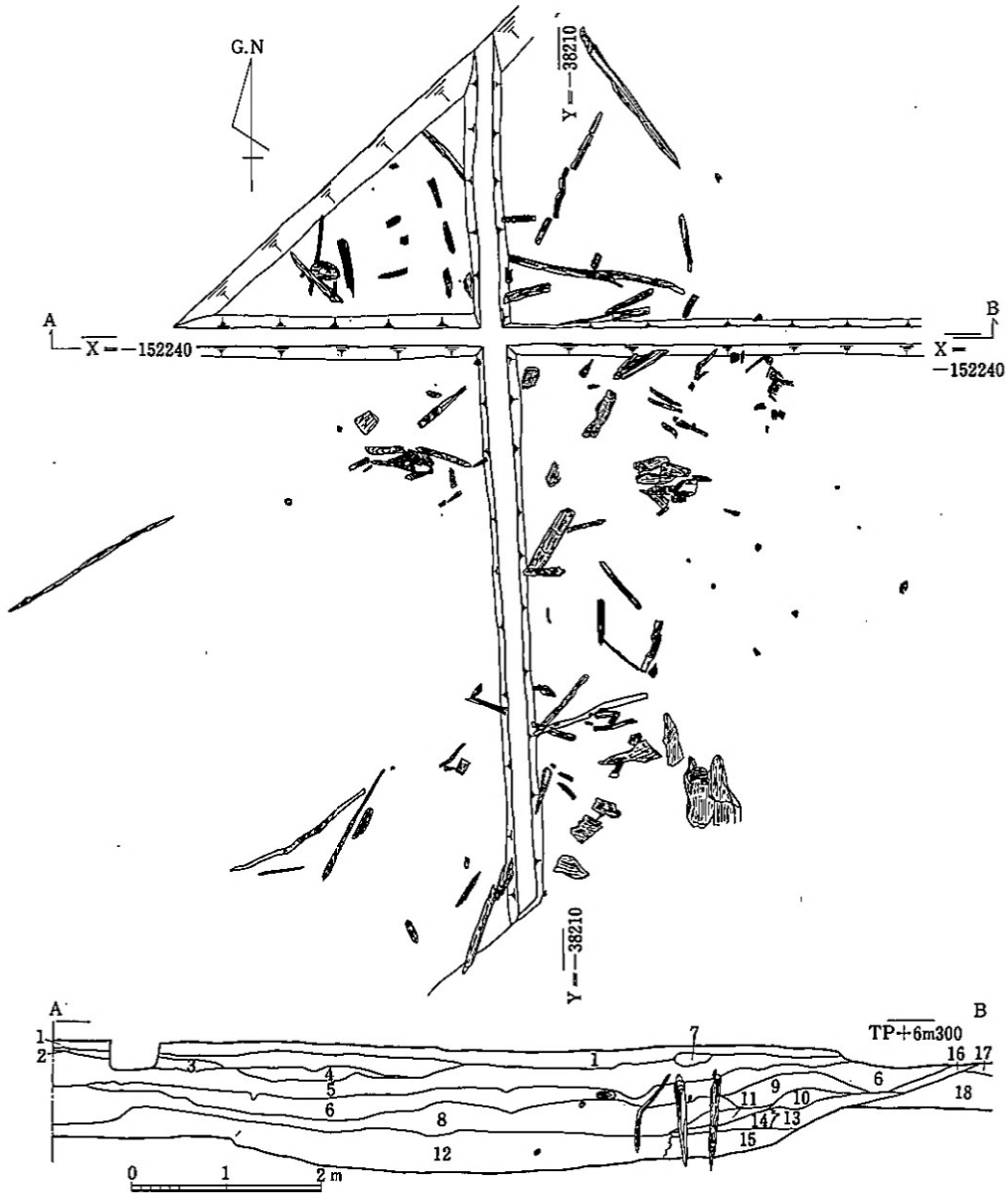
本河川は、Aトレンチ中央部を南北方向に走り、幅約10m、深さ約1mを測る。西側肩部には、無数に割材を打ち込んだ杭群がある。それらは、欠損したり、浮き上がり横倒しになったものが多く、2mを超えるものが3本ある。他は1m内外のものが大半を占める。また、この流路の一部が、A-3トレンチの砂層の堆積の一部に連なるものと思われる。

出土した主な土器は、第112図5~9(図版110-7、図版113-9)の土師器等があり、須恵器は出土していない。木器には、第109・110図のうち、河川内からは、槌の子、ねずみ返し等(2・5・6)が出土し、周辺の青灰色粘土層中や上面からは、容器、建築部材等(1・3・4・7・8)が出土している。

河川-3 [第112図、図版113]



第107図 第2遺構面河川-2と杭群平面実測図(1)



- | | |
|---|--------------------------------|
| 1. 黄橙色 7.5YR% 極微砂 | 11. 明黄褐色青灰色
10YRと10BG%微砂の互層 |
| 2. 黄橙色 7.5YR% シルト～微砂 | 12. 暗灰色 N 3 粘質微砂～シルト層 |
| 3. 暗緑灰色 10GY % シルト | 13. 暗青灰色 5BG % シルト層(粘土に近い) |
| 4. 灰白色 10YR % 微砂 | 14. 明黄褐色 10YR % 粗～中砂 |
| 5. 褐灰色 10YR % シルト層 | 15. 暗灰黄色 2.5Y % 細～中砂 |
| 6. 褐灰色 10YR % 上層シルトと(黄橙色)10YR%
微砂の互層 植物遺体層 | 16. 褐灰色 10YR % 微砂(茶斑あり) |
| 7. 橙色 7.5YR% 細砂 | 17. によい黄橙色
10YR % 粗砂(砂礫) |
| 8. 灰色 N 4 シルト層(明黄褐色2.5Y%
の細砂少量含む) | 18. 明黄褐色 10YR % 粗砂～中砂 |
| 9. 灰白色 7.5YR% 微砂 | |
| 10. 灰白色 10YR % 13のブロック含む | |

第108図 第2遺構面河川-2と杭群平面・断面実測図(2)

河川-1と河川-2の中間で検出し、幅2.6m、深さ80cm余りである。北西-南東方向に伸び、断面は逆台形を呈する。埋土の粗砂中からは、土師器片、第112図1~3、(図版113-1・2)が出土し、粘土中からは同図-4が出土している。

7. 近世~現代-第1遺構面 [付図-6(1)・(2)、第120図、図版111]

現地地表下40cm付近にあり、A地区北半部の標高はT.P.+6.5m、同南半部の標高はT.P.+6.0mを測り、南へやや低くなる。盛土、旧耕土を除去すると、東西に伸びる幅20~40cmの小溝数条と6~8mの大規模な畝と一段深く掘り下げた面が交互に連続している。地区に点在する井戸はいずれも新しく、コンクリート枠、木製枠、瓦枠等の井戸で、井戸内には種々雑多なゴミが投げ棄てられていた。おおよそ、第1遺構面の主な遺構は以上のようなもので、近世~現代の農耕地に関するものであった。

出土遺物は、陶磁器と整地の際に紛れこんだ下層(第2遺構面)の遺物、第120図-16・18・20・22・23・26・28・29・36等である。

<坪境溝> [付図-6(1)・(2)、図版111]

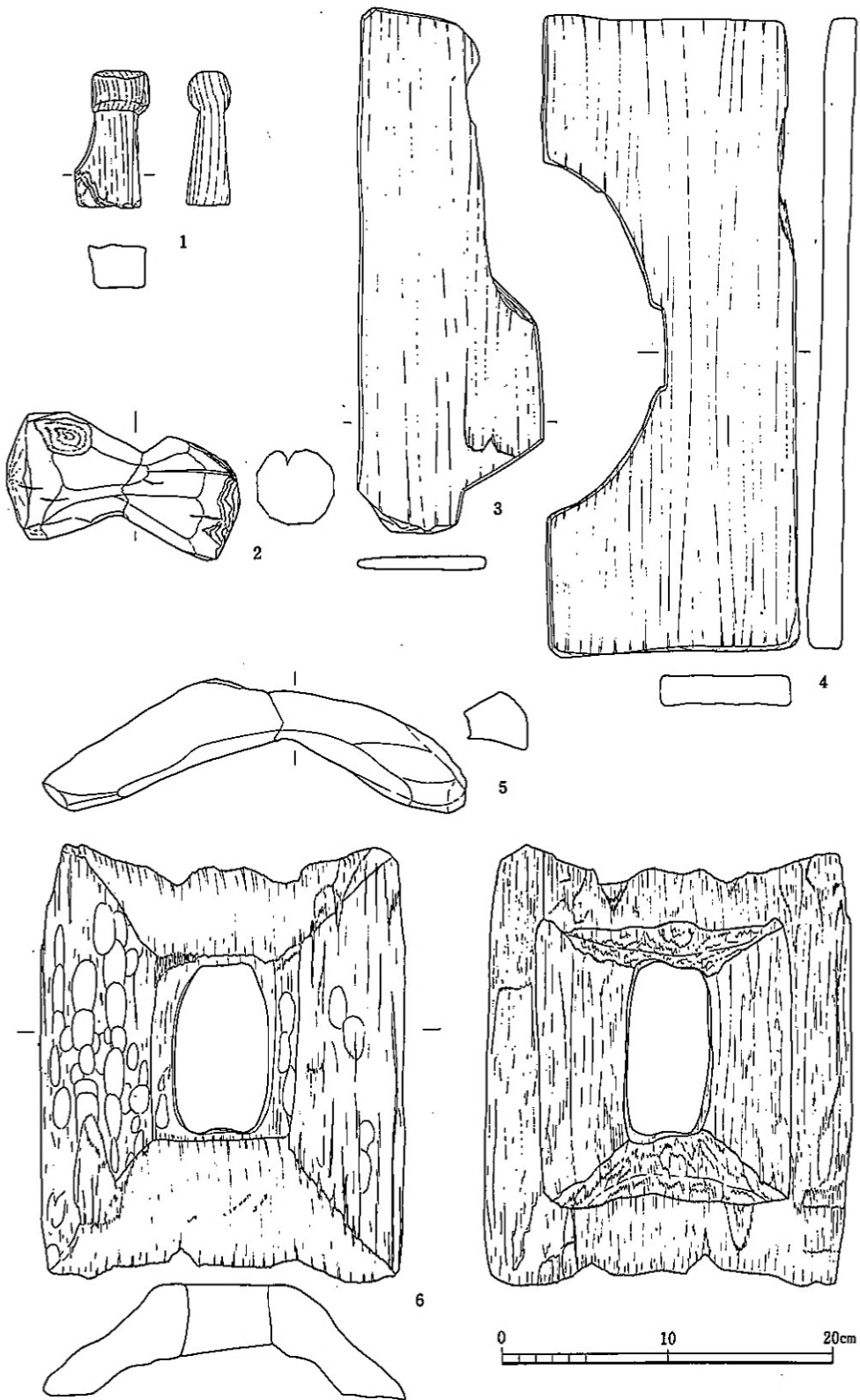
A地区南端で現在の水路と重複して東西方向に流れる幅2.2m、深さ80cmを測る溝である。現在の水路より南へ4mの所にも古い水路がある。土層断面からは、現在の水路を含めて4条の水路が観察されたが、現水路の規模と大差はなく、深さも最大50cm程度のものである。

水路の埋土からは、若干の近世陶磁器片が出土している。

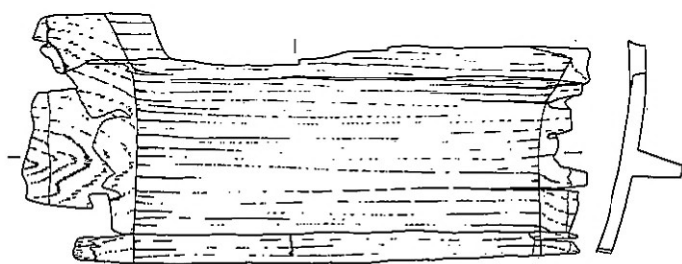
<畝状遺構> [付図-6(1)・(2)]

A地区全域で、東西方向に幅6~8mのテラス状遺構と溝状遺構が連続して交互に検出された。畝は20cm前後の盛土を幾度となく繰り返し、徐々に高くなったことが窺われる。畝の両肩部には幅20~40cm、深さ10~30cmの小溝が数条ずつ検出された。畝の拡幅、自然流失、溝を掘り下げた時点等には、再度前述の小溝を掘り直し、田畑に利用したものであろう。

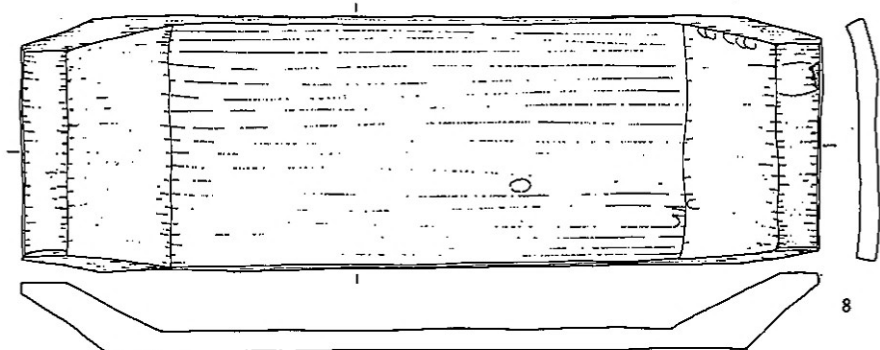
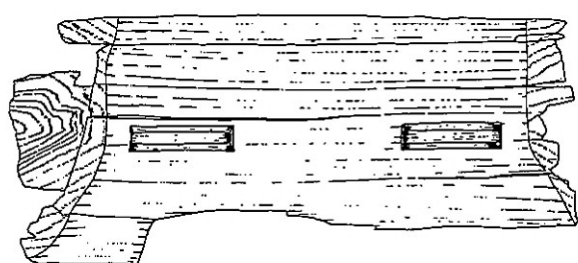
出土遺物は、A-4トレンチの東西溝内から出土した伊万里焼の草花文の小皿の他、近世、近代の陶磁器、瓦類等がA地区全域から出土している。



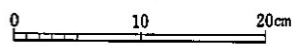
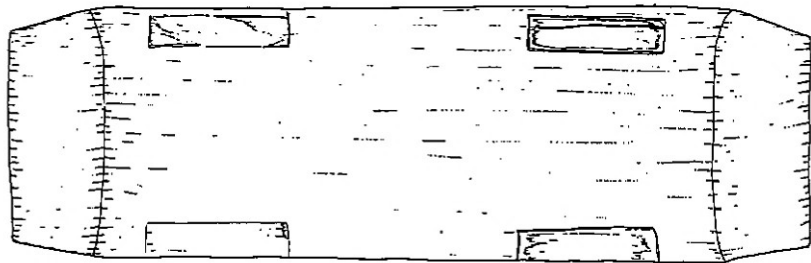
第109図 第2遺構面河川-2出土木器実測図



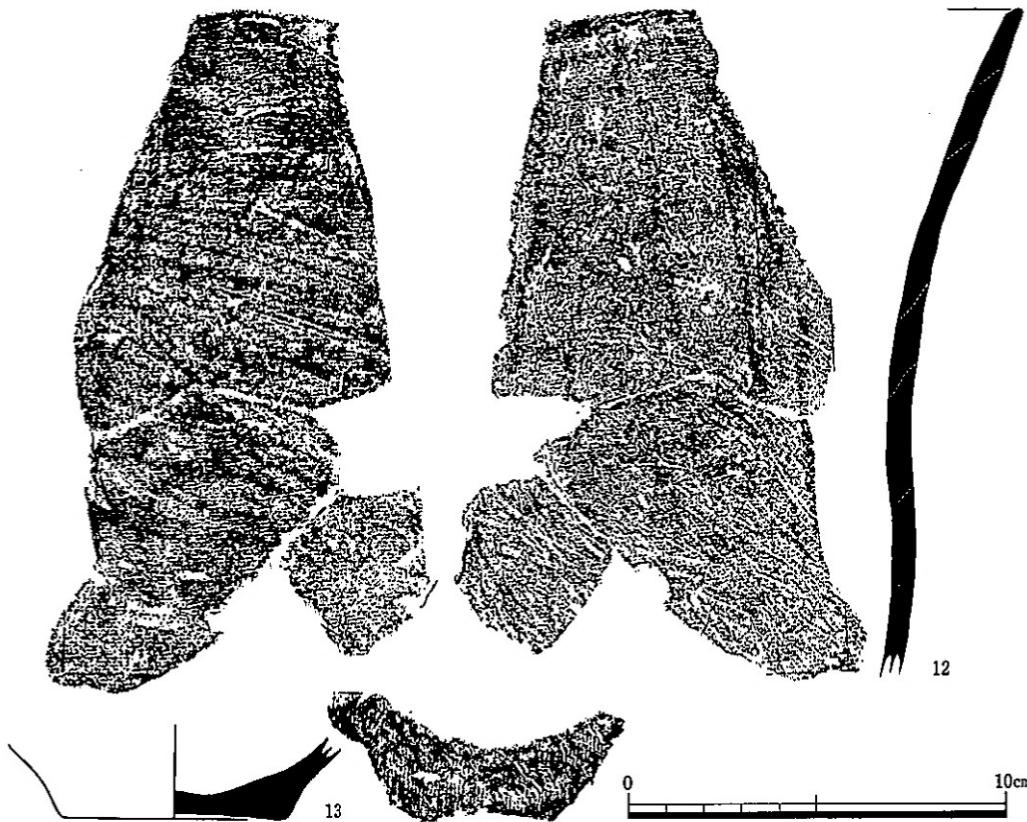
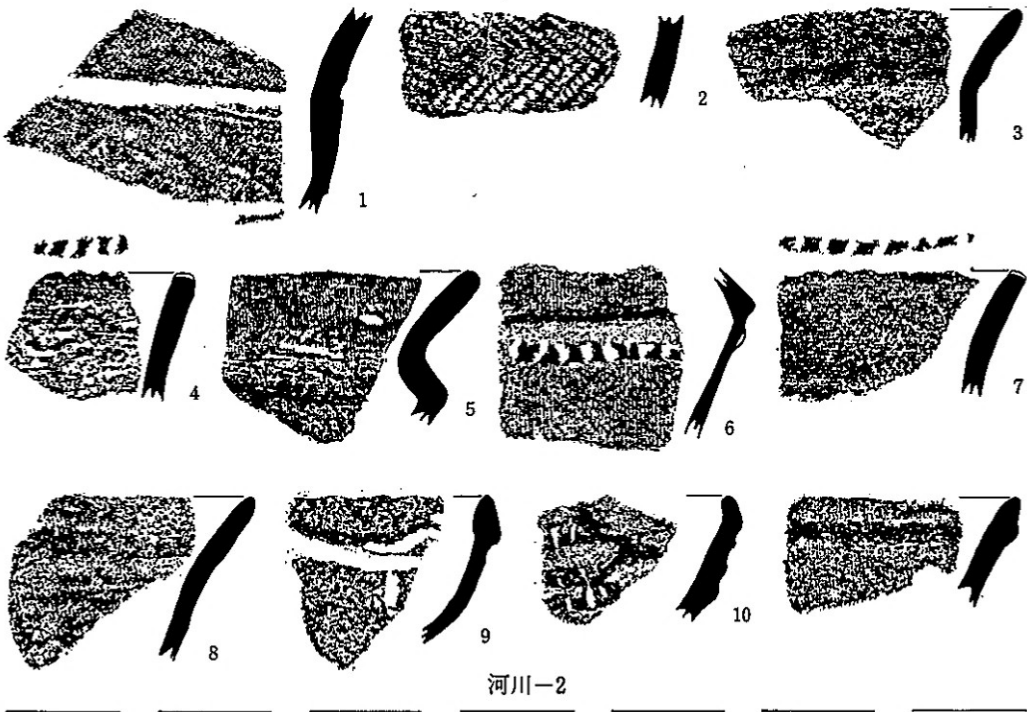
7



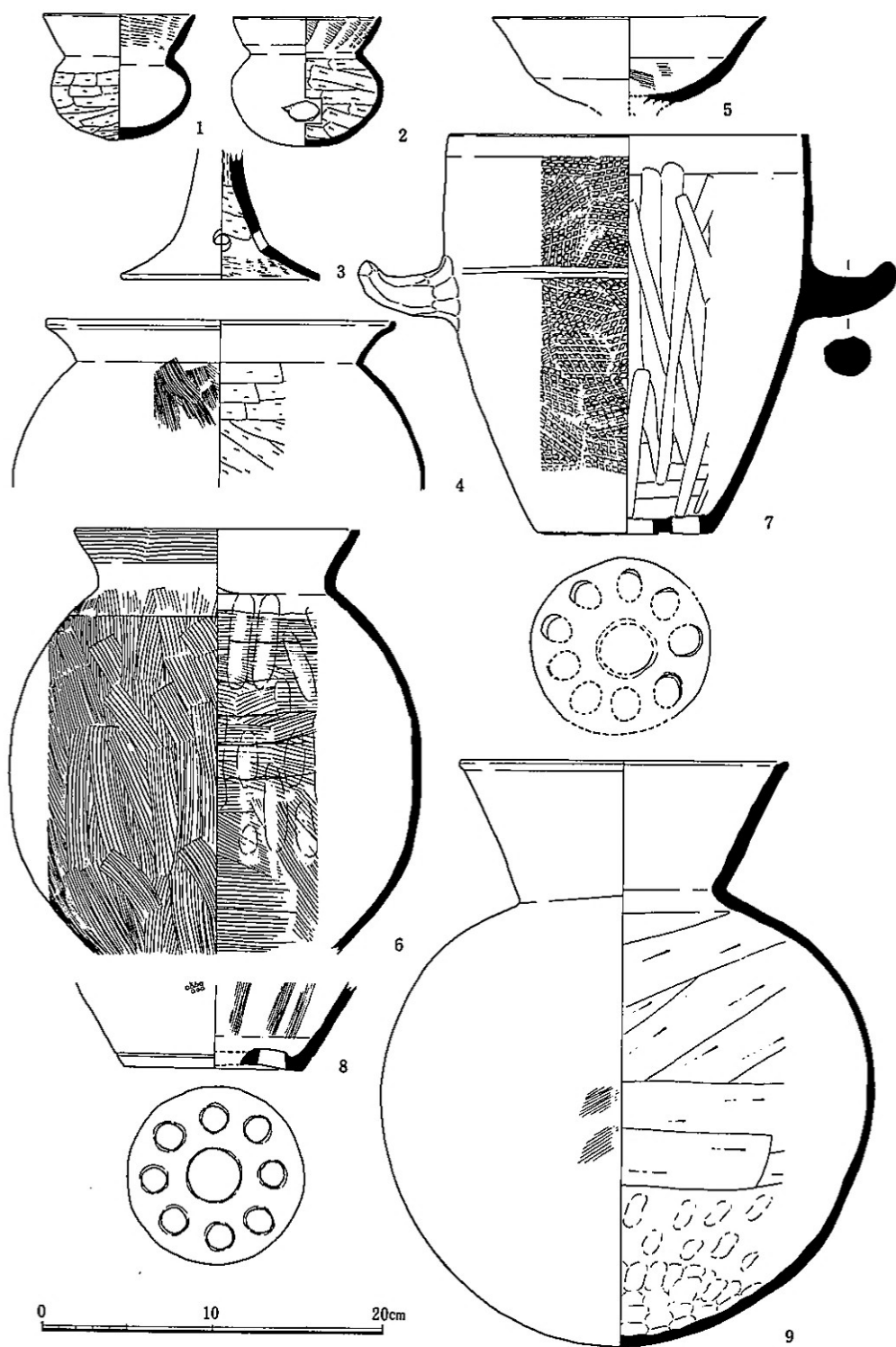
8



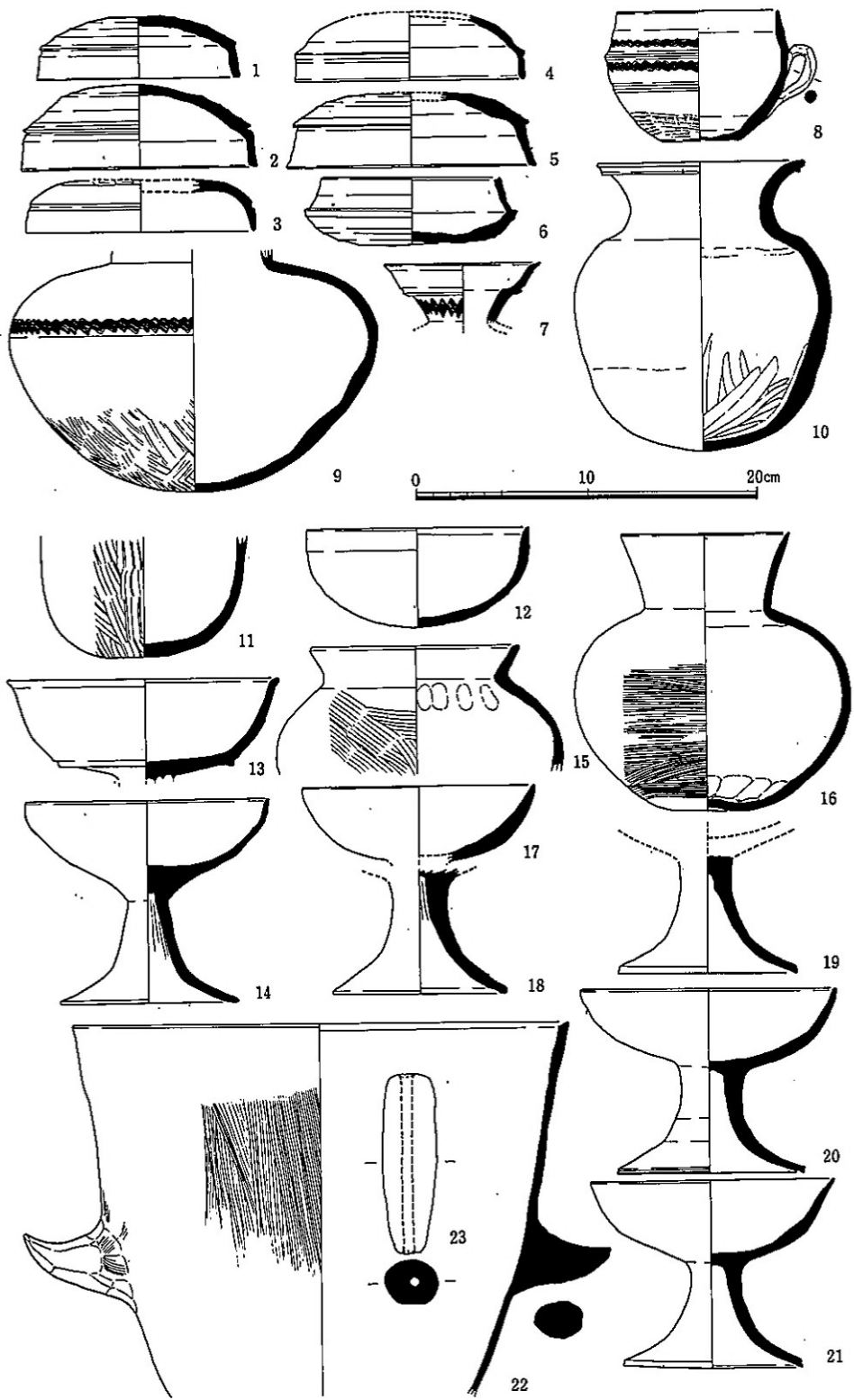
第110図 第2遺構面河川-2 出土木器実測図



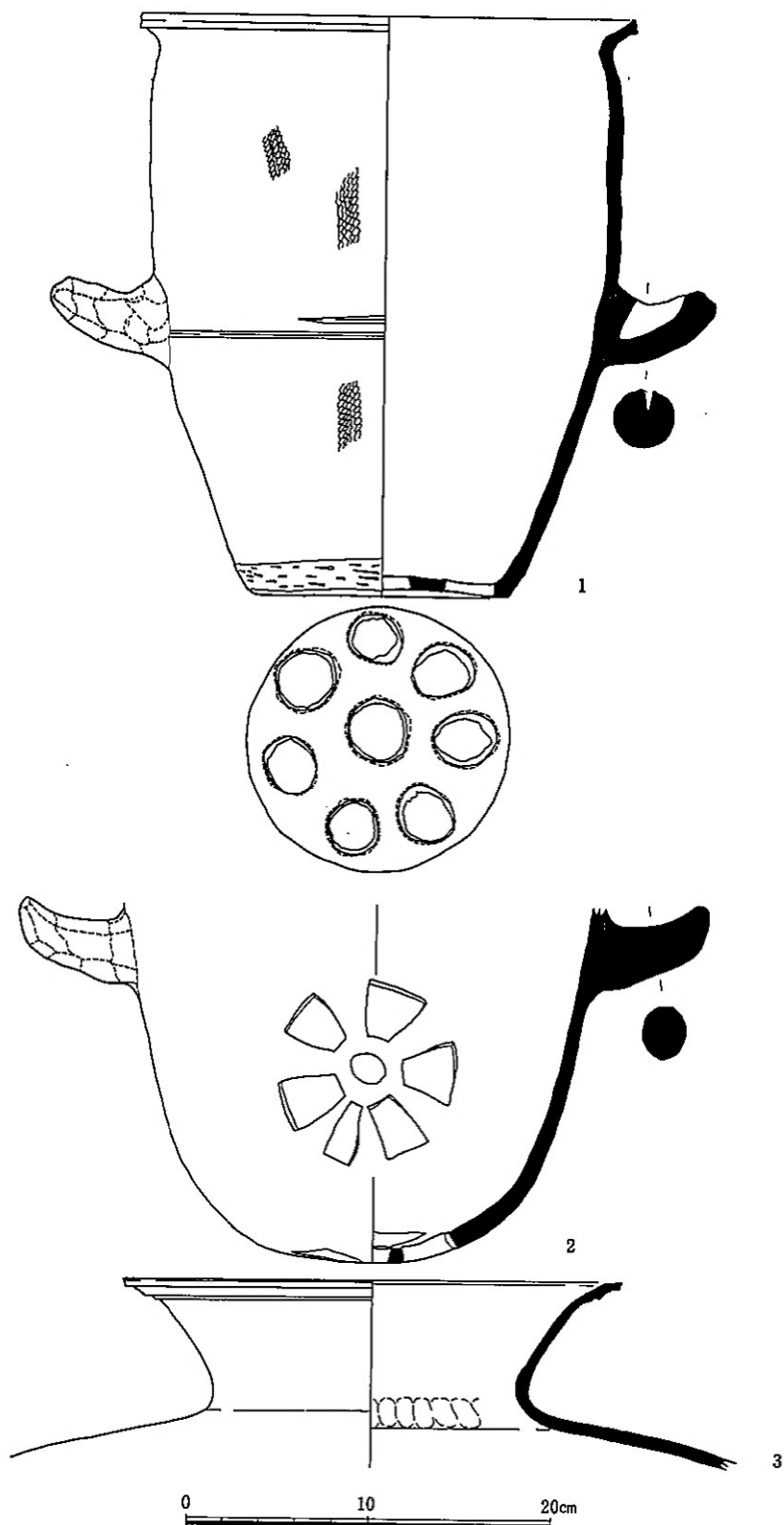
第111図 弥生時代中期以前の遺構面河川-2・3出土土器実測図



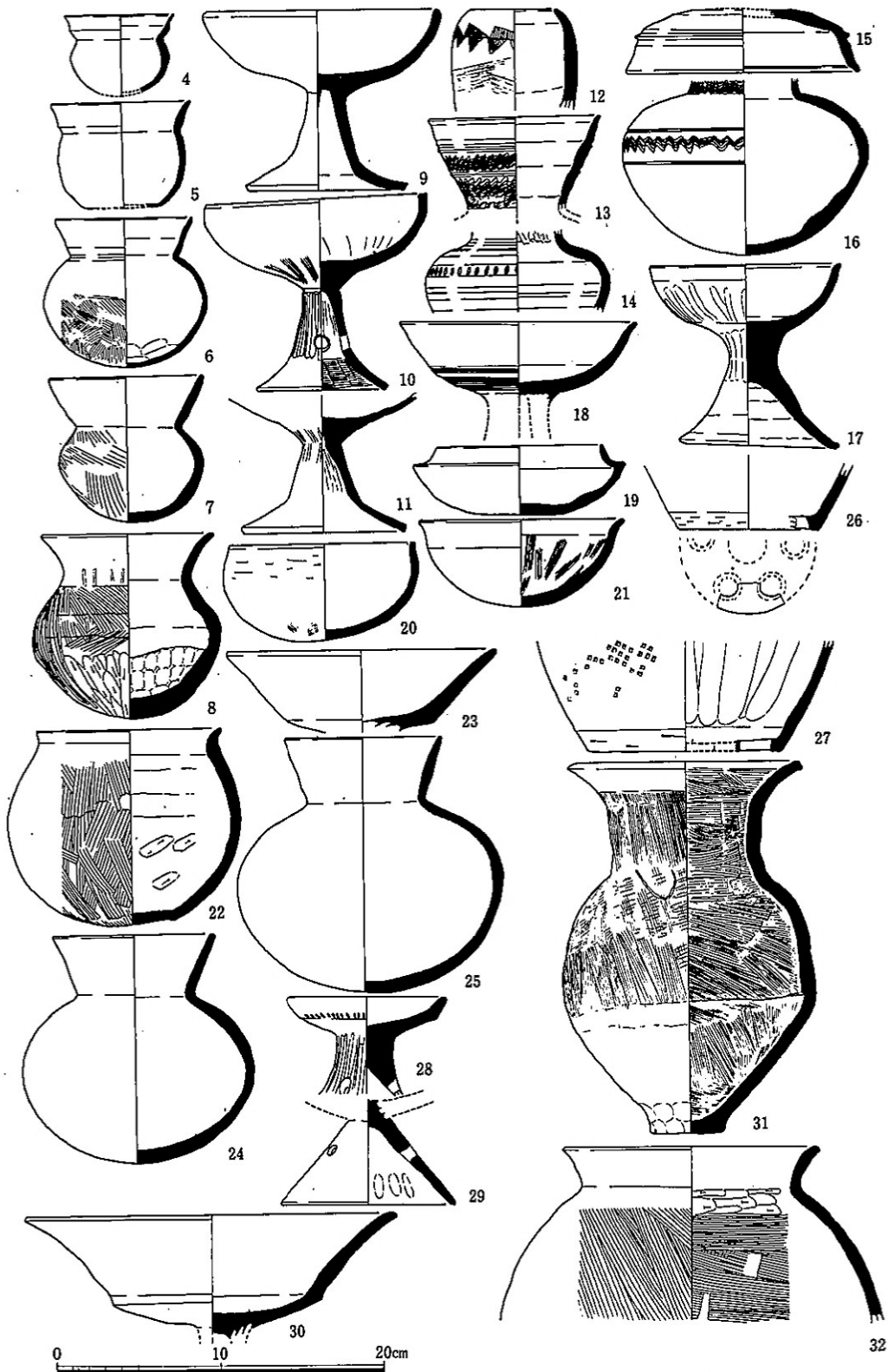
第112図 古墳時代第2遺構面粘土層・河川-2・3出土土器実測図



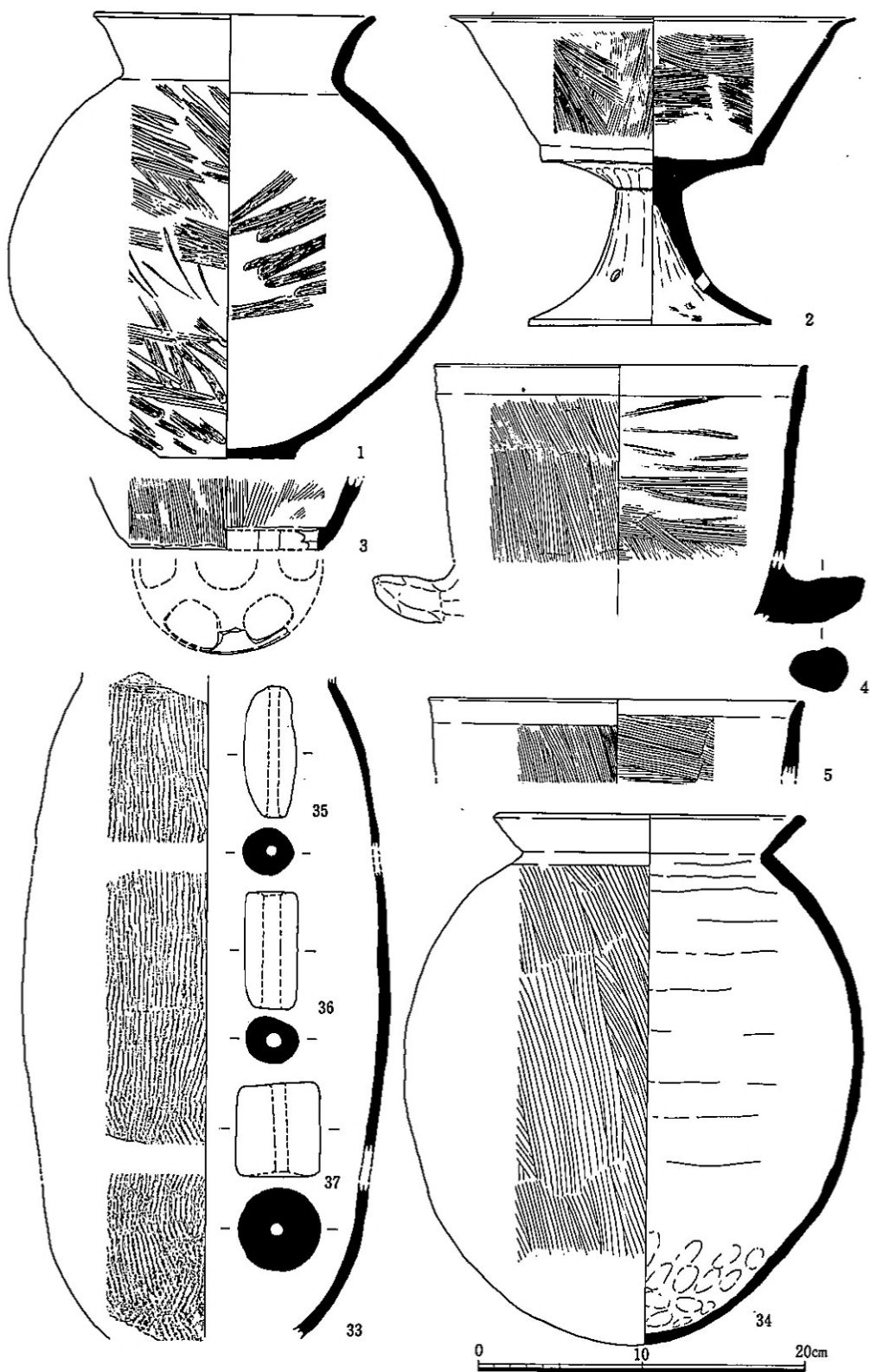
第113図 Aトレンチ・A-5トレンチ第2遺構面出土土器実測図



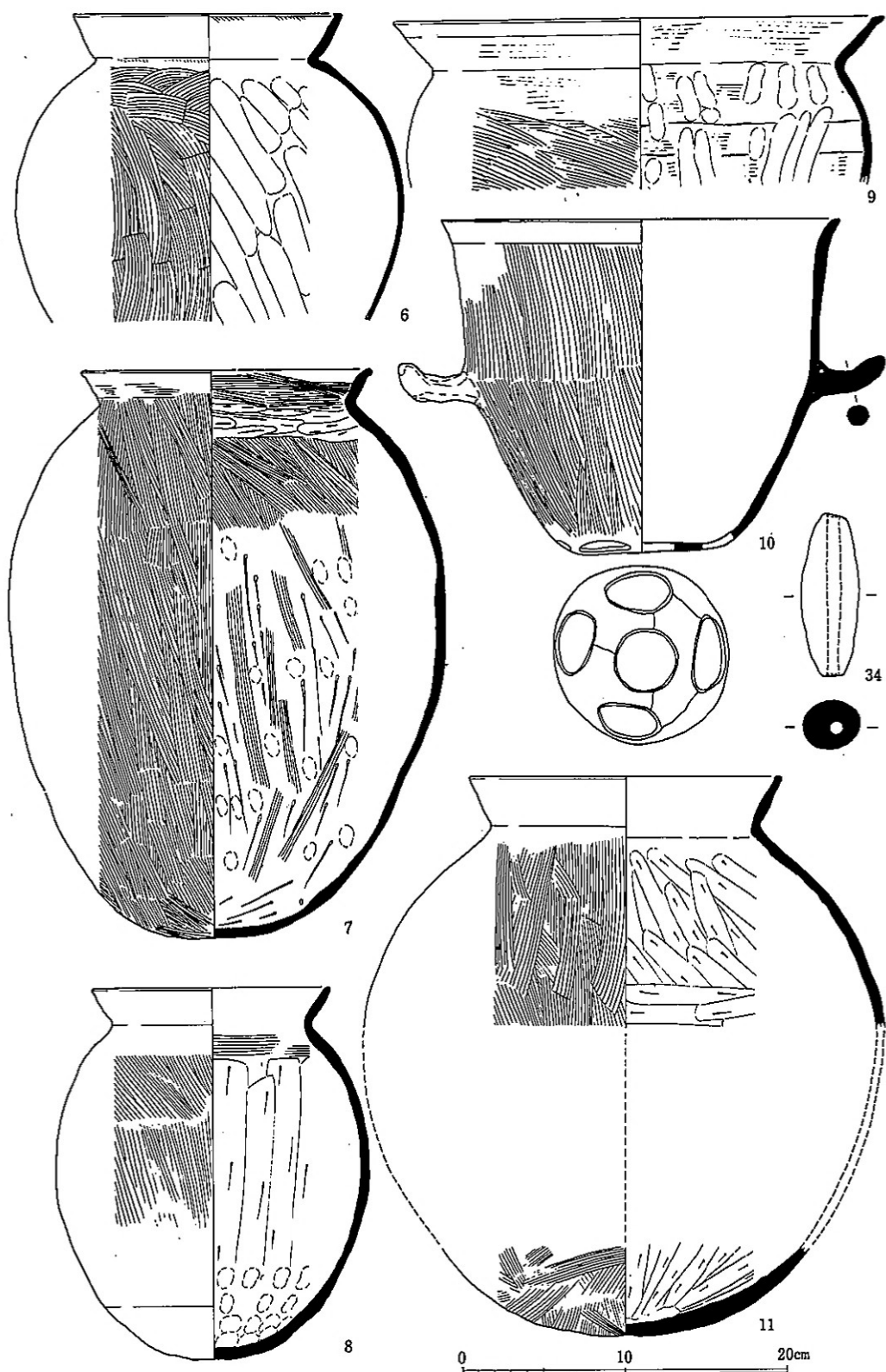
第114図 第2遺構面河川-1出土土器実測図-(1)



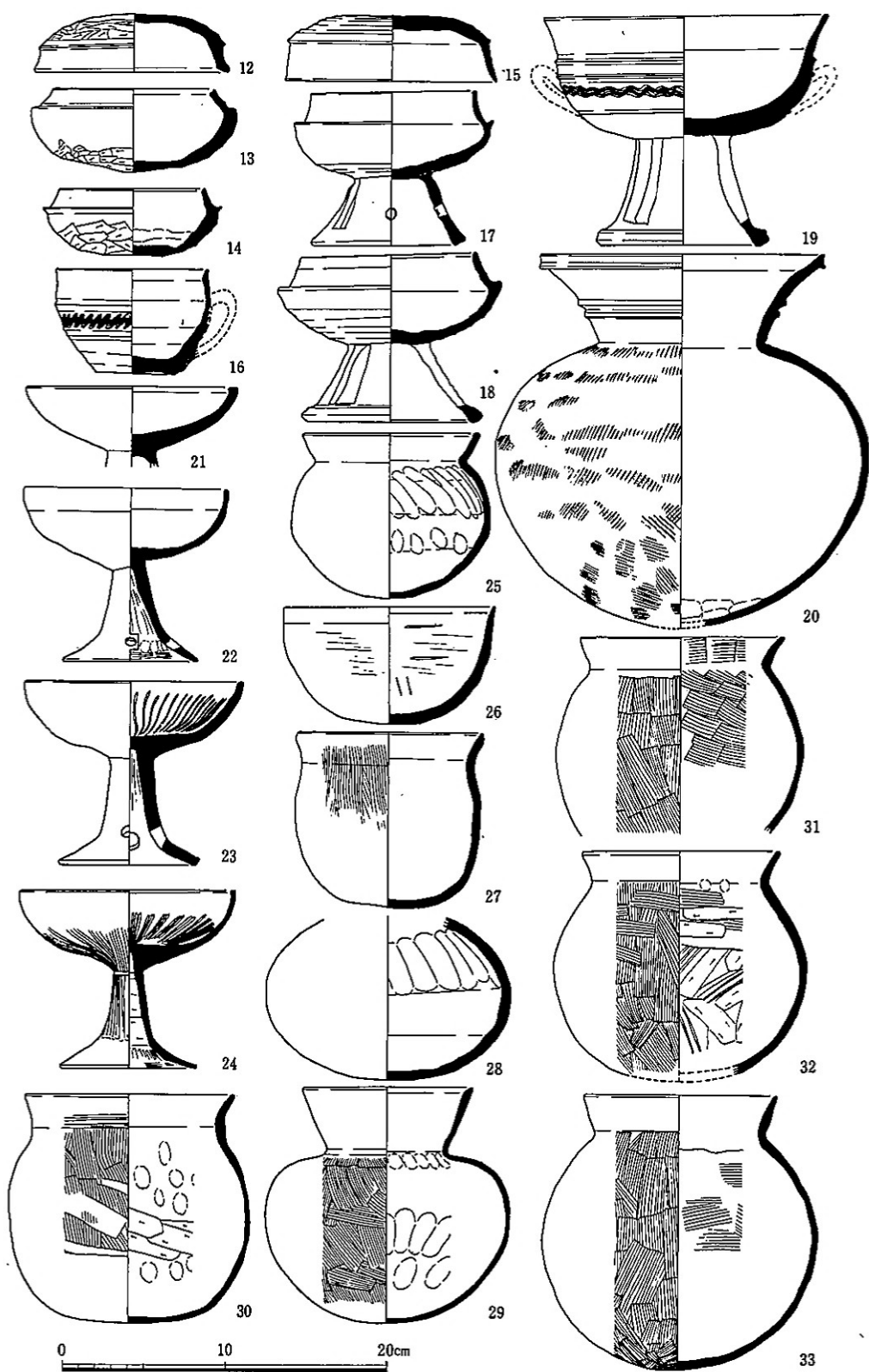
第115図 第2遺構面河川-1出土土器実測図-(2)



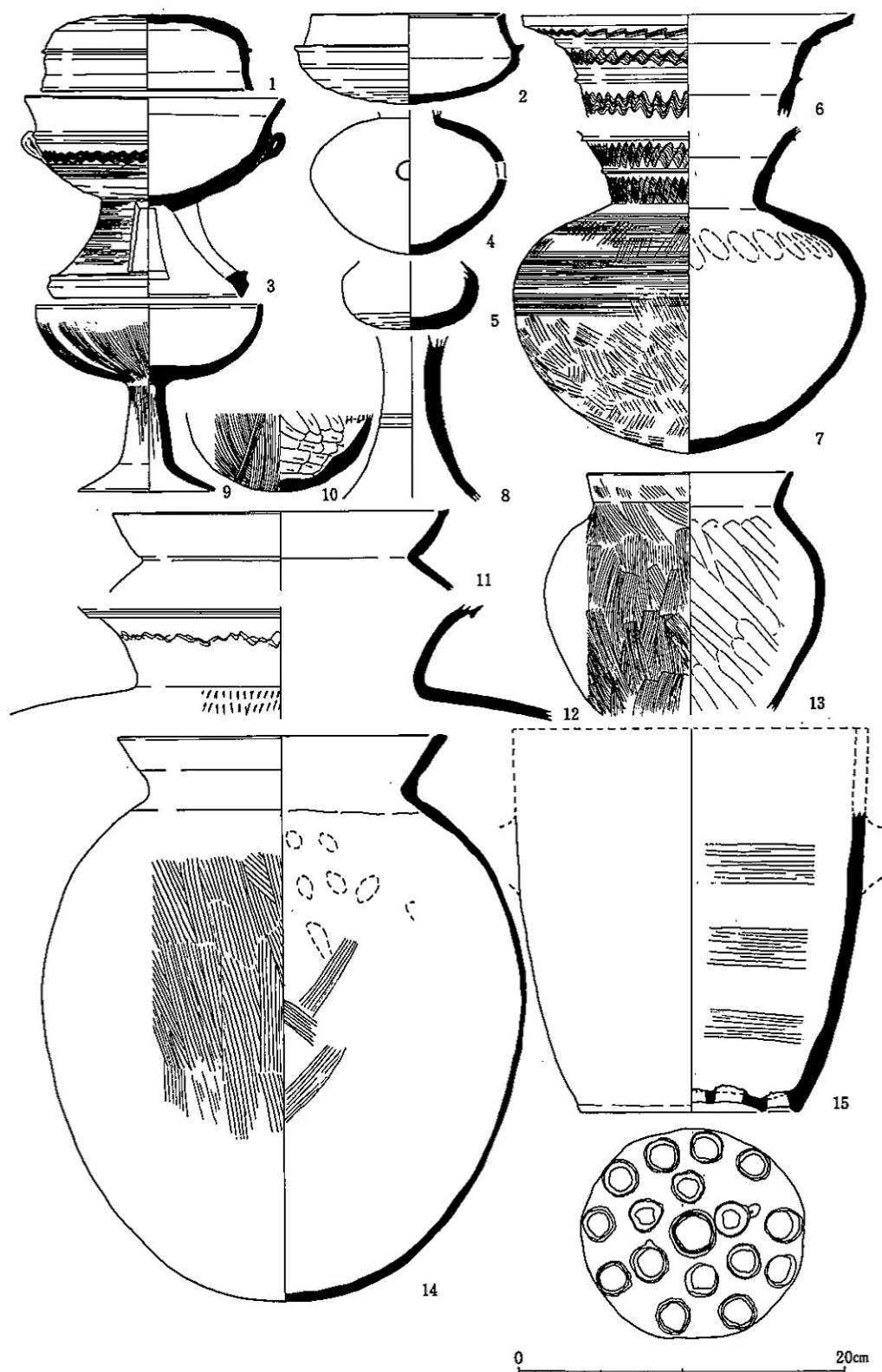
第116图 第2遺構面河川-1・落込-1出土土器実測図



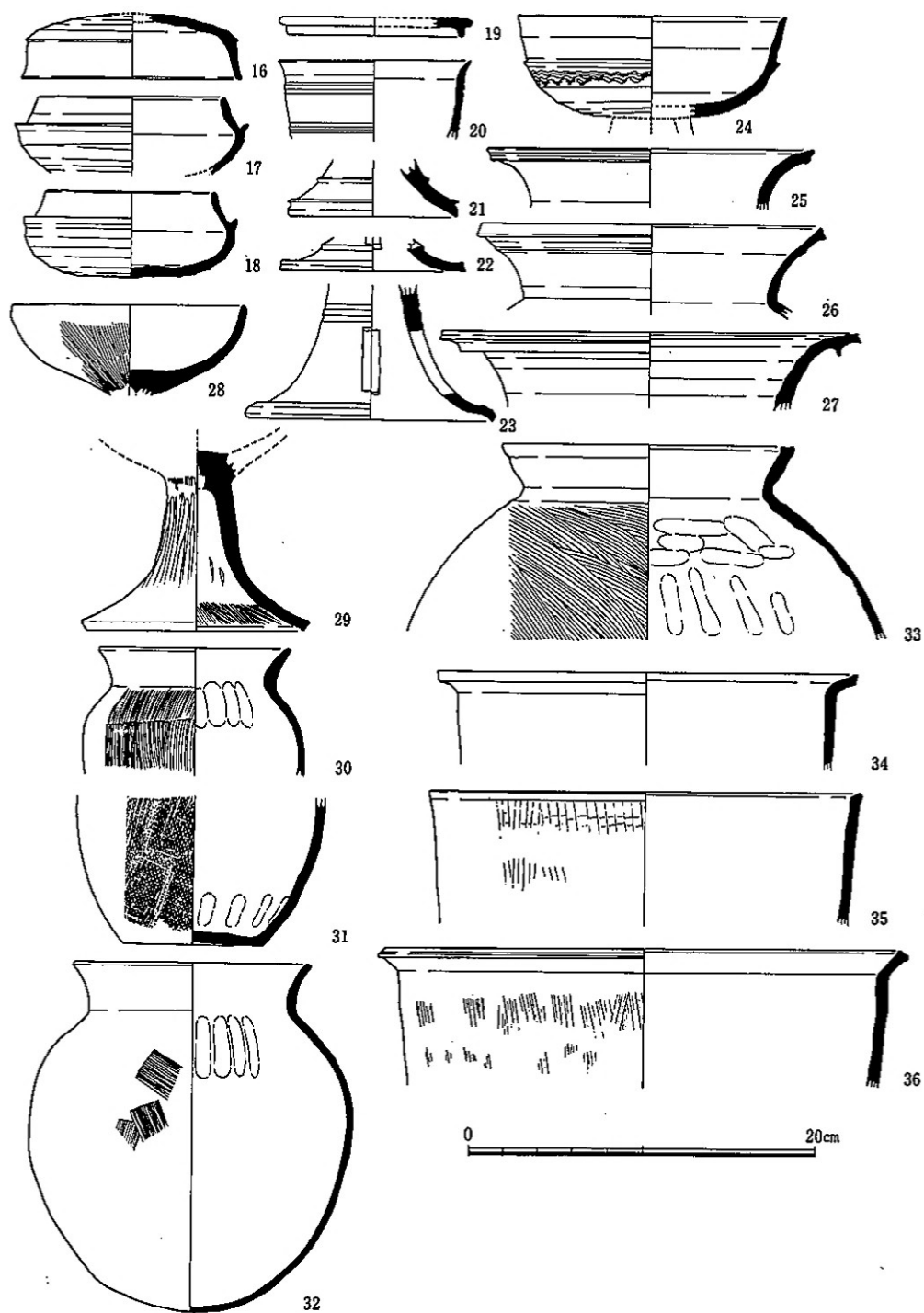
第117图 第2遺構面落込-1出土土器実測図-(1)



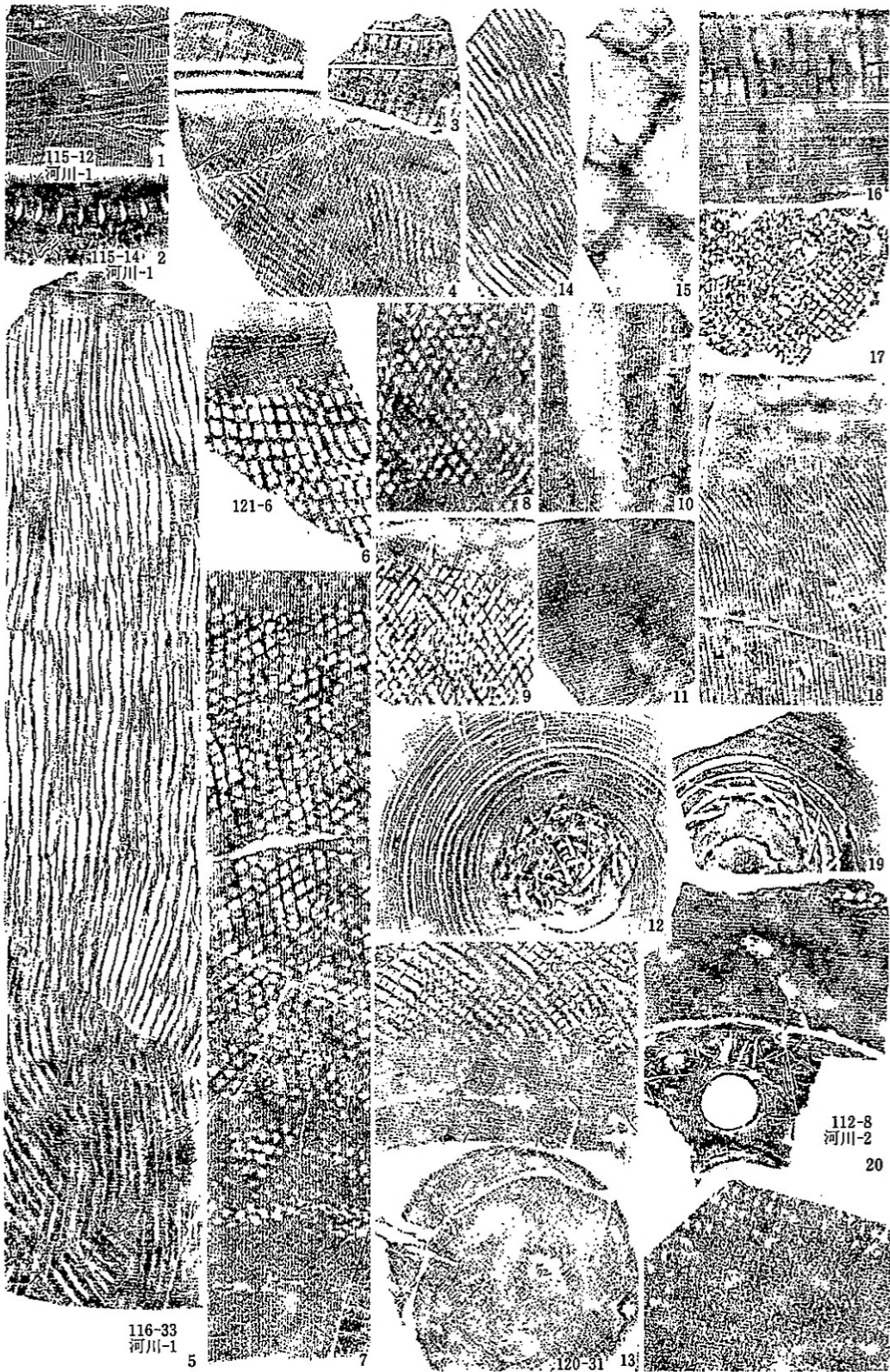
第118图 第2 遺構面落込-1 出土土器実測図-(2)



第119图 第2遺構面遺構・包含層出土土器実測図



第120图 第2遺構面・第1遺構面出土土器実測図



第121图 出土土器細部拓影

7表 A地区土器観察表(その2)

押 図 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法	口径	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考																																																																																																																																															
				量	器 高																																																																																																																																																						
1 1 3	A ト レン チ 5 ホ レン チ 中 央 部	11	鉢		122		体部外面に一部粗いハケメが残る。内面ナデ。 内外面ともに剝離している。	2.5YR/4	粗0.5~2.5 mmの砂粒小石 非常に多く含	軟	良好	土師器																																																																																																																																															
													12	117 15	鉢	130		口縁部外面ヨコナデ、内面不明瞭。 体部内外部不明瞭。	10YR8/3 ~8/4	粗0.1~0.5 mm位の砂粒を 多く含む。	軟	良好	土師器																																																																																																																																				
																								13	117 13	高杯の 杯部	161 60		口縁部内面ヨコナデ。 杯部外面ヨコナデ、内面ナデ。	5YR7/4	粗。1mm位の 砂粒がかなり 多い。	軟	良好	土師器																																																																																																																									
																																			14	117 11	高杯	143 120	脚部 直径 104	杯部、脚部外面剝離のため不明。 口縁部内面指押さえのあとヨコナデ。杯部内面剝離のため不明。	2.5YR7/4	密0.2~2.5 mmの砂粒、小 石を少し含む	や や 軟	良好	土師器																																																																																																														
																																														15		甕	120	168	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。 体部上半部外面一部粗いハケメ、内面ナデ。	10YR8/2	粗0.5~3mm の砂粒小石を 非常に多く含	や や 軟	良好	土師器																																																																																																			
																																																									16	114 21	壺	100 165		外面口縁部から体部上半部、内面口縁部ヨコナデ。 外面体部中央部ヨコ方向のハケ調整、下半部ナデ。内面体部中央部ヨ コ方向のナデ、下半部指押さえのナデ。底部は大きく凹む。	2.5YR/3	粗。微砂粒を 含む。	硬	良好	土師器																																																																																								
																																																																				17	114 19	高杯の 杯部	136		杯部外面剝離のため不明、一部にナデ、内面剝離のため不明	10YR8/2	粗。0.5mm以 下の砂粒を中 位含む。	軟	良好	全面顔料塗布 土師器																																																																													
																																																																															18		高杯の 脚部		脚部 直径 102	脚部外面剝離のため不明、内面上半部絞目、中央部不明、下半部ヨコ ナデ。	10YR8/2	粗。0.5~3. 0mmの砂粒を 中位含む。	硬	良好	土師器																																																																		
																																																																																										19	117 20	高杯の 脚部	106 69		脚部外面上半部、中央部、表面剝離激しい。脚端部ヨコナデ。内面上 半部ヨコナデ、下半部剝離激しい。	5YR8/4	粗。1mm位の 砂粒、クサリ 硬多し。	硬	良好	土師器																																																							
																																																																																																					20	114 23	高杯	152 110	脚部 直径 111	杯部、脚部外面、内面ともロクロ使用?のヨコナデ。 杯部底部内面同心円状に沈線がめぐる(工具の痕跡?)。	2.5YR/2	密。砂粒含む	や や 軟	良好	土師器																																												
																																																																																																																21	114 24	高杯	143 111	脚部 直径 106	杯部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ。脚部外面上半部ヨコナデ、下半部 ヨコナデ。内面上半部指押さえのあとナデ、下半部ヨコナデ。ロクロ 使用?	2.5YR7/6	粗0.1~0.4 mm砂粒多く、 クサリ硬多し	軟	不良	土師器																																	
																																																																																																																											22	117 18	瓶	292		体部下半部外面ヨコナデ、内面ヨコナデのちハケ、ヨコハケ。 底部内面細いハケ。	2.5Y7/2	粗。砂粒を多 量に含む。	や や 軟	不良	土師器																						
																																																																																																																																						1 1 4	1	115	瓶	273 320	口縁部内外面表面ハクリのため調整不明。先端部強いヨコナデ。体部 外面縄文、内面ナデ。体部中央部外面沈線。把手部ヘラ状工具によ り穿孔。底部穿孔数1+7。	灰褐色	1~2mmの砂 粒多く含む。	軟	良好	土師器											
																																																																																																																																																	2	116	瓶			体部外面下半部タテ方向のヘラケズリや強いナデ?(全体に磨滅著しく 調整不明瞭) 最下半部不定方向のナデ? 内面中央部把手取付け時のナ デ、指押さえ、下半部タテ方向のヘラ削り。把手部指押さえ。	2.5YR/4	粗。砂粒多く 含む。	硬	良好	土師器
4	118 4	小型 丸底甕	96 100	60	内外面ヨコナデ。	5YR8/8	密。0.5mm以 下の微砂粒を 多く含む。	硬	不良	土師器																																																																																																																																																	
											5	118 5	小型 丸底甕	84 65	735?	外面から内面口縁部にかけてヨコナデ。 内面体部タテ方向にナデあける。	2.5YR8/6	密。1mm前後 の砂粒をやや 多く含む。	硬	良	土師器																																																																																																																																						
																						6	118 6	小型 丸底甕	84 92	100	口縁部外面から内面中央部にかけてヨコナデ。 体部外面下半部ハケ調整(上半はナメ方向、下半は不定方向)。 内面下半部不定方向の粗いナデ。	10YR8/4	粗。砂粒を多 く含む。	や や 軟	不良	土師器																																																																																																																											
																																	7	118 7	小型 丸底甕	93 89	88	口縁部外面ヨコナデ、体部外面粗いハケメ。 内面ハケメのちナデ。	乳灰色	粗。0.5mm以 下の砂粒を多 く含む。	や や 軟		土師器																																																																																																																

7表 A地区土器観察表(その3)

押 込 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法 成	口 径 器 高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考
1 5	6	118	小型 丸底甕	法	105	114	外面口縁部から内面体部中央部にかけてヨコナデ。 体部外面上半部ハケ、下半部ヘラケズリ。 体部内面中央部強いハケ、下半部指押さえ。	5YR7/4	密。0.3~3 mmの砂粒を少 し含む。	硬	良	土師器
		115.5										
河	9	122	高杯	法	142	脚部 直径 82	外面脚部上半部ヘラケズリ、脚部下半部ナデ。 その他表面斜線の為調整不明。	淡褐色	粗。2mmの小 石を含む。	軟	良	土師器
		111										
川	10	122	高杯	法	134	脚部 直径 78	杯部内外面上半部ヨコナデ、杯部外面下半部細かいナメハケ、杯部 内面下半部ヨコハケのちナデ、脚部外面上半部ミガキ、下半部ナメ ハケのちナデ、脚部内面上半部絞目、下半部ヨコハケ。	赤褐色	密。微細な砂 粒を含む。	軟	良	土師器
		120										
1	11	高杯の 脚部	法	脚部 直径 85	101	外面杯、脚部接合部ハケ、内面脚部上半部絞目。 その他調整不明。	5YR7/3	密。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。	硬	良	土師器	
												85
12	鉢	法	52	外面口縁部から内面にかけてヨコナデ。 外面下半部ハケ。 外面中央部縦溝文。	5B6/1	密。微砂粒を やや含む。	硬	良	須恵器			
										104		
13	126	13	104	口縁部外面上半部回転ナデ。内面回転ナデ。 口縁部外面、中央部下半部波状文。	7.5Y8/1 ~8/3	密。0.1~0. 3mm位の砂粒 を含む。	硬	良	須恵器			
										112		
14	126	14	112	体部外面回転ナデ。内面回転ナデ。上半部ヘラが当たったと見られる 痕あり。 体部外面中央部列点文(雉6本)	10Y7/1	密。0.1~0. 2mm位の砂粒 を少し含む。	硬	良	須恵器			
										140		
15	126	14	112	体部外面回転ナデ。内面回転ナデ。上半部ヘラが当たったと見られる 痕あり。 体部外面中央部列点文(雉6本)	10Y7/1	密。0.1~0. 2mm位の砂粒 を少し含む。	硬	良	須恵器			
										140		
16	122	16	150	体部外面、内面上半部回転ナデ、下半部静止ナデ。 頸部外面回転ナデ、内面ナデ。 体部外面中央部波状文。頸部外面ビッチの細かい波状文。	青灰色	密。	硬	良	須恵器			
										118		
17	122	17	114	口縁部ヨコナデ。杯部外面下半部ヨコナデの優クテ方向のナデ、内面 底部仕上げナデ。脚部外面上半部クテ方向のナデ上げのちヨコナデ、 内面上半部粗いヨコナデ、下半部ヨコナデ。	M	密。砂粒、ク サリ礫を含む	硬	良好	須恵器			
										146		
18	122	18	46	杯部外面回転ナデ、下半部回転ナデ、内面口縁部回転ナデ、下半部ナ デ。 杯部中央部カキ目(13本)	7.5YR7/6	粗。0.2~1. 0mm位の砂粒 を含む。	硬	良	須恵器			
										99		
19	122	19	42	受部 直径 129	たもあがり部内外面、回転ナデ。底部外面不定方向のナデ、内面回転 ナデ、指頭圧痕が見られる。	褐色	密。1mm以下 の砂粒、クサ リ礫を含む。	硬	不良	土師器		
											112	
20	122	20	60	口縁部内外面、ヨコナデ。体部外面ケズリのものナデ。底部外面ハケ (糸敷、原体不明)を施したもの、ナデ、内面ナデ。	灰褐色	粗。	硬	良	土師器			
										125		
21	122	21	55	口縁部内外面、左から右へのヨコナデ。体部外面ヘラケズリのものナ デ、内面ハケのちヨコナデ。	褐色	密。微細な砂 粒を含む。	や や 軟	良	土師器			
										112		
22	118	22	120	口縁部内外面、ヨコナデ。 外面体部粗いハケ目、内面ナデ(上半部中央部とところどころケズリ)	10YR6/4	粗。0.2~1. .0mmの砂粒を 中程度含む。	軟	良好	土師器			
										166		
23	高杯の 杯部	法	50	外面調整不明。 内面ヨコナデ。	10YR6/3	密。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。	や や 軟	良好	土師器			
										98		
24	118	24	141	内外面共に斜線の為調整不明。	5YR7/6	密。0.5~2 mmの砂粒を非 常に多く含む	硬	良好	土師器			
										94		
25	118	25	157	内外面口縁部ヨコナデ。 内面体部上半部調整不可、体部下半部ナデ。	赤褐色	粗。1~2mm の砂粒をやや 多く含む。	や や 軟	良	土師器			
										135		
26	135	26	40?	底部 直径 86	体部内外面下半部ナデ、底部外面ヘラケズリ。 底部内面ヨコナデ。	10YR6/2	粗。1~2mm の砂粒を中位 含む。	や や 軟	良好	土師器		

7表 A地区土器観察表(その4)

採 取 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法 量	口 径		形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考
					口 径	器 高						
1 1 5	河 川	27	125 瓶の底 部			底部	118	5YR6/6	密0.5~2.5 mmの砂粒、小 石を多く含む	硬	良好	土師器
						底部						
		28	器台		97		杯部内外面共にナデ。 脚部外面ミガキ。	7.5YR7/6	粗。1~3mm の砂粒、小石 を中位含む。	やや 軟	良好	土師器
					60							
		29	器台		106		外面調整不明。 内面上半部ナデ、下半部ナデのち指おさえ。	5YR7/2	密。1mm以下 の砂粒を少し 含む。	やや 軟	良好	土師器
64												
30	122 高杯の 杯部	30	224		外面上半部ヨコナデ、下半部ナデ。 内面上半部ハケのちナデ、下半部ナデ。	灰褐色	粗。	やや 軟	不良	土師器		
1	31	113 空	31	146	154	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ状ナデ。頸部内外面ハケメ。体部 外面下半部指おさえ、中央部ナデ、上半部タタキおよびハケメ。内面 ハケメ。底部外面ナデ。	7.5YR8/3 ~8/4	密0.1~0.3 mm位の砂粒を やや多く含む	やや 軟	良	体部中央部ス 、コゲ付着。 弥生土器	
				228								
				158								口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ヘラズリ。 体部外面上半部幅広い粗いハケ、内面上半部ハケ。
107												
1 1 6	1	119 瓶		178	280	口縁部内外面、ヨコナデ。体部外面部分的ハケの上に放免的 なヘラミガキ。内面粗細のヘラミガキ。底部外面不明瞭。 平底。	7.5YR8/3 ~8/4	粗。0.2~0. 5mm位の砂粒 を多く含む。	やや 軟	良	土師器	
				273								
2	119 高杯	2		248	149	脚部外面上半部取風ナデ上げ、下半部ナデ。内面上半部緩微、下半 部ハケメ。杯部外面上半部縦方向のハケ調整、中央部ナデ、下半部指 押さえ気味のナデ。内面上半部ヨコ方向のハケ、下半部、口縁部ナデ	5YR6/6	粗。砂粒を多 く含む。	やや 軟	良	穿孔3箇所。脚 部、杯部の一部 に黒斑。土師器	
				189								
3	瓶の底 部			230	168	体部外面ハケメ(部分的にヘラ痕)。内面上半部ハケメ、下半部ハケ メ(部分的にヘラミガキ)。底部内面ヘラミガキ。	2.5YR2 ~8/3	粗。0.2~0. 5mm位の砂粒 を多く含む。	やや 軟	良	5と同一個体か ? 土師器	
				168								
4	瓶			230		口縁部内外面、ヨコナデ。体部外面幅広いハケメ、内面ナデの後細い ハケメが見られる。	10YR8/2 ~8/4	密。0.2~1. 0mm位の砂粒 を多く含む。	やや 軟	良	土師器	
				168								
5	瓶の口 縁			230	168	口縁部内外面上半部ハケメ(外面部分的にヘラの痕)。 口縁部ヨコナデ。	2.5YR2 ~8/3	粗。0.2~0. 5mm位の砂粒 を多く含む。	やや 軟	良	3と同一個体か ? 土師器	
				168								
33	126 瓶	33				体部外面粗いタタキ7条幅121mm、内面指押さえのあとナデ。	7.5YR7/6	0.5~4mmの 砂粒含む。	やや 軟	良	土師器	
												33
34	119 瓶	34		138	282	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナメハケ(原体不明、非常に粗 い)、内面ナデ。底部外面型押整形痕、内面指肌正痕。体部外面中央 部から下半部スス付着。内面下半部炭化米付着。	灰褐色	1~2mmの砂 粒を含む。	やや 軟	良好	土師器	
				326								
6	119 瓶	6		166	239	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケメ、内面ヘラのち指ナデ。	10YR5/3	粗。0.3~0. 5mmの砂粒が かなり多い。	やや 軟	不良	土師器 土器群28	
				239								
7	119 瓶	7		180	268	口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコハケ。頸部内面ヘラズリ。体部外面 ハケメ、内面中央部指おさえ、ケズリのちハケ、上半部ハケメ。底部 外面まばらにハケメ。体部外面スス付着、底部スス付着なし。	10YR7/3	粗。1mm以下 の砂粒を多く 含む。	軟	良好	土師器 土器群10	
				351								
8	119 瓶	8		144	195	体部上半部外面ハケ、内面ヘラズリ、肩部ハケ。下半部内面指押さ え。口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。 体部上半部から口縁部スス付着。下半部スス付着なし。	7.5YR6/4	粗。1~3mm の砂粒を多く 含む。	軟	良好	土師器	
				229								
9	鉢			300		体部上半部外面幅広いハケメ、内面指押さえのちナデ。 肩部から口縁部外面ナデ、口縁部内面ナデ、口縁部ヨコナデ。	7.5YR8/2 ~8/4	粗。0.2~0. 5mm位の砂粒 を多く含む。	やや 軟	良好	土師器 土器群28	
				192								
10	120 瓶	10		244		体部外面タテハケ、内面ナデ。 口縁部内面ヨコナデ。 把手部キザミ口。	赤褐色	1mm以下の砂 粒を多量に含 む。	軟	良好	土師器 土器群1	
				206								
11	192 瓶			192		体部外面中央部ハケ、上半部粗いハケ。内面激しいヘラナデ。 口縁部外面ヨコナデ。 底部外面粗いハケ、内面ヘラズリ。	10YR8/2	粗。1~2mm の砂粒クサリ を多く含む	軟	良好	土師器 土器群15	
				192								

7表 A地区土器観察表(その5)

押 固 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 底	口径 器高	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考
1 1 8	12	121	杯蓋		120	120 114	天井部外面手持ちヘラケズリののちにナデ、内面ヨコナデ及び不定方向のナデ。口縁部外面回転ナデ、内面回転ナデ。	淡灰白色	密。	硬		須恵器
		36										
"	13	121	杯身		98	126	底部外面手持ちヘラケズリののちヨコナデ、内面ヨコナデ。たちあがり部外面回転ナデ、内面回転ナデ。底部付近生焼け。	淡青灰白色	密。砂粒をやや多く含む。	硬	良好	須恵器
		53										
"	14	121	杯身		90	108	底部外面静止ヘラケズリ、静止ナデ、内面回転ナデ。たちあがり部外面回転ナデ、内面回転ナデ。	淡青灰色	粗。5mm以下の砂粒小石をやや多く含む	硬		須恵器
		41										
"	15	121	杯蓋		130	124	天井部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。口縁部外面回転ナデ、内面回転ナデ。	明灰色	密。0.5~1mmの砂粒を多く含む。	硬	良好	須恵器
		41										
"	16	121	把手付 碗		114	64	外面回転ヘラケズリののちヨコナデ。内面回転ナデ。外面波状文(10条)あり。	青灰色	密。0.5~1mm位の砂粒を極少量含む。	硬		須恵器
		64										
"	17	121	有蓋高 杯		101	87	外面杯部上半部から口縁内面にかけて回転ナデ。外面杯部下半部ヘラケズリ。外面脚部ヨコナデ、内面脚部指押さえののちナデ。	灰褐色	密。微小な砂粒を少量含む	硬		須恵器
		94										
"	18	121	有蓋高 杯		112	100	外面口縁部から内面にかけて回転ナデ。外面杯部下部回転ヘラケズリ、杯部脚部接合部ナデ。内面脚部ヨコナデ。	暗灰色~ 赤灰色	密。微小な砂粒を多く含む。	硬	良好	須恵器
		105										
"	19	121	無蓋高 杯		174	107	外面杯部上半部回転ナデ、下半部回転ヘラケズリ。脚部回転ナデ。内面杯部回転ナデ、脚部指押さえののち回転ナデ。	淡青灰色	密。微小な砂粒を少量含む	硬	良好	須恵器
		142										
"	20	121	壺		176	230	外面体部平行タキののちヘラケズリ。外面口縁部から内面にかけてヨコナデ、内面底部オサエ(指、又は工具?)。	N7	密。砂粒をやや多く含む。	硬	良好	須恵器
		20										
"	21	120	高杯杯 部		126		杯部外内面表面割離のため調整不明。口縁部外内面ヨコナデ。	乳灰褐色	粗。1mm以下のクサリ礫、砂粒多し	や や 軟		土師器
		21										
"	22	120	高杯		125	83	脚部外面割離が激しく不明、上半部ハケ一部残る。内面上半部紋目、下半部ハケ、指押さえ。杯部外内面割離が激しく不明、外面上半部ハケ一部残る。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR7/3	粗。0.5~3mmの砂粒、小石を少し含む	軟	良好	土師器
		83										
"	23	120	高杯		132	114	脚部外面上半部ヘラケ状工具による成形痕、下半部ナデ。内面上半部紋目、下半部指頭正底。杯部外面ヨコナデ、内面丁寧なヨコナデののち放射線状のミガキ。	白褐色	密。0.5mm以下の砂粒を含む	や や 軟	良好	土師器
		82										
"	24	120	高杯		132	84	脚部外面上半部タテ方向のヘラミガキ、下半部指ナデ、内面上半部ヘラケズリ、中央部棒状工具による刺突、下部ハケ目の上から指押さえ杯部下半部外面下から上方向へのハケ目、内面タテ方向の細かいヘラミガキ。→	乳赤褐色	1mm以下の砂粒を多く含む	硬	良好	→口縁部外内面強いヨコナデ。土師器
		110										
"	25	小型丸 底壺			105	121	体部外面ナデ、内面指押さえ。口縁部外内面ヨコナデ。体部外面中央部2次焼成受ける。下半部スス付着。	暗灰褐色	粗。0.5mm大の砂粒多く含む	軟	不良	土師器
					102							
"	26	鉢			130	73	体部外内面ナデ、割離のため不明瞭。口縁部外内面ヨコナデ。	7.5YR8/3 ~8/4	粗。0.2~0.5mm位の砂粒クサリ多く含む	や や 軟		土師器
					73							
"	27	壺			115	110	体部外面下半部磨減著しく調整不明、上半部タテ方向の粗いハケ調整体部内面磨減著しく調整不明。口縁部端部は丸く収める。口縁はやや波打つ。	2.5YR/3	粗。砂粒を多く含む。	軟	良好	土師器
					110							
"	28	壺の体 部			150		体部外面表面割離のため不明瞭、内面上半部タテに指ナデ(不鮮明)体部中央部横に指ナデ(不鮮明)、下半部割離のため不明瞭。	10YR7/4 ~7/8	粗。0.1~1mm位の砂粒クサリ多く含む	軟	良好	土師器
					150							
"	29	壺			104	150	体部外面中央部ハケ目、下半部ナデ?、内面未調整(指オサエ、ナデ)。口縁部外内面ヨコナデ。	2.5YR6/4	粗。0.1~0.4mmの砂粒クサリ多く含む	軟	良好	土師器
					146							
"	30	壺			128	148	外面体部上半部ハケ目、下半部磨板によるハケ。内面体部ナデ、中央上部指押さえ、中央下部ヘラケズリ。外面口縁部ヨコハケ。内面口縁部ヨコナデ。	5YR7/4~ 2.5YR7/2	やや粗。0.5~1mmの砂粒を多く含む。	軟	良好	土師器
					141							

7表 A地区土器観察表(その6)

押 込 No	遺 跡 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 底	口 径 高	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考
1 1 8	落	31	123 31	壺		126	152	外面体部ハケ目。外面内面口縁部ヨコナデ。 内面体部上半部ハケ目、下半部ナデ。	5YR7/6	粗。0.1~1.0mmの砂粒、 クサリ礫を多く含む。	軟		土師器
		32	123 32	壺		122	156	外面体部ハケ目。外面内面口縁部ヨコナデ。 内面ケズリ後一部ハケ。	7.5YR8/2	粗。0.3~0.8mmの砂粒を やや多く含む。	軟	良好	土師器
1 1 9	込	33	123 33	壺		120	170	外面体部ハケ目。外面内面口縁部ヨコナデ。 内面上部指押えのちナデ。内面下半部ハケ目。	7.5YR8/3	粗。0.3~1.0mmの砂粒を 多く含む。クサリ礫を含む。	軟	良好	土師器
		1	125 1	杯蓋		128	128	天井部外面右回転ヘラケズリ(3/4回)以上、内面回転ナデ、そのち 不定方向のナデ。 口縁部外面回転ナデ、内面回転ナデ。	青灰色	密。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。	硬		須恵器
1 1 9	込	2	125 2	杯身		117	140	底部外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデのち丁寧な静止ナデ。 たちあがり部外面回転ナデ、内面回転ナデのち丁寧な静止ナデ。	青灰色	密。0.5mm位 以下の砂粒を少 し含む。	硬	良好	須恵器
		3	125 3	無蓋高 杯		157	141	外面杯部下半部カキ目のちケズリ。外面口縁部から内面口縁部板状 工具によるナデ。	紫灰色	1mm位の砂粒 をやや多く含む。	硬		須恵器
1 1 9	込	4	125 4	壺			119	外面体部上半部回転ナデ、下半部静止ナデ。 内面体部上半部回転ナデ、下半部静止ナデ。	暗青灰色	密。	硬		須恵器
		5		壺? 体部			82	外面体部ヨコナデ。外面底部ヘラケズリ。 内面体部ヨコナデ。	青	密。0.5mm位 以下の砂粒を少 し含む。	硬	良好	須恵器
1 1 9	込	6	127 6	口縁		204		外面ヨコナデ。 内面ヨコナデ。 3帯の波状文、2条の突帯あり。	10YR8/1 ~8/2	密。0.1~0.5mm位の砂粒 を多く含む。	硬	良好	須恵器
		7	125 7	壺			234	外面口縁部から内面口縁部にかけて回転ナデ。外面体部上半部平行タ タキのち回転カキ目調整。外面下半部平行タタキ。内面体部上半部指 頭庄痕のちナデ、下半部スリ消しナデ。	青灰色	密。	硬		須恵器
1 1 9	込	8		高杯の 脚部				外面ヨコナデ。 内面ヨコナデ。 凹線文あり。	10Y5/1	密。0.5mm位 以下の砂粒を少 し含む。	硬	良好	須恵器
		9	124 9	高杯		脚部 直径	83	外面口縁部丁寧なヨコナデ、杯部から脚部にかけてハケ。 外面杯部、脚部、接合部指押え。内面杯部ヨコナデ。脚部下半部絞り 指押え。	2.5YR5/8	粗。砂粒を多 く含む。	やや 軟		土師器
1 1 9	込	10		底部 壺?				外面ハケ。 内面ヘラケズリ。	5YR8/4	粗0.5~2mm の砂粒小石を やや多く含む	軟	不良	土師器 全体に砂っぽい
		11	125 11	壺		204		不明瞭なるも外面口縁部から内面口縁部にかけてヨコナデ。 その他表面剝離強く調整不明。	5YR6/8	粗0.2~0.8 mmの砂粒をか なり多く含む	軟	不良	土師器
1 1 9	込	12		壺				外面口縁部ヨコナデ。外面上半部タタキ。 内面ナデ。 1帯の波状文あり。	5P7/1	密0.5~2mm の砂粒、小石 を少し含む。4mmの小石を含む。	硬	良好	須恵器?
		13	124 13	壺		128	172	外面口縁部から内面口縁部にかけてハケ目後ヨコナデ。 外面体部ハケ目。内面体部粗いケズリの上にナデ。	5YR6/2,3	粗0.3~0.9mm の砂粒を やや多く含む。	軟	良好	土師器
1 1 9	込	14	124 14	壺		203	298	外面口縁部から内面口縁部にかけてヨコナデ。 外面上半部剝離の為不明。外面中央部ハケ目。外面下半部剝離の為不 明。内面中央部ハケ。	5YR6/3	粗。砂粒を多 く含む。	やや 軟	良好	土師器
		15	124 15	瓶		230		外面口縁部から内面口縁部にかけてヨコナデ。 外面体部タテ方向のハケ。外面底部ハケのちナデ。内面体部調整不明 内面下半部指押え。17個の穿孔あり。	2.5Y7/2	粗。砂粒を多 く含む。金 灰を含む。	堅 硬	良好	土師器
1 2 0	込	16	125 16	杯蓋		125	121	天井部外面2回にかけて回転ヘラケズリ(時計まわり)。内面回転ナ デ。 口縁部外面回転ナデ、内面回転ナデ。	灰色	密。0.5mm位 以下の砂粒を含 む。	やや 軟	良好	須恵器

7表 A地区土器観察表(その7)

採 集 地 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 量 器 高	口径 器 高	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考
1 2 0 落	17		杯身	106	受部	132	底部外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ。 たちあがり部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ。	5B5 /1	密。やや多く 砂粒を含む。	硬		須恵器
					径							
"	18	125 18	杯身	98	受部	122	底部外面回転ヘラケズリ(外面敷ケ所に火事状の痕跡)、内面ヨコナデ。 たちあがり部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ。	7.5YR5/1	粗。砂粒を含む。	硬	良好	須恵器
				50	径							
"	19		蓋	115			内外面ともヨコナデ。	10YR8/1	粗。1mm以下 砂粒を極めて 少量含む。→	やや 軟	良好	須恵器 →クサリ礫を含む。
"	20		鉢の口 縁	110			口縁部外面回転ナデ。 内面回転ナデ。 口縁外面、中央部、下半部比喩。	7.5Y5/1 ~4/1	密。0.1~0.2mm位の砂粒 を少し含む。	硬	良好	須恵器
"	21	125 21	高杯の 脚部		脚部	98	脚部内・外面ヨコナデ。	7.5B5/1	密。0.5mm以下 の砂粒を極めて 少量含む	硬	良好	須恵器
"	22		高杯の 脚部		脚部	106	脚部内・外面ヨコナデ。 長方形のスカシ穴か?	N7	密。1mm以下 の砂粒を少し 含む。	硬	良好	須恵器
"	23		高杯の 脚部		脚部	140	脚部内・外面ヨコナデ。 脚部外面、上半部凹輪文。スカシ穴4箇所。	N5~4	密。0.5~2.5mmの砂粒を やや多く含む	硬	良好	須恵器
"	24		高杯の 杯部	154			杯部外面下半部ヘラケズリの後ヨコナデ、中央部ヘラケズリ、上半部 ヨコナデ。内面ヨコナデ。 杯部外面中央部波状文。	N3/0	粗。砂粒を多く 含む。	硬		須恵器
"	25		甕	188			口縁部内・外面ヨコナデ。	10Y5/1	密。砂粒をや や多く含む。	硬		須恵器
"	26		甕	186			口縁部内・外面ヨコナデ。	N5/0	密。やや微砂 粒を含む。	硬		須恵器
"	27		甕	240			口縁部内・外面回転ナデ。	N8/0	密。0.1~0.4mmの砂粒を 少し含む。	硬	不良	須恵器
"	28		高杯の 杯部	134			杯部外面下半部幅1mm位のハケ目、上半部剝離の為調整不明。 内面剝離の為調整不明。	2.5YR7/8	粗。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。クサリ礫を多くふくむ。砂っぽい。	軟	良好	土師器
"	29		高杯の 脚部	132 102			脚部外面中央部幅の広いヘラミガキ、上半部ハケ目。 内面下半部ハケ目、中央部ヘラミガキ。	2.5YR7/8	密。 砂粒を多く含 む。	やや 軟	良好	土師器
"	30	124 30	甕	110	128		体部外面上半部ハケ目(約2cmの幅に10本程の凹部があるハケ目)。 内面 中央部ナデ、上半部指押え。 口縁部外・内面ヨコナデ。	2.5YR7/6	やや粗。0.1 ~0.5mm位の 砂粒を多く→	やや 軟	良好	土師器 →含む。クサリ 礫を含む。
"	31	124 31	小型鉢 の体部				体部外面下半部格子タタキ(斜め方向)。最下半部指押え気味のナデ 上げ。内面下半部ヨコナデ、最下半部指押えのちヨコナデ。底部外面 指押え、内面強いヨコナデ。	10YR7/4	密。砂粒をや や多く含む。	やや 軟	良好	土師器
"	32	125 32	甕	139 199	187		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部ハケ目、内面中央部表面剝離 激しくハケ目ががすかに残る。上半部指押え。内外面下半部表面剝離 激しく不明。体部外面中央部から下半部、口縁部に黒斑。	2.5YR7/6	粗。0.2~0.8mm の砂粒を 含む。	軟	良好	土師器
"	33	124 33	甕	168			口縁部内外面ヨコナデ。 体部上半部外面荒いハケ目、内面指押えのあとヨコナデ。	2.5YR7/4	粗。1~2mm の砂粒を多く 含む。	硬	良好	土師器 体部内面にス 付着
"	34	126 34	甕	240			口縁部外面ヨコナデ。その他表面剝離の為調整不明。	7.5YR7/4	0.3~0.8mm の砂粒をやや 多く含む。→	軟	良好	土師器 →5×3mmのク サリ礫多く含む
"	35		甕	248			外面タタキのちナデ。 内面ヨコナデ。	N7	密。	硬	良好	須恵器

表7 A地区土器観察表(ひの8)

邦図 No	遺物 名	遺物 番号	図版 番号	器 種	法	口径	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	器 質	焼 成	備 考
					底	器高							
1 2 0	落 込 1	36		瓶		295		口縁部外面から内面にかけて回転ナデ。 体部外面平行タタキのち回転ナデ。	淡青灰色	粘	良	良好	須恵器

第2節 D地区の調査

1. D地区の層序

本調査区は延長123m余の南北に長いトレンチである。深さG.L. -4.5m~-6.5mまでの主な遺構は、弥生時代~縄文時代の4条の自然河川と河川の安定期に作られた微高地上の集落跡や水稲耕作に利用された粘土層~シルト層の畦畔である。Dトレンチの土層は、縄文時代と弥生時代後期に流れた大規模な4本の自然河川のうち、調査地南端の弥生時代後期前半の河川と北端の縄文時代の2本の河川が形成した粗砂層の微高地が集落跡の居住地域に利用され、砂層から粘土層に土層が変化した低地部は水田に利用されている。大略して、粗砂層上に集落跡が営まれ、粘土、粘質土層上では水稲耕作されていたのであろう。さらに、近世の頃には大規模な整地が行われて、本調査地の南端から中央部まで削平されたらしく、本トレンチの南に隣接する第2調査区のEトレンチの土層や遺構面に比して本調査区の遺構、遺物量は、はるかに少ない。

第I層 主要な土層 にぶい黄褐10YR5/4山砂層（盛土）。

現地盤はT.P.+6.4m~+6.9mで調査区の中央部~北部が低い。昭和40年代に開通した中央環状線建設工事に伴って水田に入れられた山砂の盛土層になり、層内には岩石、コンクリート片等種々雑多な廃棄物も含まれる。

第II層 主要な土層 灰オリーブ7.5Y6/2、（灰10Y4/1、暗オリーブ灰2.5GY4/1）粘質土層。

T.P.+6.1m~6.3mに堆積した厚さ50~60cmの粘質土層である。これらの土層には、陶磁器、瓦、土器類が含まれ、近世~現代まで水田に利用されていた畦畔、小溝を検出した。

第III層 主要な土層 黒褐10YR3/1、褐灰5YR4/1粘質土層。

T.P.+5.4m~5.7mに堆積した厚さ10~20cmの粘質土層で、調査地区中央から北にかけてみられる。砂層がおおう北側では保存状態の悪い畦畔を検出しているが、中央から南半部では確認できなかった。弥生時代後期の河川の微高地にかかる周辺は削平されたのか奈良時代~弥生時代後期の遺構を同一遺構面で検出している。第2・3遺構面がある。

第IV層 主要な土層 褐灰10YR4/1粘質土層。暗緑灰10G4/1粘土層。灰黄褐10YR4/2粗砂~微砂層。

T.P.+5.2m~5.4mにかけて堆積した厚さ20~40cmの粗砂~粘土層である。北へ行くにしたがって粘土層が厚くなり、その中に細砂層を一部含むようになる。調査区中央付近では、小溝やピットを若干検出しており、北端の一部の土層は第III層に漸次移行する。第4遺構面（1）（2）（3）がある。

第V層 主要な土層 暗オリーブ7.5Y4/3～灰オリーブ7.5Y5/3細砂層。オリーブ灰10Y5/2粗砂層。暗緑灰10GY4/1シルト層。

T.P. +4.8m～5.3mにかけて堆積した厚さ10～30cmの砂層である。この砂層からは弥生時代後期の土器が出土している。一部は第III層に漸次移行する。

第VI層 主要な土層 暗緑灰10GY4/1、暗オリーブ灰5GY4/1粘土層。暗緑灰7.5Y4/1粘質土層。

T.P. +4.6m～5.0mにかけて堆積した厚さ15～29cmの粘土層～粘質土層である。この土層上面からは、弥生時代後期の水田、水路、畦畔を検出している。第5遺構面がある。一部は第III層に漸次移行する。

第VII層 主要な土層 オリーブ黄5Y6/3、灰オリーブ5Y5/2、5/3、オリーブ5Y5/4粗砂～細砂層。

T.P. +4.6m～4.7mにかけて堆積し、南端の自然河川が運搬してきた砂層である。砂層の下の粘土層上面の一部には人間の足跡がついている。北部ではみられない。

第VIII層 主要な土層 オリーブ5Y5/4粘土層、粗砂層。

T.P. +4.6mにある厚さ0～20cmの粘土層と粗砂層で、黒色土層上面から掘り込まれた遺構の埋土層および包含層である。第6遺構面がある。

第IX層 主要な土層 黒2.5Y2/1粘質土層、粘土層。

T.P. +4.6m～3.6mにかけて堆積し、厚さ20cmほどの土層中には多くの土器片が含まれている。調査地の北部約35mにはピット、溝、建物等の遺構が濃密にある。一方、中央～南部には3条の溝の他に小ピットが若干認められるにすぎない。第7・8遺構面がある。

第X層 主要な土層 黒5Y2/1粘質土層。黒10YR2/1粘土層。黒7.5Y2/1粘土層。

T.P. +4.4m～3.4mにかけて調査地の北半部には約20cmの厚さがあるが、南へ向かって下降し、中央部付近で途切れている。

第XI層 主要な土層 青灰10BG6/1、灰N4 細砂層。オリーブ黒5Y2/2、オリーブ黒10Y3/1粘土層。

T.P. +4.4m～3.9mにかけて堆積し、おおそ南から北へ向けて流れる河川堆積の粗砂層と細砂層である。河川の肩部には鹿の足跡が認められ、砂層中からは縄文時代後・晩期の土器が出土している。第9遺構面がある。

第Ⅻ層 主要な土層 灰10Y5/1粘土層（灰オリーブ5Y4/2粘質土層、灰オリーブ7.5Y6/2～灰白7.5Y7/2細砂層）。灰白5Y8/2粗砂層。

T.P.+3.3m～2.8mにかけて堆積した厚さ70cm近い粗砂層～粘土層である。これらの土層は幅約10m、深さ2.0m以上の河川による土砂の堆積である。河川内の粗砂層から出土した遺物は縄文土器である。

第Ⅼ層 主要な土層 黒N2粘土層。

T.P.+3.2m～2.6m付近にあり、土層の厚さ10～20cmで、北から南へゆるく傾斜し、南端部は第12層によってえぐられ流出している。

第Ⅽ層 主要な土層 暗緑灰7.5GY4/1粘土層～微砂層。

T.P.+3.0m～3.1mにある厚さ40～70cmの土層である。

第Ⅾ層 主要な土層 灰オリーブ7.5Y6/2粗砂層。オリーブ灰5GY5/1微砂層。

T.P.+2.6m付近にある南西から北東に流れる河川の砂層で、この砂層からは縄文式土器が出土し、河岸近くの斜面から、人間と鹿の足跡を検出している。

第Ⅿ層 主要な土層 黒N2粘土層。

T.P.+2.7m～2.5mにあり、南端のT.P.+1.7m～2.0mにあるオリーブ黒7.5Y3/1粘質土層に対応する土層であるかもしれない。

第ⅰ層 主要な土層 暗緑灰10G4/1シルト層。暗オリーブ灰5GY4/1粘土層。

T.P.+2.3m～1.8m付近にある40～100cmの厚さの土層である。ごく一部の粘土層上面には鹿の足跡が残されている。

第ⅱ層 主要な土層 オリーブ黒10Y3/1、灰10Y4/1粘土混じり粗砂層（植物遺体多し）。

T.P.+1.4m～1.5m付近にある土層である。上の土層になるほど植物遺体を多く含む。また、鹿の足跡も認められる。

2. 第10遺構面～第9遺構面（付図—8・9・10）

T.P. ±0～+4 mまで堆積している粘土層～砂層中には3本の自然河川と1ヶ所の河川状窪みがある。河川の砂層中からは縄文土器片が多く出土している。また、河川内と砂層下の粘土層上面には相当数の人と鹿の足跡が残されていた。このほか、Aトレンチと同様に自然河川内から予期しない土器が出土し、中には完形品に近い土器もある。また人間が活動した痕跡を示すものとして河岸に残された足跡がある。層位的には、河川—3→2→1と新しくなる。

河川—1〔付図—10、第150図1～7、図版134上〕

この河川は、南から北西へ弧を描いて走る。推定川幅約10m、深さ約1mを測る。河川内には粗砂～小礫が堆積し、河床底付近から縄文土器片を採集している。土器片の多くは多少の程度はあるが磨滅している。また、この河床底は川水によってえぐられた部分が激しい起伏状態を残しており、水勢の激しかったことを示している。D—2トレンチの河床底ではT.P.+3m付近の黒色粘土層の大半が流失している。遺構は、西岸部に人間の足跡が認められた。

出土遺物は第150図—1～7で縄文時代中期（4）、後期北白川上層式、晩期滋賀里Ⅱ～Ⅲ式（1～3・5・7）とその他（6）の土器が出土している。

河川—2〔付図—9、第150図8～13、図版133・134下・185—8～13〕

河川2は、南西から北西方向へ弧を描いて走る。幅は約10m、深さは2.5m以上を測り、肩は鋭く落ち込む。河岸のレベルは、南のD—7トレンチ付近でT.P.+3.0m、北のD—3トレンチ付近でT.P.+3.4mを示し、北方が少し高い数値を示す。出土遺物は砂層中から出土した縄文土器（第150図1～13）で、中期の土器8、9、後期の北白川上層式10、11、晩期の滋賀里Ⅱ～Ⅳ式12、13である。砂層上の粘土や河岸から遺物は出土していない。足跡、杭等の遺構は認められなかったが、ここでは河川—1、3から足跡が検出されていることもあり、河川—2の出土遺物が多いことから一応遺構面に順じておく。

河川—3〔付図—8、第151図14・15、図版131・132・184—15・185—14〕

本河川は、トレンチ西側北寄りからD—2トレンチにかけて南北約50mの範囲で検出した。この河川で検出した個所は、西岸約40m、東岸約4mの他にD—3、5両トレンチで検出した西岸と見られる個所の延長が17.6mである。東岸部分は、河川—2によって削られている。遺構は西岸、河床底から検出した人間の足跡がある。この他、沢山の鹿の足跡を岸辺、河床底から検出している。遺物は縄文土器が出土している。

出土遺物は第151図—14～15である。

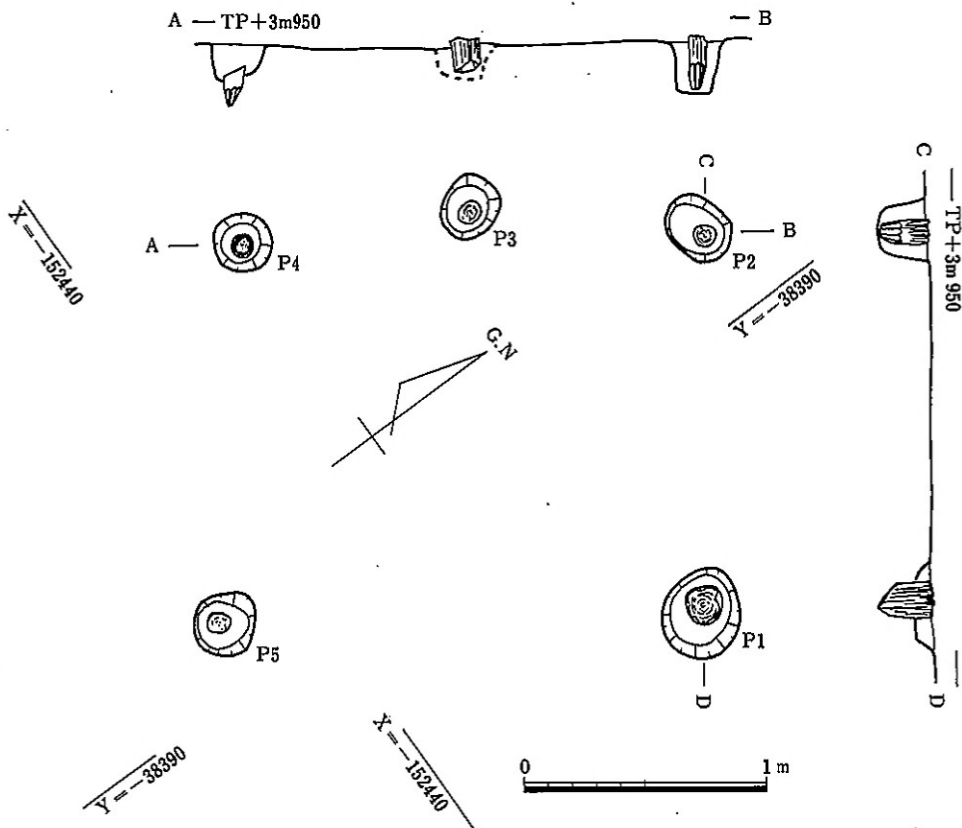
14の深鉢は、突起外面に疑縄文（ヘナタリ貝）と鍵型に納める沈線を入れる。腹部に沈線4条をひき、上、下段の条間には縄文（LR）を入れ、中段の条間は無文帯にする。内外面の調整は

幅の広い（ヘラ）ミガキが施される。元住吉山Ⅱ式（あるいは一乗寺K式）に比定される。

15は、角張った素文の口縁と、腹部には粗いLRの縄文の上に直線の沈線4条を描き変形ノ字形、S字形で接続する。内外面は幅広い（ヘラ）ミガキが施され、底は拓本に示すような網底底である。なお、この土器の胎土には緑色片岩の円礫（径1～5mm）が多量に含まれている。元住吉山Ⅱ式に比定される。

3. 弥生時代中期後半～後期初頭の遺構と遺物

弥生時代中期～後期の遺構は、縄文時代の河川1～3が多量の土砂を運搬、堆積した結果生じた微高地上に造られている。第6～8遺構面は、これらの河川の中でも最後の河川－1の旧河道の流心部分にあたり、周辺より約40cm程高くなった極微高地を利用した集落跡、とりわけ居住域に該当するのであろう。検出した建物、井戸、土壌、溝等の遺構は、旧河道部分の微高地を巧みに利用し、遺構密度も高いが、河道部分から距離を隔てると遺構密度も減少する。このような極微地形を利用して造られた遺構のうち、第6～8遺構面がトレンチ全体の、黄色粗砂～青灰色シルト層上面に形成され、第7・6遺構面は、トレンチ北部の約35m間に部分的に堆積した黑色シ



第123図 第8遺構面建物－1平面実測図・見透し図

ルト層上面に第7遺構面、さらに上層に堆積した黒色粗砂混じり粘土層上面に第6遺構面が認められる。

遺物は10~35cm程堆積した黒色砂混じり土層、シルト層から土器片、石器、サヌカイト片、獣骨片等が多量に出土している。

A. 第8遺構面〔付図-11、図版136・139・140・142・145~147・149・151・153〕

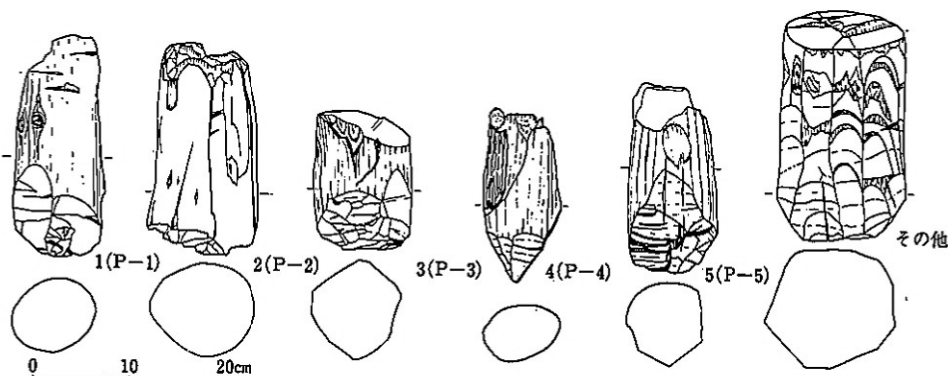
本遺構面は、トレンチ北部と中央以南の2地区で遺構の様相が大きく異なる。北部約35mの地区には、建物、井戸、柱根、小溝、土壌等が検出されたが、中央以南の地区は、小溝、小ピット、3条の大溝が散発的に見られたにすぎない。また、遺構面の比高差もかなり大きく、高い北部と低い南部では1mの差が認められ、土質も砂層から粘土層に移行している。このように、土質の差もあって、集落内の遺構の性格も北の居住域から南の非居住域へと変化している。

次に主要な遺構を記述する。

建物-1〔付図-11(1)、第123・124図、図版139上・140上〕

D、D-1トレンチ、d-1の3、4区から検出した掘立柱建物である。建物は桁行推定2間、柱間寸法140cm、梁行2間、柱間寸法185cmで、東西棟の建物である(第123・124図)。検出した5個の柱穴掘方は径20~30cmの不整形な円形を呈し、深さは5~20cmである。柱根の保存状態はかなり良く、土中に埋もれていた端部の加工痕は明瞭に残り、端部を平坦にしたものと尖鋭にしたものの2者がある。柱根端部の加工に対応して柱の掘方、据え方にも差異があり、端部を平坦にした柱は掘方内に埋める(P-2・3)が、尖鋭にした柱根端部は掘方よりもさらに15~20cmほど深く達している(P-1、4、5)。建物の柱を埋め込む際、打ち込んだためと考えられる。方位はN-53°-Wである。推定1×2間の建物かと思われる。

ピット群〔付図-11(1)、第124図、図版139上〕



第124図 第8遺構面建物-1他柱根実測図

D、D-1、D-2 トレンチの第8～第6遺構面から数百ヶ所のピットを検出したが、第8遺構面で見出したものが過半数を占める。また、多くのピットはDトレンチ北部～D-2トレンチに集中しており、地区では、c-2の3・4、d-2の1～4区、e-2の1～4区、e-1の3・4区、f-2の2区の11区が多い。また、ピット数の少ない地区はc-2の3、c-3の3・4、d-1の2・4区、e-1の2区、e.d-10区、f-1の2・4区、f-2の1・3区等である。ピットの大きさは、径10～30cm、深さ5～20cmのものが多く、埋土は黒色粘土層（有機物多し）である。これらの他に径50～100cm、深さ数cm～20cmの土壌も散見される。

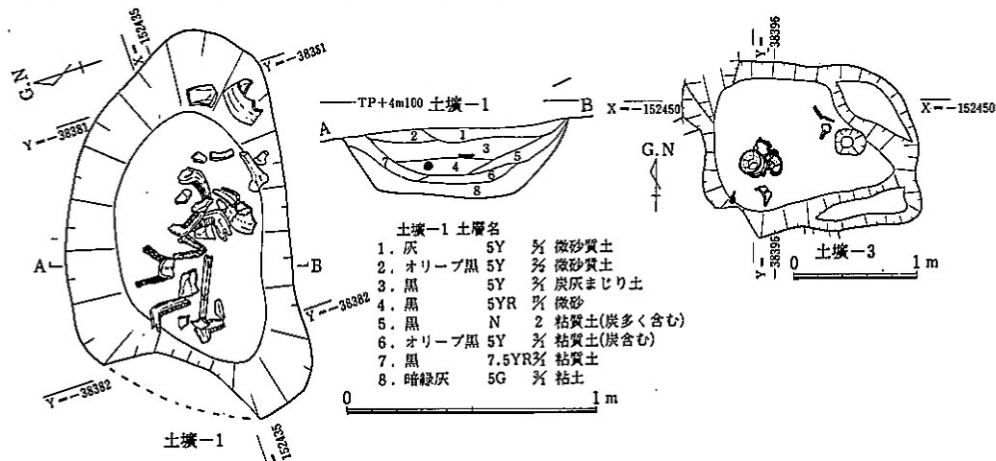
これらの中で、ピット内に柱根を残していたものもある（第124図の6）。e-2の1区の4ヶ所のピットは径10cm前後の柱根が残り、柱先端は平坦なものと同鋭なもの2者に分けられ、柱の据え方に建物-1と共通した方法が見られる。他に柱根を残していたピットは、d-1の4区から1ヶ所検出している。

溝-1、5、9、10、11、13、14、16～19 [付図-11 (1)、図版145上]

調査区内を縦横に走る幅20～60cm、深さ10～30cm、長さ1～6m余、断面形状が、U字形の狭小な溝である。溝内埋土は黒灰色砂質土～粘土層に炭化物、土器等の細片が含まれている。これらの溝はいずれも直線的に走る溝で、屈曲の度も少ない。その中で、溝16～19は幅60cm、深さ30cmとやや大きい。なお、小溝群は周囲のピットや土壌との時期に前後関係があり、小溝群の方がやや新しくなる。

溝-21～40 [第130図]

D-2 トレンチで数多く検出された小溝群である。溝の規模は、幅が50cmにも満たないものが多く、深さも10cm前後のものが多く、溝29、30は大きくカーブし、長さも10mを超える。断面形状は、先の小溝群と同じく断面U字形である。D-2 トレンチでは、溝群の後にピットや土壌



第125図 第8遺構面土壌-1・3平面・断面実測図

が造られ、第7遺構面との間に中間の遺構面（第8面の2）を形成している。

溝-2~4、6~8、20〔付図-11（1）、第129図、図版151上〕

これらの溝は、幅1m前後、深さ10~30cmで断面形状は皿形やV字形で一定していない。特に溝-3、6~8はゆるく弧を描いて連結しており、長さ3~5mの溝の配置が鍵形やコ字形を呈する。溝の埋土中からは、炭、灰、土器片、獣骨片焼成等いわゆる日常生活に伴うゴミが大量に出土している。

溝-12、15〔付図-11（1）、第127図〕

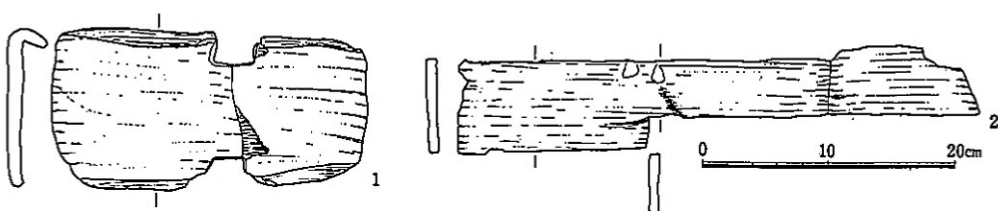
これらの2条の溝は、幅50cm前後、深さ10~20cm、長さ3.7と13m以上を測り、それぞれ土壌に連続する。断面形状は鈍いV字形を呈する。溝の埋土は黒色土層である。溝-12は南北方向の溝で、南端部が西へ強く曲がり、土壌-2に連なる。溝-15は東西方向の小溝で、井戸-1に連なる。この溝は井戸との接続地点に半円形の切込を施した加工板材を横架しており、小溝あるいは井戸からの水を引落とすか引入れる導水関連の施設を設置している。溝-12、15の溝底のレベル差は小さく2~3cmで、井戸、土壌の方が若干低くなる。出土遺物は溝-15からは土器細片が少量出土しているのみである。

土壌-1〔付図-11（1）、第125図、図版147・146下〕

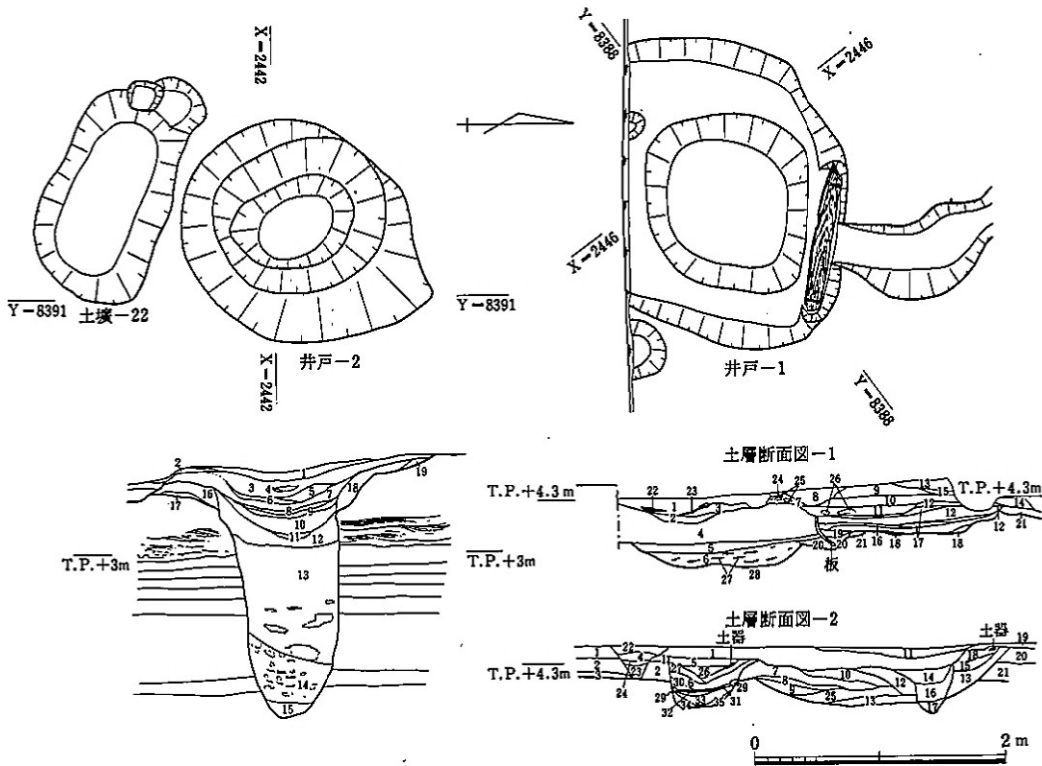
d-2の1区に位置し、長軸170cm、短軸100cm、深さ40cmの不定形な土壌（第125図）で、境内には獣骨（鹿）と灰・有機物が散乱していた。特に鹿の上下顎骨は左右に2分割されており、四肢骨も完形のものはなく、打割られ長さ10~30cm前後になったものが廃棄されていた。この他、数点の土器片が骨片と一緒に出土した。なお、骨に対する加工痕と加熱（焼）痕は認められず、食用に供したものの残滓であろうと思われる。

土壌-2〔付図-11（1）・（2）、第126図〕

e-2の2区にあり、長軸1.8m、短軸1.6m、深さ約50cmで、平面形が円形、断面が挿鉢状を呈する。境内の埋土は黒色土層で、土器片数点が出土している。なお、この土壌は、北方に延びる溝-12と関連するものと考えられる。土壌内からは木器1点と加工木（第126図1・2）が出土



第126図 第8遺構面土壌-2出土木器実測図



＜井戸-1 土層断面図-1＞

1. 黒 10YR 粘質土
2. 黒 7.5Y 粘質土(粒子細かい)+粗砂混
3. 黒 5Y 粘質土(多量に砂含む)
4. 灰オリーブ 5Y 中砂と黒10YR粘質土の互層ミナ
5. オリーブ黒 5Y 砂質土(粘性あり)
6. 灰オリーブ 5Y 中砂
7. 黒 5Y 粘土ブロックと灰黄色砂
8. 黒 5Y 粘質土(粘土ブロック含む)
9. オリーブ黒 5Y 粘質土(粗砂多量を含む) 小ブロック粘土含む
10. オリーブ黒 5Y 粘質土(粗砂多量を含む) 小ブロック粘土含む

11. 黒 2.5Y 粘土ブロックと10の土
12. 黒 2.5Y 砂質土
13. 10よりも硬質性
14. 黒 7.5YR 粗砂混土
15. 黒褐 7.5YR シルト質土
16. 黒褐 2.5Y 炭まじり砂
17. 黒褐 10YR 炭まじり土
18. 黒褐 2.5Y 土まじり砂
19. 暗灰黄 2.5Y 砂(土少々含む)
20. 暗灰黄 2.5Y 粗砂
21. 黒褐 7.5YR 粘土まじり粗砂
22. におい黄 2.5Y 灰
23. サスカイト

24. 粘土ブロック
25. 微砂
26. ブロック状粘土
27. 灰黒色砂
28. 砂

＜井戸-1 土層断面図-2＞

1. 黒 7.5YR 砂質土(粗砂混)
2. 赤黒 2.5YR 砂質土
3. オリーブ黒 5Y 砂質土
4. におい黄粒 10YR 中砂
5. 黒 10YR 砂質土
6. におい黄褐 10YR 粘質土
7. 黒 10YR 粘質土(粗砂含む)
8. 灰黄褐 10YR 中砂(粘砂少量含む)
9. におい赤褐 2.5YR 中砂
10. 黒褐 2.5Y 砂質土(中砂)
11. オリーブ黒 5Y 粘土(中砂少量含む)
12. 黒褐 7.5YR 砂質土(中砂)

13. 黄灰 2.5Y 中砂
14. 黒 10YR 砂質土(中砂)
15. 灰黄褐 10YR 中砂(粗砂少量)
16. 黒褐 2.5Y 砂質土(中砂)
17. におい黄 2.5Y 中砂
18. 黒褐 5YR 砂質土(粗砂少量含む)
19. 黒褐 10YR 砂質土(粗砂少量)
20. 黒褐 10YR 砂質土(粗砂少量)
21. 暗灰黄 2.5Y 砂質土
22. 赤黒 2.5YR 砂質土(粗砂含む)
23. 黒褐 5YR 砂質土(有機質多量含む)
24. 褐灰 10YR 砂質土

25. 黒褐 10YR 中砂質土
26. 黒褐 7.5YR 砂質土(粗砂少量)
27. 黒褐 10YR 砂質土
28. 黒褐 10YR 粘質土(炭含む)
29. 青灰 5BG 粘土
30. 灰 7.5Y 灰
31. 黒 N 1.5 炭(木炭多量含む)
32. 青黒 5PB 炭、炭まじり土
33. 暗灰 N 3 炭まじり粘質土
34. 明オリーブ灰 2.5GY 砂質土
35. オリーブ灰 2.5GY 微砂質土

井戸-2 土層名

1. オリーブ黒 7.5Y 粘土(シルト質)
2. 灰黄褐 10YR 中砂
3. 黒 5Y 粘土(植物遺体含む)
4. 黒 5Y 粘質粘土(黄色砂含む)
5. 黒 5Y 炭化物(粒子が細かい)(粘土)
6. 黒 5Y 炭化物(粘土)
7. 黒 5Y 粘土(植物遺体含む)
8. 黒 N 2 粘土(炭化物層)
9. 黒 5Y 粘土
10. 黒 2.5Y 粘土(9より戻り)

11. 黒 5Y 粘土
12. 黒 10YR 粘土(植物遺体含む)
13. 黒 7.5Y 粘土(暗緑灰10Gブロック状に含む)有機質層
14. 黒 2.5GY 粘土(オリーブ灰2.5GYブロック状砂含む、上層より多い)植物遺体層
15. 暗緑灰 7.5GY 粘質土(粘土含む)
16. 黒 2.5Y 粘質土(微砂混り)
17. 暗緑灰 7.5GY 青緑灰色微砂
18. 黒 5Y 粘土(微砂混り)
19. 黒 2.5Y 粘土

第127図 第8・6遺構面井戸-1・2平面・断面図



第128図 第8遺構面井戸—1出土板材実測図

している。

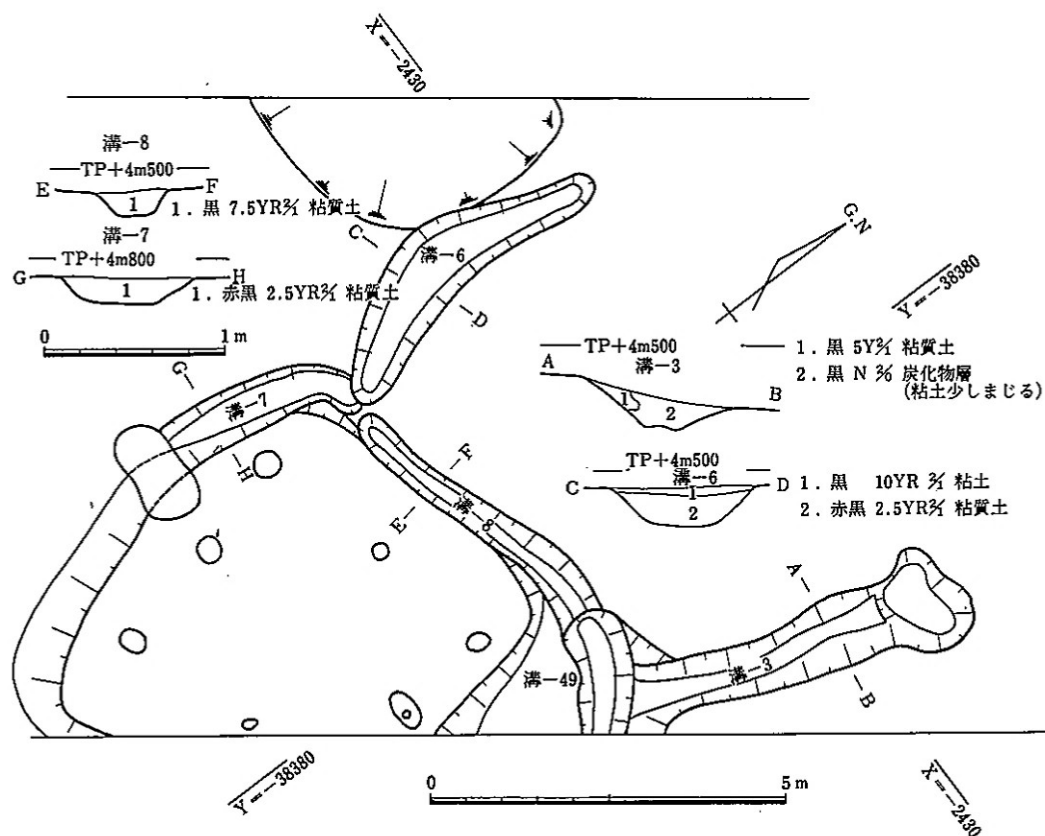
土壌-3 [付図-11 (1)、第125図・156図、図版149下]

e-1の4区にある。長さ1.8m、幅1.3m、深さ約50cmの方形プランに断面逆台形の土壌(第125図)である。土壌内のオリーブ黒色粘土には、壺等の土器片(第156図129~132、図版131・186)と共に獣骨片(鹿)、灰、炭化物等がかなり多く含まれていた。また、逆立ちして出土した壺の底部は、往時溝-50の掘削時に欠き取られたのであろう。

土壌-4・他 [付図-11 (1)]

D-2トレンチ、f-2の2区から検出した長軸1.2m、短軸65cm、深さ10cmの不整形な土壌である。この他黒色シルト層の上面には第130図に示すような小溝(21~40)と土壌(7~12)に小ピットが多い。遺構の埋土は炭、灰を多く含む。特に土壌7、9~11は炭・灰を多く含む。

井戸-1 [付図-11 (1)、第127・128・157図、図版151・153下]



第129図 第8遺構面溝平面・断面実測図

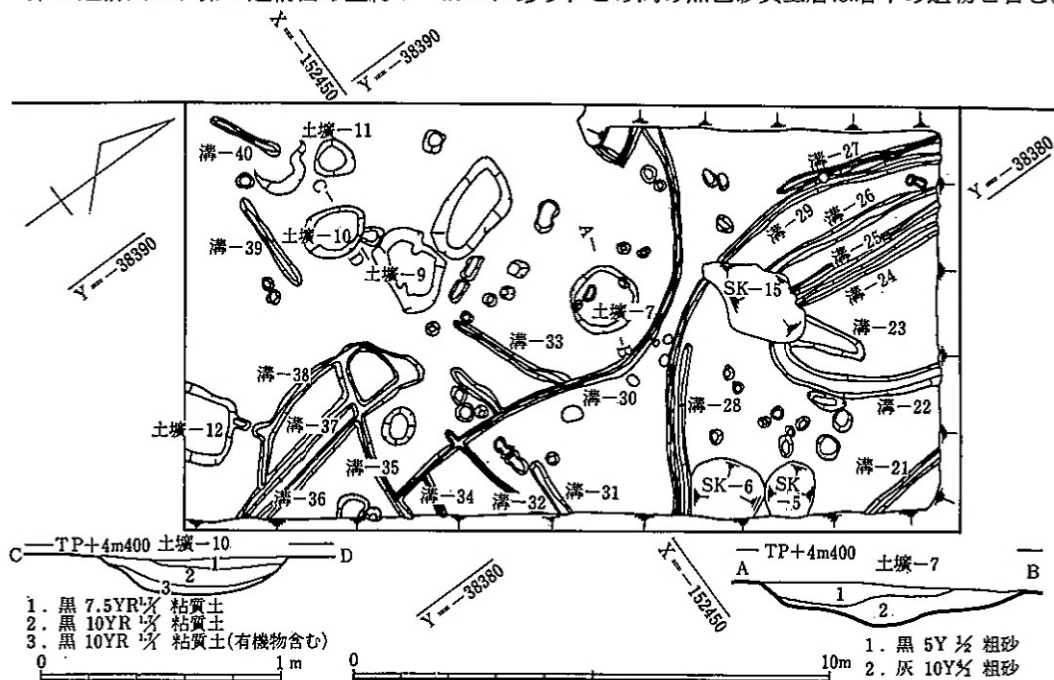
井戸-2の南東約5m、e-2の4区にあり、径約2.2~2.3m、深さ約30~40cm、西側に長さ約115cmの加工板を横に於てた特異なものである。土層断面(第127図)を見ると、2段掘りした土壌の下半部を一旦埋め、西側に横板を入れるために溝を掘り、そこに板材を架している。溝内の土層は砂や砂質土が水平堆積となる。井戸内は4の砂層が一括して埋まっている。その上の1~3の土層はブロック状の埋土である。出土遺物は、弧状の板材の両端に小さい角形のホゾ穴と細い溝を切り込んだもの(第128図)と土器(第157図133~147、図版151~135)が出土している。

土壌-7~12〔第130図、図版142、145〕

D-2トレンチにある第8遺構面と第7遺構面の中間の遺構面にある。土壌-7(図版45下)はe-2の3区にある径1.4m、深さ約10cmの浅い落込で、埋土は黒色粘質土である。土壌-8はf-2の1区にあり、深さ、埋土は土壌-7と同様である。土壌-9~11(図版141)はf-2の2区にそれぞれ数10cm~1m余りの距離間にある。土壌-9は1.8×1.2m、深さ40cmの不整形プランで、断面は逆台形状をなす。土壌内には黒色炭や灰層(第3層)、黒色粘土の部厚い層がある。遺物は獣骨片(鹿)、土器片が出土している。土壌-10・11は、径0.8~1.4m、深さ約20cm、堆積土は黒色炭層、粘質土で断面形は皿状を呈する。遺物は土器片が出土している。土壌-12は、長さ1m以上、幅約1.5mで、断面形は逆台形を呈し、黒色粘土層の埋土である。

B. 第7遺構面

第7遺構面は、第8遺構面の上方約5~15cmにあり、この間の黒色砂質土層は若干の遺物を含む。



第130図 D-2トレンチ第8遺構面の2 溝・土壌平面実測図

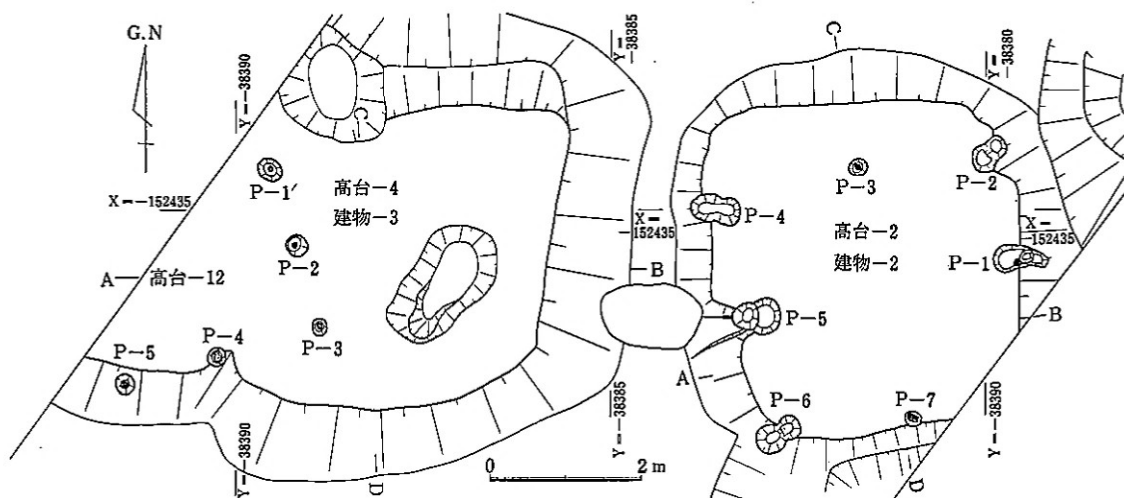
この上には黒色有機質粘土層が薄く堆積している。遺構はこの黒色有機質粘土層の下、黒色砂質土層の上面に形成され、遺物は粘土層と砂質土層の境目から出土したものが多。主要な遺構は、特異な高台にある建物、土壇、溝、井戸等である。出土遺物は、土器、石器、種子核、獣骨片、サヌカイト片等で、それらの量は非常に多い。

溝-42~44 [付図-12 (1)、図版154上]

トレンチ中央部のg-9・10、h-9・10の4区によく見られる不定方向の小溝群で、この他にも7~8条の小溝がある。溝の形状は、幅広の浅いものや弧を描くもの、狭く直線的なもの等様々である。埋土は黒灰色シルト層のものが多い。いずれの溝からも遺物は出土していない。

溝-45~47 [付図-12 (1)~(4)、図版154・156~158]

溝-45、g-9からh-10区へ南東からゆるく南へ弧を描き、北西方向に走る。長さ20m以上、幅3~3.5m、深さ1m、フラットな溝底のレベルは全域でT.P.+2.7mに達し、断面形は逆台形を呈する。埋土下半部は、5~15cmの大きさの粘土塊を含む黒灰色粘土層で、上半部は植物遺体を含む黒色粘土層である。下半部の土層の堆積状況から、この溝は埋め戻された形跡をとどめている。溝内から遺物は出土していない。溝-46 (図版156下) は、h-9区を南東から北西へ上記の溝の南約8mを平行に走る。規模は、長さ10m以上、幅2m、深さ60cm、平らな溝底はT.P.+3.0mである。埋土は黒色~灰色粘土層である。遺物は、中期後半と思われる土器体部片が数点出土している。溝-47 (図版158) は、トレンチ南端近く、m-6・7区に位置し、ゆるく南に弧を描く東西方向の溝である。溝の規模は、長さ20m以上、幅約4.2m、深さ30~60cm前後で、断面は逆台形を呈する。埋土は黒灰色粘土層で、溝底付近に径10cm前後の青灰色粘土塊が若干認められた。溝内のレベルは西がT.P.+2.8m前後、東がT.P.+3.0mと東側が高い。西端より3.0m付近に幅1.5m、高さ40cm余の盛土をし、溝内に土堤を造っている。ブリッジか水位調節機能



第131図 第7遺構面建物-2 (右)・3 (左) 平面実測図

のための施設であろうか。遺物は溝内埋土上部から中期後半の土器片が数点出土している。

溝-49 [付図-12 (1)、第129図、図版163上]

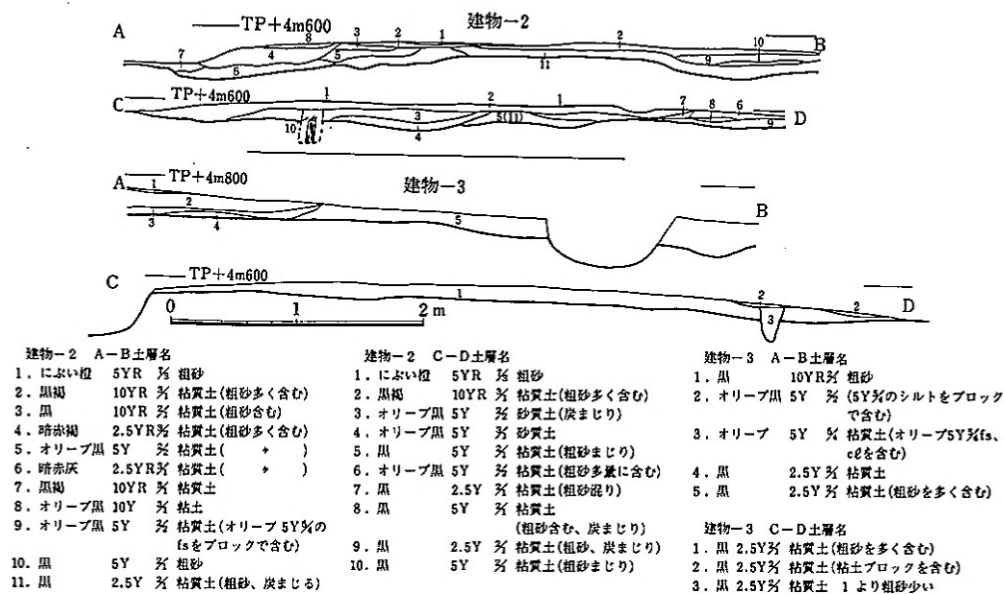
ここに溝-49とした遺構は、d-3の2区、建物-2の北側～東側に位置し、第8遺構面の溝-3・8の埋没後に掘り直された溝で、幅0.8m、検出長2.0m、深さ20～60cmで、西方の落込に接続する小溝である。出土遺物は土器片が大半である。なお、この溝は建物-2とほぼ同時期である。

溝-50 [付図-12 (1)、第135図]

Dトレンチのe-1の3・4区、SB-4の南側に接し、第8遺構面の土壌-3を切り込んでいゝる。溝は長さ4.2m、幅1.0m、深さ30cmである。溝内の堆積土は黒色粘土、砂質土、粘質土である。出土遺物は少量の土器片である。

建物-2 [付図-12 (1)、第131～134・142・152図、図版146・148・149上・168上・中]

Dトレンチ、d-2の1・3区とd-3区に位置し、盛土で方形に一段高くなった箇所に建物(2間×2間)がある。周辺には、土壌、溝、建物-3がある。建物は、桁行2間、柱間寸法各180cm、梁行2間、柱間寸法各160cmの値を示す。方位は南北棟でN-11°15'-Wの方向を示す。低平な高まりを示す範囲は東西5m、南北6m、高さ10～20cm足らずで微高地になっている。このように平面形が方形プランになる微高地(高台)はD・D-1・D-2の3トレンチで14ヶ所観察された。このような個所を高台と呼称して調査を進め、6ヶ所の高台では、ピット、盛土、



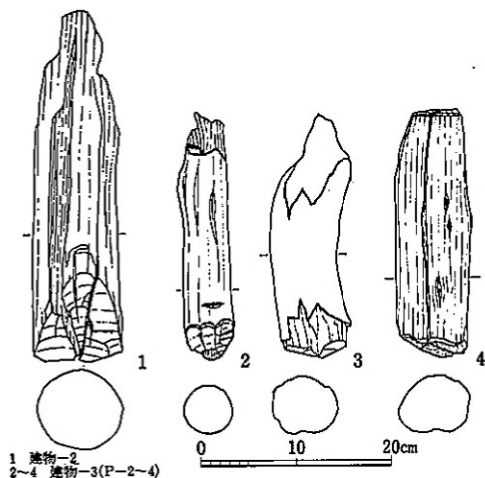
第132図 第7遺構面建物-2・3土層断面図

溝、土壌等のいずれかを確認した。建物-2に伴うピットは7ヶ所検出したが、その内の3ヶ所にピット上部に青灰色粘土層が大きく落ち込み、他の2ヶ所のピット上にも青灰色粘土層が量は少ないものの落ち込んでいた。また、ピット1・3内には2本の柱根が残り、それらの端部の径は約10cmである。その他、南側桁の中央のピット内には長さ約15cmの角礫を据えていた。次に建物-2の範囲を明示するかのようP1~P7の内側に厚さ1cmにも満たない粗砂が撒かれていた。北西部には炭や灰が粗砂の上に堆積し、同様に土器片も北西部に散乱していた。またサヌカイト片もその中から少量ながら採集できた。表面の粗砂・炭等は調査中数回冠水したため、相当流出したが、砂質土上面に張りつくようにしていくらか残すことができた。このように建物部分に限って粗砂を散布したと思われる箇所は、D-2トレンチの建物-5にも見られる。粗砂の下には黒褐色~黒色粗砂混じり粘質土、粗砂等(第132図上A-Bの1~3層)を10~20cm盛っている。また、盛土の下には1~2cmの炭化物の層が薄く堆積しているのが認められた。出土遺物は表面と盛土内から第152図18~30の土器が出土した。

建物-3 [付図-12(1)、第131~134・142・153図]

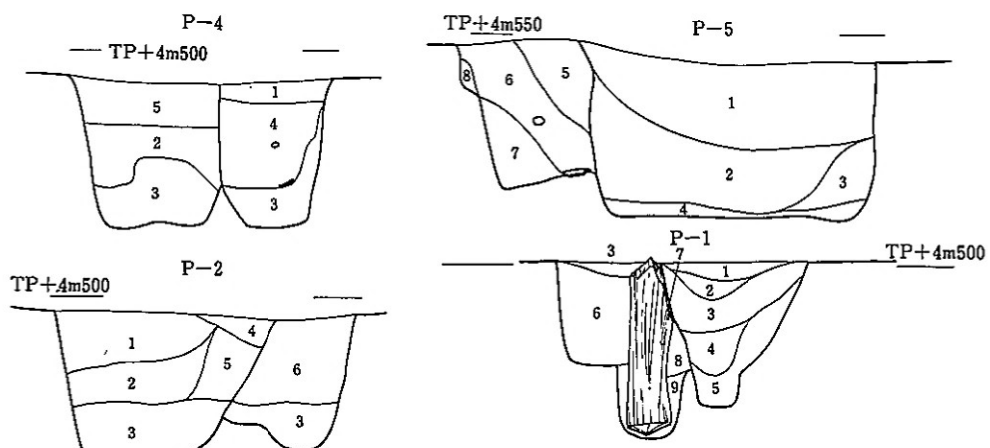
Dトレンチ、d-1の3・2の4区の周囲より約15cm(第132図建物-3 A-B断面の土層1・2)ほど盛り上がった高台4上にある。先述の建物-2は東約6mにある。検出した遺構は、桁、梁行の柱列に伴う5ヶ所のピットと10~20cmの盛土である。建物は黒色粗砂混じり粘質土の上に同じ黒色の粘質土、ブロック状青灰色粘土、黒色粗砂を厚い所では20cmも積み上げている。この小さく盛り上がった範囲は、北西辺の一部を欠くが、東西、南北約4mの方形のプランを示す。また、この箇所と建物-2との間は、東西4m、南北6mの方形の範囲でやや小高くなり、土壌-6の北端部より1本の柱根を検出している。この箇所にも建物が存在していた可能性がある。建物-3の5ヶ所のピットの掘方は、径20~30cm、深さ5~10cmで、その中には相当腐植の進ん

だ柱根5本が残り、腐植した部分には黒色粘土層が堆積していた。検出した建物の南側桁行の柱間寸法が128、138cm、東側梁行の柱間寸法が108、112cmで各2間分を検出している。北側桁行、西側梁行は不明だが、ここでは少し小高い地形の範囲内に東西棟でN-74°15'-Eの方位の2間×2間以上の建物が存在していたことが十分考えられる。建物2・3の柱根は第133図のとおりで、端部は1・2が尖り、3・4は平坦である。出土遺物は第153図31~39である。

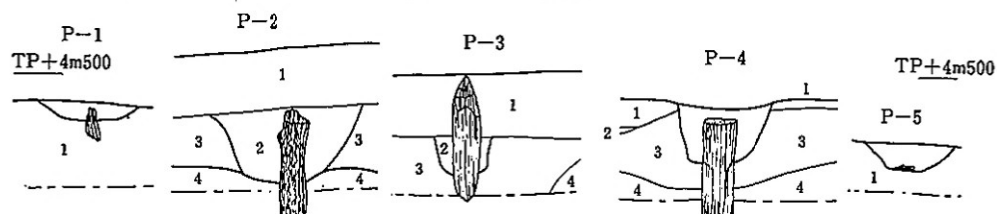


第133図 第7遺構面建物-2・3柱根実測図

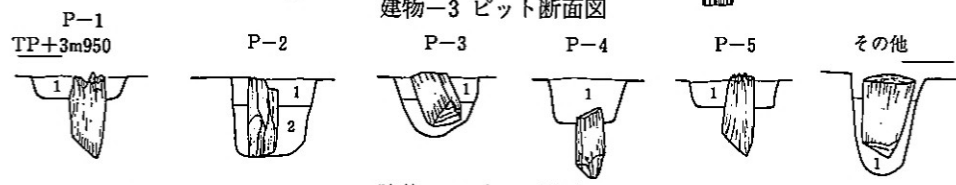
次に、高台-4の西の一面を高台口として調査を進めた。



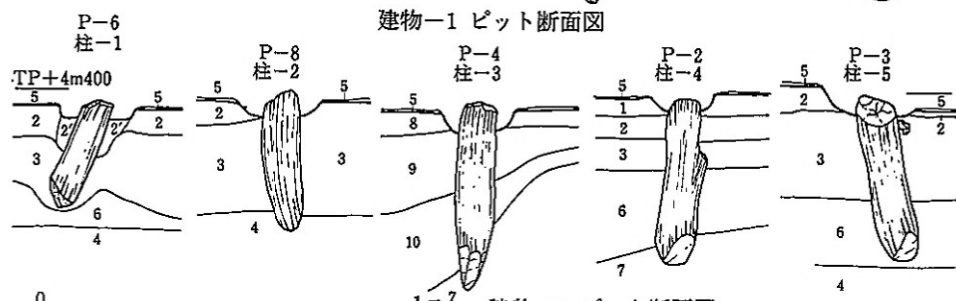
建物-2 ピット断面図



建物-3 ピット断面図



建物-1 ピット断面図



建物-5 ピット断面図

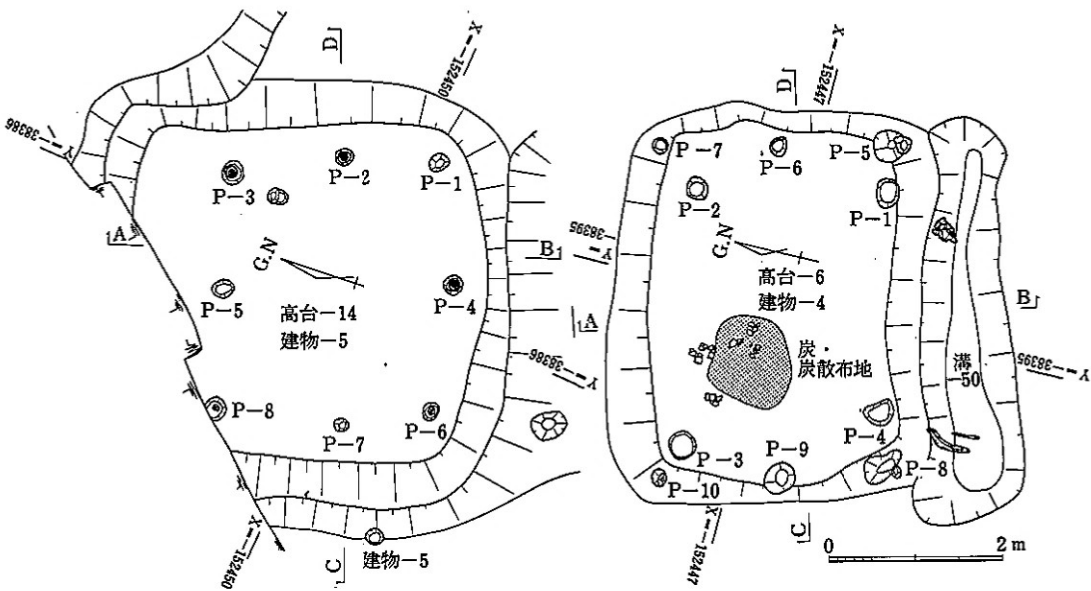
- | | | |
|---|---|--|
| <p>○建物-2
○P-5</p> <p>1. 黒 7.5Y 粘質土</p> <p>2.</p> <p>3. オリーブ黒 10Y 粘質土(粗砂混入)</p> <p>4. オリーブ黄 5Y 粗砂</p> <p>5. 黒褐 2.5Y 粘質土</p> <p>6. 黒褐 2.5Y 粘質土(オリーブ黄5Y粗砂混入)</p> <p>7. 黒 5Y 粘質土(粗砂混入)</p> <p>8. 黒 5Y 粘質土(粗砂混入)</p> <p>○P-6</p> <p>1. オリーブ黒 7.5Y 粗砂</p> <p>2. オリーブ黒 5Y 粘質土(粗砂混入)</p> <p>3. 灰オリーブ 7.5Y 粗砂</p> <p>4. 黒 2.5Y 粘質土(粗砂混入)</p> <p>5. オリーブ黒 5Y 粘土</p> <p>○P-1</p> <p>1. オリーブ黒 5Y (ブロック状青灰色細砂、灰、灰まじり) 粘質粘土</p> <p>2. 黒 2.5Y (茶色粗砂まじり) 黒色粘土</p> <p>3. 褐 7.5YR (黒色土まじり) 粗砂</p> <p>4. オリーブ黒 7.5Y 粘土層(粗砂まじり)</p> <p>5. オリーブ黒 7.5Y 有機質粘土</p> <p>6. オリーブ黒 10Y 粘土</p> | <p>7. 灰 10Y 細砂</p> <p>8. 灰 10Y 黒色粘土(6まじり) 粗砂</p> <p>9. 灰 10Y 7まじり粘土</p> <p>○P-2</p> <p>1. 黒 7.5Y 粘質土(粗砂混入)</p> <p>2. オリーブ黒 5Y 粘質土</p> <p>3. 灰オリーブ 7.5Y 粗砂</p> <p>4. 黒 7.5Y 粘質土(炭混じり)</p> <p>5. オリーブ黒 5Y 粘質土(粗砂混じり)</p> <p>6. オリーブ黒 7.5Y 粘質土</p> <p>○建物-3</p> <p>○P-5</p> <p>1. オリーブ黒 7.5Y 粘土</p> <p>○P-4</p> <p>1. オリーブ黒 7.5Y 粘土(粗砂多量含む)</p> <p>2. 黒褐 10YR 微砂質土</p> <p>3. 黒 2.5Y 粘質土</p> <p>4. 黒褐 10YR 微砂質土</p> <p>○P-3</p> <p>1. 黒褐 7.5YR 粘土(粗砂多量含む)</p> <p>2. 黒 10YR 粘質土</p> <p>3. オリーブ黒 5Y 粘土(粗砂多量含む)</p> <p>4. 黒褐 10YR 微砂質土</p> | <p>○P-2</p> <p>1. オリーブ黒 7.5Y 粘土(粗砂多量含む)</p> <p>2. 黒 10YR 粘質土(粗砂少量含む)</p> <p>3. 黒 2.5Y 粘土(粗砂少量含む)</p> <p>4. オリーブ黒 5Y 微砂質土</p> <p>○P-1</p> <p>1. オリーブ黒 7.5Y 粘土</p> <p>○建物-1</p> <p>1. 灰 10Y 粘土</p> <p>2. オリーブ黒 5Y 粗砂</p> <p>○建物-5</p> <p>1. 灰オリーブ 5Y 粗砂</p> <p>2. 黒 10YR 粘土(砂少し含む)</p> <p>3. 黒 5Y 粗砂まじり土</p> <p>4. 黄褐 2.5Y 粗砂</p> <p>5. 灰オリーブ 5Y 粗砂</p> <p>6. 灰 7.5Y 粗砂・粘土</p> <p>7. 灰 7.5Y シルト</p> <p>8. 灰 7.5Y 粘土(有機物多し)</p> <p>9. 黒 10YR 粘土(灰まじり)</p> <p>10. 黒 10YR 灰</p> |
|---|---|--|

第134図 第8・7遺構面建物-1~3・5他ピット断面図

建物-4 [付図-12 (1)、第135・136・142・158図、図版166・187上]

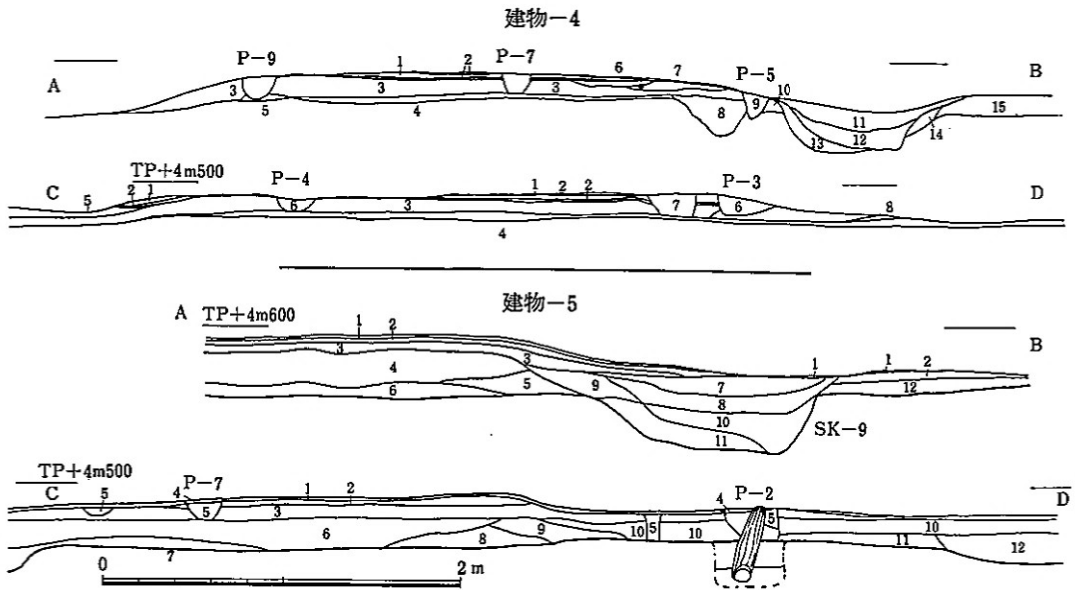
この遺構はDトレンチ、I-1の3・4区にあり、東西約4.5m、南北約3.5m、約10cm盛土した少し小高い方形の高台6の上にある。ピットは四隅や縁辺部から10ヶ所検出しているが、P-1～P-4には黒色粘土層、P-5～P-10には青灰色粘土層、黒色粘土層が堆積し、埋土から新旧の時期差があると考えられる。小高くなった箇所の土層は、建物-2、3などと同様に若干の土を盛り上げて粗砂(第136図1・2層)を表面に散布している。東、北側でその量は最も多く1.5cmの厚さを計り、黒色粘質土の上に黄褐色粗砂層を薄く敷きならしたものである。特に黄褐色粗砂層は建物の範囲を超え、東の方へ薄く延びているのが注目される。この他、盛土表面には北西部に土器片が10点あまり散乱し、炭、灰等が1～2cm堆積していた。埋土の差から古いと考えられる建物-4(旧)P1～P4は、桁行、梁行とも各1間で、桁行の柱間寸法は、230～290cm、梁行の柱間寸法は、215～230cmの間隔がある。本調査で検出した建物の柱間の中でも異様に広い。建物-4(新)P5～P10は、桁行は1間で柱間は375、395cm、南北の梁行は2間で柱間寸法は130、135、142cmである。両建物の柱間は、新しい方の建物の梁行を除いて非常に柱間が広い。これらの建物のピットがさほど深くなく、10cmにも満たないものがあることから、盛土部に掘られた浅いピットが流出し、その痕跡すらとどめていないのか、束柱的なものがあったのかもしれない。東西棟の建物の方位は、旧い方がN-76°15'-E、新しい方がN-75°20'-Eの方向を指し示す。遺物は第153図42～59・図版187-53・188-42、43に示すような壺、甕の破片が出土している。

建物-5 [付図-12、第134～137・142・159図、図版141・144]



第135図 第7遺構面建物-4(右)・5(左)平面実測図

D-2 トレンチ、1-2の3・4区とf-2の1・2区にある。調査区内には北西コーナーを除く大半が含まれる。検出した遺構は、盛土を伴う5m四方の方形の区画（高台14）と、この上に建つ2間×2間の東西棟の建物である。周囲4～6mの範囲には土壌-5、6、15、井戸-2、建物-4等がある。盛土（第136図1～3層）は下層の土壌-9、10、11（埋土は黒色炭層・粘質土）の上に黒色粗砂混じり粘質土や粘土を5～15cm盛り上げ、さらに中央の高い箇所には黄褐色粗砂を薄く散布、敷き均らししている。粗砂の散布、敷き均らし方の遺存状態は、本例が最も良好



○建物-4

○A-B

- | | | |
|-----------|-------|-------------------------|
| 1. 黒 | 2.5Y | 粘質土(砂質性あり) |
| 2. 黒～黄褐 | 2.5Y | 粗砂 |
| 3. 黒 | 2.5Y | 粘質土(暗オリーブ5Y%の微砂が斑紋状に入る) |
| 4. 黒 | 2.5Y | 粘質土(粘土に近い)5よりやや色が暗色 |
| 5. 黒 | 7.5YR | 粘土 |
| 6. 黒褐 | 2.5Y | 粘質土(砂質性あり) |
| 7. 黒褐 | 2.5Y | 砂質土層(微粒子) |
| 8. 黒 | 5Y | 粘質土(粗砂少々含む) |
| 9. 黒 | 7.5YR | 粘土 |
| 10. 黒 | 2.5Y | 粘質土(粗砂混じる) |
| 11. オリーブ黒 | 5Y | 粘土 |
| 12. 黒 | 5Y | 粘質土(炭まじり) |
| 13. オリーブ黒 | 5Y | 微砂質土(粘質あり、シルト混入) |
| 14. 黒 | 5Y | 粘質土 |
| 15. 黒 | 5Y | 粘質土 |

○C-D

- | | | |
|----------|-------|-------------------------|
| 1. 黒 | 2.5Y | 粘質土(砂質性あり) |
| 2. 黒～黄褐 | 2.5Y | 粗砂 |
| 3. 黒 | 2.5Y | 粘質土(暗オリーブ5Y%の微砂が斑紋状に入る) |
| 4. 黒 | 2.5Y | 粘質土(粘土に近い)5よりやや色が暗色 |
| 5. 黒 | 2.5Y | 粘質土 |
| 6. 黒 | 7.5YR | 粘土 |
| 7. 灰オリーブ | 7.5Y | 粘土 |
| 8. オリーブ褐 | 2.5Y | 粗砂 |

○建物-5

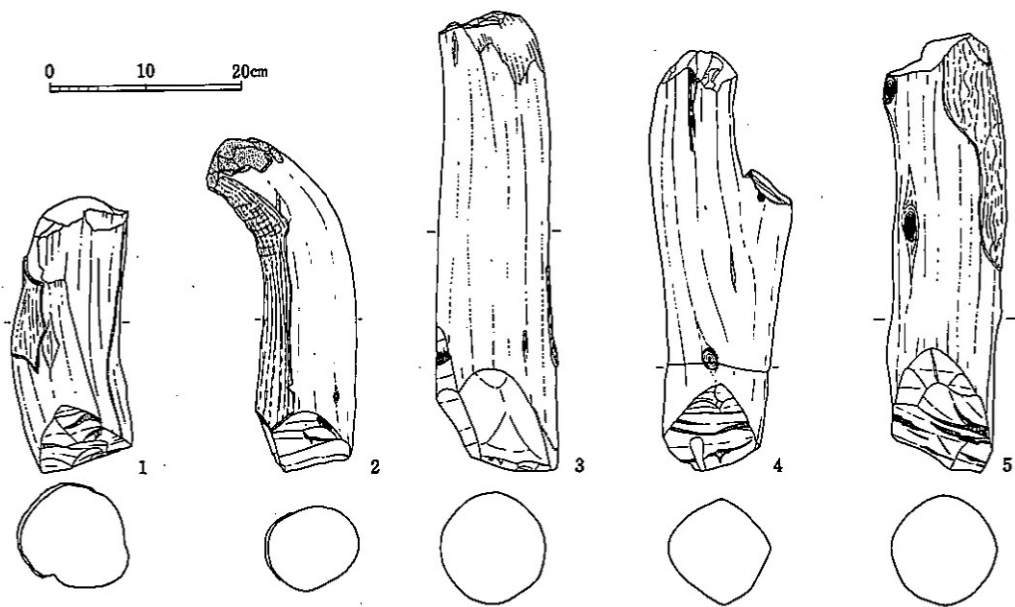
○A-B

- | | | |
|-----------|------|------------|
| 1. 灰オリーブ | 5Y | 粗砂 |
| 2. 黒 | 5Y | 粗砂混じり粘質土 |
| 3. 黒 | 10YR | 粘土(砂少し混じる) |
| 4. 黒 | 5Y | 粗砂質土 |
| 5. 黒 | 5Y | 粘質土 |
| 6. オリーブ黒 | 5Y | 粗砂 |
| 7. 灰 | 7.5Y | 粘土(有機質層) |
| 8. 黒 | 10YR | 粘土(炭混じり) |
| 9. オリーブ黒 | 5Y | 粘質土(炭混じり) |
| 10. 黒 | 10YR | 炭 |
| 11. オリーブ黒 | 7.5Y | 粗砂+粘土 |
| 12. 3+2 | | |

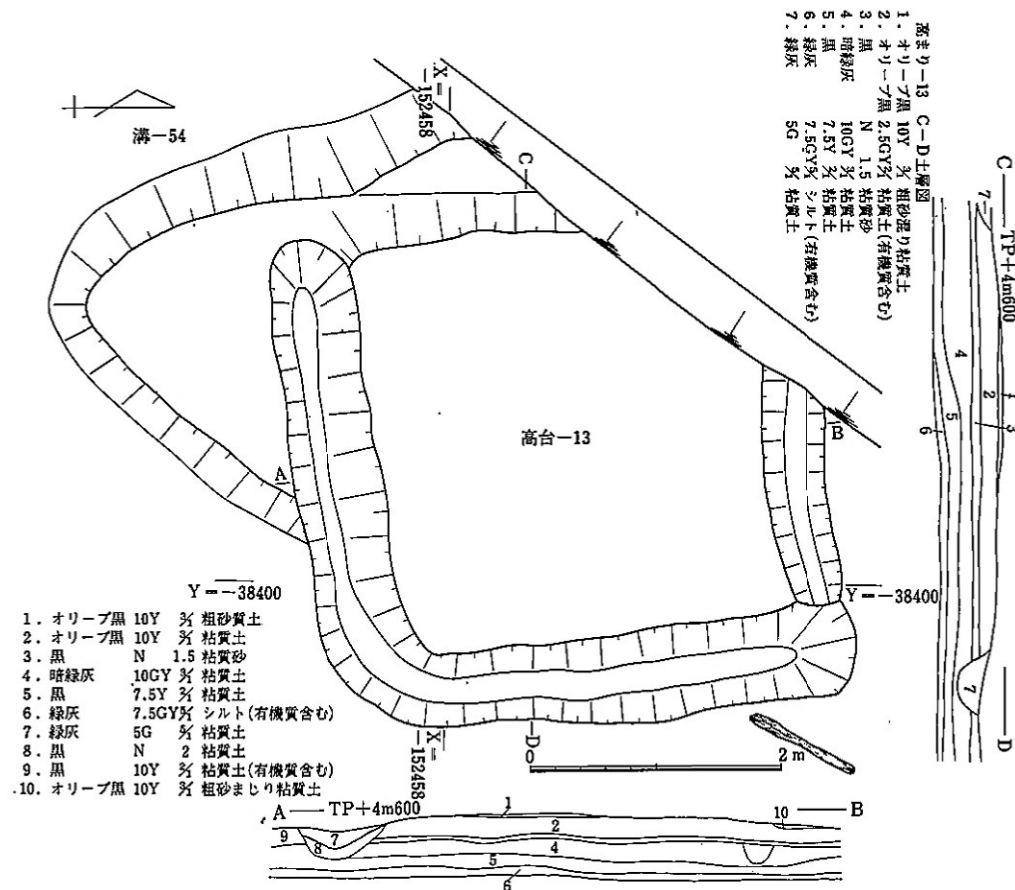
○C-D

- | | | |
|-----------|-------|------------|
| 1. 灰オリーブ | 5Y | 粗砂 |
| 2. 黒 | 5Y | 粗砂混じり粘質土 |
| 3. 黒 | 10YR | 粘土(砂少し混じる) |
| 4. 灰 | 5Y | 粗砂 |
| 5. 黒 | 5Y | 粗砂 |
| 6. 黒 | 5Y | 粗砂質 |
| 7. オリーブ黒 | 5Y | 粘土 |
| 8. 黒 | 5Y | 粘質土 |
| 9. 暗オリーブ褐 | 2.5Y | 粗砂 |
| 10. 黒 | 5Y | 粗砂質 |
| 11. オリーブ黒 | 5Y | 粗砂 |
| 12. 黒 | 2.5GY | シルト+細砂 |

第136図 第8遺構面建物-4・5土層断面図

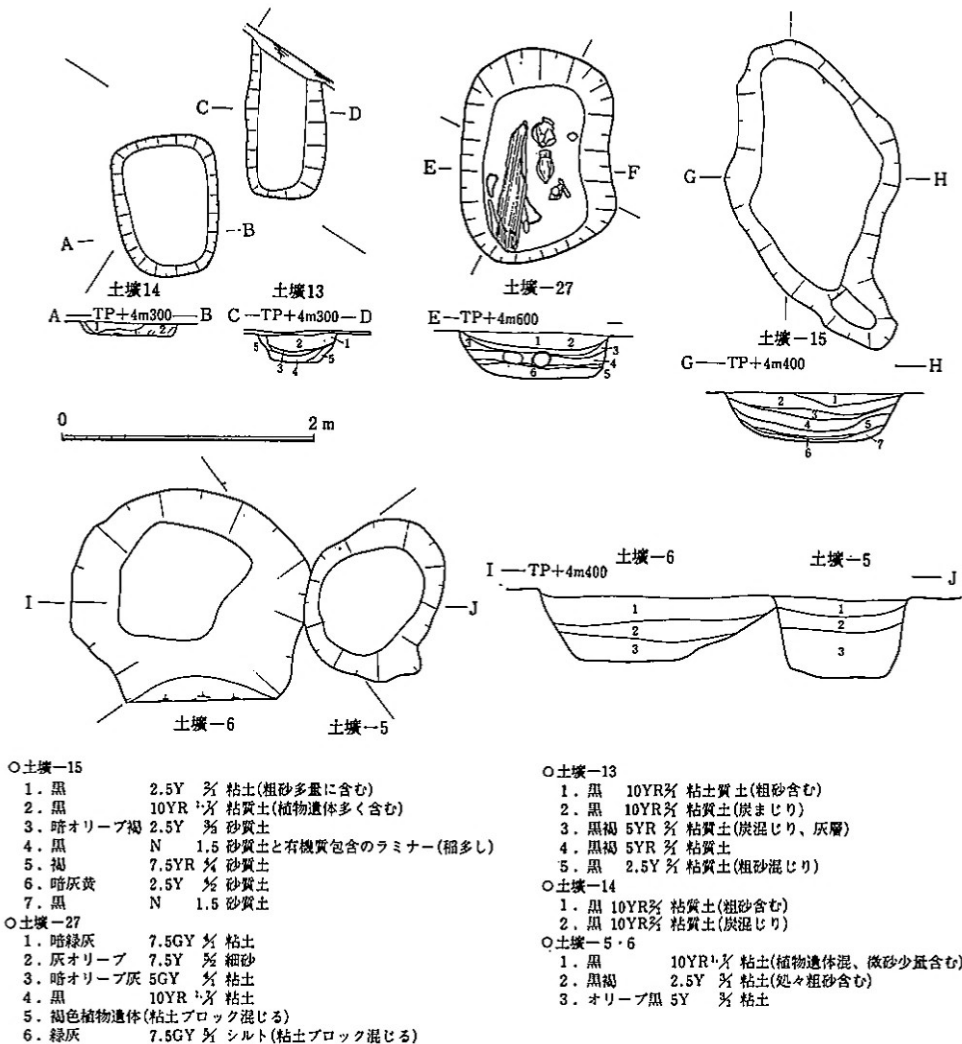


第137図 第7遺構面建物-5柱根実測図



第138図 第7遺構面高台-13平面・断面実測図

である(図版-137)。ピットは径15~20cm、深さ5~15cm(第136図)を測り、その中に広葉樹の不揃いな柱根が傾いたり、曲がって残存していた。残存している柱根の周囲には黒色粘土が薄く取り巻き、柱根のない3ヶ所のピットには、極めて軟弱な黒色粘土層、青灰色粘土層が堆積している。柱根(第137図)の加工の仕方には2通りあり、その一つは径10cm内外の広葉樹の先端を鋭く円錐状に加工したもの、もう一つは2方向からカットした径20cm位の広葉樹を用いている。ピットの掘形はさほど明瞭ではない。一部の柱根の根元の軟弱な土は、柱根を折り曲げたり抜き取り時等に生じた隙間の埋土の可能性もある。次に、ピット掘形と柱根の端部の加工の関係は、柱根端部が平坦なものにはピットに掘形が認められ、尖鋭なものは掘形が不明瞭である。後者の柱根は打ち込むものであったかもしれない。出土遺物は黒色有機質粘土中と黒色粘質土上面から若干の土器片(第159図16~23・153図31~39)が出土している。建物の方向はN-67°-Eの東



第139図 第7遺構面土壌-5・6・13~15・27平面・断面実測図

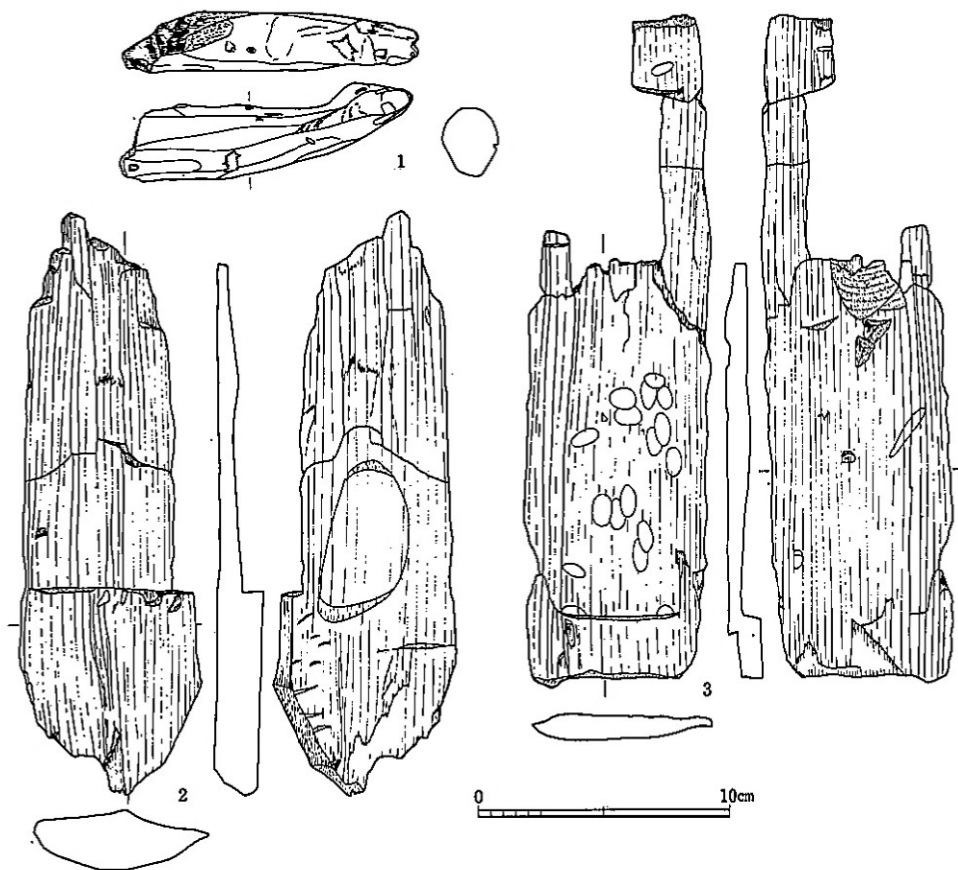
西棟である。

高台-13〔付図-12(1)、第138・142図〕

D-1トレンチ、d-10の3区、d-1の4区にあり、北西コーナーは調査区外へ続く。東と南の溝は幅50~80cm、長さ3.5~4.0m、北には幅50cm、深さ1.5m以上の溝がコの字形に廻り、西側は溝-54に落ち込む(第138図)。プランは東西がやや長く、方位はN-8°20'-Wである。表面は1~2cmの黒色粗砂質土、その下に粘質土の2層の盛土が薄く認められた。この少し小高い高台上には、土壌やピット等の遺構はなく、また遺物も出土していない。溝内も同様である。ただ、東溝のすぐ横からは、堅杵1本が出土し、2m程隔てた南東からは廃棄されたサヌカイトのチップ、フレーク等が1ヶ所(資料-4)に集中していたが、数度の冠水で一部流出した。

土壌-13、14〔付図-12(1)、第139図〕

Dトレンチ、c-3の3区にある方形の土壌(第139図)である。方位は、土壌13がN-33°45'



第140図 第7遺構面土壌-27出土木器実測図

-W、土壌14がN-38° 10' -Wである。土壌の規模は若干の大小があるが、長さ約110~130cm、幅約60~80cm、深さ10cm、炭、灰等がレンズ状に堆積した中に獣骨片、土器片も見られる。

土壌-27〔付図-12(1)、第139・140・158図〕

D-1 トレンチ、d-1 の1区にある隅丸方形のプランの土壌(第139図)である。土壌の規模は、長さ170cm、幅120cm、深さ35cm、長軸の方位はN-58° 30' -Eである。土壌内には粘土層が堆積している。その一部墳底から10cm程上に厚さ4~5cmの草木類の茎や葉等の植物遺体層があり、さらに10cm上の10YR1.7/1の粘土層中に焼け焦げて破損した木器〔1.(鳥型か) 2・3.(板材)〕、木片(第140図)や土器(第158図1~12、図版189-5・10)が含まれていた。

土壌-5、6〔付図-12(1)、第139図〕

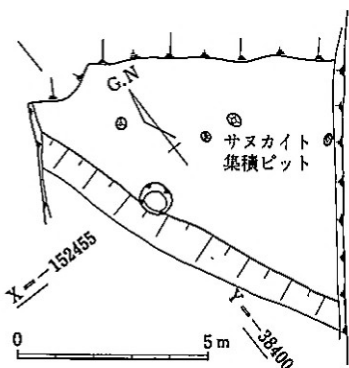
D-2 トレンチ、e-3 の4区にある不整形円形の土壌(第139図)で、建物-5の東約5mの位置にある。土壌-5は径約1.2m、深さ約40cm; 土壌-6は径約1.8m、深さ約50cmの土壌である。

土壌-15〔付図-12(1)、第127・139・159図、図版143〕

D-2 トレンチ、e-2 の3区にある。不整形なプランを呈し、規模は長さ約260cm、幅約140cm、深さ約30cm、底の平坦な断面台形の土壌(第139図)である。墳内には粘土・粘質土・砂質土が堆積している。このうち、第2、4層は特に植物遺体が多く、4層からは大量の稲穂が出土し、第3層からは第159図24~36、図版189-30・34に示したような土器と銅戈(図版130下)の破片が出土している。土器はこの他の土層からも出土しているが、小さな破片が多く、接合、復元は不可能である。

銅戈の破片は基部と見られ、3辺のうち2辺の縁辺部が研磨されて鋭い刃部を作りだしている。現存寸法は、横32mm、縦24.5mm、厚さ2mm、重さ3.5g、2ヶ所に紐掛孔があげられている。中央には銅戈の鑄や複合鋸歯文が見られる。2辺は研磨され、鋭く研ぎだされていることから利器として使用されたことをうかがわせる。

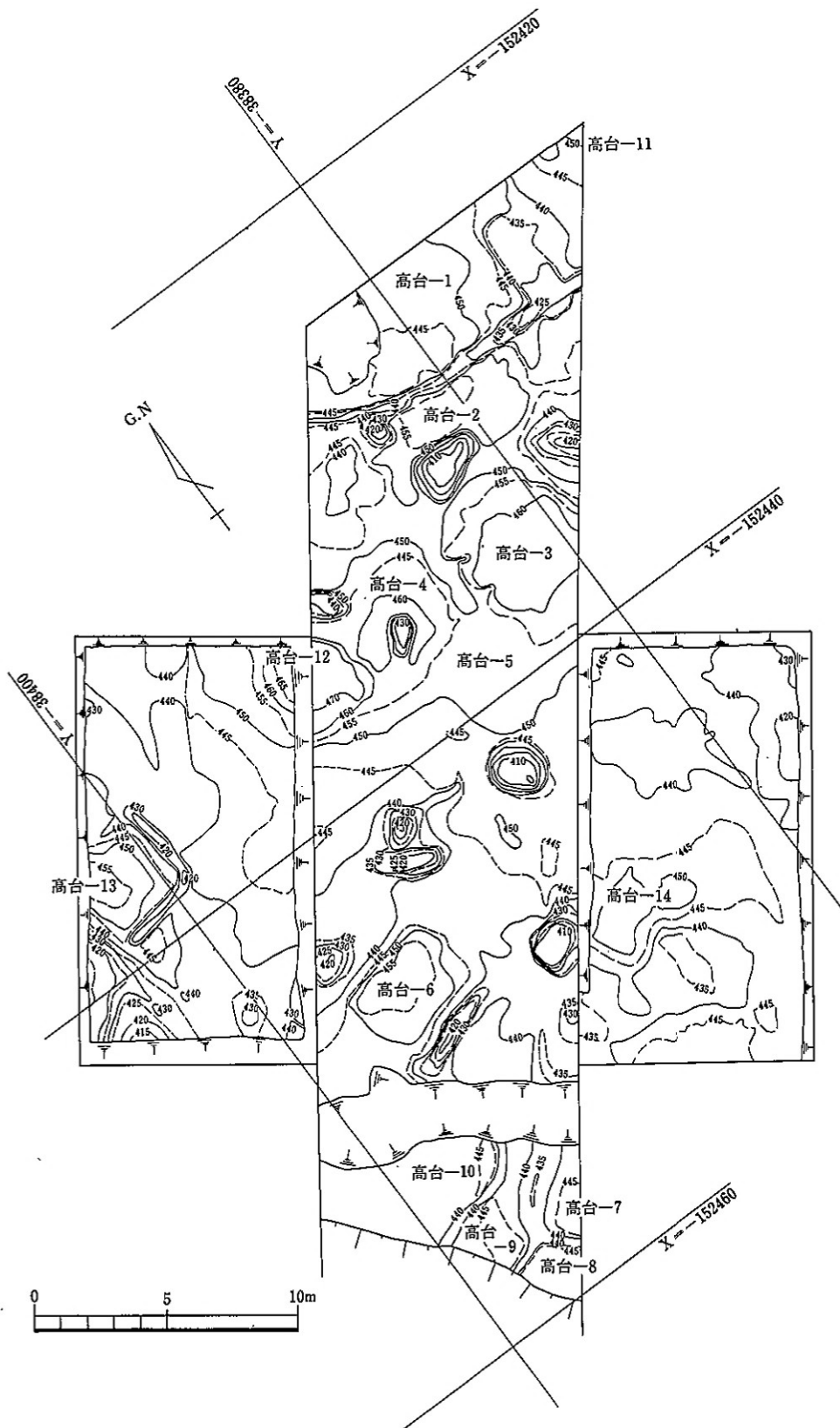
C トレンチからも銅利器片が1点出土している。その大きさは上辺5.1mm、下辺17.6mm、縦25.6mm、厚さ1.4mmである。この銅片は先に説明した遺物のように意図的な加工はない。



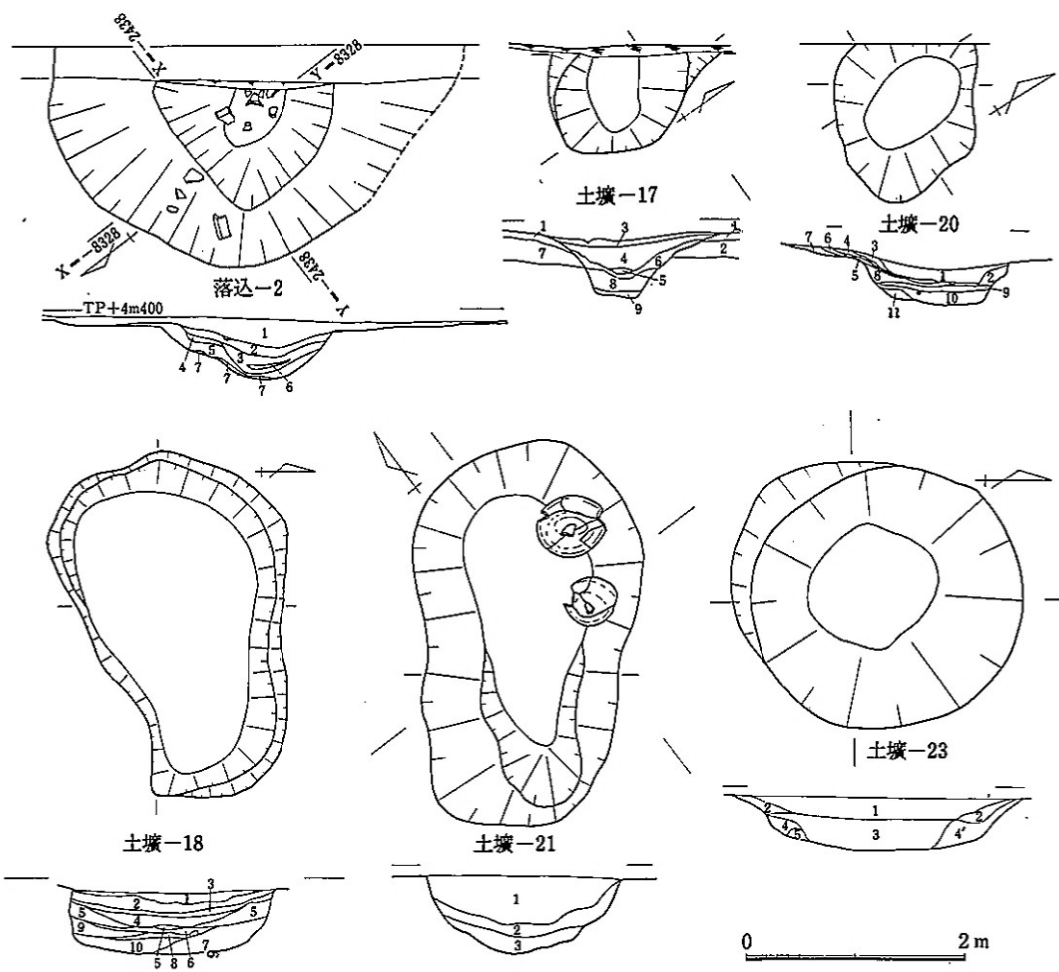
第141図 第7遺構面サヌカイト集積ピット位置図

サヌカイト集積ピット〔付図-12(1)、第141図、図版152上・155〕

調査地区の各所からサヌカイトフレイクや石器が出土している中で、特に密集している地点・土層は、e-2の4区の井



第142図 黑色粘土上層上面コンター図



○土壌-18

- 1. 暗緑灰 10GY 粘土(有機質)
- 2. 黒褐 2.5Y 粘土
- 3. 黒褐 2.5Y 粘土
- 4. 黒褐 2.5Y 粘土(粗砂混じる)
- 5. オリーブ黒 5Y 粘土
- 6. 黒 2.5Y 粘土(暗緑灰10GY粘土混じる)
- 7. 黒 2.5Y 粘土(粘質大、粗砂混じり)
- 8. 黒 2.5Y 粘土
- 9. 黒 2.5Y 粘土(微砂含む)
- 10. 黒 10YR 粘土
- 11. 黒 10YR 粘土、緑灰7.5GY 微砂

○土壌-17

- 1. 黒 5Y 粘土(粗砂混じる)
- 2. 黒 2.5Y シルト質粘土
- 3. 黒 5Y 粘土
- 4. 黒 5Y 粘土(粗砂、微砂混じる)
- 5. 黒 7.5Y 粘土(炭化物層)
- 6. 黒 2.5Y シルト
- 7. 黒 2.5Y 粘土(シルト、小石混じる)
- 8. 暗緑灰 7.5GY 微砂(黒7.5Y粘土ブロック混じる)
- 9. 黒 2.5Y 粘土(有機物層)

○落込-2

- 1. 暗オリーブ灰 5GY 粘土(幾層にも堆積している)
- 2. 青黒 10BG 粘土
- 3. 青黒 5BG 粘土(小石混じり)
- 4. 暗緑灰 N 2 粘土(炭混じり)
- 5. 暗緑灰 7.5GY 粘土(中砂含む)
- 6. 黒 N 1.5 有機質粘土(植物遺体、小石混じり)
- 7. 暗緑灰 7.5GY 細砂(粘土ブロック混じり)

○土壌-23

- 1. 暗オリーブ灰 5GY 粘土
- 2. 緑黒 10GY 中砂(粘土、土含む)
- 3. 暗緑灰 7.5GY 粘土
- 4. 暗緑灰 7.5GY 粘土と中砂の互層(4'は中砂が均等に散っている)
- 5. オリーブ黒 5GY 粘土(中砂混入)

○土壌-21

- 1. 暗緑灰 10GY 粘土
- 2. 黒 7.5Y 粘土(粗砂混入)
- 3. 黒 7.5Y 粗砂(上層粘土混入)

○土壌-20

- 1. 黒 5Y 粘砂質土(粘土ブロック層)
- 2. 暗オリーブ灰 5GY 粘土
- 3. 黒褐 10YR 粘土
- 4. 暗灰 N 3 粘土
- 5. 黒 2.5GY 粗砂質土
- 6. 8と9の互層、泥砂(粘土質) 9砂混じる
- 7. 黒 2.5GY 粘土(粗砂混入)
- 8. 植物遺体層
- 9. 黒 2.5GY 砂質土(やや粘土質)
- 10. 灰オリーブ 7.5Y 粗砂

第143図 第6遺構面土壌-17・18・20・21・23・落込-2平面・断面実測図

戸-1の埋土中、f-1の2区のピット内、d-1の4区の径30cmの範囲に廃棄、集積している。この他、フレーク、チップ等は割合と限定された地点から出土している。第141図の中央の2ヶ所のピット内からは、無数のフレーク、チップと共に廃棄された石錐や石鏃等の石器が出土している例である。

C. 第6遺構面〔付図-13、第142・143図、図版135・159〕

第6遺構面の遺構は、不整形な土壌、井戸、溝等で、第7遺構面の遺構と重複するものや切り合うものが多い。遺構の埋土は柔らかい黒色有機質粘土層、青灰色粘土層、青灰色粗砂層等が大半で、出土遺物は、黒色有機質粘土層上部から出土したことが多い。

井戸-2〔付図-13(1)、第127・157図、図版150・160下・165下〕

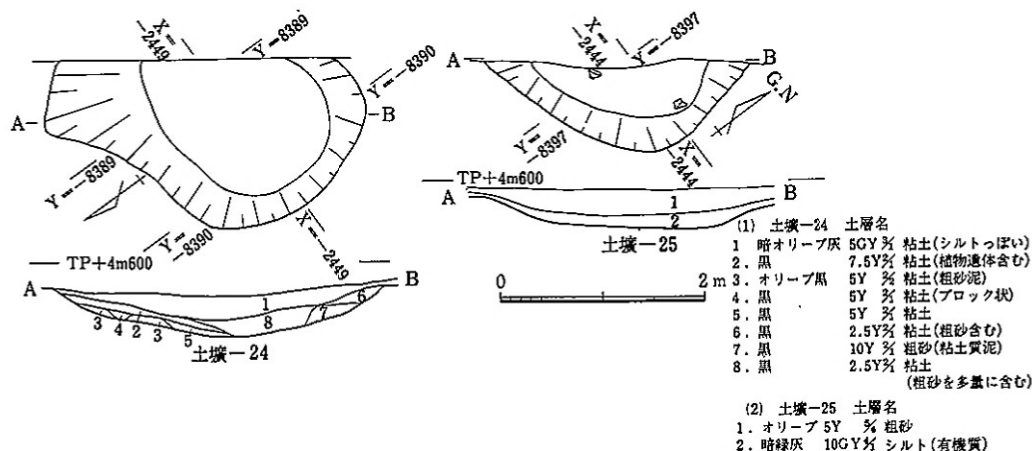
この遺構はe-1の1区にあり、平面形は不整な円形で、口径は1.5~1.7m、深さ2.0mの断面U字形を呈し、最深部は粘土層を掘り抜き、粗砂層に達している。埋土は、大半が有機質の黒色~灰黒色粘土層で、最上部に青灰色粘土層が堆積していた。出土遺物は第157図148~150の土器と獣骨片、桃の核、多量の有機物である。

土壌-16〔付図-13(1)・(2)、第154図、図版161上〕

c-2の3区にあり、不整な長方形のプランを示す。長さ1.4m、幅1.0m、深さ0.3~0.4mの不整形な土壌(付図-13)である。埋土は青灰色粘土層と極めて軟らかい黒色有機質粘土層が堆積していた。出土遺物は第154図81と少量の土器片である。

落込-2上層(土壌-17)〔付図-13(1)、第131・154図、図版161下〕

c-2の4区にあり、落込-2上層の一部である。壁際にあるため、平面形等の全容は知りえないが、長さ0.9m以上、幅1.3m、深さ0.6m以上の不明瞭な形状を示す。出土遺物は第154図80の



第144図 第6遺構面土壌-24・25平面・断面実測図

他、少量の土器片が出土している。

土壌-18〔付図-13(1)、第143・154図、図版162上〕

d-2の1区にある。平面は不整形な方形(第143図)で、規模はおおよそ長さ3.3m、幅1.3~2.4m、深さ0.6mである。埋土は植物遺体を多く含む青灰色・黒色の粘土層である。出土遺物は、完形品の壺と土器片(第154図84~88)、獣骨片、種子等である。

落込-1上層(土壌-19)〔付図-13(1)、第155・167図〕

d-3の2区にある。本土壌は、落込-1上層の青灰色粘土層から若干の土器片(第155図-90)が出土した。上層の規模は、長さ、幅とも1.5m以上、深さ0.4m位の不明瞭な形状である。

土壌-20〔付図-13(1)、第143・167図〕

d-2の2区にあり、周囲より少し高い場所にある。不規則な平面形のこの土壌(第143図)の規模は、長さ1.6m以上、幅1.4m、深さ0.3m位で、土壌内は黒色がかかった粘土層等が薄く堆積し、その上の青灰色粘土層との境目から第167図-15の土器1点が出土している。

土壌-21〔付図-13(1)、第143・155・131図、図版162下・187〕

d-2の4区にある平面形が小判形の土壌(第143図)である。規模は、長さ約1.8m、幅1m余、深さ0.3mの各計測値を示す。埋土は青灰色粘土層と軟らかい黒色粘土層である。境内からは、若干の弥生土器の他、第155図91、92、図版187-91・92の高杯が北寄りから裏返しになった状態で出土した。これらはいずれも脚部を打ち欠く。92は外面に赤色顔料を塗布している。

土壌-22〔付図-13(1)・(3)、第127・166・167 図版150上・160上・165下〕

e-1の1区にある不整な長方形の土壌(第127図)で、長さ2.9m、幅約1.3m、深さ30cm余の計測値を示す。埋土は大半が青灰色粘土層と黒色粘土層等で、遺物は墳底の20~30cmの青灰色粘土層から第166・167図-4、6、28が横倒しの状態で出土した。

土壌-23〔付図-13(1)、第143・155図、図版164上〕

e-2の2区にある円形の土壌(第143図)で、径は約2.5m、深さ0.6m余の挿鉢状の断面形状をしている。埋土は大半が青灰色と黒色等の粘土~粘土質土層で、出土遺物は第155図93~100が出土している。

土壌-24〔付図-13(1)、第144・155図、図版164下〕

e-2の4区にある方形に近い土壌(第144図)である。D-2トレンチの一部に拡がり、規模

は推定長約3m、幅約2.3m、深さ約0.5mで、断面は椀状を呈する。埋土は上層が青灰色・下層が黒色の粘土層等である。遺物は、上層から第155図101～105の他若干の土器片が出土している。

土壌-25〔付図-13(1)、第144・167図、図版159下・163下〕

e-1の2区にあり、D-1トレンチに続く不整形な土壌(第144図)である。規模は長さ約3.4m、幅約1.6m、深さ0.3m余を計る。埋土は図に示す通りである。遺物は流れ込んだ青灰色の砂・粘土層から第167図19、22、23、25等が出土している。

土壌-26〔付図-13(1)、第166図〕

f-1の1区(付図-13)にあり、長さ約1.7m、幅約0.9m、深さ約0.4mで、平面形は小判形、断面形状は椀状を呈する。土壌の埋土は青灰色と黒色の粘土層である。遺物は、上層の青灰色粘土層から第166図8が出土している。

落込-1、2〔付図-13(1)、第127・143・163・167図、図版165上〕

落込-1は、d-3の2、4区にまたがる長さ、幅が約2～3.5m以上、深さ約0.4mの平面形が不定形な落込(第143図)である。埋土は青灰色粘土層と黒色粘土層で、遺物は第127図64～74、第167図-10が出土している。落込-2(付図-13、第143図)はc-2の3、4、d-2の1、2区にあり、長さ、幅とも数m、深さ50cmの不定形な落込である。埋土は上層が青灰色、下層が黒色粘土層で、遺物はいずれも青灰色粘土から第154図75～79、第163図93が出土している。

次に、調査時に黒色粘土層上面に約16箇所の溝状遺構を確認している。その中の主要な溝は次のようなものである。

溝-50、51、61〔付図-13(1)・(2)、第166・167図〕

溝-50(方形落込)は、c-3の3、4区にあり、長さ約4.7m、幅約1.8m、深さ約10cmの方形のプランで断面は逆台形の浅い溝である。溝-51は長さ約3.8m、幅約1.4m、深さ10数cmで、プランはゆるく『く』の字形に折れる溝である。埋土は、いずれも青灰色粘土層である。遺物は溝-50から(第166図-7、第167図-9)が出土し、溝-51からは土器片が出土している。なお、d-1の2区の溝-61は、溝-51よりやや幅が広いが、深さ、埋土とも大変良く似ている。

溝-53上層〔付図-13(1)、第166図、図版166下〕

e-1の3、4区にある長さ約4.7m、幅約1.0m、深さ約30cm、断面は逆台形の溝である。土層断面の観察からは、下の第7遺構面の建物-4とはほぼ同時期のもので、建物と高台の整地、溝の埋没、掘り直し等の一連の作業がなされたのであろう。青灰色粘質土が最終の埋土である。遺物

は上層から第166図-1、3が出土している。

溝-62、63〔付図-13(1)〕

D-1 トレンチ、d-10の1区にある。溝-63は、長さ約7.5m、幅約0.8m、深さ0.2m足らずのL字形をなし、断面はU字形をしている。溝-62は、長さ2m以上、幅約0.5m、深さ10cm余の狭小な溝で、断面はU字形になり、先端は溝-63に連結している。なお、溝の配置状況はコの字形になり、一見すると小規模な方形周溝墓のように見えるが、少し盛り上がった中央の方形区画内や周辺には土壌等の主体部と見られるものは検出されなかった。

溝の埋土は青灰色粘土層で、遺物は出土していない。

溝-52、54~56、57~60〔付図-13(1)、図版159下〕は、調査地区南半に散在する不定形な溝で、溝の埋土はいずれも青灰色粘土層である。

4. 第5遺構面〔付図-14、図版170〕

調査区全面から検出した水田遺構が第5遺構面(図版170)に該当する。そのうち調査区南端の河川周辺では水田畦畔が認められず、また北端では畦畔もかなり不明瞭になる。検出した水田の総数は56枚で、個々の水田の形状、面のわかるものは10枚である。次に主な水田、水口、土堤、水路について記す。

水田(ST1~ST56)〔付図-14(1)~(5)〕

水田は第3・4遺構面のベースになる砂層~砂質土層を30~60cm除去した灰オリーブ色砂質土~粘土層上面で検出される。水田の上面には細砂、粗砂が堆積していた。水田面のレベルは調査区南部でT.P.+5.00mを測り、北へ100mの地点の水田の標高はT.P.+4.65mを示し、南から北へゆるく傾斜している。56面の水田は、このわずかな北向きの緩斜面に作られたもので、これと共に検出した遺構は大小4条の水路と、その肩部に盛られた小土堤である。個々の水田の形状は千差万別で、平坦地の水田はおおむね方形のプランを示すものが大半であるが、水路の両側や比高差のある地形の水田は、不整形で、面積も減少気味になり、畦畔の方向も多方向である。畦畔の規模〔付図-8(3)~(4)〕は小さく、幅約50cm、高さ5~10cmのものが多い。しかし、中には幅1m前後の畦畔もある。

水口〔付図-14(1)・(2)〕

畦畔の一部に見られる水口は、今回の調査では4ヶ所と極めて少なく、1ヶ所目は13と14の間、2ヶ所目は18と19の間、3ヶ所目は35と36の間、4ヶ所目は49と53の間にすぎず、すべての水田畦畔には施されていない。

土堤－１～４〔付図－14(2)・(5)、図版170下〕

水路肩部の盛土は、盛土の大きいものや規模の大きいものを土堤とし、周辺の土砂を粗く積み上げるといふ点では土堤－１～６と畦畔は類似し、差異はない〔付図－14(5)〕。土堤１、４、５は幅50cm前後、深さ20～30cm程度の小さな水路の両側に作られたもので、途中で途切れている。堤３は水路－１の南肩部に砂～粘土層で盛られたもので、幅約1m余り、高さ20cm余りの断面台形の低平な盛土で作り上げられている。水路－１の北肩部の東半には南側のものよりやや小さく、幅70cm、高さ10cm余り、長さ2.00mの堤が認められる。西半部には大きな堤は見られず、肩部に非常に小さい小畦畔状の盛土があるにすぎない。

土堤－５、６〔付図－14(1)〕

水路－４の両肩部に作られた土堤である。南肩部になされた盛土は、幅約1m足らず、高さ10数cm、長さ約5mで途切れ、北肩部の盛土は、幅60cm、高さ20数cm、長さ5m以上である。これら２本の堤は、溝の両肩部に土を少し盛り上げた簡単な作りで、堤としてより個々の水田に伴う畦畔としての役割の方が強いのかも知れない。また、土手－５、６の延長部分は水田48、55の畦畔に相当するが、その箇所には盛土は見られず、水路に直接連なっており、なんらかの事情によって畦畔が取り払われたのか、あるいは必要性が少なかったのであろう。

その他、水田51、52、54の間に島状高まりとも呼べる小さな土地がある。この土地は畦畔より数cm低く、周囲の水田より5～10cm一段高い。一辺約1.50mの三角形形状をし、水田とは判断しがたい箇所であり、その利用については不明な点が多い。

次に、水田と共に検出した水路〔付図－14(1)・(2)〕は５条ある。それぞれの水田への用排水路としての機能を果たしていたのであろう。

水路－１〔付図－14(2)・(5)〕は幅約2m、深さ約70cmで、幅、深さともに最も大きく、今回の調査における水路の中心的な存在であったと考えられる。水路の流れの方向は、底の標高がT.P.+6.20m前後で、両側の堤の高さを比較すると、北側の堤がやや高く、さらにそれぞれの堤の東部がわずかに高い等から、水路－１の水は東から西へ流下していたものと推測される。南端の自然河川との関連があるのかも知れない。

水路－２〔付図－14(2)・(5)、図版170下〕は水路－１の西土堤に沿って走り、トレンチ部東端で南に強く屈曲している。この水路は、北側を畦畔－３、南西側を水田６、13、14の畦畔によって、さらに南東側を土堤－２によって固定されている。

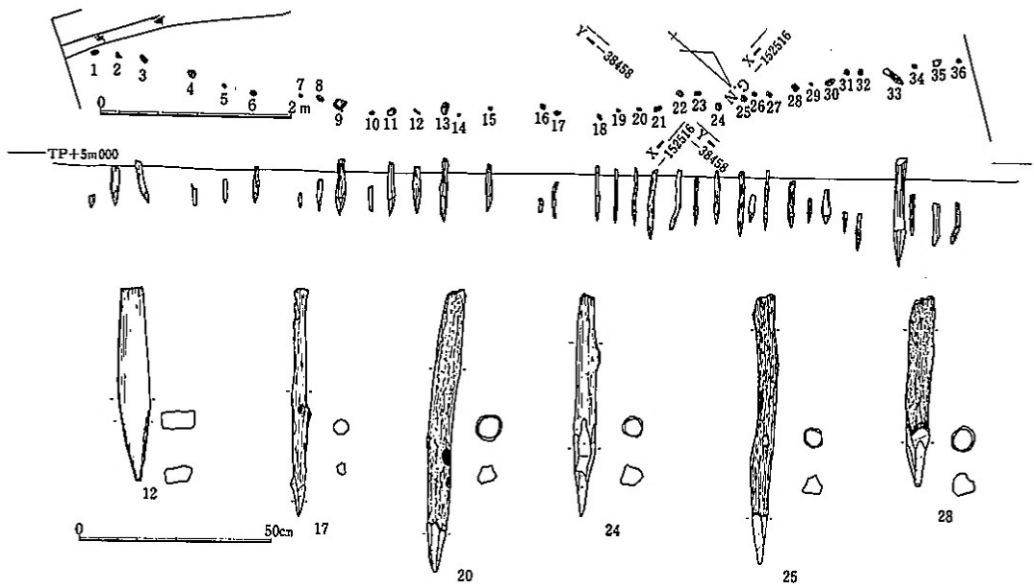
水路－３〔付図－14(2)〕は東、西を土堤－１、２によって固定され、水路－２の一部と平

行する。北東～南西方向の水路である。水路は幅数10cm、深さ10cm、両側の盛土高は10cm前後しかない。土堤-1の両端は途切れがちになり、水田-15と水路-3を区切る堤はなくなる。そして、この水路の北よりの1ヶ所に、水路部を土で小さく堰き止めた箇所がある。近くの土堤-2、3の一段低くなった結節部を通じて標高の低い水路-2に連絡している。水路-3へ導入された水は北東へ流下し、水位水量調整機能を有する水路途中の盛土に堰き止められ、水路-2へ分流していたのであろう。

水路-4〔付図-14(1)、図版170上〕南と北に土堤5、6を作り、水田49、53、55、56の間を流れる。幅1.00m、深さ30cm前後である。溝底は西の方がやや低い。次に、水田48、55は周囲の水田より10cm程低く、先述したように水路との境に堤(畦畔)は見られない。この2枚の水田の用水管理面から、畦畔の必要性が少かったとも考えられ、直接水路から用水の取水をしていたのかもしれない。

水路-5〔付図-14(2)〕はD-5トレンチから検出したもので、水田9～12と畦畔を横切って北東から南西に走る。幅1.20m～1.60m、深さ約30cmを計るもので、北東の部分では著しく狭く、浅くなっている。なお、この水路の両側には盛土はなされていない。

水路、及び水田を覆う砂層からの出土遺物は第168図9～12、図版195-9・196-10～12のような土器で散発的に出土している。



第145図 D-7トレンチ第5遺構面河川-1杭列平面・見透し図、杭実測図

河川-1〔付図-14(2)、第145・168・169図、図版173〕

調査区南端とD-7、8トレンチで確認した河川で、河川北岸～東岸の一部を検出した。河川の北肩部は第4遺構面の水田を挟んでなされる。幅10m以上、深さ約1.5mを測る河底の平坦な川である。河の流れの方向は、本トレンチ南端から10m付近で北西に急激に向きを変えている。流れが向きを変えるコーナー付近は水勢が強く、水田の一部をえぐりとったらしく、河川の延長部分の水田が相当流出しているのが観察された。河川内の堆積は粗砂層がほとんどであるが、北岸付近は植物遺体をバンド状に含む土層が多く、南側の砂層堆積は径10～40cmの粘土ブロックを多く含む土層に分層でき、数回の大きな流れの変化を示している。この他、河川の砂層中には10～50cmの加工木・自然木を用いて川の流れに平行する杭列(第145図)が検出されている。

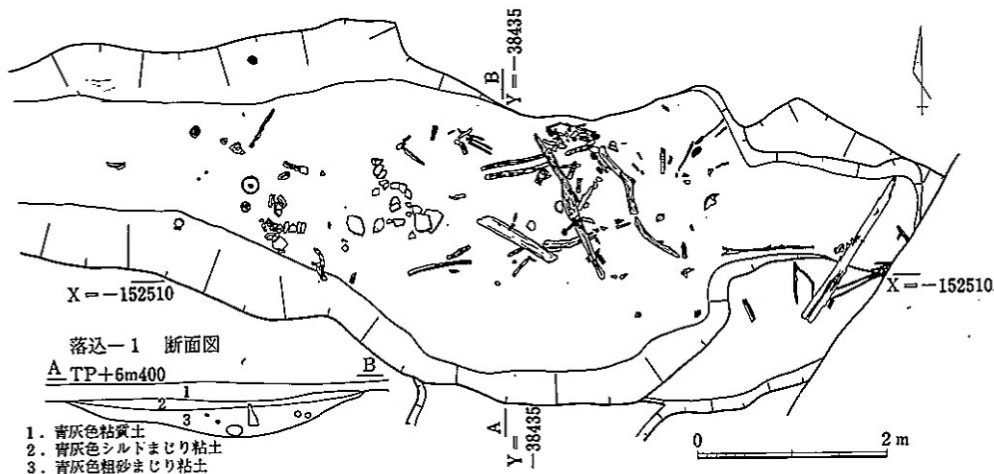
出土遺物(第168図1～9、第169図16、図版195-1・2・4・5・7～9・196-6・8)は河床底近くから散発的に7点の完形の土器を含め、若干の弥生土器が出土している。土器は破片になったものはよく磨滅しているが、完形品の7点は砂層内のローリングの被害も少なく、器表面の荒れも少ない。

5. 第4遺構面〔付図-15の(1)～(4)〕

この遺構面は、粘土層上面に掘り込まれた小ピット等である。検出地区はD-4トレンチだけで、ピット内には柱根を残すものも認められた。この他、溝・溝状落込を3ヶ所で検出した。出土遺物は粘土層上面～砂層中から弥生時代後期の土器片が出土している。

この内、最も古い時期の遺構は第4面の(1)で、(2)、(3)と順次新しくなる。付図15-(1)(2)はD-4トレンチの径25～40cmのピット群〔第4面(1)〕である。

第4面(2)の遺構〔付図15-(3)〕は、溝-1で、幅1～1.5m、深さ20～30cm、長さ約28m以上、溝-2は幅40～60cm、長さ14m以上、深さ10～20cmで、シルト層に掘り込まれ、埋土は粗砂層である。



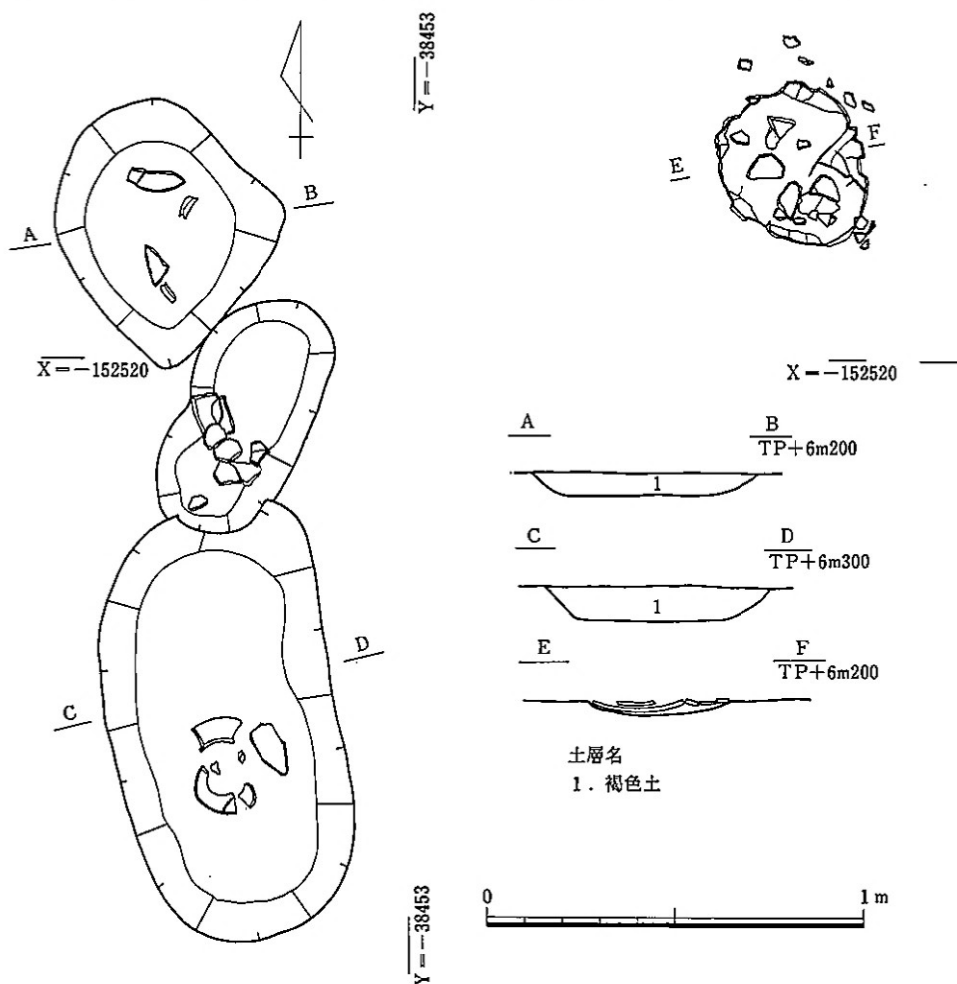
第146図 第3遺構面落込-1平面・断面実測図

第4面の(3)〔付図15-(4)〕は溝である。この溝は幅40~50cm、長さ約3.5m、深さ10cmを計る。

6. 第3遺構面〔付図-16、図版175・176〕

第1遺構面となっている近世~近代の水田耕作土を除去すると、標高の低い北半部には第2層の茶色系の砂層、標高の高い南半部には第3層の褐色系の土層が同時に現れる。遺構は第3層の下から検出される。第3層は、北部では上面に水田面(第2遺構面)が拡がり、中央部では数条の溝と住居跡があり、南部では幅の広い溝状落込とピット等の遺構が検出される。さらに、第2、第3遺構面にまで達している第1遺構面の多数の小溝、農耕用牛馬の足跡も調査地区全面に印されていた。

これらの複雑な遺構面の変化は、河内平野低湿地縁辺地域を西~北流する弥生時代後期の河川が作り上げたかなり大規模な自然堤防上や北斜面の標高の高い所は、近世・近代にいたるまで盛土・削平をくり返しくり返し受けたためであろう。調査地区南部~中央の弥生時代後期の遺構



第147図 第3遺構面土壌-1 他土器出土状態平面・断面実測図

(第3遺構面)は、高所で水はけの良い旧河川上、あるいは砂層の上に作られている。その一方、調査区の北部の粘土～シルト層は、水田になっているが、中央～南部の低所の砂層の箇所には認められない。元来、水田に適した土が堆積せず、水田に造成されなかったものと思われる。先の弥生時代後期の水田(第5遺構面)とピット群(第4遺構面)が埋没した後、本トレンチの南半部の微高地は再三にわたって人々の居住域に選定された形跡を残している。これらの遺構の時期は弥生～平安時代頃の長期間であるが、全域から検出した農耕関係の遺構の時期はさらに長く、近代～弥生時代後期と非常に幅の広い時期のものを混じえて第3遺構面として検出されている。多分、本地区の大規模な整地の行われた時期が近代に下る頃まで継続していたことを示しているであろう。

以下、主要な遺構について記しておく。

落込-1〔付図-16(2)、第146図、図版176上〕

b-5、6区からa-6～8区にあり、東西に延びる幅10m前後、深さ約60cmの不定形な落込(第146図)で、両肩部付近は極めて凹凸が激しい。落込埋土の上には、灰色細砂層、オリブ黒色粘質土層、灰色粘質砂層、暗青灰色シルト層等が薄く堆積し、これらの土層からは糸切底の瓶子底部、須恵器鉢片が出土している。落込内堆積土は、(暗)緑灰色粘質微砂～砂層で、北側の溝状部分からは、打ち込まれた24本の杭と2本の大きな自然木、小さな割材と共に土器が若干出土している。土師器の底部外面には○印を墨書したものが数点あり、また、土師器内外面に墨、漆の付着したものもある。その他、D-7トレンチでは肩部に1本の自然木(ヤナギ)が自生していた。出土遺物のうち土師器は、平城宮跡第II期～第III期に該当する土師器杯AII、杯BI、高杯AIIがあり、杯身内面に1段暗文、螺旋暗文を施し、口縁端部を内面に少し折り返している。また、須恵器杯身等が出土している。このように落込内からは奈良時代の遺物と、その上の堆積土からは平安時代～室町時代の遺物が出土している。

落込-2～6〔付図-16(1)〕

g、h-9・10区にあり、各落込は幅1～2m、長さ3.20～9.60m、深さ5～15cmの方形プランを呈し、断面は皿形になる。落込内には灰黄褐色シルト質土層が堆積していた。各落込の規模は溝状落込-2が、東西の長さ4.90m、幅1.80m、深さ5～10cmである。溝状落込-3は北東から南西の長さ7.70m、幅1.70～2m、深さ2～10数cm、溝状落込-4は長さ3.30m、幅0.80～1.10m、深さ10～20cm、溝状落込-5は北東～南西の長さ9.70m、幅1.40～2.20m、深さ2～15cmで、中に径1.25～1.50m、深さ数cmの皿形の小さな円形の落込がある。その他、D-3トレンチで検出したほぼ方形の落込は、長さ1.70m、幅1.30m、深さ数cmの規模である。出土遺物は各落込とも極めて少なく、弥生時代後期の土器細片だけである。

落込-7〔付図-16(2)・(5)、図版177下〕

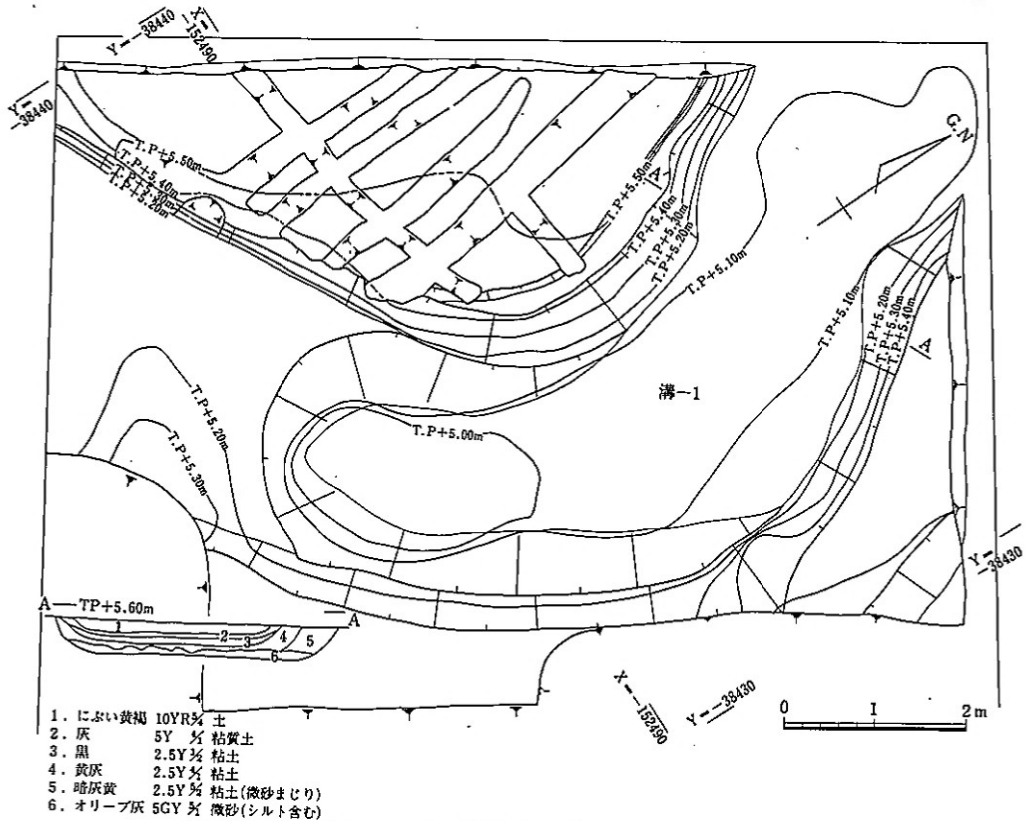
j-8の4区にあり、溝2に東側1/3を切り取られている。落込の径は約2.80m、深さ60cmで、底は大体平坦な円形の落込である。落込内の埋土は、粘土層が大半を占め、レンズ状に堆積している。遺物は極少量の弥生時代後期の土器片が出土している。

落込-8〔付図-16(2)・(4)〕

b、c-7区にあり、幅1m前後、長さ8m以上、深さ40cm前後の断面逆台形の落込である。落込内の埋土からは、土師器、須恵器片が出土している。落込の肩部近辺には広範囲にわたって、不規則な傾斜、小さな凹部も数箇所認められたが、ピットと判定するにはいたらなかった。落込の堆積土の上の部分からは土師器片や須恵器が多く出土している。

ピット〔付図-16(2)・(3)、図版175下〕

溝状落込の南側で30数ヶ所のピットを検出した。ピットは方形で褐色土の埋土のものと、不定形で、褐色土に炭の混ざったもの、第1層の土と同一のもの3者に大別される。次に方形ピットはいずれも浅く、深さ数cm位しかないものが大半であり、深いものでも10cm程度しかない。ただし、D-7トレンチで検出した2ヶ所のピットは、深さが10cmを超え、柱根の痕跡を残すもの



第148図 D-5トレンチ第3遺構面1号墳・溝-1平面・断面実測図

である。この他、不定形なピットは、炭混じり褐色土層が埋土で、底はU字形をしている。深さは数cm～10cm未満のものばかりである。出土遺物は、分厚くもろい弥生時代後期後半の土器細片が多い。

小溝〔付図-16(2)、図版174上〕

調査地区の最南端部に多い。東西溝3条、南北溝2条は近世の水田土層と同一である。これらを除いた数条の小溝は方形ピット、不定形ピットより古いものが多いが、時期を決定できるようなものは出土していない。D-5トレンチの一角で検出した数条の小溝の埋土は近代の水田土層と同一の土層である。

土壇-1〔第147図、図版176下〕

c-6の2区から壺棺の可能性のある土器片が数点出土している。壺は、胴部下半の1ヶ所に外側から円形に穿孔し、そこを下にして据え置いたものである。調査時点には、土器から1m余り離れた3ヶ所の小土壇からも同じ土器の破片が数点ずつ出土している。

1号墳・溝-1〔付図-16(2)、第148図、図版182〕

D-5トレンチにある。幅3.6m前後、深さ30～50cmで、コーナー部の底が一段深くなる平面形がL字形、断面形が皿形の溝(第148図)である。溝内の堆積土は大半が粘土層であるが、溝の掘り直しも行われている模様である。出土遺物は溝内中位の土層から土師器の小型丸底壺の細片と壺の口縁破片、弥生土器片が出土している。溝に囲まれた一段高い平坦な箇所には近世から近代にかけての小溝が多数検出される。平坦地上の土層は黄灰色細砂層で、その一部窪んだ場所に褐色土層が点在して認められるが、削平が著しい。溝の埋土状況、平面形から、この遺構は、古墳の周溝であろう。

溝-2〔付図-16(1)・(2)、図版177上〕

i、j、a-8区を東西に走る、幅2m、深さ約50cm、長さ22m以上の溝である。断面はにぶいV字形を呈し、調査地区北端で2方向に分岐する。溝底のレベルは南の方が少し高い。溝内には青灰色～黒色粘土層が中間に薄く互層に堆積している。出土遺物は若干の弥生土器片のみである。

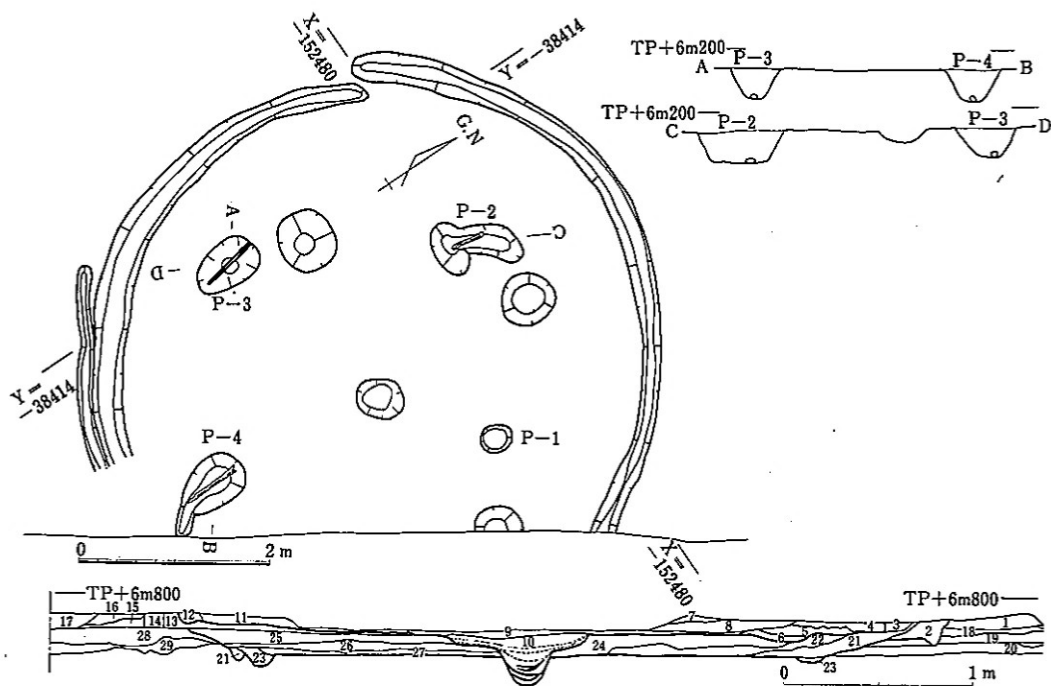
溝-3〔付図-16(1)・(2)〕

h～a-8・9区を南北に走る、幅0.50～1.50m、長さ30m以上、深さ20cm前後で、さほど幅の広くない溝である。溝のレベルは南の方がやや低くなっている。溝内出土の遺物は弥生土器の細片のみである。

住居跡-1〔付図-16(1)、第149・172図、図版178～180〕

h、i-9区にあり、住居跡の一部は調査区域外に延びており、全容は知りえない。検出した状況は、近世の耕作土層を除去する過程において、一段高くなった住居跡外周部分が現れ、その内側中央部は低く窪み、浅い皿状を呈していた。浅い皿状の住居跡内の堆積土は少量で、内には黒褐色粘質土層、灰色（炭混じり）粘質土層がレンズ状に10cm余堆積し、その下には灰黄褐色炭混じり砂質土層、灰オリーブシルト混じり砂質土層、暗灰黄色粘土ブロック混じり砂質土層、灰色中砂混じりシルト層等が認められた。遺物はこれらの土層中から細片で出土し、（第172図1～13、図版199-10・201-5～7・11～13）、完形品や大きな破片は見られず、また建築部材等はほとんど残っていなかった。この住居跡は土層断面の観察により、新・古の2時期が認められた。

住居跡の平面プランについては全形を知り得ないが、上層の住居跡は径約8m前後の東西にやや長い円形で、面積約28.3㎡と推測される。壁溝は北側半周に幅の広い浅い溝をめぐらし、その溝は幅約40～60cm、深さ数cmである。床面の中央は、東西1.80×南北1.60m、深さ10cmの範囲で1段落ち込み、さらにその中央に50×60cm、深さ20cm程の円みをおびた窪みがある。中には厚さ



- | | | |
|-------------------------|---------------------------|------------------------------|
| 1. 灰 7.5Y% 砂質土 | 11. 灰 5Y% 粘質土 | 21. 暗オリーブ 7.5Y% 砂質土(粘土まじる) |
| 2. 灰オリーブ 5Y% % | 12. 灰 5Y% 砂質土 | 22. 灰オリーブ 7.5Y% 砂質土(シルトまじる) |
| 3. 灰 10Y% 粘質土 | 13. 灰 7.5Y% 粘質土 | 23. 暗オリーブ 7.5Y% % (炭まじる) |
| 4. 灰オリーブ 5Y% % | 14. 灰 10Y% 砂質土 | 24. 灰黄褐 10YR% 砂質土(炭多くまじる) |
| 5. 暗灰黄 2.5Y% % | 15. 灰黄 2.5Y% 粘質土 | 25. 暗灰黄 2.5Y% 砂質土(粘土ブロックまじる) |
| 6. 黄灰 2.5Y% % | 16. 暗灰黄 2.5Y% 砂質土 | 26. 暗灰黄 2.5Y% 砂質土 |
| 7. 黒褐 2.5Y% % | 17. 黄灰 2.5Y% % | 27. 灰 7.5Y% シルト(中砂まじる) |
| 8. 黒褐 10YR% % | 18. オリーブ褐 2.5Y% 微砂(粗砂まじる) | 28. オリーブ灰 2.5GY% 微砂(粗砂まじる) |
| 9. 黒褐 10YR% % (炭まじる) | 19. 暗灰黄 2.5Y% % | 29. 黄褐 2.5Y% 粗～中砂 |
| 10. 黒褐 10YR% 砂質土(炭化物多し) | 20. におい黄橙 10YR% ブロック状粗砂 | |

第149図 第3遺構面住居跡-1下層平面・断面図

5 cmの灰層や炭の多い黒褐色砂質土層が充填していた。炉跡であろう。床面は灰黄色系の砂質土層の5ヶ所に炭が特に多く混じった柱穴がある。その内の4柱穴の柱間は東西に3 m、南北に2.20mを各々計る。柱穴は、この他に北壁溝内に径40cm、深さ10数cmのものが1個あり、西と南の柱穴までの距離は約2.00~2.20mである。検出された5個の柱穴は埋土にもさほどの変化はない。それぞれに本住居跡の主要な柱穴と考えられる。支柱穴の数、配置についてのこれまでの多くの報告例から見ると4~5ヶ所であろう。柱根はいずれも残っていなかった。

さらに、上層の床面より約20cm余り下に下層住居跡の床面がある。その間に粘土ブロックや炭混じりの砂質土層が堆積している。床面は灰黄色砂質土層上面で、検出した柱穴は7個ある。この内3個は上層の柱穴と同一のものである。若干の炭を混じえた新たな下層の住居跡の柱穴は、P-1、2、3、4の4ヶ所である。

柱穴1、2、3、4は底に径数cm、長さ30~60cmの細い木を礎板がわりに使用している。さらに柱穴2、3の位置は上層の柱穴6、7の位置とさほど変化していないが、大きさは上層の柱穴より大きく、30~90cm程の不整形なプランをもつが、深さは20cm程しかない。柱間は柱穴1~2、3~4間が2.20m、2~3、1~4間が2.60m~2.80mを計り、方位はN-28° 30' -Eを示している。柱根は残っておらず、抜きとられたのであろう。

下層住居跡の床面中央には径40~50cmの炭、灰、焼土がレンズ状に堆積した深さ30~40cmの不整形な円形の土塊がある。この土塊は下層で1ヶ所しか見られず、下層の住居跡の炉跡と考えられる。また、柱穴の1m外側には、幅20cm前後、深さ10cm未満の壁溝が径5.6~6.0mの円弧を描いて廻り、一部2重になっている。溝の時期関係は、外側の壁溝が新しく、内側の壁溝が古い。なお、本住居跡の外周部には上幅1~2m、高さ10数cmで、断面が低平な台形をした土堤状の部分が方形に廻っている。この土堤状の部分は、南側が幅、高さ共に小さく、北側が南側に比して大きい。土堤の土層は、上の10cm余が砂質土層を用いた盛土(第149図土層1~6・13~16)である。この土堤状の所からピットや溝等は検出されなかった。

7. 第2遺構面〔付図—15(6)・(7)、図版183下〕

近世の水田、畑の耕土を約20cm位除去すると、調査地中央部~北部にかけて、にぶい黄褐色シルト層~砂層が0~30cm余り堆積している。この砂層上位部分は、上層の近世、近代層からの牛馬、人間の踏み込んだ足跡が多く残され、一部は本土層の古墳時代水田面と土層にまで達している箇所が多くある。調査地北端部の層厚30cm前後の砂層が認められる所は、幸い水田がかなり良好に保存されていた。しかし、数m離れた南側は砂層も極端に薄くなり、下の水田の保存は悪い。一方、調査地の中央と南端部では、近代水田に伴うと思われる足跡と共に多くの小溝が第2遺構面に残されていた。

畦畔〔付図—15(6)・(7)〕

調査地区北端から10数mの範囲で、小さな畦に区切られた9枚の水田を確認したが、全形の判る水田は皆無である。しかし、畦畔の検出状態から、個々の水田はおおよそ方形プランと考えられる。水田面の高さは、南端の水田面がT.P.+5.40mに対して、北西ではT.P.+3.35mと若干低い程度である。畦畔は、南北方向のものが、東西方向のものより、幅、高さともにやや大きく、幅70cm、高さ10cm程度あり、これに直交する畦畔は幅50cm、高さ数cmしか認められない。この水田面は、調査地北部の一部でしか検出できなかったが、南部へ徐々に高くなる自然地形であり土層も連続することから、調査地区北部から中央部の水田は後世の削平を受けたのであろう。水口はいずれの水田にもない。また、遺物は出土していない。

溝-1〔付図-15(5)〕

調査地区北端より30mの地点、e、f-1の2地区を南東～北西へ走る、幅約4m、深さ約1.40mの大きな溝である。埋土は(緑)灰色～暗緑灰色系の微砂層～粘土層が堆積しており、溝内からは、土師器片1点(調整は内面へラ削り、外面粗いタテハケ)と下層の弥生土器数点が出土している。

8. 第1遺構面〔付図-17、図版183上〕

盛土、及び現代の水田耕土層をそれぞれ約0.5m～0.3mずつ除去すると、T.P.+5.6～5.8m前後で東西方向の小さな畦畔、小溝が数条、f-10、g-9、10区と、a、b-5、6区の2ヶ所に認められた。畦畔盛土内とこの地区の東西から、近、現代の瓦類、磁器類が多く出土している。また、この遺構面の足跡、小溝等は第2、3遺構面にまで達している。

畦畔-1〔付図-17(1)〕

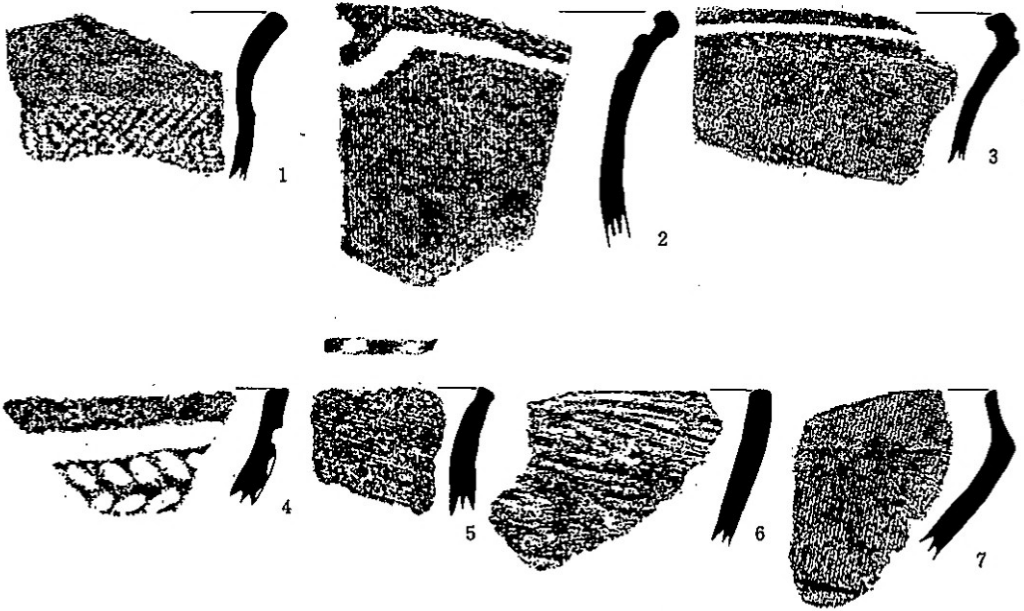
d、e、f、g-1区にあり、幅1.40m、高さ50cmの畦畔の両側に幅80～100cmの溝を設けている。盛土は黄灰色粘土層で、南北方向に走っている。杭列や矢板列等は見られなかったが、遺物は、畦畔内とその左右の小溝埋土中から多く出土している。畦畔内出土遺物は、近世の磁器類が多い中に、わずかに近代の磁器類も含まれている。

畦畔状遺構〔付図-17(1)〕

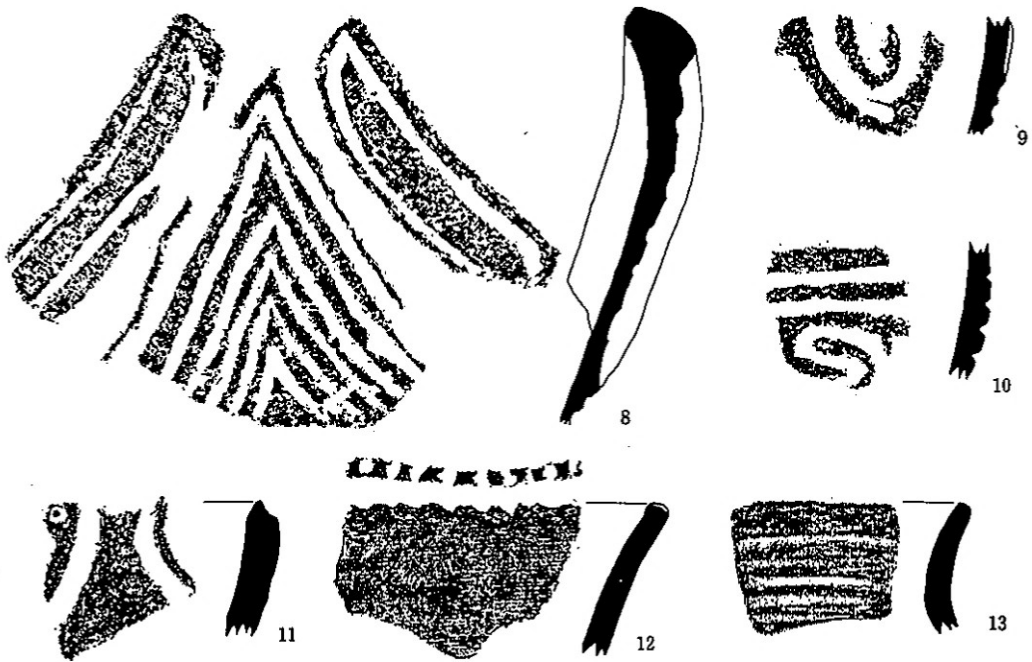
b-5～7区にあり、最大幅3.20m、高さ十数cmの、南北方向(N-2°30'-E)の低平な盛土(暗オリーブ灰色粘土)の遺構である。盛土内からは磁器細片の他、弥生土器、土師器、須恵器等の破片が出土している。

その他〔付図-17(1)・(2)〕

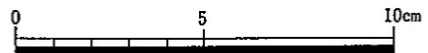
畦畔や畦畔状遺構の他に、浅い溝状落込や溝、小畦畔が数ヶ所に認められた。この他、矩形に一段高く取り残された箇所もあり、水田、畑の造成時に相当激しく土が動かされたことを示している。



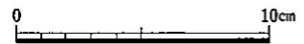
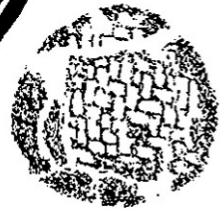
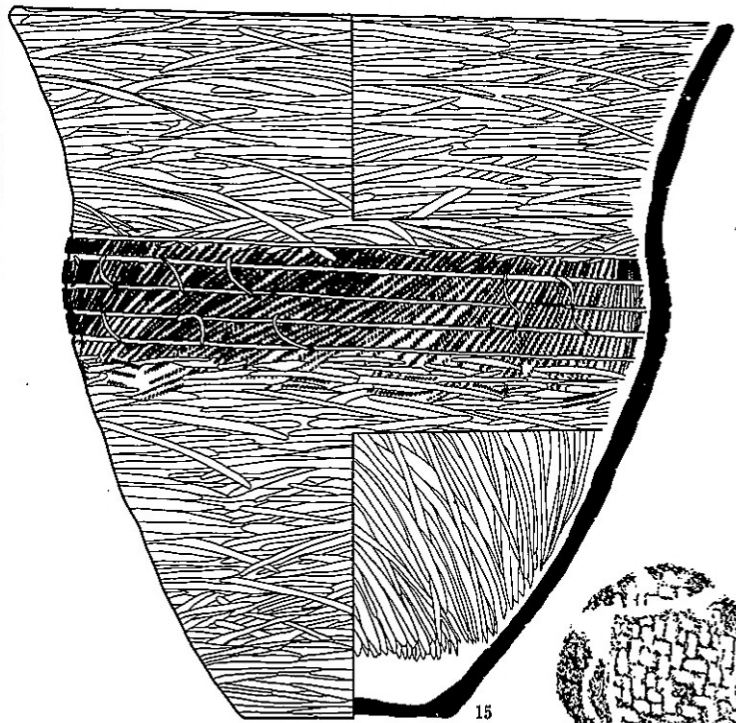
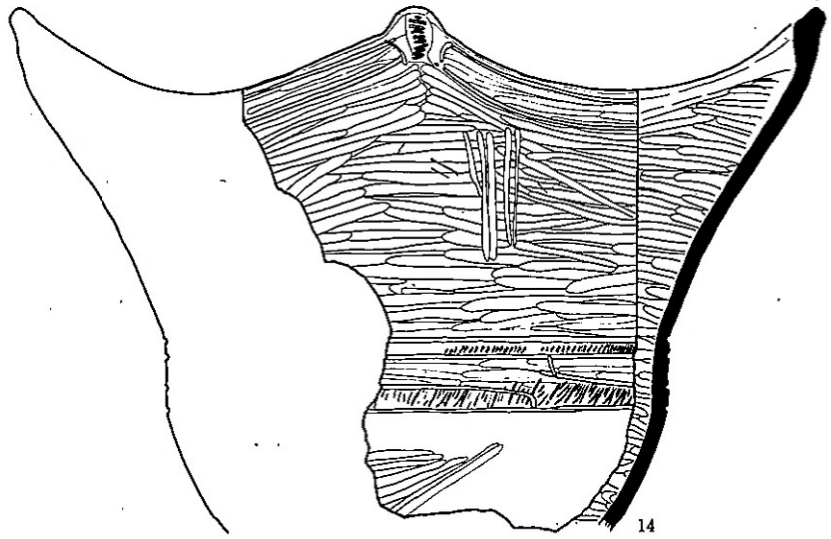
河川-1



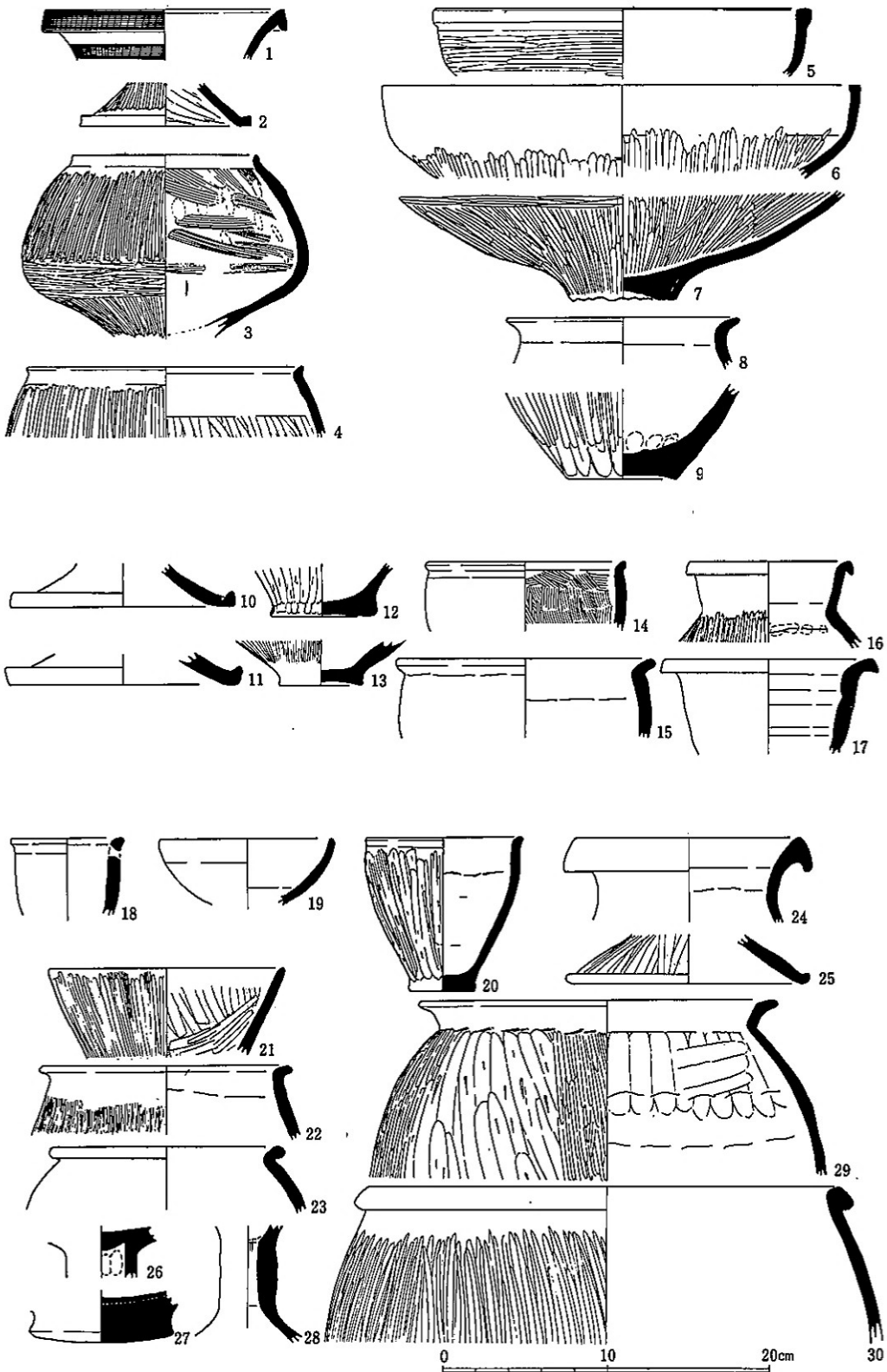
河川-2



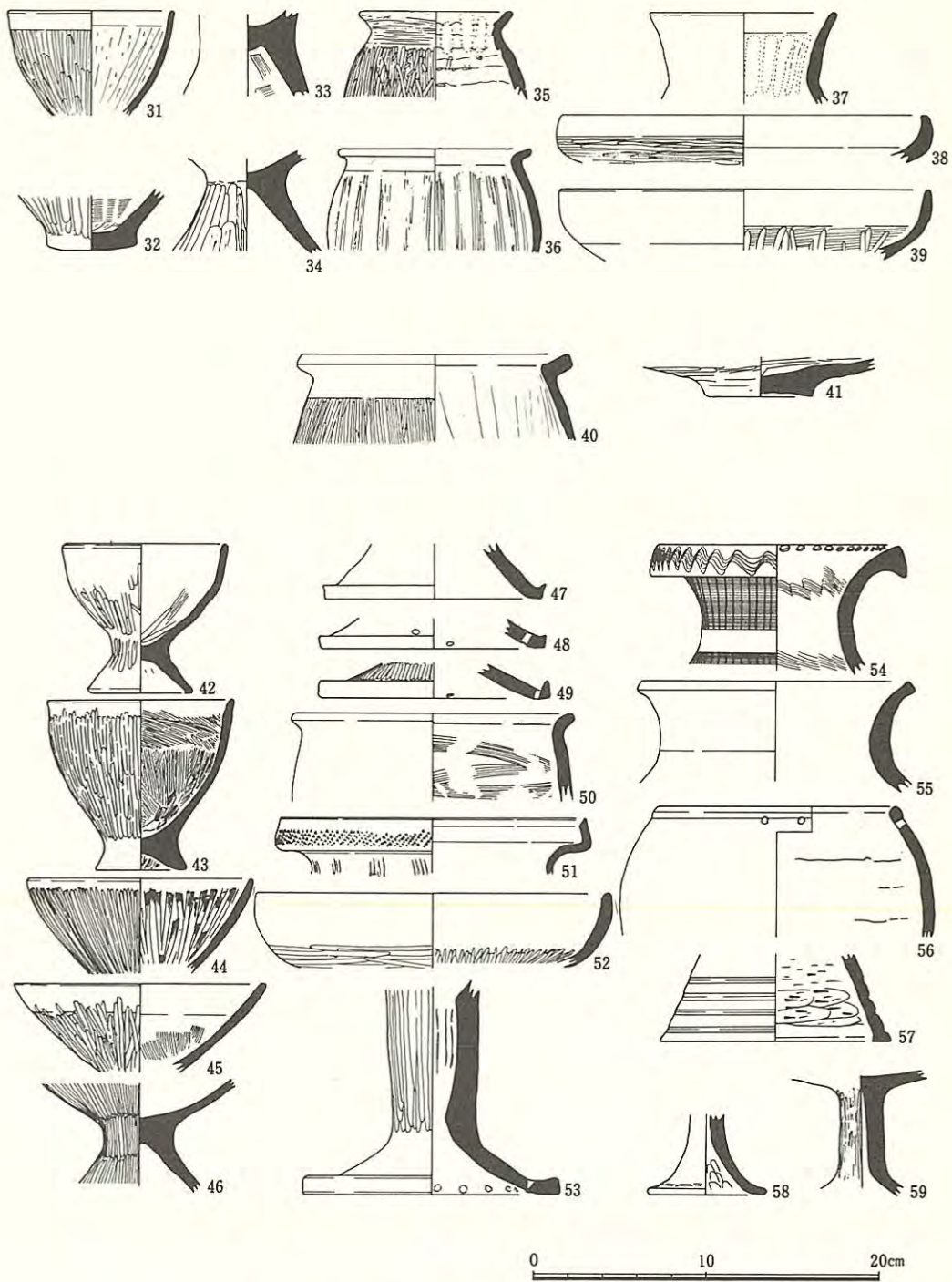
第150図 第9遺構面 河川-1・2 出土土器実測図



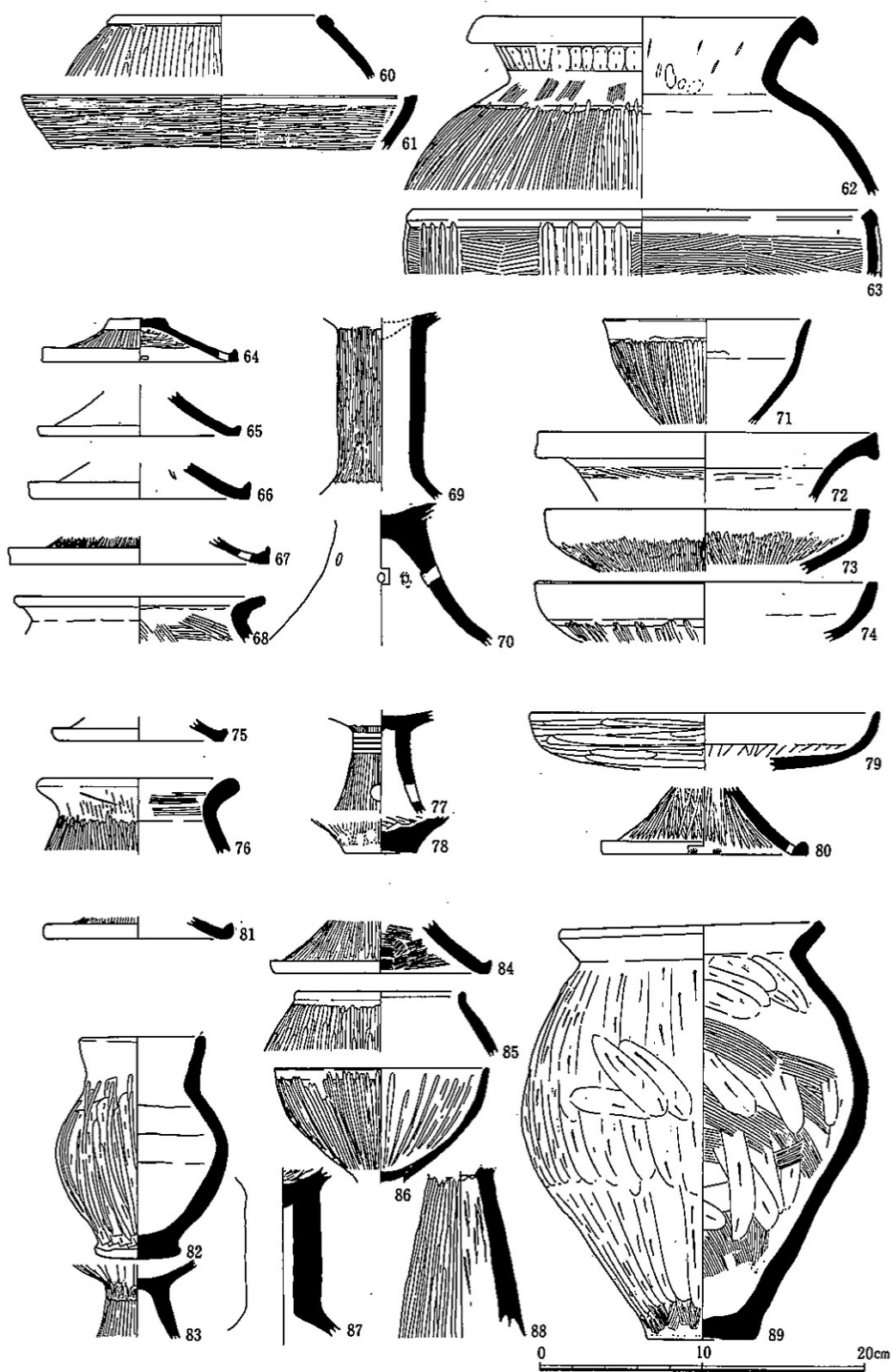
第151图 第10遺構面 河川-3 出土土器実測図



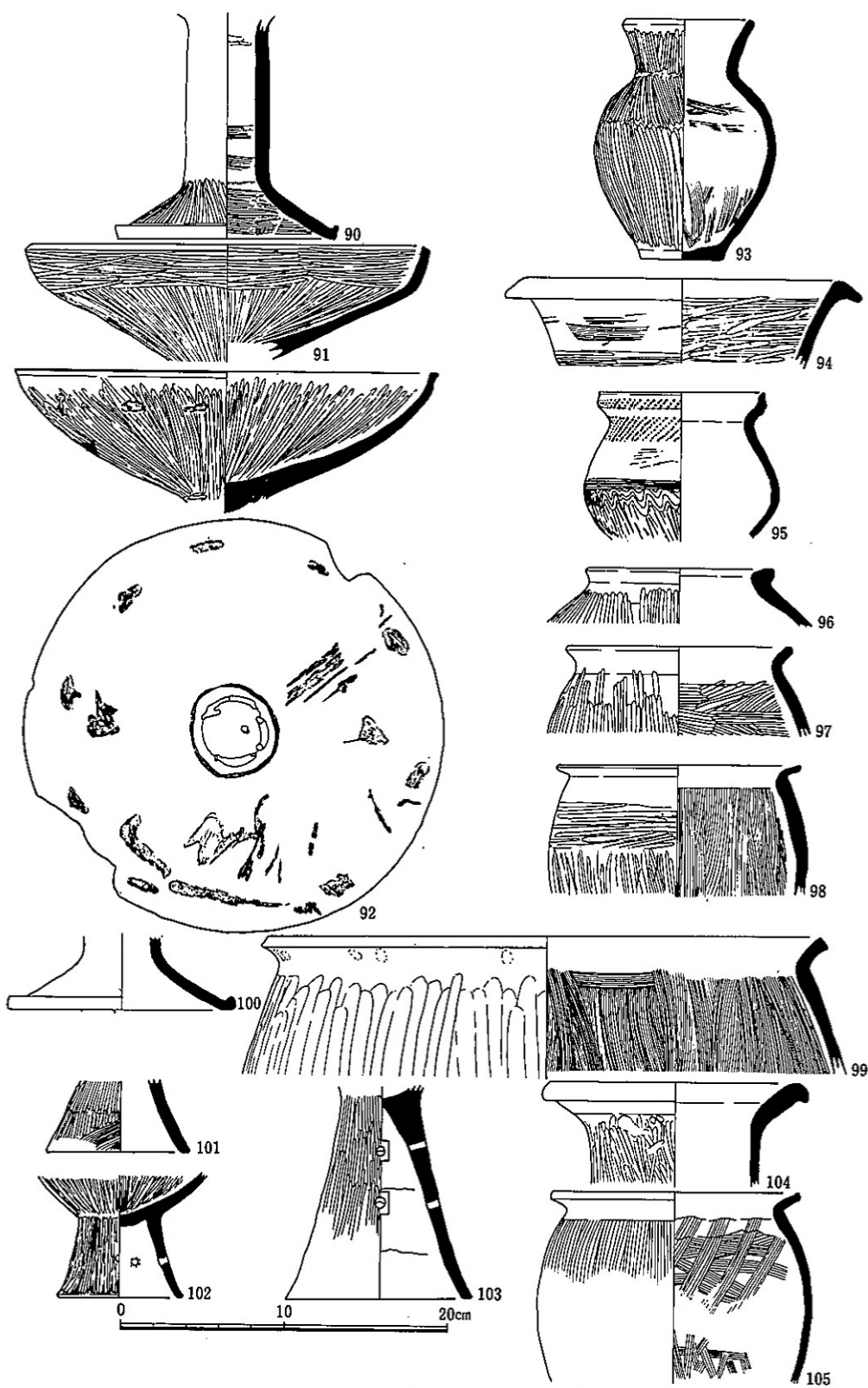
第152图 第7遺構面 高台1・2・3（建物-2）出土土器実測図



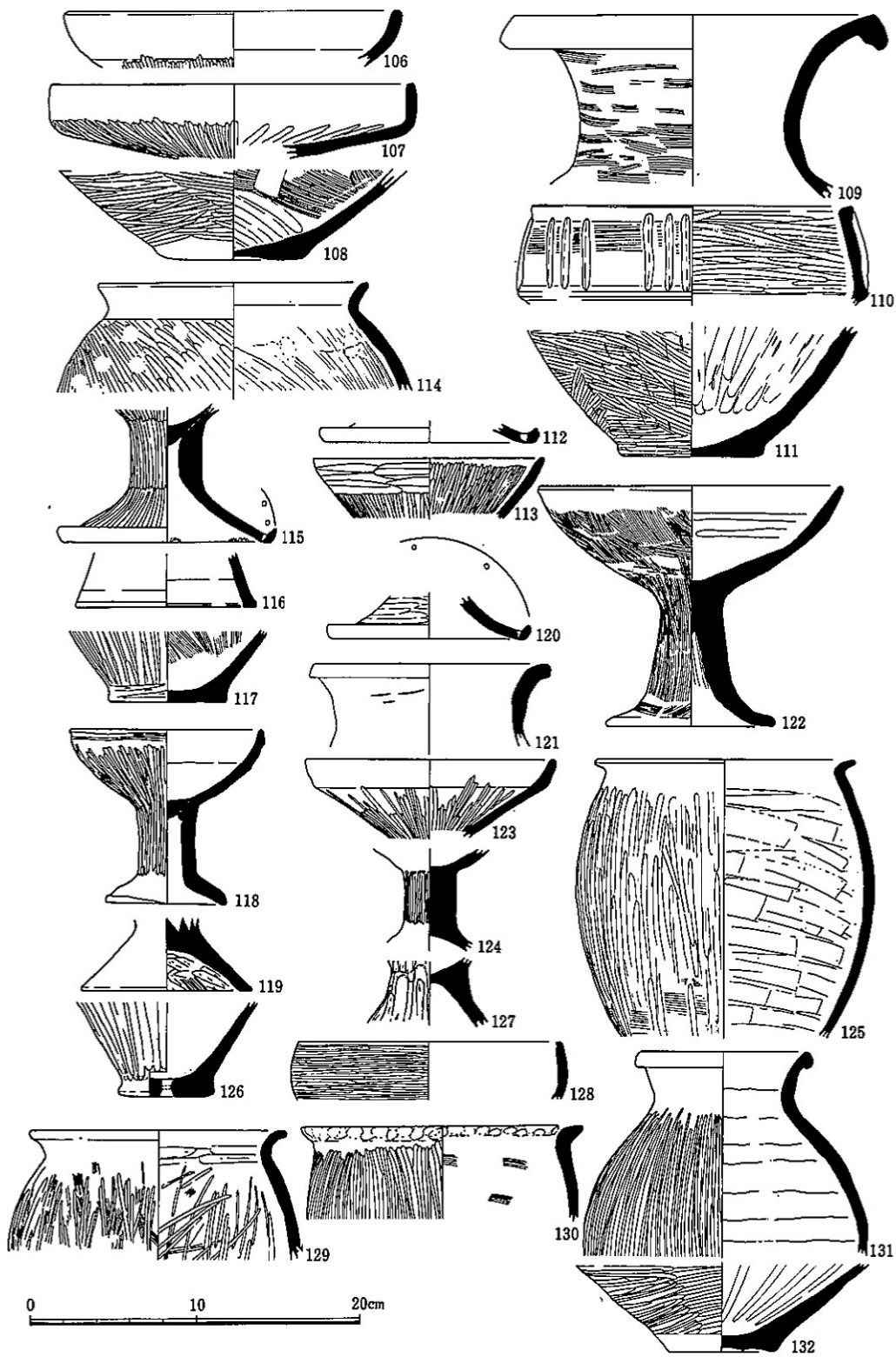
第153图 第7遺構面 高台4・5・6出土土器実測図



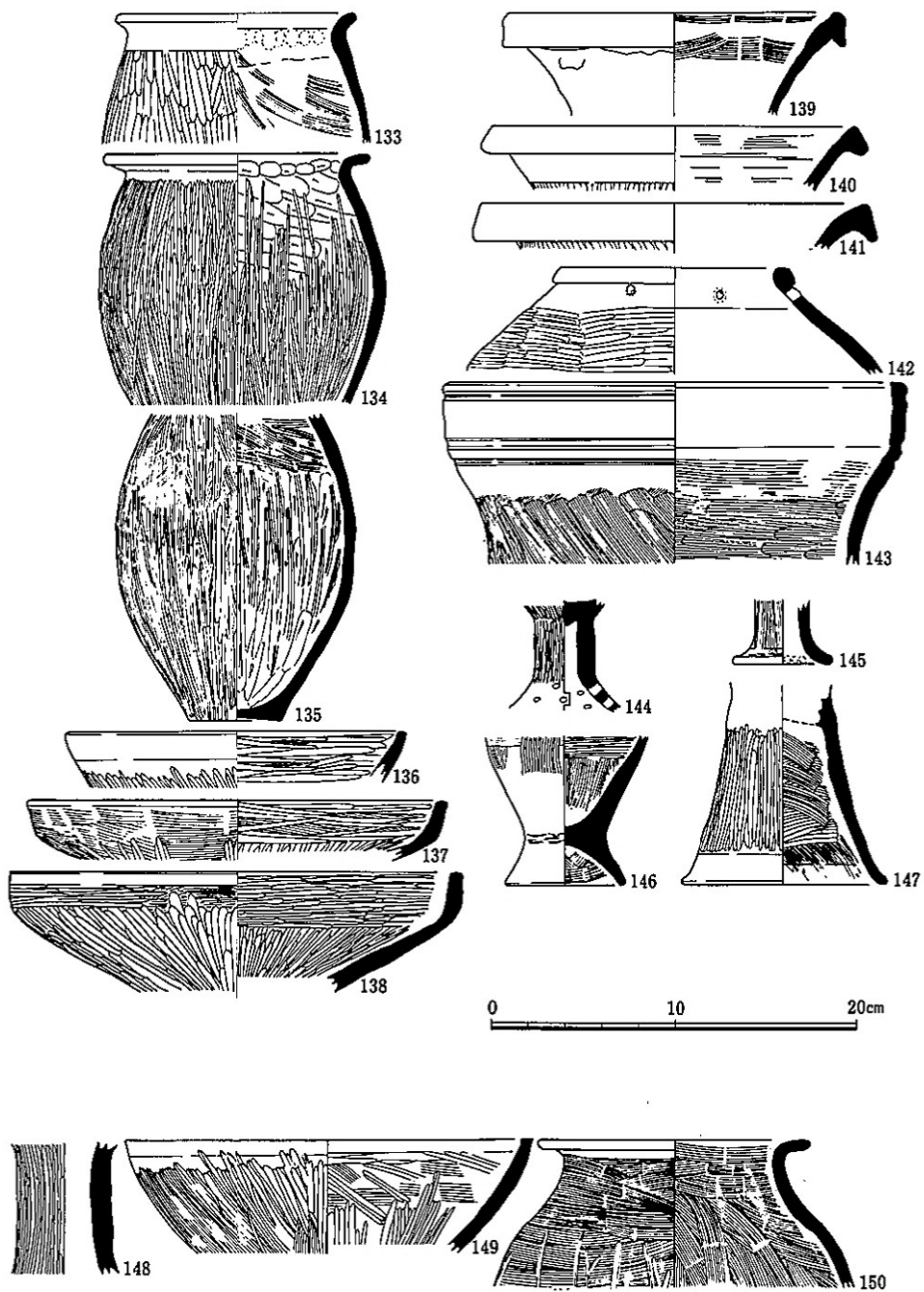
第154图 第6 遗構面 落込一・2、土城16・18出土土器実測図



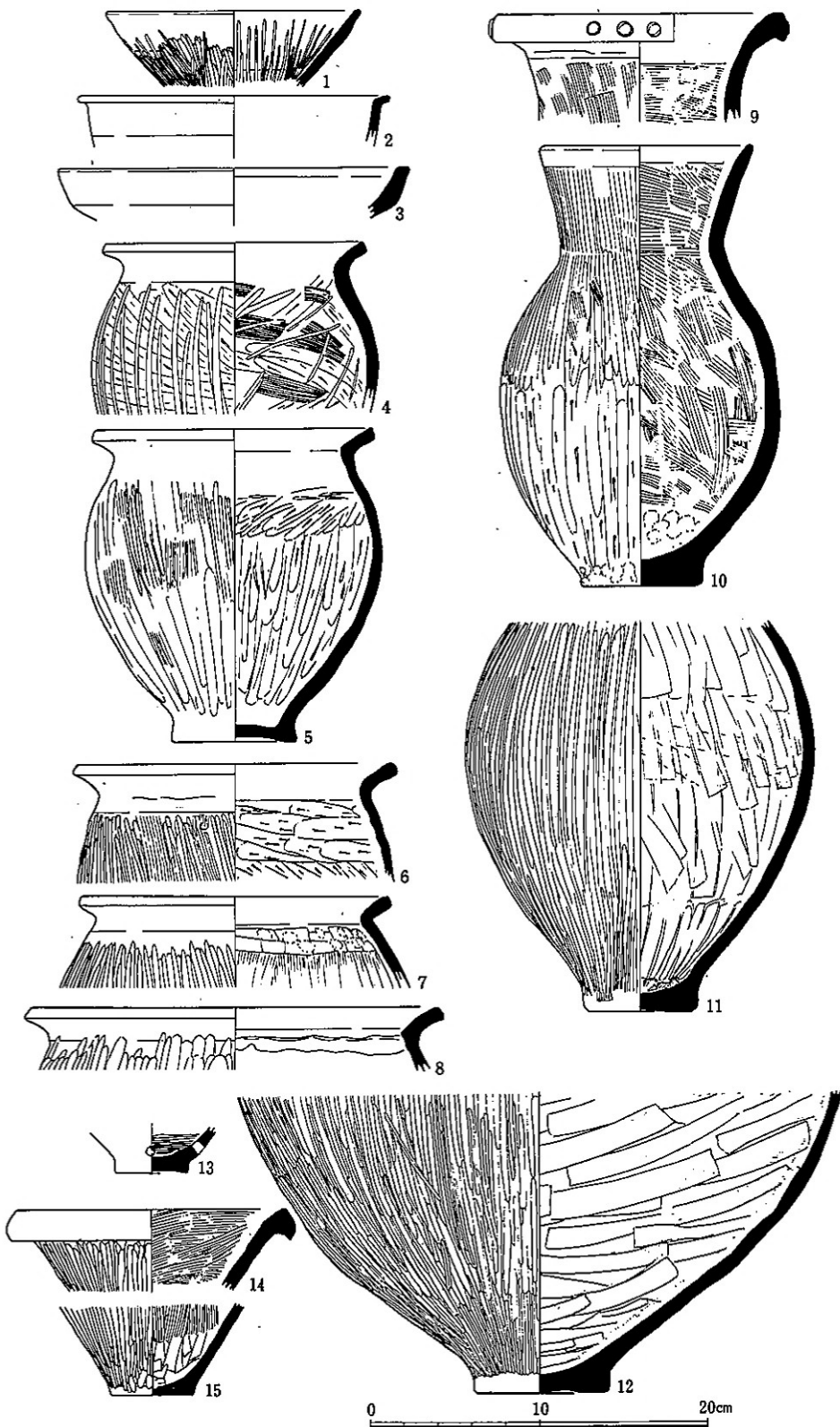
第155图 第6遺構面 土境-19・21・23・24出土土器実測図



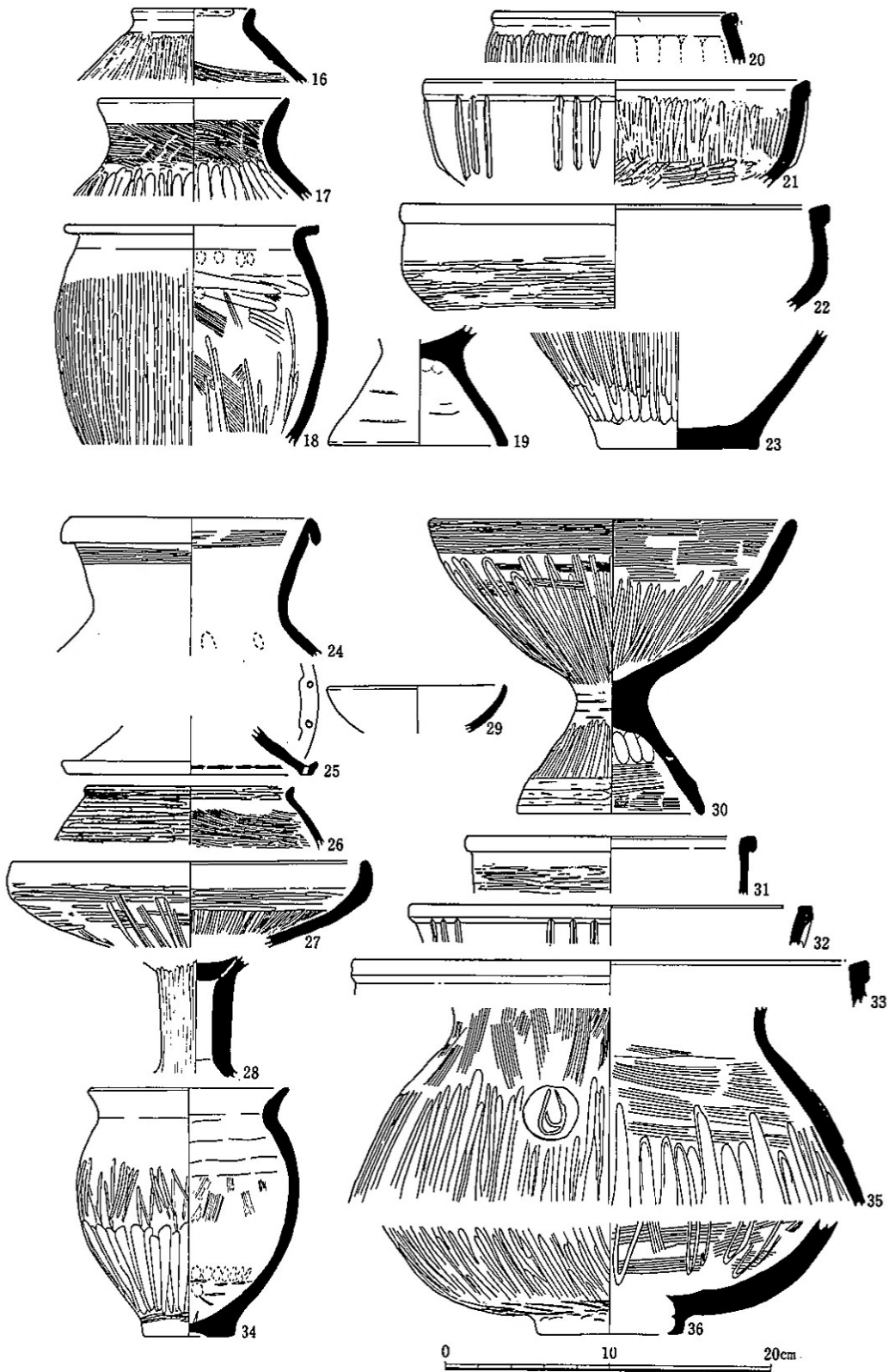
第156図 第8・7遺構面 土壌-3、溝、サヌカイト集積ピット出土土器実測図



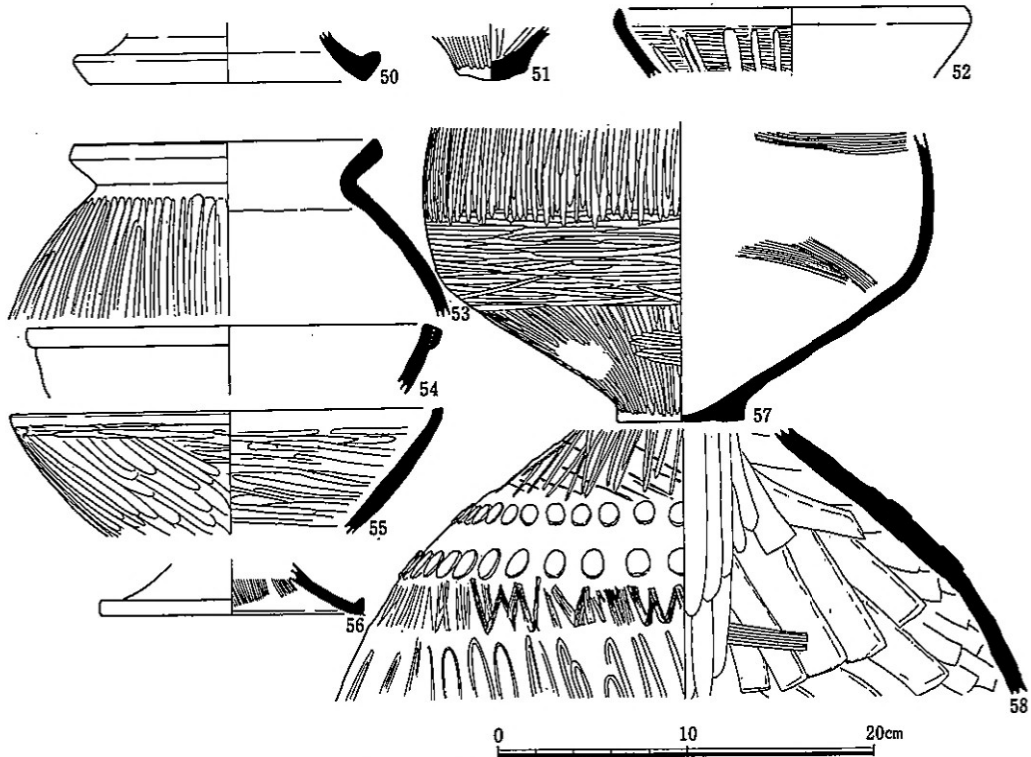
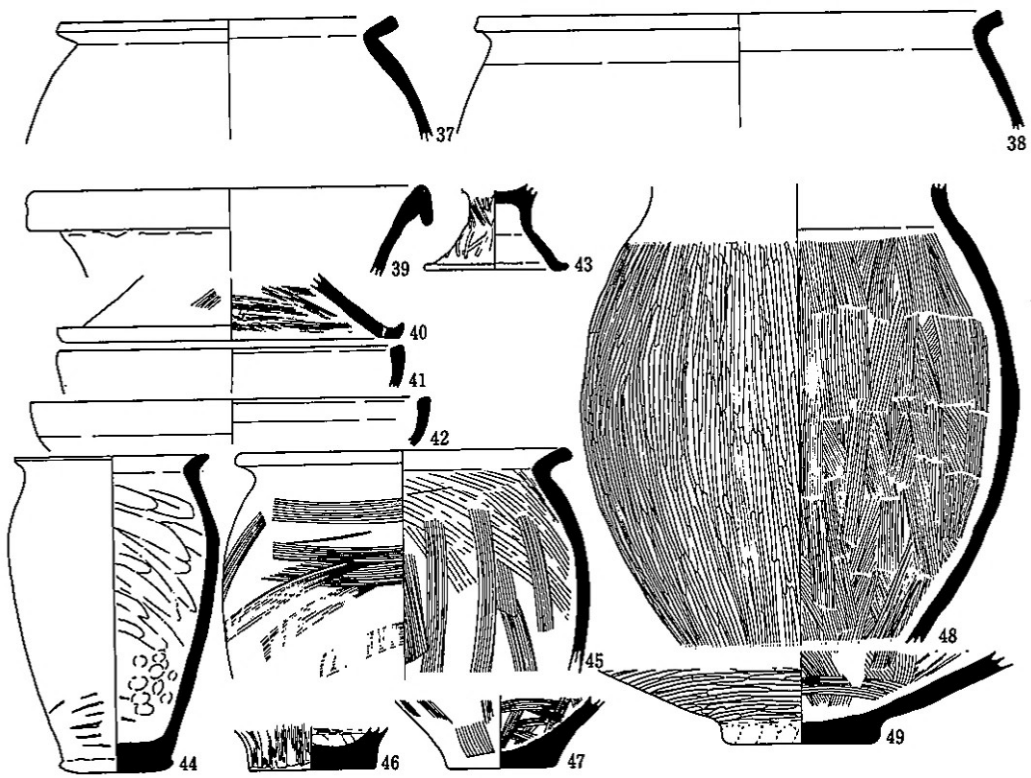
第157图 第8・6遺構面 井戸-1・2出土土器実測図



第158图 第7遺構面 土壙-27、他出土土器実測図

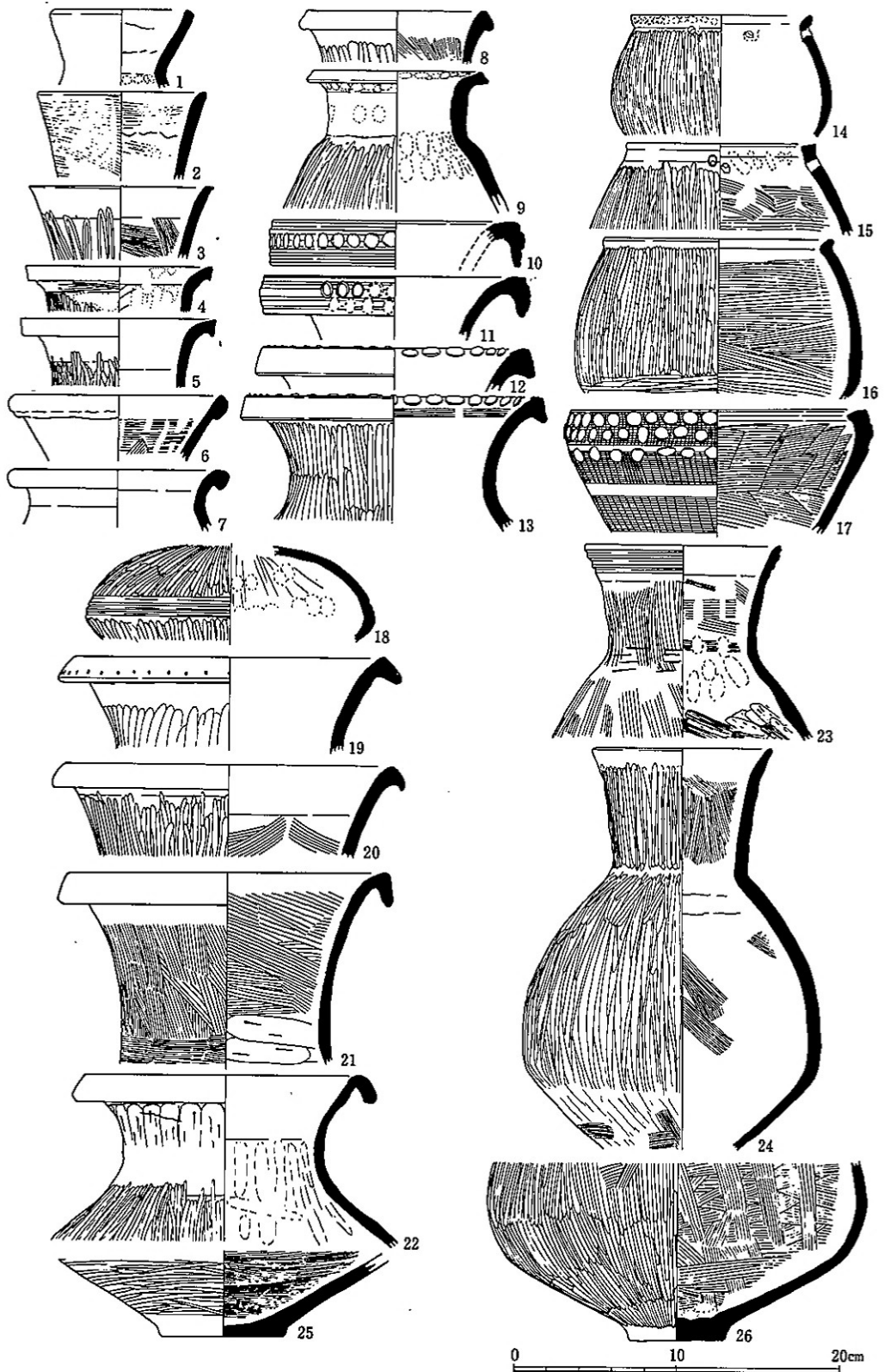


第159图 第7遺構面 高台-5 (建物-5)、土境-15出土土器実測図

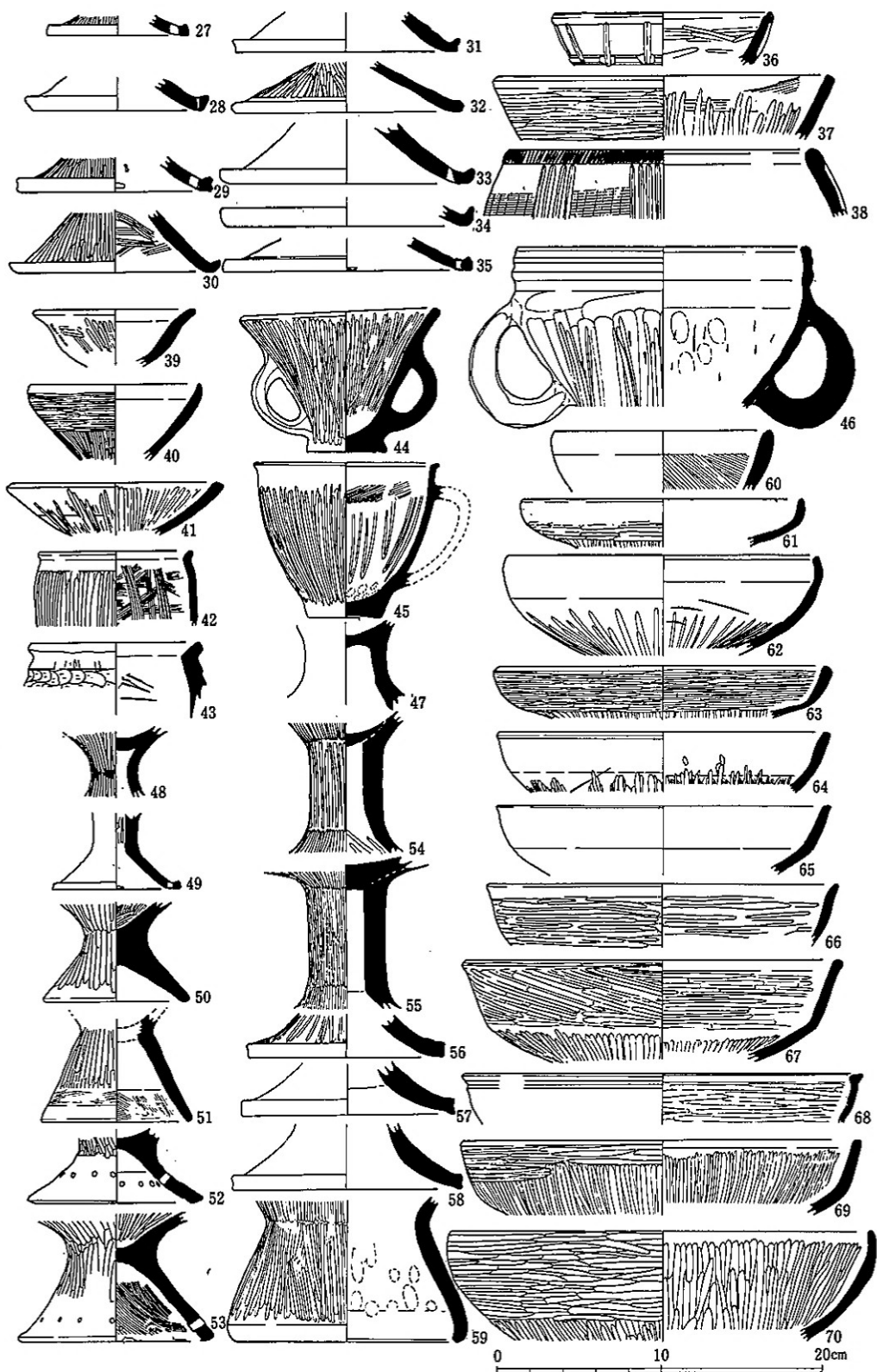


0 10 20cm

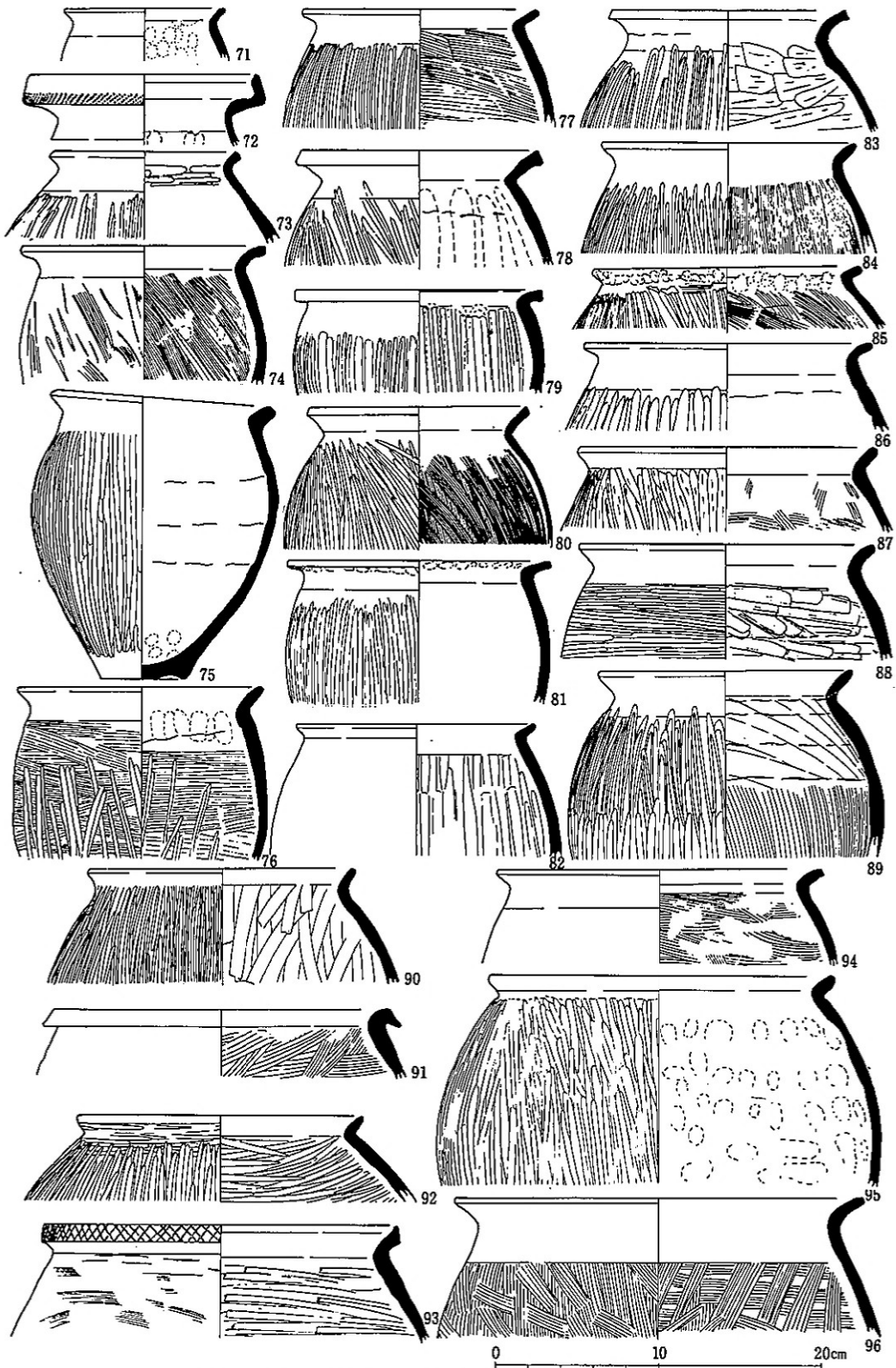
第160图 土壙他出土土器实测图



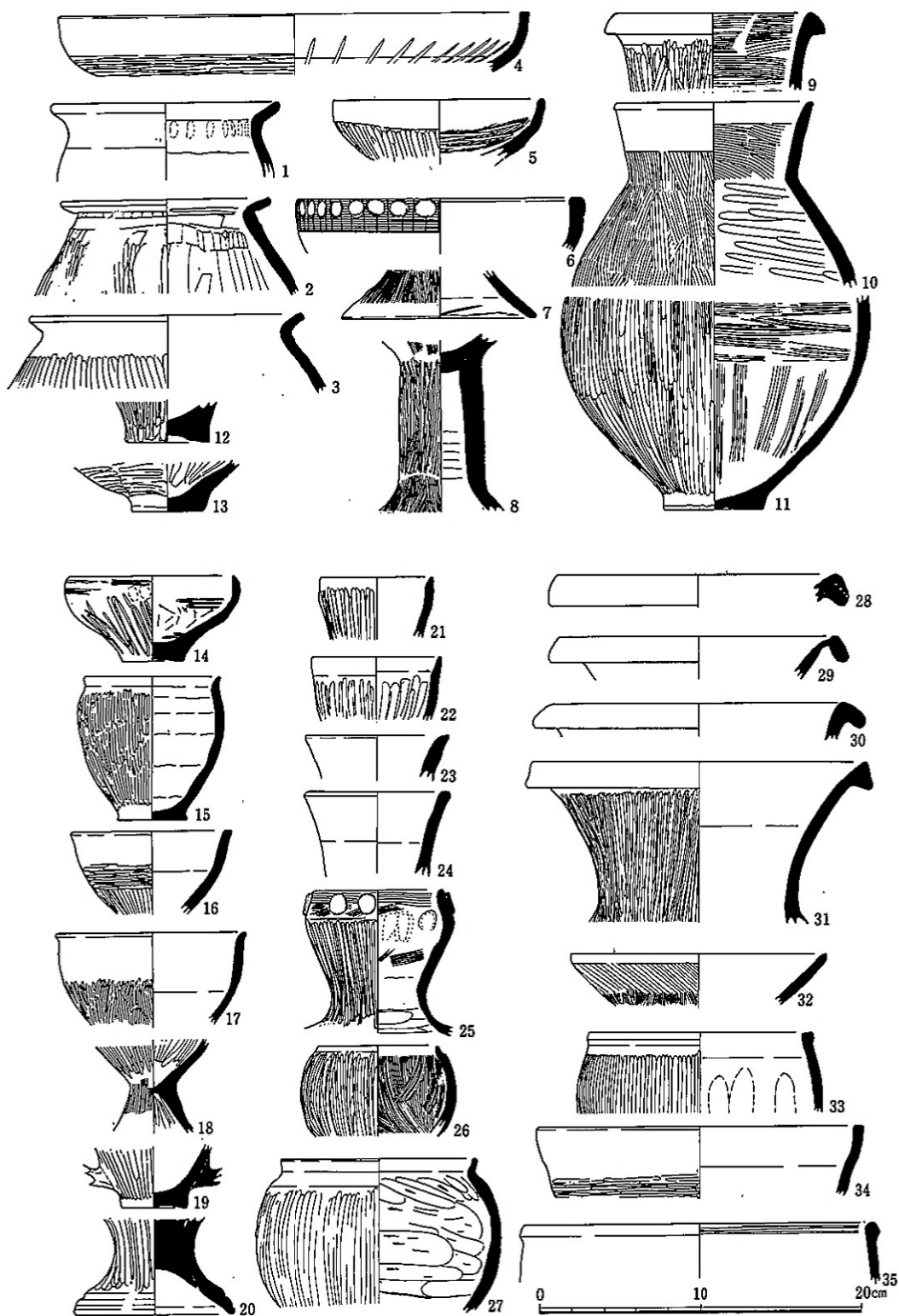
第161図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(1)



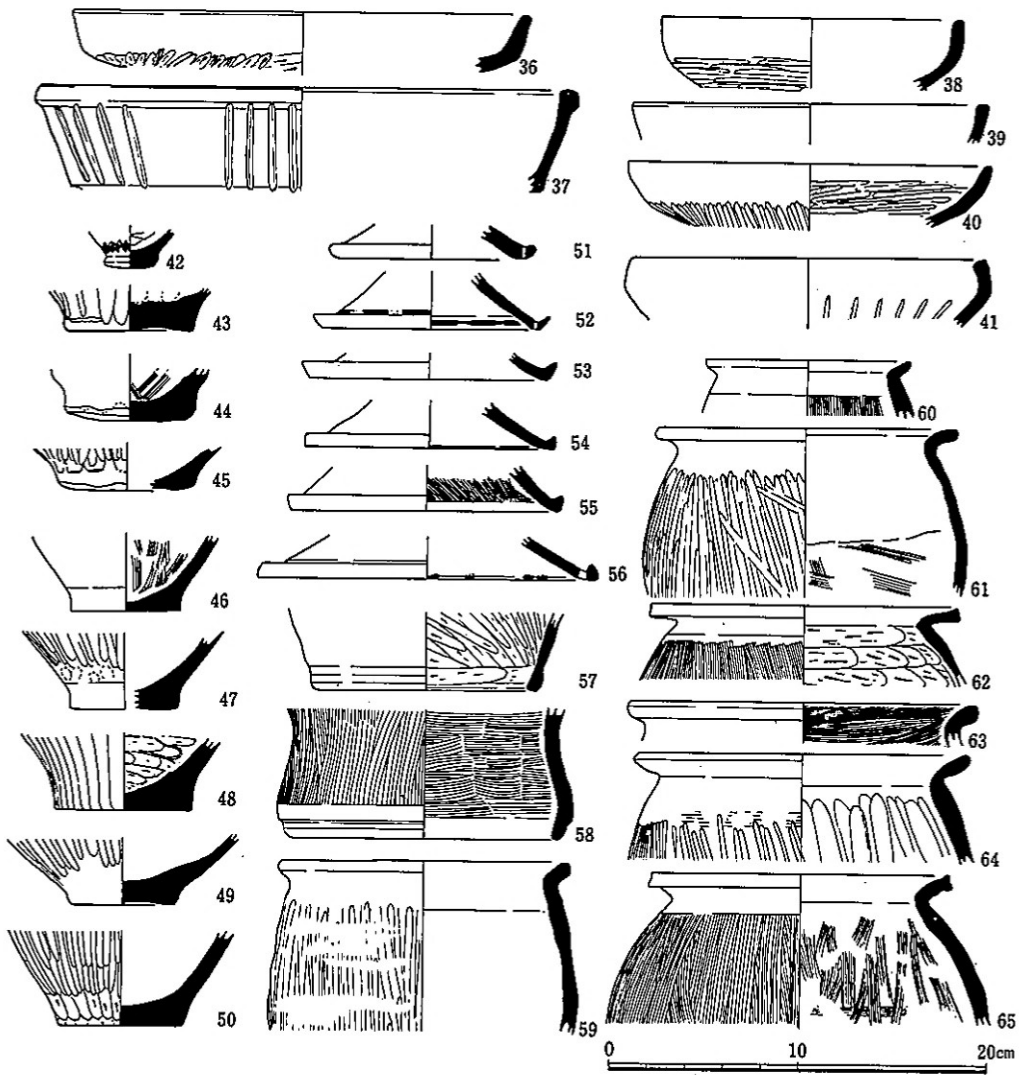
第162図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(2)



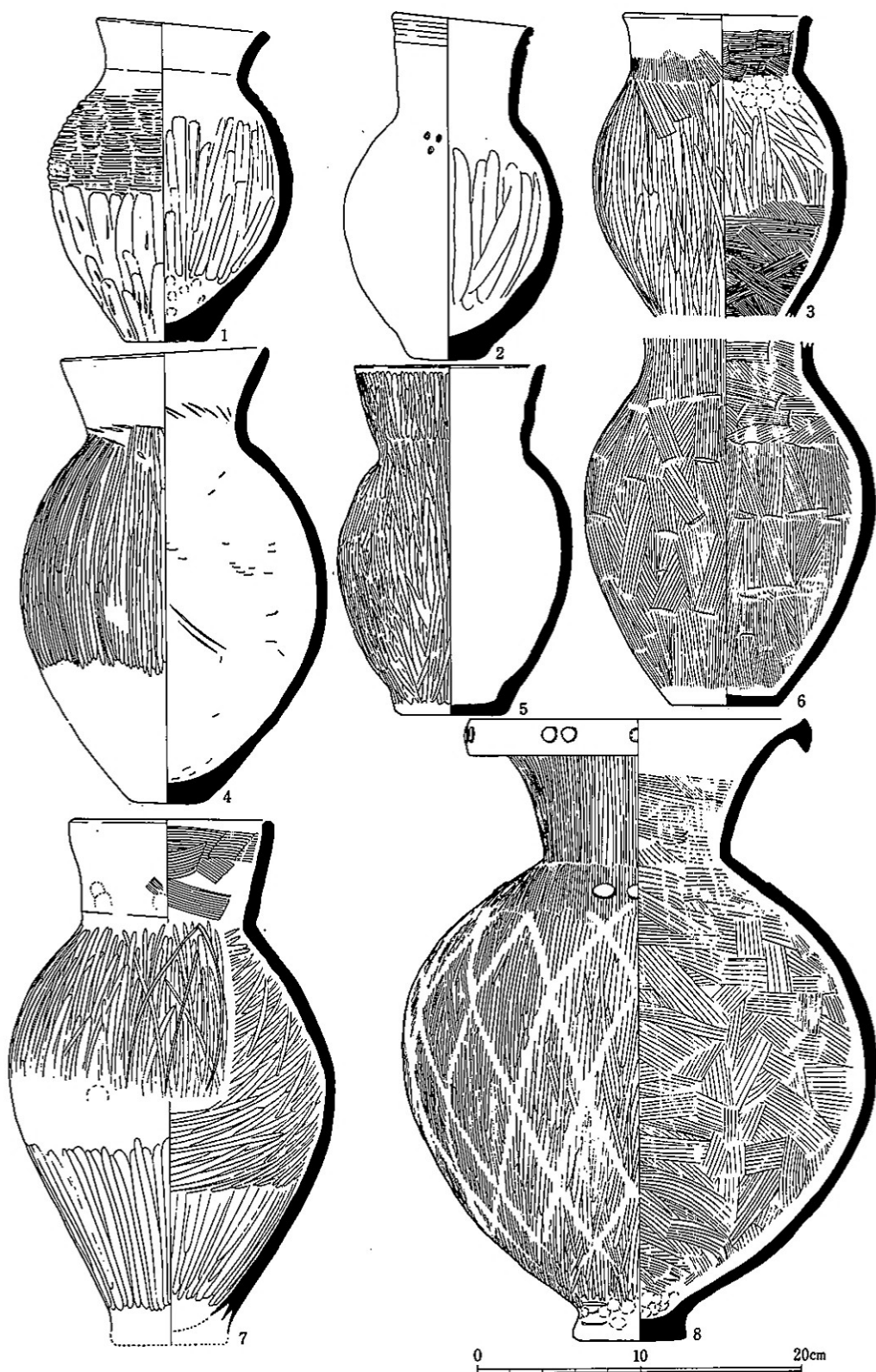
第163図 Dトレンチ包含層、第6遺構面 落込一2出土土器実測図



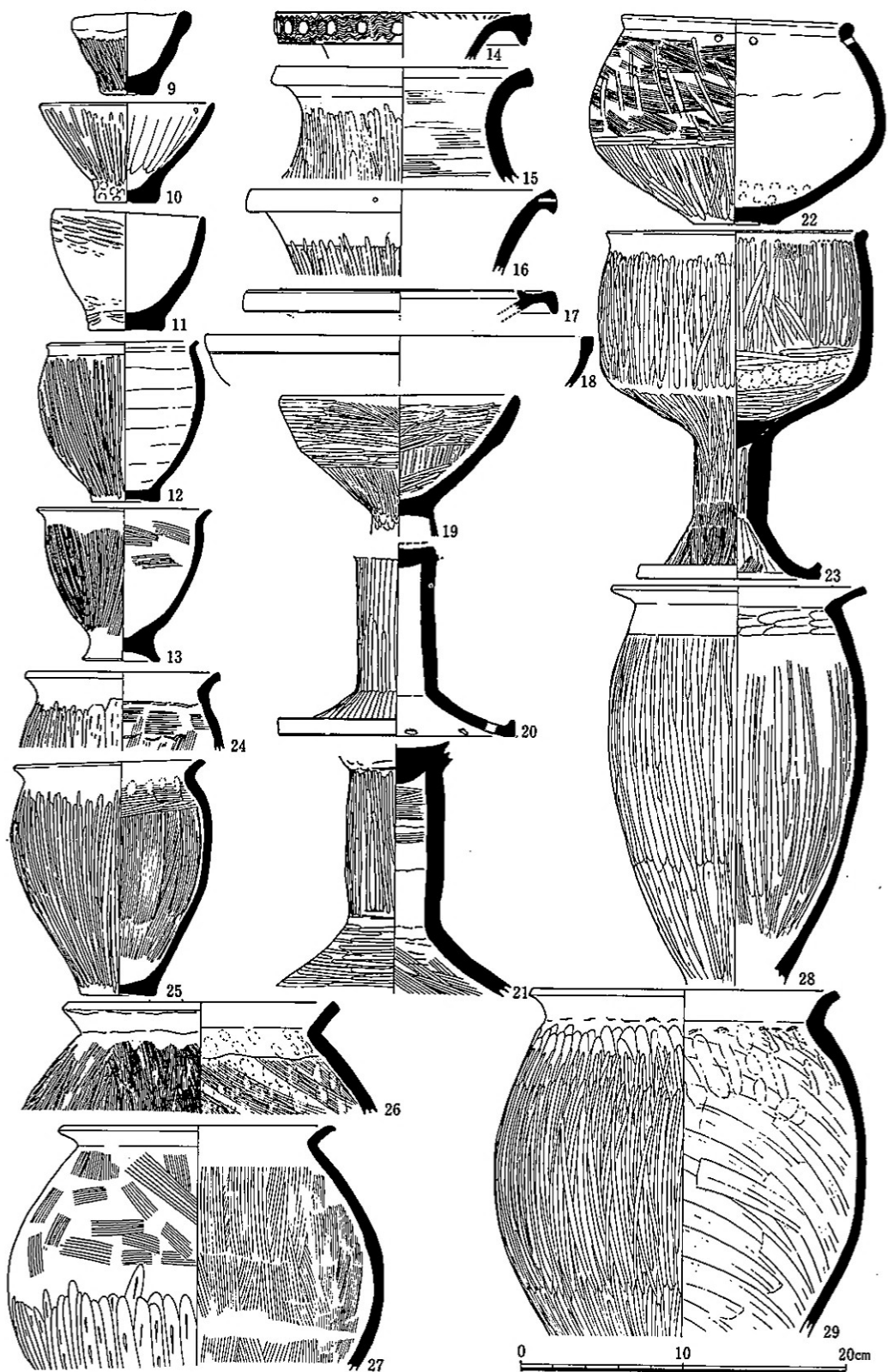
第164図 D-1・D-2 トレンチ包含層出土土器実測図



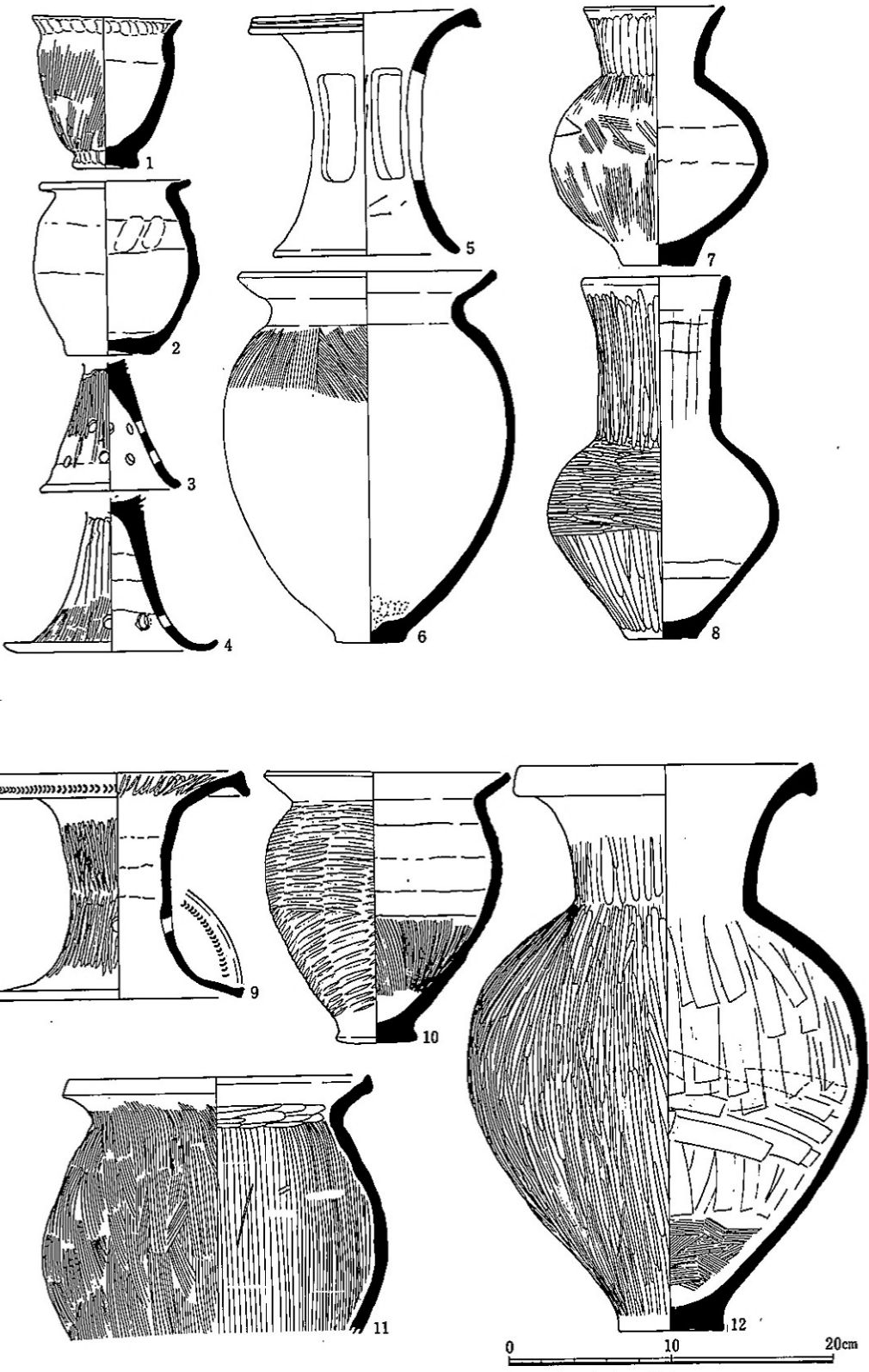
第165図 D-2 トレンチ包含層出土土器実測図



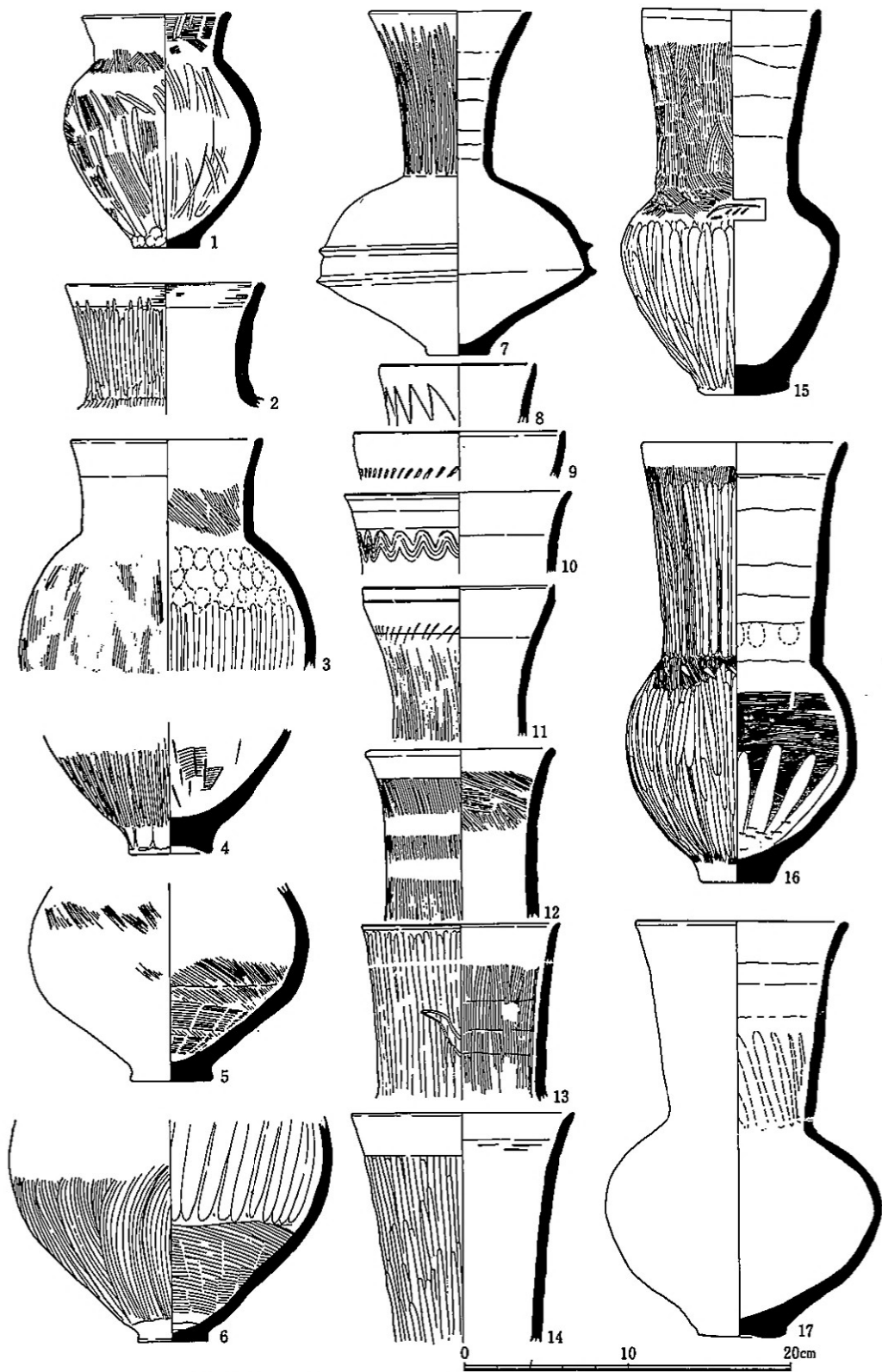
第166図 Dトレンチ包含層、第6遺構面 土塚—22・24・26、溝—50・53上層出土土器実測図



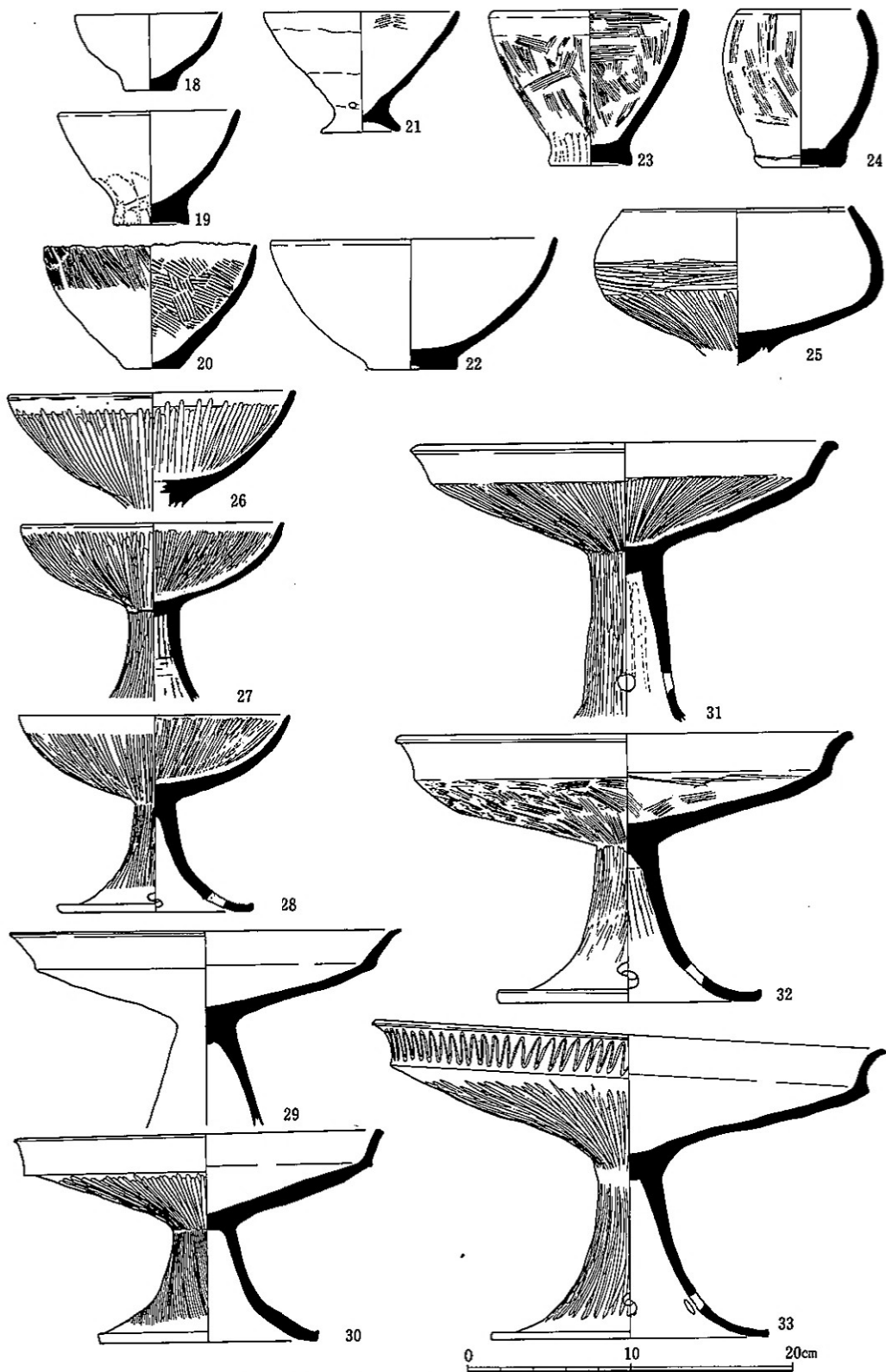
第167図 D トレンチ青灰色粘土～黑色粘土層上面、第6遺構面 土壇—25、落込—1、溝—50出土土器実測図



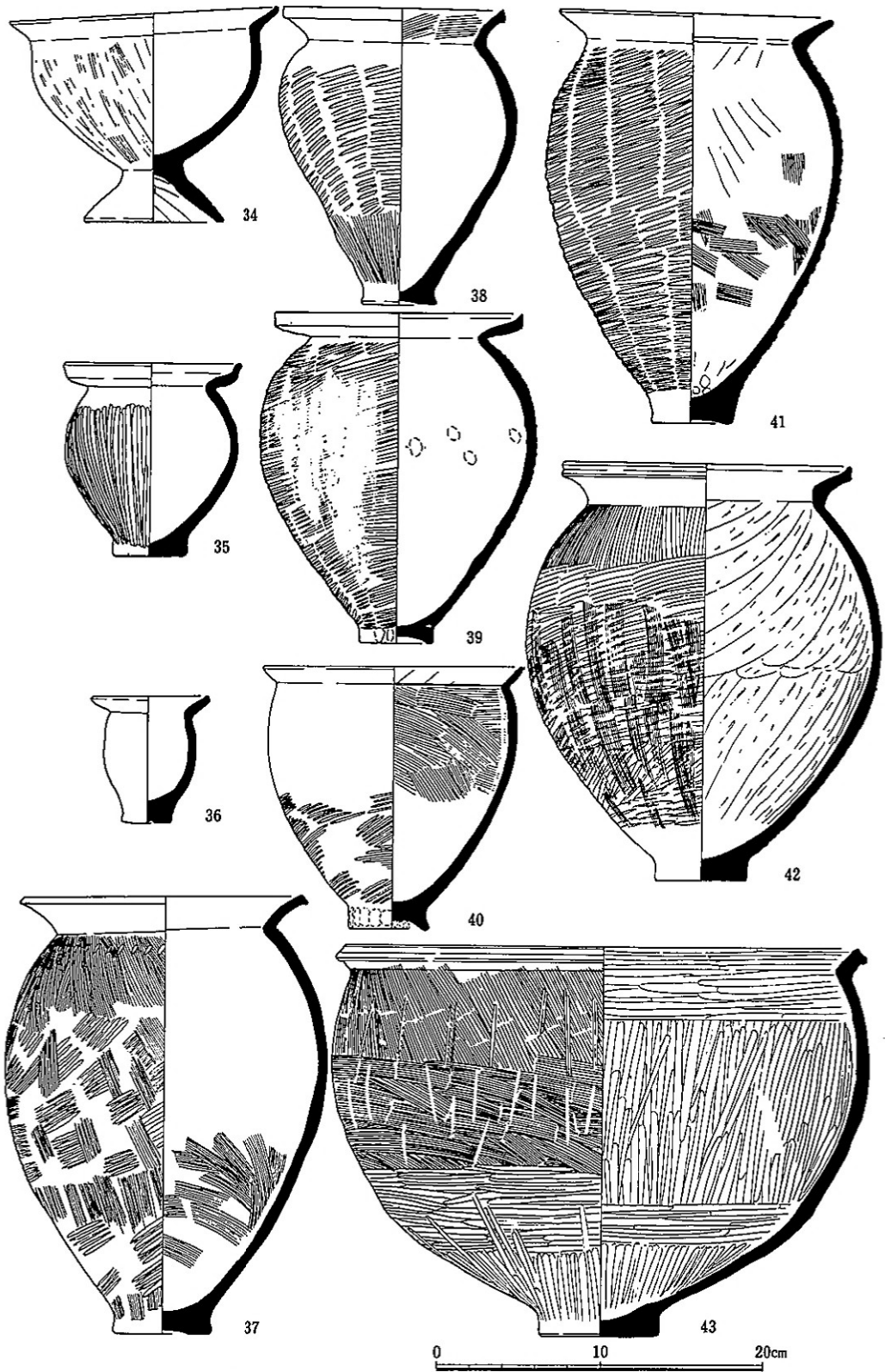
第168図 第5遺構面 河川-1・水田および水路出土土器実測図



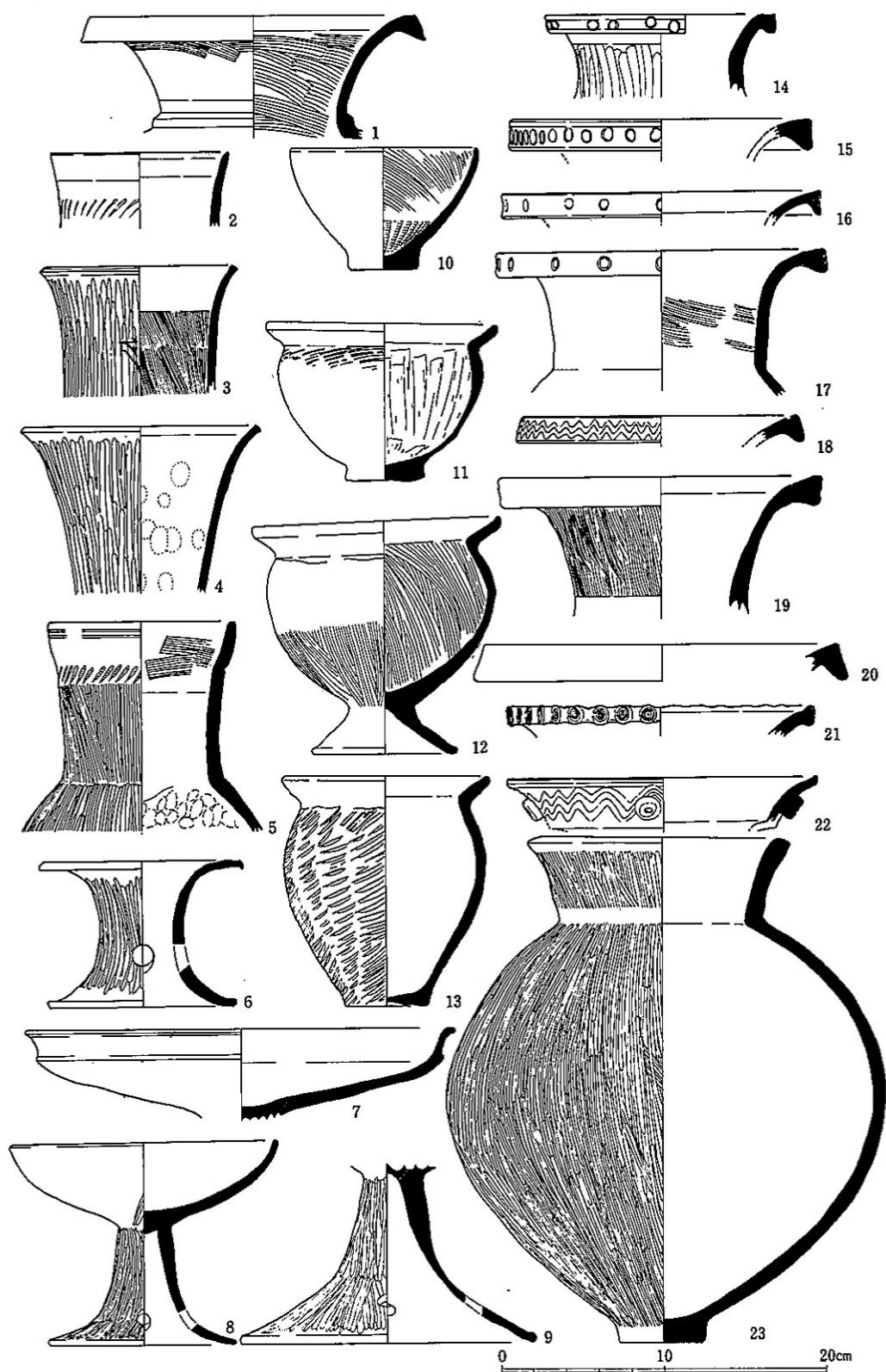
第169図 第5遺構面 河川-1及び包含層出土土器実測図(1)



第170図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(2)



第171図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(3)



第172图 第3遺構面 住居跡-1、溝、包含層出土土器実測図

表8 D地区土器観察表(その1)

探 函 No	遺 跡 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 法	口 径 高	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 5 2	高	1	202 11 204 2	甕		150		口縁部内外面と頸部内面丁寧なヨコナデ。頸部外面ハケメ。	7.5YR5/4	粗。1mm前後の砂粒多い。角閃石を含む。	硬	不良	糜状文
		2		蓋		104		口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヨコナデのヘラミガキ。口縁部内面ナデ。体部扱いハケ(不連続)。	7.5YR6/2	密。1mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	内外面にスス付着。
		3		無類破		114	170	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。体部内面上半ハケメ、下半ナデ。体部上半指圧痕、粘土凝接痕を残す。	7.5YR5/2	やや粗。1.5mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬	不良	体部に黒斑。
		4		無類破		168		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ内面扱いハケ。	10YR7/3	密。1mm以下の砂粒、角閃石を多く含む。	硬	良好	
		5		高杯		228		口縁部内外面ヨコナデ体部外面丁寧なヘラミガキ。	2.5YR6/6	密。0.5mm前後の砂粒を少し含む。	硬	不良	
		6		高杯		292		口縁部から杯部上半ヨコナデ。杯部下半外面ヘラミガキ外面ナデ後、粗雑なヘラミガキ	7.5YR6/2	密。2mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	内外面ともに薄くスス付着。
		7		高杯				杯部から脚部上半内外面ヘラミガキ。	7.5YR7/4 ~7/6	密。3mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	脚部を打ち欠き2次転用。
		8		甕		140		口縁部から体部上半内外面ヨコナデ。体部ナデ?	7.5YR5/1 ~5/2	密。1.5mm以下の砂粒、角閃石を含む。	やや軟	良好	外面全体にスス付着。
		9		底部				体部外面ヘラミガキ内面ナデ。底部外面ナデ(板状工具)内面指オサエの後ナデ。	2.5YR7/4	密。5mm以下の砂粒を多く含む。	硬	良好	体部に黒斑あり。
高	台	10		脚部		136	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ。	10YR6/1	密。1.0mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	未貫通円孔が推定18ヶ所。	
		11		"		144	口縁部外面ヨコナデ。直上指押しさえ。口縁部内面磨減。体部内面ナデ。	5YR6/6	密。0.2~2.0mmの砂粒をやや多く含む。	硬	良好		
		12		底部			体部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラミガキ。直上ヘラによる面取り。体部、底部ともに内面ナデ。	10YR5/1	密。0.5~1.5mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好		
		13		"			体部外面ヘラミガキ。底部直上ナデ。底部ナデ。体部内面ヘラナデ。底部指押しさえ。	10YR6/1	密。1~2mmの砂粒を少し含む。	硬			
		14		甕		122	口縁部内外面および屈曲部外面直下ヨコナデ。体部外面ナデ。体部内面ハケ。	7.5YR7/2	密。0.2~3.0mmの砂粒、小礫を含む。	硬	良好		
2	高	15		"		154	口縁部および屈曲部内直下内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。体部内面ナデ。体部内面に粘土凝の痕跡。	7.5YR6/4	密。0.5mm前後の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好		
		16		甕		102	外面口縁部~口縁部直下ヨコナデ、頸部~頸部直下ヨコナデ体部ヘラミガキ。内面は口縁部~頸部ヨコナデ、頸部屈曲部ナデ、体部指押しさえ後ナデ。体部内面に粘土凝の痕跡。	10YR7/3	やや粗。0.2~0.5mm砂粒、クサリ礫を含む。	やや軟	良好		
		17		"		134	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。頸部屈曲部外面ヨコナデ頸部内面に粘土凝の痕跡。	5YR6/6	密。0.1~0.4mmの砂粒を多く、2mmの砂粒を少量含む。	やや軟	良好		
高	台	18		鉢		68	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、ヘラミガキ。体部内面ヘラナデ。	10YR3/2	密。0.2~0.5mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	内外面共に全面的にスス付着。	
3	台	19		"		106	口縁部内外面及び体部上半内面ヨコナデ。体部外面、体部下半内面ナデ。	5YR6/6	密。砂粒を少し含む。	やや軟	不良		

表8 D地区土器観察表(その2)

押図No	遺物番号	図版番号	器種	法	口径	体部径	形・手法の特徴	色調	胎土	質	焼成	備考
				益	器高							
152	20	188	壺	92	94	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ後粗雑なヘラミガキ。底部外面ナデ。体部及び底部内面ナデ。	暗褐色	粗。2~3mmの砂粒、小礫、角閃石を含む	硬			
				95								
153	21		鉢	142		口縁部外面ヨコナデ。体部外面ハケ後粗雑なヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。	2.5YR/2	粗。0.5~1.5mmの砂粒を多く含む。	硬	良好		
高	22		壺	150		口縁部~屈曲部直下内外面ヨコナデ。体部外面ハケ。体部内面ナデ。	7.5YR/1	密。細かい砂粒、角閃石を多く含む。	硬	良好		外面にスス付着
	23		"	134		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面剝離のため不明。体部内面ハケメ。	7.5YR/2	密。0.5~2mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好		
	24		壺	136		口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。口縁部裏面指押さえ。頸部に粘土紐の跡残る。	2.5Y7/2	粗。0.5~1mmの砂粒を極めて少し含む	軟	良好		頸部にスス付着
	25		壺	151		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ。体部内面ナデ。	7.5YR/2	密。0.2~2mmの砂粒を少し含む。	硬	良好		外面にスス付着。脚部?
3	26		脚部			杯底部内外面ヘラミガキ。脚部外面ナデ。脚部内面指押さえ。	5YR/2	密。0.2~1.5mmの砂粒、角閃石を含む	硬	良好		
	27		底部			底部外面直上ヨコナデ。底部内外面ヘラナデ。	7.5YR/2	密。0.2~2mmの砂粒をやや多く含む。	硬	良好		
	28		脚部			脚部外面ナデ。杯底部内面ナデ。脚部絞り目。	7.5YR/3	密。0.2~2mmの砂粒をやや多く含む。	硬	良好		外面の約80%に黒斑。
	29		壺	210		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。体部内面上半指ナデ後一部ヘラナデ。体部内面下半ナデ。体部内面に粘土紐の跡残る。	7.5YR/2~7/3	密。0.5~2mmの砂粒、角閃石を含む。	やや軟	良好		粗雑な器面調整。
高	30		"	290		口縁部~クビレ部直下外面ヨコナデ。体部外面ヨコナデ後ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ハケ後ナデ。	5YR/3	密。0.5~2mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好		外面一部にスス付着。
	31		鉢	96		口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ一部にナデ。	5YR/2	粗。1.5~2.2mmの砂粒、角閃石を含む	やや軟	良好		
	32		底部			体部外面ヘラミガキ、ヘラナデ。底部直上外面ヨコナデ、一部ヘラミガキ。底部外面剝離減しく調整不明。体部内面ハケメ。底部内面ヘラケズリ。	10YR/3	密。0.1~1.2mmの砂粒、角閃石を多く含む。		良好		153-37と同一個体?
	33		脚部			外面調整はスス付着のため不明。杯底部内面ナデ。脚部内面ナデ後一部ハケ。	5YR/3	粗。0.5~2mmの砂粒、3.5mmの砂礫を含む。		良好		内外面にスス付着。
台	34		"			杯底部外面ヘラナデ。脚部外面ヘラナデ、一部にヘラミガキ。杯底部と脚部外面の境に粘土紐の跡残る。杯底部内面ヘラミガキ。脚部内面ナデ。	5YR/3	密。0.5~3.0mmの砂粒、角閃石を多く含む。	硬	良好		円板充填法。
	35		壺	90		口縁部外面。体部外面ハケ後ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。口縁部~屈曲部直下指押さえ。体部内面浅いハケメ。内面全体に浅いハケメ残る。	10YR/1	密。0.1~1mmの砂粒を極く少量含む。	軟	不良		粗雑な器面調整。
	36		"	112	123	口縁部~屈曲部直下外面ヨコナデ。体部内外面ナデ後まぼらなハケメ。	7.5YR/1	密。0.2~0.5mmの砂粒を極く少量含む。	やや軟	不良		
	37		短頸壺	110		口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ハケメ、内面指押さえ後ナデ。	10YR/3	密。0.1~1.2mmの砂粒、角閃石を多く含む		良好		口縁部~頸部に黒斑。外面スス付着。32と同一個体?
4	38		高杯	214		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。	10YR/8	粗。1~3mmの砂粒、小石を多く含む。角閃石を含む	硬	不良		

表8 . D地区土器観察表(その3)

採 取 No	遺 物 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 規	口径 高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼成	備 考				
														口径	高		
1 5 3	高 台 4	39		高杯		216		口縁部~杯部外面ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ後まばらなヘラミガキ。	7.5YR/1 ~6/1	密。0.2~0.5mmの砂粒、角閃石を含む	硬	良好	内外面にスス付着。				
						160		口縁部~屈曲部直下外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。	7.5YR/3 ~6/4	密。0.1~0.3mmの砂粒、角閃石を含む	硬	良好	外面全体にススコゲ付着。				
						5		41	底部			体部外面ヘラミガキ。底部外面ヨコナデ(板状工具)、ナデ(板状工具)。体部~底部内面ヘラナデ。	10YR/1 ~7/2	密。0.2~1mmの砂粒をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	
												96	口縁部内外面ヨコナデ。体部~脚部外面ヘラミガキ。脚部外面ヨコナデ。体部~底部内面ナデ。脚部内面指押さえ後ナデ。脚部内面にヘラの跡あり。	赤色	1~4mmの砂粒、角閃石を含む。	やや軟	
高 台	高 台 5	188	42	鉢		108		口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面ヘラミガキ。胴部ナデ。体部内面ハケメ。胴部ヘラミガキ。	7.5YR/2 ~7/3	粗。0.1~0.5mmの砂粒を多く含む。		良好					
						100											
		44	鉢				128		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部内面ハケメ。	10B6/6	密。1mm以下の砂粒を少し含む。	硬	良好				
							146		口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。体部内面ハケ。	5YR/3	密。0.1~1mmの砂粒を極く少量含む。	硬	良好				
		46	脚部						杯部との境外面丁寧なヘラミガキ。脚部外面やや粗雑なヘラミガキ。杯部との境、脚部内面ナデ。	7.5YR/3	粗。0.5mmの砂粒を少量含む。砂っぽい	軟					
									128	脚部内外面ナデ。胴部外面ヨコナデ。胴部内面割離のため不明。	2.5YR/6	粗。0.1~0.8mmの砂粒を多く含む。	やや軟	良好			
		48	蓋						口縁部~体部外面ヨコナデ。口縁部割離。体部内面ナデ。	10YR/2	密。0.5mm前後の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	2ヶ一組の円孔			
									134	口縁部外面ヨコナデ。体部外面やや粗雑なヘラミガキ。脚部内面ナデ。	7.5YR/4	粗。0.1~0.5mmの砂粒を極く少量含む	やや軟	良好	円孔		
		50	蓋						口縁部外面ヨコナデ。体部外面割離のため不明。口縁部~体部内面粗雑なハケ。	2.5YR/4	粗。0.5~1.5mmの砂粒をやや多く含む	やや軟	良好				
									202 12 204 4	高杯	184						
		178	口縁部内外面ヨコナデ。屈曲部外面まばらなハケメ。胴部内面ヨコナデ。	10YR/3	密。砂粒を極く少量含む。	硬	良好	口縁部外面列点文。近江系の土器。									
		52	高杯						杯部内外面不明。杯部内外面ヘラミガキ。	7.5YR/2	密。0.5~1.5mmの砂粒、角閃石を含む	硬	良好				
									187	脚部							
53	脚部外面ヘラミガキ。胴部ヨコナデ。脚部内面絞り目。胴部内面ナデ。	赤褐色	密。0.5mm以下の砂粒、角閃石を含む。	やや軟													
54	蓋						口縁部~頸部外面ヨコナデ。口縁部~頸部内面ハケ後ナデ。	褐色	密。1mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬		波状文、廣状文、円形浮文					
							139										
55	蓋						口縁部~頸部外面ヨコナデ。肩部外面表面割離のため不明。口縁部~体部内面表面割離のため不明。	2.5YR/6	粗。0.2~3mmの砂粒をやや多く含む。	やや軟	不良	内外面に火熱を受けている。					
							154										
56	無型蓋						内外面に共に表面割離のため不明。体部内面に粘土粗の跡残る。	淡褐色	密。0.5mmの砂粒を少量含む。砂っぽい	軟		2ヶ一組の円孔					
							186	脚部									
54	口縁部~頸部外面ヨコナデ。口縁部~頸部内面ハケ後ナデ。	褐色	密。1mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬													
55	蓋						口縁部~頸部外面ヨコナデ。肩部外面表面割離のため不明。口縁部~体部内面表面割離のため不明。	2.5YR/6	粗。0.2~3mmの砂粒をやや多く含む。	やや軟	不良	内外面に火熱を受けている。					
							154										
56	無型蓋						内外面に共に表面割離のため不明。体部内面に粘土粗の跡残る。	淡褐色	密。0.5mmの砂粒を少量含む。砂っぽい	軟		2ヶ一組の円孔					
							135										
57	脚部						脚部外面ヨコナデ。脚部内面ヘラケズリ。蓋部ヨコナデ。	5YR/4	粗。1mm以下の砂粒をやや多く含む。	軟	良好	凹線文					
							132										

表8 D地区土器観察表(その4)

採掘 No	遺物 番号	図版 番号	器種	法 器高	口径 器径	体 部 径	形態・手法の特徴	色調	胎土	質	焼成	備考
153	高	58	脚部			裾部 径70	脚部外面ヘラナデ。裾部外面ヨコナデ。脚部内面ナデ。体部ナデ。	2.5Y 7/3	密。1.0~1.5mmの砂粒を含む。	硬	良好	
	"	6	"				杯底部内外面ナデ。脚部外面剝離のため不明。脚部内面紋目、ヨコナデ。	7.5YR8/6	粗。0.5~4mmの砂粒を含む。	軟	良好	
154	方形 窪込 内溝	60	無頸豆	130			口縁部内外面表面剝離のため不明。体部外面ヘラミガキ。体部内面表面剝離のため不明。	10YR5/1	密。0.5~2.5mmの砂粒、角う石、クサリ礫を多く含む。	硬	良好	
	"	61	高杯	242			口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	7.5YR6/3	密。0.5mm程度の砂粒を多く含む。	硬	良好	内外面ともにスス付着。
50	"	62	壺	216			口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面強いナデ(板状工具)後ヨコナデ。頸部~頸部直下外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。頸部上半、体部内面ヨコナデ。頸部内面に板状工具の当たった跡、体部内面に粘土→	5YR6/4	粗。0.2~1mmの砂粒、クサリ礫を含む	やや軟	不良	一組跡残る。
	"	63	鉢	291			口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面粗雑なハケメ。	10YR5/2	密。1mm以下の砂粒を少し含む。砂っぽい。	硬		棒状浮文
"	"	64	蓋	120			口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。天非部外面ナデ。口縁部磨減。口縁部内面ナデ。体部~天非部内面粗雑なハケ。	7.5YR4/2	密。0.5~2mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	内外面全体にスス付着。円孔2ヶ1対。
	"	27										
"	"	65	脚部	125			裾部外面ヨコナデ。体部外面表面剝離のため不明。端部磨減。体部内面ナデ。	7.5YR5/2	密。0.5~2.5mmの砂粒、角閃石を含む	硬	良好	
	落	"	66	"	132			裾部外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。端部磨減。体部内面ヘラ先が当たった跡あり。	5YR6/6	密。0.5~3mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好
"		67	蓋	161			口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラミガキ。口縁部磨減。体部内面ナデ。	5YR5/2	密。0.2~2.5mmの砂粒、角閃石を含む	硬	良好	円孔1ヶ所残存。
"	"	68	甕	150			口縁部内外面、屈曲部直下外面ヨコナデ。屈曲部外面に粘土粒の跡残る。体部内面ナデ後粗雑なハケメ。	7.5YR6/2 ~6/3	密。0.5~2mmの砂粒、角閃石、クサリ礫を含む。	硬	良好	外面にスス付着。
	込	"	69	脚部				杯底部外面ナデ。脚部外面ヘラミガキ。脚部内面ナデ。	5YR7/4	密。2mm以下の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好
"		70	"				杯底部外面粘土粒の剝離した跡あり。脚部外面剝離のため調査不明。杯底部、脚部内面ナデ。	7.5YR5/4	密。0.2~3mmの砂粒を含む。砂っぽい。	やや軟	不良	全体にスス付着し二次焼成のみ赤変。円孔9ヶ
"	"	71	鉢	128			口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコナデ後丁寧なヘラミガキ。口縁部直下内面ヨコナデ。体部内面ナデ。口縁部直下外面に粘土粒の跡残る。	7.5YR6/3	粗。0.1~0.5mmの砂粒を多く、角閃石、クサリ礫を含む。	"	不良	全体に黒斑あり
	1	"	72	壺	212			口縁部内外面ヨコナデ。口縁部直下外面粗雑なハケ。頸部内外面ハケ。口縁部直下内面ヨコナデ。頸部内面にヘラ先の跡あり。	7.5YR7/2 ~7/3	粗。0.2~1mmの砂粒、角閃石を含む。	硬	良好
"		73	高杯	199			口縁部外面剝離のため不明。杯部外面ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ。杯部内面ヘラミガキ。	7.5YR7/2	粗。0.2~2.5mmの砂粒、小石を少し含む。砂っぽい。	軟	不良	
"	"	74	"	210			口縁部外面ヨコナデ。杯部外面剝離しいが、ヘラミガキ一部残存。粘土粒の跡残る。口縁部外面~杯部外面ヨコナデ。	7.5YR4/2	粗。0.2~2.0mmの砂粒を含む。	硬	良好	内・外面とも全面的にスス付着
	落	75	脚部	108			裾部外頂ヨコナデ。裾部直上表面剝離のため不明。裾部内面磨減。口縁部内面直上ナデ。	7.5YR5/2	密。0.2~1.5mmの砂粒を極少量含む。→	やや軟	良好	円孔未貫通。 →角閃石を含む
2	"	76	甕	124			口縁部外面ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。一部ヘラケズリ、口縁部にヘラ先の跡あり。体部ヘラミガキ。内面口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部強いナデ(板状工具)。	5YR6/4~ 6/6	密。0.2~1.5mmの砂粒を少し含む。	やや軟	良好	

表8 D地区土器観察表(その5)

押 込 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 量	口径 器 高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
154	77		脚部				脚部外面丁寧なヘラミガキ。 杯底部ナデ、脚部内面ナデ、絞り目。	7.5YR8/3	密。0.5~2.5mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	沈線文。 円孔4個。
	78		底部				体部外面ヘラミガキ、底部外面直上ナデ、指押さえ、底部ハケメ。 体部~底部内面強いヘラ状工具によるナデ。	2.5Y8/3	密。0.5mm以下の砂粒を極く少く含む。	硬	良好	
2	79		高杯		216		口縁部外面ヨコナデ、口縁部~体部外面ヘラミガキ。 口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラミガキ。	10YR6/1	粗。1~3mmの砂粒、小石をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	
	80		脚部		126		口縁部外面ヨコナデ、天井部外面ヨコナデ、のちヘラミガキ。 口縁部内面ヨコナデ、天井部内面粗雑なヘラミガキ。	2.5YR7/4	密。0.5~2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	円孔2個1対。
土 墳 17	81		脚部		116		裾縁部外面ヨコナデ、脚部外面ヘラナデ。 裾縁部内面ヨコナデ、脚部内面ナデ。	7.5YR6/2	密。1~3mmの砂粒、小石を少し含む。角閃石、クサリ礫を含む。	硬	良好	
	82	186	短頸甕		72	105	口縁部~頸部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリののちまばらなヘラミガキ、底部外面ナデ。口縁部~頸部内面ハケメ、体部~底部内面ナデ、体部に粘土粗の跡残る。	淡褐色	粗。1mm大の砂粒、クサリ礫を含む。	硬		粗雑な外面調整
土 墳 3	83		脚部				杯底部外面ヘラミガキ、脚部外面直上ハケメ、脚部外面ヘラミガキ。 杯底部内面ヘラミガキ(一部ハケメ残る)、脚部内面ナデ。	5YR8/4	密。1~3mmの砂粒、小石を極めて多く含む。クサリ礫を含む。	硬	良好	
	84		脚部		裾部 径 130		裾部外面ヨコナデ、のちヘラミガキ。端部外面ヨコナデ。 裾部内面ハケメ、端部内面磨減。	7.5YR6/2	密。0.5~4.0mmの砂粒、小石を多く含む。クサリ礫を含む。	硬	不良	内面全体コゲ、スス付着
土 墳 18	85		無頸甕		102		口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ。 口縁部内面ヨコナデ、体部内面割離のため不明。	7.5YR6/3	密。0.5~3.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。6↑	硬	良好	mmの小石含む。
	86		鉢		132		口縁部外面ヨコナデ、体部~底部外面ヨコナデのちヘラミガキ。 口縁部~底部内面ヨコナデ、のちまばらなヘラミガキ。	7.5YR6/2	やや粗。0.1~0.5mmの砂粒、クサリ礫を含む。	軟	良好	円板充填法
土 墳 18	87		脚部				脚部外面磨減著しく不明。 杯底部内面ヘラ工具によるナデ。脚部内面絞り目、ナデ。	7.5YR6/3	密。0.2~2.5mmの砂粒、小石をやや多く含む。角閃石を含む。砂っぽい。	やや軟	良好	内面底部に赤色顔料塗布。 円板充填法
	88		脚部				脚部外面丁寧なヘラミガキ。 脚部内面絞り目。	5YR6/6	密。1~3mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	不良	円板充填法
土 墳 4	89	188	甕		159	216	口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリの粗雑なヘラミガキ。底 部外面直上ハケ、底部外面ナデ。口縁部内面ヨコナデ、体部内面ハケ のちまばらなヘラケズリ、底部内面ナデ。		粗。3~5mmの小石、クサリ礫を多く含む。	硬	不良	
	89				259							
土 墳 5	90	128	脚部		裾部 径 138		外面：脚部割離のため不明。裾部ヘラミガキ。端部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ(まばらにハケ) 裾部ハケ。	7.5YR7/2 ~7/3	粗。1mm以下の砂を含む。 クサリ礫を含む。	やや軟	良好	外面脚部に部分的にスス・コゲ付着。
	91	128	高杯		248		外面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。	暗青灰褐色	1mm大の砂粒を少し含む。	硬		口縁部にスス付着。円板充填法
土 墳 5	92	187	高杯		259		外面：口縁部ヨコナデ。杯部ヨコナデのちヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ヨコナデのちヘラミガキ。	褐色	密。1mm大の砂粒、角閃石を含む。	硬	良好	円板充填法。 杯部外面赤色顔料塗布。
	93	186	短頸甕		72	112	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデのちヘラミガキ。体部ヘラミガキ。 底面ナデ。 内面：口縁部~頸部ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)。底面ナデ。	褐色	粗。1mm以下の砂粒。角閃石を多く含む。	硬		外面全体にスス付着。
土 墳 23	94		甕		218		外面：口縁部ヨコナデ。頸部上半ナデ、ハケメ、ヘラ先の跡あり。頸 部下半ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケのちまばらなヘラミガキ。	7.5YR6/1 ~6/2	密。0.2~0.5mm位の砂粒を少し含む。	硬	良好	
	95	186	甕		107	120	外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半粗雑なハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 (外面口縁部、体部下半と内面体部中央にスス、コゲ付着。)	5Y8/2	粗。1mm位の砂粒を多量に 2mm位の小石を少し含む	やや軟	良好	列点文、横書き直線文、波状文 近江系の土器。

表8 D地区土器観察表(その6)

邦 区 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法 匠	口 径 器 高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 5 5	土	96	無類壺	112	112		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデのちヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ナデ。	5YR 7/3	密。1mm以下 の砂粒を少し 含む。クサリ礫を含む。	硬	不良	外面口縁部にス ス付着。
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ、ヘラミガキ(成形時 の凹凸が激しい)。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	2.5YR 7/6	粗。0.5mm 以下の砂粒を多 く含む。砂っぽい	軟	良好	
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部上半ナデのち粗雑なヘラミ ガキ。体部下半ハケのち粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。	7.5YR5/1	密。0.2～2。 5mmの砂粒、 小石をやや多く含む。	硬	良好	
							外面：口縁部ヨコナデ、指押さえ。体部ヘラ工具によるナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ。	5YR 6/2	粗。0.2～4。 0mmの砂粒小 石を多く含む	や や 軟	良好	
							外面：裏部ナデ。底部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ。裾部ナデ。スス、コグ付着のため詳細不明。	7.5YR5/2 ～5/3	密。3mm以下 の砂粒、小石 を含む。クサリ 礫を含む。	硬	良好	内面、外面底部 にスス付着。 蓋に転用。
23	土	99	甕	370			外面：口縁部ヨコナデ、指押さえ。体部ヘラ工具によるナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ。	5YR 6/2	粗。0.2～4。 0mmの砂粒小 石を多く含む	や や 軟	良好	
							外面：裏部ナデ。底部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ。裾部ナデ。スス、コグ付着のため詳細不明。	7.5YR5/2 ～5/3	密。3mm以下 の砂粒、小石 を含む。クサリ 礫を含む。	硬	良好	内面、外面底部 にスス付着。 蓋に転用。
							外面：脚部ヘラミガキ。一部ハケあり。底部ヨコナデ、一部未調整あ り。 内面：脚部ヨコナデ、一部粗雑なハケメ。底部磨減。	5YR 6/4	密。0.5～2。 0mmの砂粒を やや多く含む。クサリ礫、角閃石を含む。	硬	良好	脚部に黒斑。
							外面：杯部ハケのちヘラミガキ。脚部丁寧なヘラミガキ。底部ナデ。 内面：杯部～杯底部ヘラミガキ。脚部ナデ。底部磨減。	5YR 8/4	密。0.5～3。 0mmの砂粒を やや多く含む。クサリ礫を極く少量含む。	硬	不良	内孔5ヶ。
							外面：脚部ヘラミガキ。底部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ(粘土紐の跡残る) 底部ヨコナデ。	5YR 8/4	密。0.2～1。 5mmの砂粒を 含む。クサリ礫を含む。	硬	不良	内孔4 方向に2 段。
24	土	101	脚部	裾部 径 88			外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヨコナデ。頸部粗雑なヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。	2.5YR7/6	密。0.2～3。 0mmの砂粒を 少し含む。	硬	良好	粗雑な外面調整
							外面：杯部ハケのちヘラミガキ。脚部丁寧なヘラミガキ。底部ナデ。 内面：杯部～杯底部ヘラミガキ。脚部ナデ。底部磨減。	5YR 8/4	密。0.5～3。 0mmの砂粒を やや多く含む。クサリ礫を極く少量含む。	硬	不良	内孔5ヶ。
							外面：脚部ヘラミガキ。底部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ(粘土紐の跡残る) 底部ヨコナデ。	5YR 8/4	密。0.2～1。 5mmの砂粒を 含む。クサリ礫を含む。	硬	不良	内孔4 方向に2 段。
							外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヨコナデ。頸部粗雑なヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。	2.5YR7/6	密。0.2～3。 0mmの砂粒を 少し含む。	硬	良好	粗雑な外面調整
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部上半ハケメ。体部下半割離 のため不明。内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部上半ハケ(粘 土紐の跡残る)。体部下半ハケ(スス、コグのため不明)。	5YR6/3～ 6/4	密。3.5mm以 下の砂粒小石 クサリ礫を少し含む。	硬	良好	外・内面にス ス付着。
1 5 6	土 壺 13	106	高杯	202			外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～杯部ヨコナデ。	7.5YR7/2	粗。砂粒を多 く含む。	軟	不良	
							外面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ナデのち暗文風のヘラミガキ。	5YR6/3～ 6/4	密。0.5～2。 0mmの砂粒を 含む。角閃石を含む。	硬	良好	
							外面：体部ヘラミガキ。底部ナデ、ヘラ先の跡あり。 内面：体部～底部ヘラ状工具ハケ。	7.5YR7/3	粗。0.1～0。 5mmの砂粒を やや多く含む	や や 軟	良好	→む。4mm前後 の小石を少し含 む。砂っぽい。
							外面：口縁部ヨコナデ。頸部上半ハケ後ナデ。頸部下半ハケの後ヘラ 状工具によるナデ。 内面：口縁部～頸部上半ヨコナデ。頸下半ナデ。	7.5YR7/4 ～7/6	粗。砂粒を多 く含む。	や や 軟	良好	器面調整が極めて 粗雑。
							外面：口縁部～体部粗雑なヨコナデ。 内面：口縁部～体部粗雑なヘラミガキ。	10YR4/3	密。1mmの砂 粒を少し含む	硬	良好	棒状浮文。
2 (東 勝)	台	111	底部				外面：体部ヘラケズリのもヘラミガキ。底部際指押さえのちナデ。底 部ヘラナデ。底部外周に粘土紐の付け足。 内面：体部ヘラ状工具によるナデ。底部指押さえ。	5YR 7/4	密。0.1～0。 8mmの砂粒を 少し含む。		良好	体部～底部黒斑
							外面：口縁部ヨコナデ。裾部直上割離のため不明。 内面：口縁部磨減。裾部直上不明。	5YR 4/1	粗。0.5～2。 0mmの砂粒を 多く含む。角閃石を含む	硬	良好	刺突文1ヶ所。 外・内面にス ス付着。蓋に転用
							外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部粗雑なヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	10YR 6/3	粗。0.1～0。 5mmの砂粒、 角閃石を多→	や や 軟	良好	→く含む。クサ リ礫を含む。
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ一部指押さえ体部に粘土紐の跡残る	2.5Y 7/2	粗。0.2～1m mの砂粒を少 し含む。クサリ 礫を含む	軟	不良	内面にスス付着 外面黒斑。

表8 D地区土器観察表(その7)

押 図 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 式	口 径 器 高	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 5 6	高	115	脚部			裾部 径 184	外面：杯底部～裾部ヘラミガキ。端部直上ヨコナデ。 内面：杯底部ヘラミガキ。脚部ナデ、ヨコナデ。裾部ナデ。	5YR7/4～ 7/6	密。0.2～0.5mm位の砂粒を少し含む。	硬	良好	円板充填法。剣突文。
	〃	116				裾部 径 110	外面：脚部ナデ。裾部強いナデ。 内面：脚部ナデ。裾部ナデ。	5YR 5/6	密。1～2mm砂粒を含む。	硬		
	〃	117				底部		外面：体部ヘラミガキ。底部直上ヘラケズリ。底部強いナデ。 内面：体部ハケのちナデ。底部指押さえ、ナデ。	10YR 6/3	粗。1～3mmの砂粒、小石をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好
〃	118	188	台付鉢		114	裾部 径 74	外面：口縁部粗雑なヨコナデ。体部～脚部粗雑なヘラミガキ。裾部ナデ。端部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部上半粗雑なナデ、ヨコナデ。体部下半～底部ナデ	暗乳褐色	密。1mm以下の砂粒を少し含む。	硬		高台3ピット。円板充填法。鉢部分に黒斑あり
					107							
〃	119		脚部			裾部 径 102	外面：脚部～裾部ナデ。 内面：脚部～裾部強いヘラナデ、一部ハケメ。端部磨滅。	10YR 6/1	密。0.5～2.0mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	高台3ピット。
〃	120		脚部			裾部 径 118	外面：裾部粗雑なヘラ状工具によるナデ。端部ヨコナデ。 内面：裾部ナデ。	10YR 6/2	密。1mm位の砂粒を極く少量含む。角閃石を含む。	硬	良好	円孔8カ所。
〃	121		壺		140		外面：口縁部～頸部ヨコナデ、一部ヨコハケ。頸部にヘラ先の当たった跡あり。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、一部ヨコハケ。	2.5YR8/4	密。3mm以下の砂粒、小石を含む。中4mmの小石を含む	硬	良好	外面全体に黒斑あり。
〃	122		高杯		186	裾部 径 104	外面：口縁部ヨコナデ。体部～脚部粗雑なハケのち一部ヘラミガキ。裾部ナデ(板状工具)。内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。脚部紋り目。裾部ナデ(板状工具)。	7.5YR7/1 ～6/1	密。0.1～0.3mm位の砂粒を少し含む。	やや軟	良好	外・内面とも全体的にスス、コゲ付着。
		147										
〃	123		台付鉢			151	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデのちヘラミガキ。	10YR 6/3 ～4/3	やや粗。0.8mm以下の砂粒クサリ硬を含む。	硬	良好	外面全体に黒斑あり。
〃	124		脚部				外面：杯底部～脚部ヘラミガキ。裾部ナデ。 内面：杯底部ナデのちヘラミガキ。脚部中実。	2.5YR7/6	密。0.5～2.0mmの砂粒をやや多く含む	硬	良好	脚部にスス付着
〃	125		甕		160	182	外面：口縁部～屈曲部直下指押さえのちヨコナデ。体部ヘラミガキ(表面かなり剥離)、一部ハケメ。内面：口縁部～屈曲部直下指押さえのちヨコナデ。体部ハケ状工具によるナデ。	10YR 7/1 ～7/2	砂粒を多く含む。角閃石を含む。	やや軟	良好	器面調整粗雑。
		182										
〃	126		底部				外面：体部ヘラ状工具によるナデ。底部ナデ。 内面：体部～底部剥離のため不明。	2.5YR8/8	密。3mm以下の砂粒を極く少量含む。	硬	良好	内面全体に厚くスス付着。底部中央・内面より穿孔。
〃	墳 10	127	脚部				外面：脚部ヘラケズリのちヘラ状工具によるナデ。 内面：杯底部ヘラミガキ。脚上端部未調整。脚部ナデ。	10YR 6/1	粗。0.2～4mmの砂粒、小石をやや多く含む。	軟	良好	
〃		128	鉢		158		外面：口縁部～体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	7.5YR7/2	密。1mm以下の砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	
〃	土 墳 11	129	甕		157		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ハケのちヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部ヘラ状工具によるナデ。体部まばらなヘラミガキ、一部ハケメ。	7.5YR7/1 ～7/2	密。0.1～0.2mm位の砂粒を少し含む。	やや軟	良好	→角閃石を含む
〃		130	甕		170		外面：口縁部指押さえ。体部ヨコナデのちヘラミガキ。 内面：指押さえ。体部ナデ。一部ハケメ。	5B 4/1	密。2mm以下の砂粒を含む。角閃石を含む	硬	良好	外面全体にスス付着。
〃	墳 3	131	壺		100	123	外面：口縁部～頸部ヨコナデ。体部ナデのちヘラミガキ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。体部ナデ。頸部～体部に粘土紐の跡残る。	淡褐色	密。砂粒をほとんど含まない。	硬	不良	体部に黒斑。外面体部にスス付着。
〃		132	底部				外面：体部粗雑なヘラミガキ。底部ヘラ状工具によるナデ。 内面：体部～底部ヘラ状工具によるナデ。	7.5YR8/4	粗。砂粒を極く少量含む。0.5～3mmのクサリ硬を多く含む。	軟	良好	
1 5 7	非 戸 1	133	甕		132		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部指押さえ。体部まばらなハケメ。体部に粘土紐の跡残る。	5YR 4/2	密。0.2～3mmの小石、砂粒を少し含む	硬	良好	

表8 D地区土器観察表(その8)

採掘 No	遺物 番号	図版 番号	器種	法	口径	体 部 径	形服・手法の特徴	色調	胎土	質	焼成	備考
				量	器高							
非	134		甕	146	156	外面：口縁部ヨコナデ。屈曲部ヨコナデ。体部ケズリのちへラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部指押さえ1/3 間。体部へラケズリのちへラミガキ。体部上半まばらなへラミガキ。	5YR 4/2	やや粗。0.6mm以下の砂粒を多く含む	やや軟	不良	外面全体にスス付着。プレバート8。	
						外面：体部へラケズリのちへラミガキ。体部上半へラミガキ及ばず。体部中央まばらなへラミガキ。内面：体部上半ハケメ。体部中央～底部へラケズリのちへラミガキ、のちへラミガキ。	10YR 7/2 ～7/3	粗。0.5～2.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好		
	136		鉢	186	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。体部ややまばらなへラミガキ。 内面：口縁部ハケのちへラミガキ。体部粗雑なへラミガキ。	10YR 5/1	密。0.2～2mm位の砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好			
					外面：口縁部ヨコナデ。体部ハケのちまばらなへラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部上半ハケのちまばらなへラミガキ。	10YR 8/1 ～8/3	密。0.2～0.5mm位の砂粒を少し含む。クサリ礫を多く含む。	硬	不良			
	138	188 135	体部 甕	248	外面：口縁部ヨコナデのちへラミガキ。口縁部直下ハケのちへラミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデのちへラミガキ。	5YR 7/6	密。1～2.5mm位の砂粒を含む。クサリ礫を多く含む	硬	不良			
					外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデか不明。口縁部直下に粘土の盛り上がりが見られる。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	10YR 5/2	粗。0.1～1mm位の砂粒を多く含む。角→	やや軟	良好	→閃石をかなり多く含む。		
	140	203 9	甕	225	外面：口縁部～口縁部直下ヨコナデ。ハケ一部に残る。頸部へラミガキ。 内面：口縁部～頸部ナデ。ハケ一部に残る。	10YR 7/2 ～7/3	密。0.2～1mm位の砂粒をかなり多く含む。	硬	良好			
					外面：口縁部ヨコナデ。頸部へラミガキ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	10YR 7/3 ～7/4	粗。0.3～1.5mm位の砂粒を多く含む→	やや軟	良好	→角閃石を含む		
	142	203 9	無類壺	124	外面：口縁部～口縁部直下ヨコナデ。体部へラミガキ。体部に粘土類の跡残る。 内面：口縁部～口縁部直下ヨコナデ。体部ナデ。	2.5Y 8/2	粗。0.5～1.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	土質→7出土と接合。粗孔あり。		
					外面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部上半粗雑なハケメ。頸部下半ハケメ。	7.5YR/4	密。0.5mm位の砂粒をやや多く含む。	硬	良好			
144	146	脚部	55	外面：杯底部～脚部へラミガキ。頸部ヨコナデ。 内面：杯底部へラミガキ。	10YR 4/1	密。0.2～1mm位の砂粒を少し含む。クサリ礫を含む	硬	良好				
				外面：脚部ハケメ。頸部ヨコナデ。底部へラナデ。 内面：脚部紋目残存。頸部指押さえ。底部磨減。	10YR 8/2	粗。0.2～1mm位の砂粒を極く少し含む→	やや軟	良好	→砂っぽい。			
146	146	脚部	64	外面：体部ナデ。杯底部丁字なナデ。脚部ナデ。底部直下にへラ先の当たった跡あり。底部磨減。 内面：体部～底部ヨコナデ。脚部不規則なハケ(変状工具)。	10YR 5/1	密。1mm以下の砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好				
				外面：脚部上半ナデ。脚部中央～下半へラミガキ。頸部ヨコナデ。 内面：脚部ハケメ。頸部ヨコナデ。	5YR 6/6	密。0.5～1mm位の砂粒を含む。クサリ礫を含む。	硬	不良	プレバート27			
148		脚部		外面：脚部へラミガキ。 内面：脚部ナデ。	5YR 6/4	密。0.5～1mm位の砂粒を極く少し含む。	硬	良好				
				外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヨコナデ。体部へラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヨコナデのちまばらなへラミガキ。体部へラミガキ。ヨコナデのちへラミガキ。	5YR 7/4	密。0.2～0.5mm位の砂粒をやや多く含む	硬	良好				
2	1	鉢	146	外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケメ。体部に極めてまばらなへラミガキ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。体部ナデ、ハケメ。	7.5YR/2	粗。0.5～2.5mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面全体にスス付着。			
				外面：口縁部ヨコナデ。体部へラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部まばらなへラミガキ。	7.5YR/1	粗。0.1～0.4mm位の砂粒を多く含む。→	やや軟	良好	→角閃石を含む			
158 墳	27	鉢	180	外面：口縁部～頸部直下ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	5YR 8/3	密。0.5～2mm位の砂粒を多く含む。4～6mmの小石を含む。	硬	良好				

表8 D地区土器観察表(その9)

押 図 No	遺 構 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 高	口 徑 高	体 部 徑	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 5 B	土	3		高杯	206			外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	5YR 7/4	密。0.5 ~1.5mmの砂粒を少し含む。→	やや軟	不良	→クサリ礫を含む。
		4		突	156		170	外面：口縁部ヨコナデ。屈曲部ヨコナデ。体部ヘラケズリのもまばらなヘラミガキで粗差な調整。内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部～体部ヘラケズリのちナデ、のち部分的にヘラミガキで粗差な調整。	7.5YR8/1	粗。0.5 ~2.0mmの砂粒をやや多く含む	やや軟	良好	外面にスス、コグ付着。プレバート24。
		5	189	突	168		176	外面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。体部ハケメのち粗差なヘラミガキ。ヘラナデ。底部直上は指押さえのちヨコナデ。底部ナデ。内面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部指押さえのち→	10YR 7/4	粗。5mm以下の小石、砂粒を多く含む。	やや軟		底部外面にモミ跡あり。 →ヨコナデ。
		6		突	184			外面：口縁部～屈曲部直下までハケのちヨコナデ。屈曲部に粘土粗の跡残る。体部ハケのちヘラミガキ。内面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。体部ヘラケズリ。	5YR 8/4	粗。0.2 ~3.0mmの小石、砂粒を極め→	やや軟	良好	プレバート15 →多く含む。
		7		突	184			外面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。屈曲部直下に未調整部分を残す。体部ヘラミガキ。内面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。屈曲部直下指押さえのちナデ(体部ハケ)。	5YR 4/2	密。0.2 ~0.5mmの砂粒をやや多く含む	硬	良好	
		8		突	248			外面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコハケのちヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部に粘土粗のはみだした跡あり。調整が不十分。	5YR 8/3	粗。0.2 ~1.5mmの砂粒を少し含む。→	やや軟	良好	→クサリ礫を多く含む。
		9		壺	168			外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。内面：口縁部～頸部上半ヨコナデ。頸部下半ハケメ。	7.5YR8/4	粗。1mm以下の砂粒を含む 0.1mm以下の炭粒砂を含む	軟	良好	円形浮文2ケ1組で4 ~5カ所 にあり。
		10	189	短頸壺	122		166	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。体部上半ハケのちヘラミガキ。体部下半ヘラケズリのちヘラナデ。底部直上指押さえ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケメ。体部に粘土粗の跡残る→	5Y 8/2	粗。3mm以下の小石、砂粒クサリ礫を含む	やや軟		粗差な器面調整 →底部指押さえ
		11		体部			208	外面：体部ヘラミガキ。底部直上～底部ナデ。内面：体部ナデ(板状工具)。体部下半ヘラナデ。底部ヘラケズリ。	7.5YR7/2 ~7/3	密。0.2 ~1.0mm位の砂粒を含む。	硬	不良	内面にスス、コグ不若。 プレバート21
		12		体部				外面：体部ヘラミガキ。底部直上ナデのち一部ヘラミガキ底部ヘラナデ。内面：体部ナデ(板状工具)。底部ナデ。(プレバート12)	10YR 7/1 ~7/2	1mm以下の砂粒を含む。角閃石を含む。	硬	良好	内面に分厚くスス、コグ付着。 底部外面に割痕3カ所あり
13		底部				外面：体部ヘラナデ。底部直上ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面：体部ヘラナデ。底部ヘラミガキ。	10YR 7/1	密。0.5 ~2mmの砂粒を少く含む。クサリ礫含む。	硬	不良	体部下部に1カ所穿孔。		
14		壺	170			外面：口縁部ナデ。口縁部直下ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部ハケメ。	10YR 5/3	やや粗。0.1 ~0.3mmの砂粒多量に、→	やや軟	良好	→0.8 ~1.2mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。		
15		底部				外面：体部ヘラケズリのちヘラミガキ。底部直上は部分的にヨコナデ底部未調整。内面：体部ハケメ。底部ヘラナデ。	7.5YR4/2	密。0.1 ~0.5mmの砂粒をやや多く含む	やや軟	良好	体部に黒斑あり。クサリ礫を含む。		
1 5 B	組	16		無頸壺	70		外面：口縁部ナデ。口縁部直下ヨコナデ。体部ヘラケズリのちヘラミガキ。内面：口縁部～体部上半ナデ。体部中央寄りハケメ。	2.5YR6/4	密。1 ~3mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。	
		17		短頸壺	114		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。体部ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。体部ヘラナデ。	10YR 7/1	粗。1 ~3mmの砂粒、小石をやや多く含む	やや軟	良好	→含む。クサリ礫を極く少量含む。	
		18		突	156		168	外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキ。内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)のち極めまばらにヘラミガキ。	2.5YR6/6	密。1 ~2mmの砂粒を含む	硬	良好	内・外面にスス付着。
		19		脚部		裾部径108		外面：杯底部～脚部ヨコナデ。脚部にハケ先の当たった跡あり。内面：杯底部ナデ。脚部上方指押さえ。脚部ヨコナデ。脚部にハケ先の当たった跡あり。	7.5YR2/2	密。1 ~4mmの小石、砂粒をやや多く含む	硬	良好	角閃石を含む。
		20		鉢	150			外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下に粘土粗の跡残る。体部ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部指押さえ。	5YR 6/6	密。0.5 ~2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	口縁部粘土帯を貼付。
21		鉢	238			外面：口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。体部下半ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。口縁部～体部上半ヘラミガキ。体部下半ヘラミガキ。	5YR 6/3	密。1 ~5mmの小石、砂粒をやや少し含む。	硬	良好	口縁部粘土帯を貼付。棒状浮文		

表8 D地区土器観察表(その10)

種 類 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法 尺	口径 器高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考												
													形	色	質	焼	備							
1 5 9	土 器	22	鉢		262		外面：口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半ヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	5YR 6/6	密。1～4mm の小石、砂粒 を含む。	硬	良好	プレバート31												
							外面：体部ヘラミガキ。底部直上ヨコナデ。底部ヨコナデ、ヘラナデ 内面：体部～底部ナデ。						2.5Y 5/2	密。0.5～6.0mmの小石、 砂粒を多く角閃石を含む	硬	良好								
							外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下粗雑なハケメ。頸部～体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ハケメ。頸部～体部ナデ。体部に 僅かに指頭圧跡あり。										7.5YR/3	密。0.5～1.0mm位の砂粒 を多く含む。角閃石を含む。	硬					
							外面：着部ナデ。端部ヨコナデ。 内面：着部ナデ。端部直上ヨコナデ。端部磨滅。														7.5Y 7/1 ～6/1	密。1mm以上 の砂粒を含む。 角閃石を含む	硬	内面に幅3mmの 赤色顔料付着。 2孔1組の穿孔あり。
							外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヨコナデ。体部ハケメ。																	
外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラミガキ。体部下半ヨコナデ。の ちまばらなヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメのち上半ヘラミガキ。	2.5Y 5/1	密。1mm以下 の砂粒を多く 含む。角閃石を含む。	硬	外・内面にス 付着。外面光沢 帯びる。																				
外面：脚部ヘラミガキ。					5YR 6/3	粗。0.5～2.0mmの砂粒を 多く含む。	やや 軟	良好	円板充填法															
外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	7.5YR/2	密。0.5mm以上 の砂粒を少 し含む。	やや 軟							外面一部、内面 ス付着。														
外面：口縁部ハケメ。体部～杯底部ハケのち粗雑なヘラミガキ。脚部 ハケのち粗雑なヘラミガキ。頸部ヘラケズリ。端部ヨコナデ。内面： 口縁部～体部上半ハケメ。体部下半～杯底部ハケのち粗雑なヘラケズリ。 脚部上半指ナデ。脚部下半ハケメ。端部ヨコナデ。					7.5YR/3 ～6/4	3mm以下の小 石、砂粒を含 ケサリ礫を含む。			粗雑なハケメ。 体部8×7cm赤 く変色。															
外面：口縁部～口縁部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	2.5Y 6/1	密。1mm以上 の砂粒を少し と0.5mm以→	硬							一下の砂粒を多 く含む。角閃石 を多く含む。														
外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。					7.5YR/2 ～7/3	密。0.5mm以下 の砂粒を多 くと1mm以上の砂粒を少し含む。	硬		棒状浮文。															
外面：口縁部ヨコナデ。口縁部端磨滅。 内面：口縁部ヨコナデ。	10YR 7/2 ～7/3	密。1～2mm の砂粒をやや 多く含む。	硬																					
外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラナデ、まばらなヘラミガキ。体 部下半ヘラナデ。底部直上ハケメあり。内面：口縁部ヨコナデ。体部 上半ナデ。体部中央ナデのち一部ハケ。体部下半～底部ヘラケズリの ち指押さえ。					7.5Y 6/2 10Y 6/1	粗。2mm以下 の砂粒2～3mm の花崗岩含	やや 軟	良好	粗雑な器面調整 外面全体にス 付着。															
外面：頸部ハケメ。体部ナデのち粗雑なヘラミガキ。 内面：体部ハケのちヘラナデ。	2.5Y 1/1 5/2～ 6/1,6/2	密。	硬							21の同一個体か 円形浮文にヘラ 記号。														
外面：体部粗雑なヘラミガキ。体部下方向ヨコナデのちヘラナデ状のヘ ラミガキ。底部直上指押さえ。 内面：体部～底部粗雑なハケのちヘラミガキ。					2.5Y 1/1 5/2～6/ 1,6/2	密。	硬		20の同一個体か															
外面：口縁部～屈曲部直下強いヨコナデ。体部ヨコナデ。 内面：口縁部～屈曲部直下強いヨコナデ。体部ヨコナデ。	10YR 1.7 /1	密。	硬							外面にス、コ ケ付着。														
外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ。					7.5Y 6/1	密。	硬																	
外面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。口縁部直下に粘土粗の跡残る。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	10YR 6/2	密。砂粒、小 石を少量に、 0.5～1.0mmの 角閃石をやや多く含む。	硬	良好						円孔2ケ1組で 8カ所。外、内 面とも口縁部にス付着。														
外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ、一部ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデのちまばらなハケメ。					10YR 7/1	密。0.5～2.0mmの砂粒、 角閃石を含む	硬	良好																

表8 D地区土器観察表(その11)

採掘 No	遺物 番号	図版 番号	器種	口径		形態・手法の特徴	色	調	胎土	質	焼成	備考
				口径	器高							
160	41		高杯	182		外面:口縁部ヨコナデ。口縁部直下不明。 内面:口縁部ヨコナデ。口縁部直下不明。	2.5YR6/4		密。0.5~1.0mmの砂粒を極く少量含む	硬	良好	外面にスス付着
	42		高杯	210		外面:口縁部ヨコナデ。口縁部直下ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。口縁部直下ナデ。	7.5YR6/2		密。0.2mm以下の砂粒をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	外面にスス付着。
	43		脚部		74	外面:脚部不規則なハケメ。裾部まばらなヘラミガキ。端部ヨコナデ。脚部に粘土粒の跡残る。内面:脚部上端指押さえ。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。端部ヨコナデ。	7.5YR7/2		密。1~3mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	外面1/2に黒斑
3	44	189 44	堿	102	111	外面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部粗雑なヘラナデ、ヨコナデ 内面:口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラナデ。体部下指押さえ。	2.5Y7/2 7/3		粗。1mm位の砂粒を多く含む	やや軟		粗雑な器面調整。外面全体と内面体部中央にスス、コゲ付着。
				168	194	外面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部まばらなハケメ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデのちナデ(板状工具)まばらなハケメ。	7.5YR7/1 ~7/2		密。0.1~2.0mm位の砂粒をかなり多く含む	硬	良好	
	46		底部			外面:体部ハケメ(ヘラケズリ状)。底部ヘラケズリ。 内面:体部浅いハケメ。底部ナデ。	7.5YR5/2		密。0.5~3.0mmの砂粒、小石、クサリ礫をやや多く含む。	硬	良好	スス付着。
	47		底部			外面:体部ナデ。底部に小石、植物繊維の跡が多い。 内面:体部~底部ハケメ。	7.5YR5/1		密。0.5~2.0mmの砂粒をやや多く含む	硬	良好	
4	48		体部		233	外面:屈曲部直下ナデ。体部ヘラミガキ。 内面:屈曲部直下ヨコナデ。体部ハケメ。	10YR7/2 ~7/3		粗。0.2~1.5mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面に部分的にスス、コゲ付着 赤変して表面剥離。
	49		底部			外面:体部ヘラミガキ。底部直上指押さえ。底部幅狭のハケ。底部直上に粘土粒の跡残る。 内面:体部にハケメ。底部ナデ。	2.5Y 7/1		密。1~3mmの砂粒、小石角閃石を少し含む	硬	良好	底部全体に黒斑
6	50		脚部		146	外面:脚部ナデ。裾部ヨコナデ。 内面:脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	10YR 6/1		粗。1~2mmの砂粒を含む クサリ礫を極く少量含む。角閃石を含む。	軟	良好	
7	51		脚部			外面:体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面:体部~底部放射状に8本のヘラミガキ。			密。0.5~1.0mmの砂粒、角閃石をやや多く含む。	硬	良好	粗雑な器面調整 全体の1/2に黒斑。
	52		鉢		190	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部粗雑なハケのちヘラミガキ。	5YR 6/3		粗。2~4mmの小石を多く クサリ礫を極く少量含む	軟	良好	
	53		堿		166	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部指押さえのちナデ。	10YR 4/2		密。微砂粒を極く少量含む。	硬	良好	外面全体に厚くスス付着。内面体部赤色物質染布。
	54		鉢		210	外面:口縁部~体部ヨコナデ。 内面:口縁部~体部ナデ。	10YR 8/2		やや粗。0.5~3.0mmの砂粒、小石を→	やや軟	良好	貼付凸帯。 →極く少量含む
	55		鉢		230	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	7.5YR7/3		密。1mm位の砂粒を含む。	硬	良好	
7	56		脚部		138	外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデのち浅いハケメ。	7.5YR6/1		密。0.5~2.0mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	円孔4cm間隔で10ヶ。外面にスス付着。
	57		壺			外面:体部ヘラミガキ。体部下半部のみナデ。底部ナデ。 内面:体部~底部ナデ、まばらにハケメ。	2.5YR6/6		密。1.5~4.0mmの砂粒をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	一部にスス付着
	58		類壺			外面:頸部直下ナデのちまばらなヘラミガキ。体部ナデ、ナデのち粗雑なハケメ、ナデのちヘラミガキ。 内面:体部ナデ(板状工具)、一部ハケメ。	10YR7/1 ~6/1		密。0.1~0.5mm位の砂粒を含む。角閃石を含む。	硬	良好	円形浮文。
161	1		短頸壺		88	外面:口縁部~頸部直下ヨコナデ。 内面:口縁部~頸部ヨコナデ。頸部粘土粒の跡残る。頸部直下指押さえのちナデ。	10YR 7/3		やや粗。0.1~0.5mmの砂粒をかなり→	やや軟	良好	→多く含む。クサリ礫を含む。

表8 D地区土器観察表(その12)

採 掘 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法	口径	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考	
				量	器高								
D	161	2	壺		100		外面：口縁部～頸部ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。頸部に粘土紐の跡残る。	10YR 5/1	密。0.5～3.5mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	良好	長頸壺？。	
		3	長頸壺		110		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケのちまばらなヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。	5YR 7/4	密。0.5～3.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好		
		4	壺		114		外面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部指押さえのちヨコナデ。頸部指押さえのちナデ(板状工具)。	2.5YR6/6	密。0.1～0.8mmの砂粒を含む。	やや軟	良好		
		5	壺		130		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部～頸部指押さえのちヨコナデ。	10R 6/6	粗。0.1～1.0mmの砂粒を多く含む。→	やや軟	良好	頸部に黒斑。 →クサリ礫を含む。	
		6	壺		127		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。頸部に粘土紐の跡残る	10YR 7/1	粗。0.5～3.0mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	良好		
		7	壺		134		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。	7.5YR5/1	密。0.5～3.0mmの砂粒、小石を多く含む。角閃石を含む。	硬	良好		
		8	壺		119		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	2.5YR6/6	粗。0.2～3.0mmの砂粒、小石を少し含む。	やや軟	良好	外面スス付着。	
		9	190 9	壺		102		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。体部粗雑なヘラミガキ。口縁部、頸部に指押さえの跡あり。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ナデ。、体部に指押さえの跡あり	5YR8/3～8/4	密。0.5～3.5mmの砂粒、小石をやや多く、5mmの小石を含む。	硬	良好	粗雑な器面調整
		10	203 10	壺		152		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	10YR 5/2	粗。0.5～1.0mm 前後の砂粒を多く含む	硬	不良	凹線文十円形浮文。
	区		11	壺		167		外面：口縁部～頸部ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部刻離深しく不明。	2.5Y 4/2	粗。1～2mmの砂粒を多量に含む。	やや軟	不良	凹線文十円形浮文。
		12	壺		172		外面：口縁部ナデ、ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	10YR 5/2	密。2～3mmの砂粒、小石をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	不良	円形浮文。	
		13	壺		189		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ハケメ。頸部ヨコナデ。	10YR 4/3	密。3mm以下の砂粒、小石を含む。角閃石を多く含む	硬	良好	外、内面にスス付着。	
		14	無頸壺		112	136	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	5Y 5/1	やや粗。0.3mm以下の砂粒を含む。→	やや軟	不良	円孔2ヶ1組で2カ所。 →角閃石を含む	
包		15	無頸壺		116		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下指押さえ、ナデ。体部ハケナデ。	10YR 4/3	密。0.8mm以下の砂粒を多く含む。→	やや軟	良好	円孔1ヶ残存。 粗雑な器面調整 →角閃石を含む	
		16	無頸壺		138	188	外面：口縁部ナデ。くびれ部に粘土紐の跡残る。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ナデ。体部ハケメ。	7.5YR6/3	密。2mm以下の砂粒を極め多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	内面口縁部～体部にかけてスス付着。	
		17	203 6	細頸壺		180		外面：口縁部～頸部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部磨滅著しい(ヘラミガキか)。	10YR 5/2	密。微砂粒をやや多く含む角閃石を含む	硬	不良	点状文十円形浮文、腹状文十円形浮文。
		18	細頸壺			178		外面：体部上半ヘラミガキ。体部中央ナデ。体部下半ナデのち粗雑なヘラミガキ。 内面：体部ナデのち指押さえ。	10YR 6/1	密。1mm以下の砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	
		19	壺		210		外面：口縁部～口縁部(下)ヨコナデ。頸部ナデ(板状工具)。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	10YR 5/1	密。微砂粒を多く含む。	硬	良好	刺突文。 高台-6	
		20	壺		216		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部～頸部上半ヨコナデ。頸部ナデ、ハケメ。	7.5YR6/4	密。0.1～0.4mmの砂粒を多く含む。角閃石を含む	硬	不良	高台-7	

表8 D地区土器観察表(その13)

採 名 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 量	口径 器高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考	
													口径
1 6 1	21		壺		208		外面：口縁部～口縁部直下ヨコナデ。頸部ナデ、ハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部上半ナデ。頸部下半ヘラケズリ。	10YR 8/3 ～8/4	粗。0.5～1.5mm位の砂粒 角閃石を多→	やや軟	良好	→く含む。	
	22		壺		186		外面：口縁部ヨコナデ。頸部上半極めて強いナデ(板状工具)。頸部 下半ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～頸部上半ヨコナデ。頸部下半～体部指押さえのちナデ	7.5YR5/3	やや粗。1mm 以上の砂粒を 含。花崗岩→	やや軟	良好	内面上半部にス ス付着。→の小 石、角閃石を合	
	23		短頸壺		122		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。体部粗雑なハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ、指押さえ。頸部直下指押さえ。 体部幅状のハケ。	7.5YR8/4	密。0.5～2.0mm位の砂粒 を多く含む。	硬	良好	凹線文。	
	24	190 24	短頸壺		109	184	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。くびれ部ヨコナデ。体部上 半ヘラミガキ、一部ヘラナデ。体部下半粗雑なヘラミガキ(ハケメ残 る)。内面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデのちハケメ。頸部直下未 調整、粘土層の残る。体部ナデ、一部ハケ。	10YR 7/1 ～7/2	密。0.5～1.0mm位の砂粒 をやや多く含む。	軟	良好	高台-7	
	25		底部				外面：体部ヘラミガキ。底部直上ヨコナデ。底部ナデ。 内面：体部～底部ナデ。	10YR 7/2	密。1.0～1.5mm位の砂粒を 極く少量含む	硬	良好		
	26		底部			232	外面：体部ヘラミガキ。底部直上ヨコナデ。底部ヘラミガキ。 内面：体部ハケメ。底部指押さえ。	2.5Y 7/1	密。1～3mm の砂粒、小石 を含む。角閃石を含む。	硬	良好		
	1 6 2	27		蓋		86		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部磨滅のため不明。体部ナデ。	2.5Y 5/1	密。0.5mm以下 の砂粒を少 なく含む。角閃石を含む	硬	良好	4カ所に円孔。 内面の大部分に スス付着。
		28		蓋		104		外面：口縁部ヨコナデ。体部は剝離のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。体部は剝離のため不明。	5YR 7/2	粗。2mm以下 の砂粒を極く 少量含む。	やや軟	良好	粗孔あり(数は 不明)。
		29		脚部		119		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部粗雑なナデ。	10YR 6/2	密。0.2～1.0mmの砂粒を 少し含む。角閃石を含む	硬	良好	1カ所に円孔。
		30		脚部		128		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。	5YR 6/3	密。0.2～2.0mmの砂粒を 極く少量含む	硬	良好	口縁部にスス付 着。
		31		脚部		136		外面：口縁部ヨコナデ。体部剝離のため不明。 内面：口縁部～体部ナデ。口縁部磨滅。	7.5YR7/2	粗。0.5～1.0mmの砂粒を 多く含む。全体に砂っぽい。	硬	良好	
		32		脚部		142		外面：口縁部ヨコナデ。体部表面剝離のため不明。一部ヘラミガキ残 る。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	5YR 6/1	粗。0.5～1.5mmの砂粒を 極く少量含む	硬	良好	内面全体にス ス、コグ付着。脚 部か?
		33		脚部		156		外面：口縁部ナデ。体部表面剝離のため不明。 内面：口縁部ナデ。体部端部磨滅・体部ナデ。	5YR 4/1	密。2mm以下 の砂粒3～5m のの小石含。角閃石を合	硬	良好	1カ所に円孔。 脚部?
34			脚部		154		外面：口縁部ヨコナデ。体部ハケのちヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部磨滅。体部ナデ。	10YR 7/2	密。0.1～0.5mmの砂粒を 極く少量含む	硬	良好		
35			脚部		152		外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部剝離著しく不明。体部ナデ。	10YR 4/2	密。0.5mm以下 の砂粒を合 角閃石を含む	やや軟	良好	推定14～17カ所 に円孔。	
1 6 3		36	202 14	鉢		136		外面：口縁部粗雑なナデ。 内面：口縁部粗雑なナデ。体部ナデのちまばらで粗雑なヘラミガキ。	10YR 5/3	密。1～3mm の小石、砂粒 をやや多く含む。	硬	良好	貼付突起棒状浮 文。
	37		鉢		220		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～口縁部直下ヨコナデのち粗雑なヘラミガキ。体部ナデ のち粗雑なヘラミガキ。	5YR 7/6	密。1～3mm の小石、砂粒 を少し含む。角閃石を合	硬	良好		
	38	203 1 204 7	無頸壺		190		外面：口縁部ヨコナデ。体部全体に表面剝離のため不明。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	10YR 6/3	密。1mm以下 の砂粒を含む 砂っぽい。	やや軟	良好	列点文、匭状文 十棒状浮文。	
	39		鉢		99		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデのちまばらで粗雑なヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ。体部指押さえのちナデ。	7.5YR7/8	密。0.2～2.5mmの小石、 砂粒をやや多く含む。	硬	良好	口縁部に黒斑あ り。	

表8 D地区土器観察表(その14)

採 取 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 器 高	口 径 器 高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 6 2	40		鉢		106		外面：口縁部ヨコナデ。体部上半粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	5Y 7/1	密。0.1～0.3mmの砂粒を極く少量含む	硬	不良	
"	41		鉢		132		外面：口縁部ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリのちヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ヘラミガキ。	2.5YR6/6	粗。1mm位の砂粒をかなり多く含む。	やや軟	良好	
"	42		甕		94		外面：口縁部ヨコナデ。体部丁寧なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。	2.5Y 6/1	密。0.5～1.0mmの砂粒をやや多く含む。	硬	良好	甕?
"	43		甕		106		外面：口縁部～屈曲部直下指押さえのちヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ。体部にヘラ先端の当たった跡あり。	7.5YR7/1	粗。0.5～1mmの砂粒を含む。クサリ礫を含む。	軟	良好	甕?
"	44	190 44	双把手付鉢		118 84		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリのちヘラミガキ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデのちヘラミガキ。	緑褐色	粗。1mm位の砂粒を多く含む。角閃石を多く含む。	硬		
"	45	190 45	把手付鉢		114 95		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ヘラナデ。極く一部にハケメ。体部ヘラナデのちまばらで粗雑なヘラミガキ。底部指押さえ。	7.5YR6/4 ～7/3	密。0.5mm以下の砂粒を少し含む。	硬		双把手付鉢?
"	46		双把手付鉢		180		外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下ナデ。体部ヘラケズリのちまばらで粗雑なヘラミガキ。内面：口縁部～口縁部直下ヨコナデ。体部ヘラケズリのちヘラナデ。体部に一部指押さえ、ヘラの当たった跡あり。	2.5YR7/4	密。0.5～1.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	凹線文。 →クサリ礫を多く含む。
"	47		脚部				外面：脚部表面剝離のため不明。 内面：杯底部ナデ。脚部スス付着のため不明。	5YR7/3～ 7/4	粗。0.5～2.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	内、外面にスス、コゲ付着。
"	48		脚部				外面：杯底部～脚部ハケのち丁寧なヘラミガキ。 内面：杯底部ヘラミガキ。脚部ナデ。	7.5YR6/6	密。1～2mmの砂粒を少し含む。	やや軟	不良	
"	49	191 49	脚部			裾部 径 78	外面：脚部丁寧なナデ。裾部ヨコナデ。 内面：脚部絞り目。裾部ナデ。端部磨減。	5YR 5/2	密。0.2～1.5mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	推定14カ所に円孔。
"	50		脚部			裾部 径 86	外面：底部～脚部ヘラミガキ。端部ヨコナデ。 内面：杯底部ハケメ。脚部ナデ。端部ヨコナデ。	5YR 6/4	密。0.5～2.0mmの砂粒を多く含む。	やや軟	不良	
"	51		脚部			裾部 径 92	外面：杯底部ナデ。脚部ヨコナデのち一部ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。 内面：杯底部ナデ。脚部指押さえのちナデ。裾部ヨコナデ。	7.5YR8/3	粗。1.5mm以下の砂粒を含クサリ礫を含む。	やや軟	良好	脚部外、内面にスス付着。
"	52		脚部			裾部 径 106	外面：杯底部ヘラミガキ。脚部ヨコナデ。端部ナデ。 内面：杯底部不明。脚部未調整。裾部ヨコナデ、ナデ。	7.5YR7/3	粗。0.2～0.8mmの砂粒を多く含む。クサリ礫を含む。	軟	良好	16カ所に円孔。
"	53	190 53	脚部			裾部 径 120	外面：杯底部～脚部ヘラミガキ。裾部ヨコナデのちハケ。端部ヨコナデ。 内面：杯底部ヘラミガキ。脚部上半指押さえのちナデ。脚部下半ハケメ。端部ヨコナデ。	10Y 5/2 ～2.5Y 5/2	1.5mm以下の砂粒を含む。1mm大の角閃石クサリ礫を含む。	硬	良好	全体に表面の剝離著しい。19カ所に円孔。
"	54		脚部				外面：杯底部～裾部ヘラミガキ。 内面：杯底部ナデ。脚部～裾部ヘラナデ。	7.5YR8/2	密。0.2～2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	内面杯底部スス付着。
"	55		脚部				外面：杯底部～脚部ヘラミガキ。 内面：杯底部ナデ。脚部ナデ。	2.5Y 8/4	密。2.5mm以下の砂粒を極めて多く含む。クサリ礫を含む。	硬	不良	裾部に黒斑あり
"	56		脚部			裾部 径 120	外面：脚部ナデのちまばらなヘラミガキ。裾部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ。裾部磨減のため不明。	7.5YR7/3	密。0.6～2.0mmの砂粒を少し含む。クサリ礫を含む。	硬	良好	裾部に黒斑あり
"	57		脚部			裾部 径 131	外面：裾部不明。端部ヨコナデ。 内面：裾部ヨコナデ(板状工具)。	2.5YR7/6	粗。2mm以下の砂粒を含むクサリ礫を含む。	やや軟	良好	外面は熱のため赤変。脚部内面コゲ付着。
"	58		脚部			裾部 径 141	外面：裾部剝離が著しく不明。端部ハケメ。 内面：裾部ナデ。端部ヨコナデ。	2.5YR7/4	密。0.2～1.0mmの砂粒を少し含む。	やや軟	不良	脚部内面にスス付着。

表8 D地区土器観察表(その15)

採掘 No	遺物 番号	図版 番号	器 種	法 量	口径 器高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼成	備 考
D 地 区 包 合 層	59	191 59	短頸壺			基部 径	外面：脚部ヘラミガキ。基部ナデ。肩部ヨコナデ。 内面：脚部ヨコナデ、一部指押さえ残る。基部ヨコナデ。	5YR 7/4	粗。1～3mm の砂粒、小石 を多く含む。クサリ礫を極めて多く含む。	軟	良好	基部に凹痕あり
							外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。	2.5Y 7/1	粗。0.5～2.0mm の砂粒を 含む。	硬	良好	脚部？
	61	高杯	174	外面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ナデ。	5YR 7/6	粗。0.2～0.5mm の砂粒を 少し含む。クサリ礫を含む。砂っぽい。	軟	良好				
				外面：口縁部ヨコナデ。杯部まばらな粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部強いヨコナデ。体部ヨコハケの放射線状暗文風のヘラミガキ。体部にヘラ先の当たった跡あり。	10YR 8/2	粗。2mm以下 の砂粒を少し 含む。砂っぽい	やや 軟	良好	プレバート7			
	63	高杯	210	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部～杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部～杯部ヘラミガキ。	7.5YR6/2	密。0.5～2.0mm の砂粒を 多く含む。	硬	良好				
				外面：口縁部ヨコナデ。杯部まばらなヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ハケメのちまばらなヘラミガキ	5YR 7/4	やや粗。0.1～0.4mm の砂粒を やや多	やや 軟	良好	→く含む。クサリ礫を含む。			
	65	高杯	204	外面：口縁部ヨコナデ。杯部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ナデ。	7.5YR6/1	密。0.5～3.5mm の小石、 砂粒をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	不良				
				外面：口縁部ヨコナデ。体部粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部まばらな粗雑なヘラミガキ。	2.5YR6/4	密。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。	やや 軟	良好				
	67	高杯	233	外面：口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ。口縁部～杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部～杯部ヘラミガキ。杯部中央ヘラミガキ。	2.5Y 6/1	粗。2mm以下 の砂粒を含む 含む。角閃石を多く含む	硬	良好	外、内面にスス付着。			
				外面：口縁部～杯部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。	7.5YR6/3	密。0.5～1.0mm の砂粒を 少し含む。	硬	良好	凹線文。			
	69	高杯	248	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部～杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。	5YR 5/4	粗。0.3～0.8mm の砂粒を 含む。角閃石を含む。	軟	不良	表面の剝離著しい。 プレバート4			
				外面：口縁部ヨコナデ。口縁部～杯部ヨコナデのちヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部ヨコナデのちヘラミガキ。	7.5YR 1, 7/1	密。0.2～0.4mm の砂粒を 多く含む。角閃石を含む	硬	良好				
	71	壺	98	外面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。体部ナデ(成形時の凹凸激しい)。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ、指押さえ。	7.5YR/3	粗。0.2～1.0mm の砂粒を 極く少量含む	軟	不良				
				外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部指押さえ。	5YR 7/4	粗。0.5～2.0mm の砂粒を やや多く含む	やや 軟	不良	口縁部に列点文 近江系			
外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部まばらなヘラミガキ。 内面：口縁部～屈曲部直下ヘラナデ。体部ナデ。				2.5YR7/6	密。0.5～2.5mm の小石、 砂粒を少し含む。	硬	良好					
外面：口縁部～屈曲部直下までヨコナデ。体部上半ハケ状工具によるナデ。体部下半ハケのちナデ。内面：口縁部ヨコナデ屈曲部直上ヨコナデ。体部ハケメ。体部中央に指頭正跡あり				7.5YR6/2 ～6/2	粗。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。クサリ礫を含む。	軟	良好					

表8 D地区土器観察表(その16)

採掘 No	遺物 番号	図版 番号	器 種	法	口径	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼成	備 考
				底 径	器 高							
1 6 3	75	190	夾	140	152	140	外面：口縁部ヨコナデ。屈曲部直下未調整。体部ヘラミガキ。底部直上ハケメ。底部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部に粘土粗の跡残る。底部指押さえ。	7.5YR/4 ~7/6	密。0.5~1.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面にスス、コゲ付着。土填-24
	76	夾	152	156	156	外面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半ナデのちヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ屈曲部直下指ナデ、粘土粗の跡残る。体部ナデのちまばらなヘラミガキ。	5YR8/2~ 8/3	粗。0.5~2.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	プレバート10	
77	夾	142	142	142	外面：口縁部~屈曲部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。内面：口縁部ハケメ。体部ヘラケズリのちハケメ。	5PB 3/1	粗。1mm以下の砂粒を含む角閃石を含む。	やや軟	良好	全体的にスス付着。		
78	夾	150	150	150	外面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデのちまばらなヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部直下ヨコナデ。体部指押さえのちナデ。体部に粘土粗の跡残る。	5YR/3~ 5/2	粗。2mm以下の砂粒を多く含む。角閃石を多く含む。	硬	良好	粗雑な器面調整口縁部にスス、コゲ付着。		
79	夾	150	154	154	外面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラナデのちまばらなヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部指押さえのちナデ(板状工具)、ハケ。	10YR 5/1	粗。0.5~2.5mmの小石、砂粒をやや多く含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。		
80	夾	136	164	164	外面：口縁部指押さえのちヨコナデ。体部ヘラミガキ。内面：口縁部指押さえのちヨコナデ。体部ハケ。	7.5YR4/1	密。0.2~3.0mmの砂粒、小石を含む。角閃石を含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。		
81	夾	158	162	162	外面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキ。内面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ。	N 4/	粗。2.5mm以下の砂粒小石角閃石を含む。	やや軟	良好	外面全体的にスス付着。		
D 地 区	82	夾	147	179	179	外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)。	2.5YR/6	粗。0.5~1.0mmの砂粒を極く少量含む。	軟	良好	外面全体にスス、コゲ付着。	
												83
	84	夾	156	156	外面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデのちヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部ヘラナデ。体部ハケメ。	5YR 5/4	密。0.2~2.0mmの砂粒をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好			
包 合 層	85	夾	162	162	外面：口縁部~屈曲部直下指押さえのち一部ヨコナデ。体部ヘラケズリのち粗雑なヘラミガキ。内面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。屈曲部直下に指頭圧の跡あり。体部雑なナデ。体部に粘土粗の跡残る。	2.5YR8/8	粗。2mm以下の砂粒を少し含む。角閃石を含む。	やや軟	良好	粗雑な器面調整		
											86	夾
	87	夾	184	184	外面：口縁部指押さえのちヨコナデ。体部ヘラケズリのちヘラナデ。内面：口縁部指押さえのちヨコナデ。体部ナデ、一部ハケ。	7.5YR8/2	粗。0.2~3.0mmの小石、砂粒を極く多く含む。	やや軟	良好	→多く含む。クサリ礫を含む		
88	夾	183	183	外面：口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)。体部に粘土粗の跡残る。	7.5YR/2	粗。0.5~1.0mmの砂粒を含む。砂っぽい	やや軟	不良	プレバート9			
89	夾	156	195	195	外面：口縁部~屈曲部ヨコナデ。体部上半粗雑なヘラミガキ。体部下半やや粗雑なヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ(板状工具)。体部上半に粘土粗の跡残る。体部下半ハケメ。	7.5YR5/1	粗。0.5mm以下の砂粒を極く多く含む。砂っぽい	軟	不良			
90	夾	160	160	160	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)。体部に指頭圧跡あり粘土粗の跡残る。	10YR 7/3	粗。0.2~3.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	不良			
91	夾	220	220	220	外面：口縁部ヨコナデ。屈曲部直上指押さえ。屈曲部直下ヨコナデ体部不明。内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部一部未調整。体部ハケメ。	10YR 6/2	粗。0.3~0.5mmの砂粒を多く含む。→	やや軟	不良	→角閃石を含む		
92	夾	174	174	174	外面：口縁部ヨコナデ。屈曲部直上粗雑なヘラナデ。体部粗雑なヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	7.5YR5/2	密。0.5~3.0mmの小石、砂粒を含む。角閃石を含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。		
落 込 1 2	93	203 2 204 8	夾	220	220	外面：口縁部ヨコナデ。体部一部ヨコハケ。内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部直下指押さえ。体部ヨコナデ小さい幅のハケ。	10YR 4/3	やや粗。砂粒を多く含む。	硬		ヘラ指き。割箸子文粗雑な器面調整。落ち込み-2	

表8 D地区土器観察表(その17)

採掘 No	遺物 番号	図版 番号	器 種	法 器高	口径 器高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
163	94		甕		201		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部粗雑なハケメ。屈曲部に粘土紐の跡残る	2.5Y 7/1	粗。0.5～3.0mmの小石、砂粒をかなり多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	外面スス付着。
	95		甕		207		外面：口縁部ヨコナデ、凹凸激しい。体部ヘラケズリのもへらミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、凹凸激しい。体部指押さえ、ナデ、凹凸が激しい。	5B 3/1	密。0.2～3.0mmの小石、砂粒を含む。角閃石を含む	硬	良好	外面全体にスス付着。
	96		甕		126		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ハケメ。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ハケメ。	5Y 6/1	密。1～3mmの小石、砂粒多くを含む。	硬	良好	外面スス付着。
164	D 11		地 区 包 合 解				外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部スス付着のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。屈曲部直下へらの当たった跡あり。体部に粘土紐の跡残る。	10YR 4/1	密。1.0～3.5mmの小石、砂粒を含む。角閃石を含む	硬	良好	外面全体にスス付着。
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。屈曲部指押さえ。屈曲部直下ナデ(板状工具)。体部ナデ(板状工具)のちまばらで粗雑なへらミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部へらナデ。体部ナデ(板状工具)	7.5YR/1	粗。0.1～0.3mmの砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面全体にスス付着。
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部へらミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部は表面割離のため不明。	5YR 6/4	やや粗。0.1～0.8mmの砂粒を極めて多く含む。	軟	良好	外面全体にスス付着。
							外面：口縁部ヨコナデ。体部へらミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。体部に一部へらミガキ。	10YR 5/2	0.1～0.3mmの砂粒を含む角閃石を含む	やや軟	良好	口縁部に黒面。
							外面：口縁部ヨコナデ。体部へらミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケのちへらミガキ。	2.5Y 8/2	密。0.1～0.5mmの砂粒を少し含む。	軟	不良	
							外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	2.5Y 4/2	密。1mm位の砂粒をやや少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	覆状文十円形浮文。
							外面：脚部ハケのちナデ。脚部ヨコナデ。 内面：脚部へらナデ。頸部にへらの当たった跡あり(板状工具?)。	10R 6/4	密。0.5～1.0mmの砂粒を極く少量含む	硬	良好	
							外面：杯底部ナデ、一部ハケ。脚部へらミガキ、ナデ。頸部ハケメ。 内面：脚部へらナデ。頸部ハケメ。	2.5Y 6/1	密。0.2～4.0mmの小石、砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	円底充塞法
							外面：口縁部ヨコナデ。頸部へらミガキ。 内面：口縁部～頸部ハケメ。	10YR 6/2	密。0.3～6.0mmの小石、砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	
							外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。体部へら状工具によるナデ。	10YR/2 ～8/3	粗。0.2～1.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	不良	プレバレート22
							外面：体部ハケのち粗雑なへらミガキ。底部直上ナデのちへらミガキ 底部ナデ。内面：体部中央ヨコナデ。体部に粘土紐の跡残る。体部下半～底部ナデ。	5YR 6/4	密。0.5～3.5mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	不良	底部にモミガラ跡。
							外面：体部へらミガキ。底部へらナデ、ナデ。 内面：体部～底部粗雑なへらナデ。	7.5YR/2	密。0.2～4.0mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	良好	
							外面：体部へらミガキ。底部ナデ。 内面：体部～底部へらナデ。	5YR 7/3	粗。0.5～2.0mmの砂粒を多く含む。	やや軟	良好	
							外面：口縁部ヨコナデ。口縁部直下に指押さえ痕が一部残存。体部ナデのちまばらで粗雑なへらミガキ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ口縁部直下へらナデ。体部～底部強いへらナデ。	10YR/2 ～5/2	密。1mm以下の砂粒を含むクサリ礫を含む。	硬		粗雑な器面調整
							外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部へらミガキ。底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。体部に粘土紐の跡残る。	5YR6/4～ 6	密。1.0～1.5mmの砂粒を少し含む。	やや軟	良好	外面、内面ともにスス付着。
							外面：口縁部ヨコナデ。体部へらミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ(へら又はハケ)。	7.5Y 7/2	密。0.5mmの砂粒を多く含む。	やや軟	良好	

表8 D地区土器観察表(その18)

押 図 No	遺 構 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法 量	口 径 器 高	体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 6 3		17		鉢		126		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	10YR 6/1	密。0.2～2.0mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	
"		18		脚部				外面：体部ハケのち粗雑なヘラミガキ。脚部ハケメ。裾部ヨコナデ。 内面：体部～体部下半ヘラミガキ。脚部ナデ。	10YR 7/3	密。0.5mm以下の砂粒を極く少量含む。	硬	不良	
"		19		双把手付鉢				外面：体部ヘラミガキ。底部ヨコナデ。 内面：体部～底部やや粗雑なハケメ。	5YR 4/3	密。0.5～1.0mmの砂粒を多く含む。角閃石を多く含む。	硬	良好	
"		20		脚部			裾部径100	外面：脚部ヘラナデ(一部ヘラミガキ)。裾部ヨコナデ。 内面：脚部粗雑なナデ。裾部ヨコナデ。	7.5YR7/3	粗。1～3mmの小石、砂粒を多く含む。クサリ礫を含む。	軟	良好	円板充て法。脚部に黒斑。
"		21		壺		68		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。		粗。0.5～1.0mmの砂粒をやや多く含む。	やや軟		頸部に黒斑。→む。角閃石を含む。
"		22		鉢		87		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	7.5YR6/6	粗。0.5～2.0mmの砂粒をやや多く含む。	やや軟	良好	
"		23		壺		90		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ、ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ、ナデ。	10YR 7/2	粗。1～2mmの砂粒を多く含む。	軟	良好	
"		24		短頸壺		82		外面：口縁部ハケのちヨコナデ。頸部～体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ハケのちヨコナデ。頸部上半指押さえ。頸部下半ヨコナデのちハケメ。体部ヘラナデ。	10YR7/2 ～6/2	密。1.0mm以下の砂粒をやや少し含む。	やや軟		円形浮文2ケ1組が4カ所。
"		25	191 25	細頸壺		80	頸径58	外面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。	10YR 6/1	密。小石、砂を極く少量含む。	やや軟		
"		26		無頸壺		74	96	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。	2.5YR6/6	密。0.5～1.0mmの砂粒を極く少量含む。	やや軟	良好	
"		27		無頸壺		120	150	外面：口縁部～肩曲部直下ヨコナデ。体部粗雑なヘラミガキ。体部上半に薄くハケメあり。内面：口縁部ヨコナデ。体部粗雑なヘラミガキ。体部に粘土粒の跡残る。	5YR 6/2	密。0.5～4.0mmの小石、砂粒を極めて多く含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。プレバート17
"		28		壺		175		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	5YR 4/2	密。0.2～3.0mmの小石、砂粒を少し含む。	硬	良好	内面にスス付着
"		29		壺		172		外面：口縁部ヨコナデ。口縁部裏面指押さえ。口縁部直下ヨコナデ。頸部ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	7.5YR7/4	密。1.0～5.5mmの砂粒、小石をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	
"		30		壺		178		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	10YR 6/6	密。1.5mm以下の砂粒、クサリ礫を極く少量、角閃石を多量に含む。	硬	良好	
"		31		壺		210		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。 内面：口縁部～頸部上半ヨコナデ。頸部下半ナデ。	2.5Y 4/3	密。0.5～4.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	
"		32		鉢		158	頸部126	外面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。体部上半ハケのち軽くヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	10YR 4/1	密。0.5～1.0mmの砂粒を極めて少し含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。
"		33		無頸壺?		136	153	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケのちヘラミガキ。	7.5YR6/4	密。0.5～3.0mmの砂粒、小石を極く少量含む。	硬	良好	口縁端部に貼付凸帯。
"		34		鉢		202		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	10YR 6/1	密。0.5～1.5mmの砂粒を多く含む。角閃石を含む。	硬	良好	
"		35		鉢		218		外面：口縁部ヨコナデ。体部剥離のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。口縁部ハケメ。体部剥離のため不明。	10YR 7/1	粗。0.5～2.0mmの砂粒を多く含む。→	軟	良好	→クサリ礫を極く少量含む。

表8 D地区土器観察表(その19)

標 本 No	遺物 番号	図版 番号	器 種	法	口径	体 部 径	形・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
				量	器高							
165	36		高杯		244		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリのちヘラミガキ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	10YR 8/1 ～8/2	粗。1mmの砂粒を多く含む	硬	不良	
"	37		鉢		292		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	5YR 5/6	密。1～2mmの砂粒を含む	硬	良好	貼付凸部、棒状浮文。
"	38		高杯		160		外面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部～杯部ヨコナデ。	10YR 3/2	密。4mm以下の砂粒、小石多く含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。
"	39		高杯		188		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	2.5YR 6/6	密。0.5～1.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	
"	40		高杯		192		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。	7.5Y 6/1	密。1.5～4mmの砂粒、小石を含む。角閃石を含む	硬	良好	外、内面にスス付着。
"	41		高杯		186	195	外面：口縁部ヨコナデ。体部不明。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデのち放射線状のヘラミガキ。	10YR 7/2 ～7/3	粗。0.3mm以下の砂粒をかなり多く含む	やや軟	良好	
"	42		底部				外面：体部ナデ。底部直上指押さえ。底部ナデ。 内面：体部～底部ナデ(板状工具)。	7.5Y 2/1	密。1mm以下の砂粒を極く少量含む。	硬	不良	波状文。
"	43		底部				外面：体部ヘラケズリ。底部ナデ。 内面：底部ナデ。	2.5YR 6/6	密。0.1～2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	
"	44		底部				外面：体部～底部ナデ(底部直上一部ヘラ状工具の当たった跡あり) 内面：体部～底部ナデ。	10R 6/8	密。0.2～3.0mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	良好	
"	45		底部				外面：体部ヘラナデ。底部直上ヘラケズリ。底部ナデ。 内面：体部～底部ナデか。	5YR 7/4	密。0.2～3mmの砂粒、小石を極く少量含む	硬	良好	外、内面にスス付着。
"	46		底部				外面：体部ナデ。底部直上ヨコナデ。底部ナデ。 内面：体部～底部ナデ。	2.5YR 7/4	密。0.5～3.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	
"	47		底部				外面：体部粗雑なヘラミガキ。底部直上指押さえ、ヨコナデ。底部ナデ。底部に粘土紐の跡残る。 内面：体部～底部ナデ。	7.5YR 6/1	密。0.2～6.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	外面スス付着。
"	48		底部				外面：体部ヘラナデ。底部ナデ。 内面：体部～底部ナデ。	7.5YR 7/1	密。4.5mm以下の砂粒小石多く含。クサリ礫を含む	硬	良好	内面全体にスス付着。
"	49		底部				外面：体部ヘラナデ。底部ナデ(指紋あり)。 内面：体部～底部ナデ。	5YR 7/3 ～7/4	密。1～3mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	不良	外面全体にスス付着。
"	50		底部				外面：体部ヘラミガキ。底部直上指押さえのちヘラナデ。底部ヘラナデ(ヘラケズリ的)。 内面：体部～底部ナデ。	5YR 6/3 ～6/4	粗。0.5～1.5mmの砂粒を極く少量含む	やや軟	良好	内面全体にスス付着。
"	51		脚部		110		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコハケ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	10YR 8/2	密。0.1～0.5mmの砂粒を極く少量含む	硬	良好	穿孔
"	52		脚部		114		外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	10YR 6/1	密。0.5～1.5mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む	硬	良好	外、内面共に口縁部直上に帯状に赤色物質塗布 穿孔2ヶ1組みで穿孔。
"	53		脚部		126		外面：口縁部ヨコナデ。体部剥離のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。体部不明。	2.5YR 6/6	密。1～3mmの砂粒、小石をやや多く含む	やや軟	良好	
"	54		脚部		132		外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	5YR 7/3 ～7/4	粗。1～4mmの砂粒、小石を含む。	やや軟	良好	外面全体と内面口縁部直上にスス付着。

表8 D地区土器観察表(その20)

押出No.	遺物番号	図版番号	器種	法量	口径 器高	体 部 径	形態・手法の特徴	色調	胎土	質	焼成	備考
165	55		脚部		140		外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。	5YR 7/4	密。0.5～1.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	
	56		脚部		180		外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	7.5YR7/3	密。0.5～2.0mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	円孔2ヶ1組で8方着。内面全体にスス付着。
	57		脚部		84		外面：口縁部ヨコナデ。体部剝離著しく不明。 内面：口縁部ヘラケズリ。体部ヘラミガキ。	7.5YR6/6	粗。0.5～4.0mmの砂粒、小石を極め→	やや軟	良好	→多く含む。
	58		短頸壺			裾部径 140	外面：脚部ハケメ。裾部ヨコナデ。 内面：脚部ハケメ。裾部ヨコナデ。	7.5YR6/2	密。2mm以下の砂粒、中4.5mmの小石、角閃石を含む。	硬	良好	凹線文。内面全体にスス付着。
	59		甕		151 164		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラミガキのちヨコナデ。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ。	M4/	密。0.2～4.0mmの砂粒、小石、角閃石を含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。
	60		甕		108		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部不明。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ。	5YR 6/4	密。1～3.5mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。
	61		甕		157 172		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ヘラナデのち粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部上半表面の流れ激しい。体部下半ハケメ。体部に粘土粗の残残る。	2.5YR7/4	粗。0.2～5.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。	やや軟	良好	外面全体にスス付着。
	62		甕		162		外面：口縁部ヨコナデ。屈曲部ナデ。体部ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	5YR 4/3	密。0.5～1.5mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	外面スス付着。
	63		甕		182		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ハケメ。	10YR 4/1	密。1～3mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。
	64		甕		172		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ハケのちまばらなヘラミガキ。 内面：口縁部剝離のため不明。体部ナデのちヘラミガキ。	5YR 7/3	0.5～5.0mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	良好	
65		甕		158		外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ、ハケ。体部に指印跡あり。	10YR 5/1	密。1～3.5mmの砂粒を少し含む。角閃石を含む。	硬	良好	外面全体にスス付着。	
166	53上層	1	191	短頸壺	96		外面：口縁部～頸部直下ヨコナデ。体部上半クタクキ。体部下半粗雑なヘラケズリ。底部指押さえのちナデ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ。頸部直下ナデ。体部ヘラナデ。底部指押さえ。	10YR 8/3	粗。1～2mmの砂粒をやや多く含む。クサリ礫を含む。	やや軟	不良	外面にスス、コグ付着。外、内面にスス付着。
		1	194		140							
	53上層	2	191	長頸壺	84		外面：口縁部強いヨコナデ。頸部ヨコナデ。体部ナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	暗褐色	密。砂粒をやや多く含む。	硬	不良	外面肩部に記号文(竹管)。高台-8
		2	213		107							
	53上層	3	192	短頸壺	111		外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケメ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～頸部ハケメ。頸部直下指押さえ。体部上半ヘラナデ。体部下半ハケメ。	10YR 7/1 ~7/2	密。0.5mm以下の砂粒を少し含む。	硬	良好	外面にコグ付着。外、内面にスス付着。
		3	156		156							
	土壇22	4	192	短頸壺	128		外面：口縁部ヨコハケのちナデ。体部上半ヘラミガキ。体部下半ナデ肩部にモミ跡あり。内面：口縁部ヨコハケのちナデ。体部指押さえのちナデ。頸部、体部にヘラ先の当たった跡あり。体部に多数のツメ→	10YR 7/3 ~4	粗。2mm以下の砂粒をかなり多く含む。	やや軟	良好	→跡あり。
		4	283		188							
	土壇22	5	192	直口壺	117		外面：口縁部剝離のため不明。頸部～体部粗雑なヘラミガキ。底部ナデ。 内面：口縁部剝離のため不明。頸部～底部ヘラナデ。	10YR 7/3	密。3mm以下の小石、砂粒、角閃石、クサリ礫を含む。	硬	良好	ブレバート47 高台-6
		5	216		144							
土壇22	6	193	体部			外面：頸部～体部上半粗雑なハケメ。体部下半ハケメまたはナデ(板状工具)。底部ヘラナデ、指ナデ。 内面：頸部～体部ハケメ。底部ナデ。	10YR 8/2 ~8/3	粗。0.5～1.5mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面上部にコグ付着。黒皮あり	
50	7	192	短頸壺	119		外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラミガキ。体部中央ナデ。体部下半ヘラナデ。 内面：口縁部ハケのちヨコナデ。体部ヘラナデ。底部指押さえ。	10YR 7/1 ~6/1	密。0.5～1.0mm位の砂粒を少し含む。	やや軟	良好	外面肩部に記号(ヘラ)。	
土壇25	8	193	壺	260		外面：口縁部ヨコナデ。頸部～肩部ハケメ。体部ヘラミガキ。底部指押さえ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケメ。底部指押さえ	10YR 7/4 ~6	粗。0.5～1.0mm位の砂粒をかなり多く含む。	やや軟	良好	円形符文2ヶ1組が推定で口縁部に8組。肩部に5組。体部に編カゴ跡。	
	8	383		292								

表8 D地区土器観察表(その21)

押 図 No	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法		形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
				口 径	器 高						
1 6 7	9	194 9	鉢 ミ ニ チ ュ ア	68	52	外面：口縁部ナデ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～底部ナデ。	灰褐色	粗。1mm位の 砂粒を多く含 む。	硬	良好	外面半分は黒色 物質付着し、光 沢あり。
				52							
"	10	194 10	鉢	107	62	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。底部指押さえ、ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部指押さえ。	10YR 7/4	粗。1～3mm 位の小石、砂 粒をかなり多く含 む。クサリ礫を少し含む	やや軟		
				62							
"	11	194 11	鉢	95	75	外面：口縁部ヨコナデ。体部上半タクキ。体部下半ナデのちタクキ。 底部未調整。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	淡褐色	密。砂粒を極 く少量含む。	硬		高台-3
				96							
"	12	194 12	鉢	98	100	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ、ヘラケズリのち粗雑なヘラミ ガキ。底部ナデ(ヘラナデ?)。内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ 体部～底部ナデ。体部に粘土粗の跡残る。	2.5Y 5/1 ～4/1	粗。1～2mm 位の砂粒をやや 多く0.5mm位の 角閃石を多く含む。	やや軟		D-2 tr 土漬-1
				100							
D 地 区	13	194 13	鉢	106	94	外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部まばらなハケメ。底部指押 さえ、ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。屈曲部直下一部ハケメ。体部～底部ナデ。	2.5Y 8/2	粗。1mm以下 の砂粒を少し 含む。	軟	不良	外面全体にスス 付着。D-3 トレンチ
				94							
"	14	203 5	壺	156		外面：口縁部～頸部ヨコナデ(軽いハケ)。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ(軽いハケ)。	5Y 8/1	粗。0.5～1. 0mmの砂粒を 多く含む。	硬	不良	波状文十円形浮 文。高 大溝
				156							
"	15	204 1	壺	160		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ、粗雑なハケ。	10YR 8/2 ～8/3	密。0.5mm以 下の砂粒を少 し含む。クサ	やや軟	良好	プレバート3 高台-5 →サリ礫を含む
				160							
"	16	壺	壺	96		外面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部剝離のため不明。	7.5Y 8B/2 ～7/3	粗。3mm以下 の砂粒、小石 を多く含む クサリ礫を少し含 む。	やや軟	良好	未貫通の穿孔あ り。高台-3 プレバート14
				96							
"	17	高杯	高杯	195		外面：口縁部丁寧なヨコナデ。体部ヨコナデか? 内面：口縁部～杯部ヨコナデ。	10YR 4/2	密。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。	硬	良好	
				195							
"	18	高杯	高杯	140		外面：口縁部～体部ヨコナデ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。	5YR 5/2	粗。1～3mm の小石、砂粒 を多く含む。 角閃石を多く含む。	硬	良好	
				140							
"	19	194 19	台付鉢	147		外面：口縁部ナデ。体部～脚部ヘラミガキ。 内面：口縁部ナデ。体部～底部ヘラミガキ。脚部ナデ。	5YR 4/4	粗。0.5～1. 0mmの砂粒を 多く含む。角閃石を多く含む。	硬	良好	
				147							
"	20	脚部	脚部	146		外面：脚部丁寧なヘラミガキ。裾部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ。	2.5YR2/1 顔料10R 3/4	密。1～2 mmの砂粒を 含む。角閃石を多く含 む。	硬	良好	脚部端面を除く外面全体 に赤色顔料塗布。脚部内 面にスス付着。D-2tr
				146							
"	21	194 21	脚部	146	184	外面：杯部底にヘラ先の当たった跡あり。脚部ヘラミガキ(凹凸激し い)。裾部にまばらなヘラミガキ。内面：杯部底ヘラミガキか?脚部 ハケ。脚部に粘土粗の跡残る。裾部にヘラ先の当たった跡あり	10YR7/ 1,2	密。1mm以 下の砂粒を 含む。角閃石を含む。	硬	良好	円板全調整。脚 部外面の一部ス ス、コグ付着。
				146							
"	22	193 22	無頸壺	146	130	外面：口縁部ヨコナデ。体部上半粗雑なハケのち疎らなヘラミガキ。 底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部に粘土粗の跡残る 底部指押さえ。	10YR8/3 ～8/4	粗。0.5～2. 0mmの砂粒を 多く含む。→	やや軟		粗雑な器面調整 →クサリ礫を含
				130							
"	23	193 23	台付無 頸壺	157	171	外面：口縁部ヨコナデ。体部～脚部ヘラミガキ。一部ハケメあり。裾 部ハケメ。端部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラミ ガキ。口縁部直下に一部ハケメ。体部中央に指頭圧跡あり。脚部へ→	10YR7/3 ～7/4	粗。0.5～1. 0mm位の砂粒 、クサリ礫を多く含む。	軟	良好	→ラミガキか? 裾部ハケのちへ ラナデ。端部ヨ コナデ。
				215							
"	24	壺	壺	120		外面：口縁部ヨコナデ。体部粗雑なヘラミガキ。一部ヘラケズリ。 内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部ナデ、ハケメ。体部に粘土 粗の跡残る。		密。0.5～1. 0mmの砂粒を 少し含む。	硬	良好	
				120							
"	25	壺	壺	117	144	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。底部ヘラナデ。 内面：口縁部ナデ。屈曲部指押さえ。くびれ部直下ナデのちハケ。体 部ハケ。底部指押さえ。	5YR3/3～ 7/3	密。1mm以下 の砂粒を極 く少量含む。	やや軟		丁寧な器面調整。 外面全体にスス 付着。D-1 tr
				144							
"	26	壺	壺	170		外面：口縁部～屈曲部直下指押さえのちヨコナデ。体部ハケメ。 内面：口縁部指押さえのちヨコナデ。体部ハケのち指押さえ。体部に 粘土粗の跡残る。	10YR8/2	粗。0.2～6. 0mmの小石、 砂粒を多く含 む。	やや軟	不良	体部に黒斑。 プレバート5
				170							
"	27	壺	壺	170	232	外面：口縁部～屈曲部直下ヨコナデ。体部上半ナデ(板状工具)、ま ばらなハケ。体部下半ヘラケズリ。内面：口縁部～屈曲部直下ヨコナ デ。体部ハケメ。体部中央一部ハケメなし。	10YR7/1 ～7/2	密。0.1～0. 5mm位の砂粒 を含む。	硬		プレバート20
				170							

表8 D地区土器観察表(その22)

押図No	遺物番号	図版番号	器種	口径 器高	体部 径	形態・手法の特徴	色調	胎土	質	焼成	備考
167	土壇 22	193 28	甕	158	160	外面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部上半ヘラミガキ。体部下半ヘラケズリのもヘラナデ。内面:口縁部ヨコナデ。屈曲部直下強いヨコナデ。体部ヘラナデ、一部ハケメあり	7.5YR/2	粗。1.0~1.5mm位の砂粒をやや多く含む	やや軟		外面にスス、コゲ付着。
				247							
"	29		甕	192	232	外面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。屈曲部直下粗雑なヘラナデのちヘラミガキ。体部ヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)。体部上半に指押さえあり。	10YR/3	0.3~0.8mm位の砂粒を多く含む	やや軟	良好	外面にスス付着 D-2t
168	河川	195 1	甕	91	96	外面:口縁部指押さえ。体部ハケメ。底部直上指押さえ。底部ナデ。内面:口縁部指押さえ。体部ナデ。	暗灰褐色	密。1mm以下の砂粒を少し含む。	やや軟		体部~底部に黒斑。
"	水田	195 2	甕	91	101	外面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部~底部ナデ。内面:口縁部~屈曲部直下ヨコナデ。体部~底部ナデ。体部に指頭圧痕、粘土粒の跡残る。	橙褐色	粗。2~3mm位の小石を含む。	やや軟		外面スス付着。
				107							
"	河川	3	脚部	裾部径 87		外面:脚部穿孔後ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。内面:脚部ヨコナデ。裳部ヨコナデ。	2.5YR/2	密。4mm以下の砂粒をやや多く含む。→	やや軟	良好	黒斑あり。円孔 →クサリ礫を含む
"	"	195 4	脚部	裾部径 130		外面:脚部ヘラミガキ。裾部ハケメ。端部ヨコナデ。内面:杯底部ナデ。脚部絞目。裾部ヨコナデ。	10YR/1 ~8/2	粗。0.2~0.5mm位の砂粒を多く含む。	硬	良好	円孔3箇所。
"	"	195 5	器台	134	裾部径 110	外面:口縁部~脚部ナデ。内面:口縁部ナデ。脚部ヘラケズリ。	褐色	粗。1~5mm位の砂粒、小石を含む。角閃石を含む。	硬	凹線文。	隅丸方形の透し孔3カ所。全体に少し野城。
				151							
"	"	196 6	壺	160	180	外面:口縁部~屈曲部ヨコナデ。体部上半ハケメ。体部下半表面剝離のため不明。内面:口縁部ヨコナデ。屈曲部ヨコナデ。体部ナデ。底部指押さえ。	10YR/4	粗。0.1~0.5mm位の砂粒を多く含む。	軟	良好	外面体部中央にスス付着。 プレバート2
				229							
"	"	195 7	短頸壺	88	136	外面:口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。体部ハケのちナデ。底部直上ナデ。底部未調整。内面:口縁部~頸部ヨコナデ。体部~底部ナデ。体部に粘土粒の跡残る。	10YR/4 ~7/6	粗。0.5~1.0mm位の砂粒を多く、2~3mm位の小石を少し含む。	硬		
				160							
"	"	196 8	長頸壺	88	143	外面:口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデのちヘラミガキ。頸部直下ナデ。体部ヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部絞目。体部ナデ。頸部体部に粘土粒の跡残る。	暗灰褐色	密。微細な砂粒、クサリ礫を含む。	軟	良好	
				223							
"	水田	195 9	器台	152	裾部径 150	外面:口縁部ヨコナデ。脚部ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデのち疎らなヘラミガキ。脚部に粘土粒の跡残る。裾部ヨコナデ。	乳灰色	密。1mm位の砂粒を含む。	硬	良好	半截竹管文。
				140							
"	"	196 10	甕	159	147	外面:口縁部ヨコナデ。体部タキメ。内面:口縁部ヨコナデ。体部上半粘土粒の跡残る。体部下半ハケメ。	暗乳灰色	密。2~3mm位の小石を含む。	硬		外面上部スス付着。内面体部中央コゲ付着。
				178							
"	"	196 11	甕	191	214	外面:口縁部ヨコナデ。屈曲部~体部ハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。屈曲部ヘラナデ。体部ハケメ。	10YR/1 ~8/3	粗。0.2~0.8mm位の砂粒を含む。ク→	やや軟	良好	プレバート46 →サリ礫を含む
"	田	196 12	壺	188	248	外面:口縁部~頸部上半ヨコナデ。頸部ヘラナデ。体部ヘラミガキ。底部ヘラナデ。内面:口縁部~頸部ヨコナデ。体部ナデ(板状工具)底部直上ハケメ。底部ナデ。	10YR/2 ~8/3	粗。0.2~0.5mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	
				350							
169	D地区	197 1	短頸壺	87	115	外面:口縁部~頸部ヨコナデ。体部ハケのちナデ、一部ヘラミガキ。底部指押さえ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。体部ヘラナデ。底部指押さえ。	10YR/2 ~8/3	密。0.5~1.0mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面にスス付着
				143							
"	"	2	短頸壺	198		外面:口縁部指押さえのちヨコナデ。頸部ハケメ。頸部下部ヨコナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頸部剝離のため不明。	10YR/3	粗。0.2~3.5mm位の砂粒、小石を含む。	やや軟	良好	
"	包	198 3	短頸壺	118	181	外面:口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。体部ナデ。一部ヨコナデ。内面:口縁部~頸部ハケのちナデ。体部上半指押さえ。体部中央ヘラナデ。	10YR/3	粗。1mm以下の砂粒をやや少なくと、→	やや軟	良好	→5mm位の小石を極く少量含む。
"	合	4	底部			外面:口縁部~体部ヘラミガキ。底部直上ヘラナデ。内面:口縁部~底部ナデ。	7.5YR/2	粗。0.5~2.0mm位の砂粒をやや多く含む	軟	良好	
"	層	5	底部			外面:体部表面剝離(一部ハケメあり)。内面:体部下半ハケメ。体部下半~底部クモの巣状ハケメ。	灰白色	密。2mm位の砂粒を含む。	軟		

表8 D地区土器観察表(その23)

押 図 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法		体 部 径	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
				口 径	器 高							
1 6 9	6		底部				外面：体部中央ナデ。体部下半ハケメ。底部ナデ。 内面：体部中央ナデ。体部下半ハケメ。底部に粘土組の跡残る。	乳灰色	1mm位の砂粒を含む。	硬		
"	7	197 7	細頸壺	98 211	173	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。体部丁寧なナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～底部ナデ。頸部に粘土組の跡残る。	乳褐色	粗。3mm大の小石を含む。 クサリ礫を含む。	硬	不良	胎付凸帯2条。 体部中央に黒斑	
"	8		壺	96		外面：口縁部～頸部丁寧なヨコナデ。 内面：口縁部～頸部丁寧なヨコナデ。	5Y 5/1	密。微砂粒を含む。	硬	不良	頸部外面に線刻	
"	9		壺	130		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	10YR 6/3	粗。1～2mmの砂粒を多く含む。	やや軟	良好	施文(ヘラ)。	
"	10		壺	138		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なナデ。	2.5Y 5/2	密。1～2mmの砂粒を少し含む。砂っぽい。	硬	良好	波状文。	
"	11		長頸壺	118		外面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なハケのち一部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なナデ。	2.5Y 3/1	密。0.5mm前後の砂粒をやや少なく含む	硬	不良	頸部外面に線刻	
"	12		長頸壺	112		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部上半ナデ。頸部下半ナデ。	7.5YR8/4	粗。0.5～1.0mmの砂粒をかなり多く含む	やや軟	良好	→含む。砂っぽい。	
"	13		長頸壺	122		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部粗雑なナデ。頸部に粘土組の跡残る。	10YR 2/1	粗。1～2mmの砂粒をやや多く含む。砂っぽい。	硬	良好	頸部外面に線刻	
"	14		長頸壺	136		外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部表面磨滅のため不明。口縁部直下にヘラ先の当たった跡あり。	10YR 7/4 ～7/8	粗。0.5～3.0mm位の砂粒小石を多く含む	やや軟	良好	外面に一部コゲ付着。 →含む。クサリ礫含む	
"	15	197 15	長頸壺	110 235	135	外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部上半ナデ。体部下半～底部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～底部ナデ。頸部に粘土組の跡残る。	10YR 8/2	粗。0.2～3mmの砂粒、小石を含む。砂っぽい。	軟	良好	肩部外面に線刻	
"	16	198 16	長頸壺	126 270	142	外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケのちヘラミガキ。底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部上半ナデ。頸部に粘土組の跡残る 体部中央ハケメ。体部下半～底部ハケのちヘラナデ。	10YR 6/3	密。4mm以下の砂粒、小石多く、6mmの小石や、角閃石を含む	硬	良好	列点文。体部に黒斑	
"	17	198 17	長頸壺	127 257	170	外面：口縁部ヨコナデか。頸部～底部表面剥離のため不明。底部やや輪白状。内面：口縁部ヨコナデか。頸部上半に粘土組の跡残る。頸部下半ナデ。体部～底部不明。	灰白色	粗。1mm以下の砂粒を多く含む。	やや軟		上部に黒斑あり。	
1 7 0	18		鉢	89 48		外面：口縁部～体部ナデ。 内面：表面剥離のため不明。	明褐色	密。微細な砂粒を含む。	軟			
"	19		鉢	112 70		外面：口縁部～体部上半ナデ。体部下半ヘラで面取り。底部直上指押さえ、ヘラナデ。底部ヘラナデ。 内面：口縁部～底部不明。	10YR 8/2	粗。0.5mm以下の砂粒を少し含む。砂っぽい。	軟	良好		
"	20	198 20	鉢	130 76		外面：口縁部～体部上半ナデ。体部下半ナデ。 内面：口縁部剥離のため不明。体部ナデ。底部ヘラナデ。	7.5YR7/3 ～7/4	粗。0.5～1.5mmの砂粒を少し含む。砂っぽい。	軟	良好	口縁部は指押さえにより凹凸が激しい。	
"	21	200 21	鉢	119 125		外面：口縁部～底部粗雑なナデ。体部～底部に粘土組の跡残る。 内面：口縁部～底部ナデ。口縁部に少しハケメあり。	灰褐色	粗。2mm大の砂粒を多く含む。	硬	不良		
"	22	198 22	鉢	174 80		外面：口縁部～底部丁寧なナデ。 内面：口縁部～底部丁寧なナデ(板状工具か)。	10YR 7/3	やや粗。0.1～0.3mmの砂粒を少し含む	軟	良好	口縁部～体部に赤色斑。	
"	23		鉢	117 97		外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部直上指押さえ。底部磨滅。 内面：口縁部～底部ハケメ。	2.5Y 7/3	粗。3mm以下の砂粒、小石を多く含む。	軟	良好		
"	24	199 24	鉢	75 97	94	外面：口縁部ナデ。体部ハケメ。底部未調整。底部に粘土組の跡残る 内面：口縁部～底部粗雑なナデ。	5YR 7/2	粗。1～3mmの砂粒、小石を多く含む。	軟	良好		

表8 D地区土器観察表(その24)

押 図 No	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法 量	口 径 器 高	体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
1 7 0	25	198 25	台付鉢	141			外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半～底部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部表面剥離のため不明。	暗乳灰色 乳灰色	密。1mm以下の砂粒を少し含む。	軟		円板充填法。
"	26		高杯	176			外面：口縁部ヨコナデ。口縁部に一部粘土のはみ出し。杯部～脚部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部ヘラミガキ。	2.5Y8/2	粗。0.5～1.0mm位の砂粒を少し含む。砂っぽい。	軟	良好	
"	27	199 27	高杯	196			外面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部～底部ヘラミガキ。脚部上半絞目。脚部下半ヘラケズリ。	7.5YR7/2 ～7/3	0.2～0.4mm位の砂粒を多く含む。	やや軟	良好	杯部内面にスス付着。
"	28		高杯	166 122	裾部 径 120		外面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部ヘラミガキ。裾部ヨコナデのちヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部ヘラミガキ。脚部上半絞目。脚部下半ナデ。	5YR8/2～ 8/3	密。0.2～0.8mm位の砂粒をかなり多→	やや軟		円孔4方向に穿孔。 →く含む。
"	29	199 29	高杯	239			外面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部表面剥離のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部～底部表面剥離のため不明。脚部ナデ。	灰白色	粗。1mm位の砂粒を多く含む。	軟		
"	30	199 30	高杯	219 129	裾部 径 133		外面：口縁部ヨコナデ。杯部ヘラミガキ。脚部ハケメ。裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ。杯部剥離激しく不明(ヘラミガキか)。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	乳灰色	密。	硬	良好	外面脚部に線刻
"	31	199 31	高杯	262			外面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。杯部～底部ヘラミガキ。脚部絞目。	5Y8/1～ 8/2	粗。0.1～0.5mm位の砂粒を含む。砂っぽい。	軟	良好	円孔4方向に穿孔か。口縁部に黒斑。
"	32	199 32	高杯	274 166	裾部 径 159		外面：口縁部ヨコナデ。杯部～底部ハケメ。脚部ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。杯部～底部ハケメのちナデ。脚部上半絞目。脚部下半ヨコナデ。	灰褐色	1mm位の砂粒を含む。	軟	良好	円孔4方向。
1 7 1	33	199 33	高杯	310 197	裾部 径 171		外面：口縁部ヨコナデのち液状のヘラミガキ。杯部～脚部ヘラミガキ 裾部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。杯部～脚部表面剥離のため不明。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	乳灰色	0.5～8mm位の砂粒、小石を含む。	軟	不良	円板充填法。円孔5ヶ所。口縁部黒斑。
"	34	200 34	台付鉢	164 128	140		外面：口縁部ナデ。体部～底部浅いハケメ。脚部ナデ。 内面：口縁部～底部ナデ。脚部ヘラナデ。	7.5YR7/2	1～2mmの砂粒を多く含む	軟	良好	外面にスス付着
"	35	200 35	甕	107 99	105		外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	乳灰色	密。1mm以下の砂粒を少し含む。	硬		
"	36		甕	69 79	56		外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	灰褐色	粗。1mm以下の砂粒を多く含む。	硬		
"	37	200 37	甕	180 270	200		外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキのちハケ(体部下半にまばらなタタキメ、ハケメ、ナデ)。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半ハケメ。底部ナデ。やや粗雑な調整。	7.5YR7/2 ～7/6	粗。砂粒を多く含む。	やや軟	良好	外面全体と内面体部下半にススコグ付着。
"	38		甕	134 183	147		外面：口縁部～体部直下ヨコナデ。体部上半タタキのちナデ。体部下半ハケメ。 内面：口縁部ハケメ。体部～底部ナデ。	乳灰色	密。	やや軟		底部が若干輪台状。
"	39	200 39	甕	154 204	170		外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキメ。底部指押さえ、ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。肩曲部～底部ナデ。体部中央に指頭圧痕の跡あり。	10YR8/2 ～8/3	粗。0.5～2.0mm位の砂粒を多く含む→	やや軟	良好	→クサリ礫を含む。
"	40		甕	159 162	152		外面：口縁部～体部上半は表面剥離激しく不明。体部下半タタキメ。底部指押さえ。内面：口縁部ナデ(板状工具)。体部上半ハケメ。体部下半～底部表面剥離激しく不明。	2.5YR3/2	粗。0.5～1.0mm位の砂粒をかなり多く含む。	軟	良好	外、内面とも体部下半にスス付着。
"	41		甕	152 252	184		外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキメ。底部直上タタキ。底部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラナデ。体部下半ハケメ。底部ナデ。指押さえ。底部にヘラ先の当たった跡あり。	5YR 8/2 ～8/3	粗。0.5mm以下の砂粒、1.5～3mm位→	やや軟		外面体部下半にススコグ付着。 →の砂粒、小石を含む
"	42	200 42	甕	176 258	228		外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキのち粗雑なハケ(体部下半はまばらなハケメ)。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	灰褐色	粗。5mm位の砂粒、小石を含む。クサリ礫を含む。	やや軟		外、内面にススコグ付着。
"	43	199 43	鉢	328 292	332		外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ハケのち破らなヘラミガキ。体部下半ヘラミガキ。底部直上ヨコナデ(ハケか)。底部一部ヘラミガキ残る。内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラミガキ。底部剥離激しい。	10YR8/1 ～8/3	粗。0.2～1.0mm位の砂粒を含む。	やや軟	良好	外、内面体部にコグ付着。

表8 D地区土器観察表(その25)

押 図 地 号	遺 物 名	図 版 番 号	器 種	法		体 部 径	形 態 ・ 手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
				底 径	器 高							
1 7 2	住 居 跡 1	1	壺	212			外面：口縁部～頸部ヨコナデ。口縁下にハケメあり。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。	7.5YR6/3	0.5～2.0mmの砂粒をかなり多く含む。	硬	良好	角閃石含む
							外面：口縁部～頸部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ。	2.5YR6/3	粗。約1mmの砂粒を多く含む。	やや軟	不良	ヘラ状工具による施文。
							外面：口縁部ヨコナデ。頸部破れで粗雑なヘラミガキ。 内面：口縁部～頸上部ヨコナデ。頸下部ハケメ状ナデ。	10YR4/1	粗。0.5～1.0mmの砂粒をやや多く含む	硬	不良	線刻絵画文。
							外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ナデ(指押さえ多くあり)。	2.5YR6/2	粗。0.5～2.0mmの砂粒をやや多く含む	軟	良好	外面全てに薄くスス付着。
							外面：口縁部～頸上部ハケのちヨコナデ。頸下部ハケメ。体部ヘラミガキ。 内面：口縁部～頸上部ハケのちヨコナデ。頸下部ナデ。体部に指押さえ跡多くあり。頸部に粘土粗の跡あり。	7.5YR6/2	やや粗。0.2～0.8mmの砂粒をかなり多く含む。	軟	良好	列点文。
							外面：口縁部、裾部ヨコナデ。脚部ヘラミガキ。 内面：口縁部、裾部ヨコナデ。脚部ナデ。	2.5YR6/2	粗。1～2mmの砂粒をやや多く含む。	やや軟	良好	スカシ3方向より穿孔。
							外面：口縁部ヨコナデ。体部は表面剝離のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	灰褐色	粗。2mm大の小石を含む。	やや軟		
							外面：口縁部ヨコナデ。杯部ミガキのち丁寧なナデ。脚部は細かいヘラミガキ。裾部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。脚部ヘラケズリ。裾部は板状工具によるヨコナデ。	灰白色	密。	硬	良好	スカシ4方向より穿孔。
							外面：脚部ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。 内面：脚部ナデ。脚下部～裾部ヨコナデ。	乳灰色	粗。1～3mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	良好	スカシ4方向より穿孔。脚部に黒斑あり。
"	10	199	鉢	123	114	外面：口縁部～体部は表面剝離のため不明。底部ナデ。 内面：口縁部～体部上半ハケメ。体部下半～底部はクモの巣状のハケメ。	明褐色	密。1mm以下の砂粒を含むクサリ礫を含む。	軟			
				75								
	11	201	鉢	141	127	外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキのちナデ。底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。	乳褐色	粗。砂粒を多く含む。クサリ礫を含む。	硬	良好		
				99								
	12	201	白付鉢	151	141	外面：口縁部ヨコナデ。頸部直下に粘土の接合跡あり。体部はタタキのち丁寧なハケメ。体部上半は更にナデ。脚上部に不明瞭な指押さえ脚部全体にナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケメ。脚部ナデ。	灰褐色	粗。1mm大の角ばった砂粒を多く含む。	やや軟			
				146								
	13	201	壺	124	123	外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキ。底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部は表面剝離のため不明。底部指押さえ。	乳褐色	密。	軟			
				143								
	14	壺	142	142	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部は指押さえのちナデ。	7.6YR6/2	粗。0.2～4.0mmの砂粒、小石を多く含む。	軟	良好			円形浮文2×1組で9ヶ所にあり。
	15	壺	186	186	外面：口縁部ヨコナデ(軽いハケ)。 内面：口縁部ヨコナデ(軽いハケ)。	10YR4/2	粗。極く少量の砂粒を含む。	硬	良好			竹管文。
16	壺	196	196	外面：全体に磨滅のため不明。 内面：全体に磨滅のため不明。	7.5YR5/4	粗。0.5mmの砂粒を極く少量と微砂粒→	やや軟	良好			竹管文。 →を多く含む。	
17	壺	198	198	外面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部は表面剝離のため不明。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体部ハケのちナデ。	淡褐色	密。0.5mm大の砂粒を含むクサリ礫を含む。	軟	良好			竹管文。	
18	壺	176	176	外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	2.5Y5/3	粗。1～3mmの砂粒、小石を多く含む。角閃石含む	硬	良好			波状文。	
19	壺	198	198	外面：口縁部指押さえのちハケのちヨコナデ。頸部ハケメ。頸部下部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部は剝離のため不明。	10YR4/3	粗。0.2～3.5mmの砂粒、小石を含む。	やや軟	良好			→4mmの小石を少量含む。	

表8 D地区土器観察表(その26)

採 取 No	遺 跡 名	遺 物 番 号	図 版 番 号	器 種	法	口 徑	体 部 徑	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質	焼 成	備 考
					量								
1 7 2		20		壺		229		外面：口縁部指押さえのちヨコナデ。粘土粗の跡残る。 内面：口縁部ヨコナデ。	5YR8/4	粗。0.2~3mmの砂粒、小石を多く含む	やや軟		→む。クサリ礫を含む。
"		21		壺		190		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	2.5Y5/3	密。砂粒をやや多く含む。	硬	不良	円形浮文上に竹管文。
"		22		壺		190		外面：口縁部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。	2.5Y6/3	砂粒を含む。			波状文十円形浮文上に竹管文。
"		23	201 23	短頸壺		164 313	272	外面：口縁部および頸部下部ヨコナデ。頸部および体部ヘラミガキ。底部直上~底部ナデ。 内面：口縁部~頸部ヨコナデ。体部~底部ナデ。	7.5YR/2 ~7/3	粗。0.5~2mmの砂粒を多く含む	やや軟	良好	プレバート13 →クサリ礫を含む

第3節 まとめ

< A地区 >

A地区の調査によって検出した主な遺構・遺物のうち、注意しなければならない幾つかの点が判明した。そのうち、重要な点を時代別に記すと次のようになる。

1. 縄文時代の原野と人間・鹿の足跡

縄文時代の明確な人工的な遺構は検出されていないが、河川-1~3の岸辺に残された多数の人間や鹿の足跡から、これらの河川を中心に数多くの人間、鹿が活動できる原野が広がっていたことが推定できる。河川の流れ込む前のこの付近は、径1cm前後の均一な小ブロックの粘土、砂質土が1m以上堆積しており、これらの堆積作用後に始まった河川の流入に伴って上記の動物等が低湿地や河川の水辺に進出してきたものと考えられる。これらの足跡、河川の時期は、河川-3の出土遺物から縄文時代後期にまでさかのぼるものがあることが窺える。晩期の頃にもこのような河川の働きが大きかったものと思われるが、晩期末には河川の堆積もほぼ終息しつつあったことが、河川-1から窺える。河川-3から河川-1の堆積が終るまでに、T.P.+1.5m前後から+4.5m近辺まで最大3mの土砂が堆積している。

2. 弥生時代

河川の堆積作用で微高地と後背湿地が各所に作られたなかで、本調査地にも小規模ながらこのような微地形が見られる。その最高所と最低所の高低差は1m近い。この差を利用して高所にはピット、土壇、溝が見られるのに対して、低い所には溝、小土堤等の遺構が見られる。このような遺構の差が居住地区と農耕地区との差を示しているのかもしれない。出土遺物は、前期らしい土器底部片1点の他はすべて中期の土器である。前期から中期末までの間に堆積した土砂は、微地形の高低差に応じて大体均一に堆積し、その厚さは約40~80cmと少なく、比較的安定した環境であった様子が窺える。後期の遺構は検出できなかったが、土器片や加工木片が少ないながら若干出土している。本調査地区の南約150mのDトレンチでは住居跡や水田跡が検出されており、本調査地点付近からも遺構が検出される可能性が考えられる。

3. 古墳時代

この時代の遺構は、弥生時代後期~古墳時代中頃にかけて、本調査地区に激しく砂~粘土が互層に堆積している中に、散発的に溝等の遺構があり、古墳時代後期の遺構は、激しい土砂の堆積が一段落した後のものが見受けられる。遺物は、土師器、須恵器、いわゆる韓式土器等が多く出土している。しかし、遺構の残存状態はあまり良好ではなく、近世の商品作物の植え付けとそれに伴う農地の改良によって大きく削平されている。

出土遺物は、大半が土師器と須恵器、韓式土器で占められている。いわゆる韓式土器は、甗、杯、長胴の甕、高杯、短頸壺、鉢等に見られるが、判別の難しいものもある。特に、一般の土師器より高温で、酸化焙焼成されたと思われる土師器の杯、高杯等は、容易に普通の土師器と区別

できる特色を持つものが散見できる。ほかには製作時の手法も須恵器によく見られるカキ目が壺の胴部下半部や高杯の杯外面にあるものや、脚部と杯部の接合個所に付けられるヘラの刻み目・回転をよく利用したヨコナデ等の特色が窺える。この他、焼成、技法、形態等から土師器との区分がまぎらわしいものがある。

つぎに、須恵器に見られる特色は、概して土師器の器形を模したのより、個々の器形・文様に変化あるものが注目される。この他の土器では2点の須恵質～瓦質系の土器が注目される。1点は胴部の破片で、外面に3条の凹線と列点文らしい文様がつき、その下方には細筋のタタキがついた砂粒を多く含む灰色の多孔質の胎土の土器である。もう1点は、杯蓋になるかと思われるもので、黄橙色の柔らかい胎土は非常にきめ細かく、外面にカーボン層が薄く付き、内面には付かない。外面にかすかに残る調整は、細い単位のナデかミガキと見られる。この2点はいずれも報告例を見ないものであり、本書ではとりあえず古墳時代の遺物として報告し、詳細は後日に譲りたい。

4. その他

古墳時代の遺構面は、近世、近代の鋤溝等を主とした遺構面とも重複している。立地や周辺 conditions から見れば、奈良時代以降の遺構、遺物の検出が予想されたが、特筆すべきものは検出されなかった。このことは、本地区を古墳時代以降の人々が利用しなかったとは見れない。本地区より立地条件の一部劣るB、C、D地区では古代、中世の遺構、遺物が検出されており、また、B地区では掘建柱建物が近世の溝に削平されている割合が多く見られた。これらの状況からしてみれば、A地区で奈良時代以降の遺構、遺物が見られない原因は、近世の時期に大きく削平を受けたためと考えられる。

<D地区>

本調査区検出の遺構、遺物は、縄文時代以降近・現代にまで続く。そのうち主要なものは11面の遺構面のうち6面である。

1. 縄文時代（第11～9遺構面）

縄文時代後・晩期の人間と鹿の足跡と自然河川が検出されている。自然河川と鹿の足跡は良く残っており、人間の足跡はごく限られた川岸に残っていた。人間の足跡の方向は、川に対して斜行しているものが多く、直交するもの、平行するものは見られなかった。川岸は垂直に切り立っており、特に河川-1、2は川岸の高さだけでも1.5～2.5mもある。

出土遺物は、縄文時代中～晩期の4時期のものが出土している。この中で特色ある遺物は、河川-1出土の晩期の土器（第150図-7）、河川-3出土の後期の土器（第151図-14・15）である。7の土器は、河川-1の最終埋没時期が晩期末以降であることを示している。14・15の土器は、ローリングをまったく受けず、外面にススが付着し、文様も良く保存されている。特に15の土器は、胎土中に緑色片岩の小円礫を含み、紀の川流域産の土器の移動を示す好例である。

次に、縄文時代の住居跡、ピット、溝等は、検出できなかったが、当時自然河川が著しく発達

し、河内平野に三角州ができ、鹿等の多くの野性動物が生息する湿地の多い原野であった地域が、徐々に生活、農耕のできる地域に変化しつつあったことを土層の堆積状況から窺わせる。

2. 弥生時代（第8～6遺構面）

本地区の北部から北方向へ延びる縄文時代の河川-1の旧流路を中心にして形成された遺構面である。弥生時代前期の遺物は、ごく少量ながら出土しており、人々がこの前後の時期には居住を開始し、中期中頃から後半にかけて定着したことが検出遺構、出土遺物から判断される。

主要な遺構は、方形に盛土された低平な基壇状の高台部とその上に建てられた掘立柱建物である。高台-2と建物-2、高台-4と建物-3、高台-6と建物-4、高台-14と建物-5、高台-12等の共通点は、5～20cmの低平な盛土で断面カマボコ型の高台を作り、最上層には粗砂を薄く敷き均らし、周囲に浅い溝をめぐらし、周囲にゴミ棄場と見られる土壌が1～数ヶ所ある。高台上の柱根は、径10cm前後の広葉樹の若木を使用している。土壌からは、切断された鹿の骨、大量の木の実、土器片、草木片、あるいは銅利器片や稲穂が出土している。この他、石器やサヌカイトの小集積個所が2ヶ所認められ、石鏃やチップ、フレーク等の出土から、当遺跡でささやかながら石器を製作していたことが認められる。

また、特殊な遺構としては、小判型の平面形の境内に、2点の高杯の杯身を納めた土壌-21がある。

3. 弥生時代（第5遺構面）

第6遺構面の約0.3～1.0m上に堆積した粘土～シルトを利用した弥生時代後期の水田面である。調査地区の南端部を自然河川が流れるため、南の水田の一部は流出しているものの、河川から遠ざかると水田畦畔や水路は良く残っていた。水田面のレベルは、南より北のほうが高く、水田に導水する際には北の方から導水していたと考えられる。そして、この水田面の広がり、Dトレンチ北端付近位までの約100mしか確認できなかったが、もっと広大な地区に広がることを予想させる。また、普段報告例の多い水口や水田面上の足跡は検出されなかった。この他、自然河川内からは杭列を若干検出している。

4. 弥生時代（第4遺構面）

水田面の20～30cm上に堆積した粘土層、シルト層面に掘り込まれたピットや小溝である。出土遺物がなく、ピット以外の小溝も不明瞭なものが多く、判断しがたい性格の遺構面である。弥生時代後期の遺構面である。

5. 第3遺構面

シルト層から粗砂層の上面で検出した遺構面で、弥生時代後期から奈良・平安時代までの長期間の遺構が認められる。また落込内上部や踏み込みの足跡、土層の沈下部からは、中・近世、近代の遺物が出土している。弥生時代後期の遺構は、竪穴式住居と溝、土壌等である。古墳時代の遺構は、L字型の溝やピットである。奈良時代の遺構は、溝、ピット、落込等である。遺物は、竪穴式住居跡の周囲と奈良時代の落込内から完形品の土器が若干出土している。弥生・古墳時代

の遺構はトレンチ南部から中央まで分布するが、奈良時代の遺構分布は落込-1を境にそれより北側では急減し、試掘トレンチの周囲やD-7トレンチに若干認められるのみである。

弥生時代～古墳時代の遺構のうち、墓は北のB・Cトレンチの第3遺構面や南のE・Fトレンチで多くの方形周溝墓が検出されたが、本地区ではD-5トレンチの1基が可能性のあるものとして考えられる。

以上のように、本遺構面は各時代のものが重複し、特に南半部は近代に至るまで幾度となく削平、整地を繰り返されているようである。トレンチ北部で検出した第2遺構面の水田面は、トレンチ中央部にも拡大し、本遺構面のいずれかの時代のものと対比しうるのであろうが、近世～近代の水田耕土に削平され、かの、著しく踏み込み、鋤込まれているため、時代の比定はかなり難しい。

主な出土遺物は、弥生時代後期と奈良時代のものであるが、数量は多くない。

6. 第2遺構面

調査地区北半部で検出した10数面の水田跡と、幅4mの溝である。出土遺物は、溝内より出土した1点の土師器片のみである。あえて時代を求めれば古墳時代の中頃～後半のものとも考えられる。

7. 第1遺構面

近世～近代の水田、畑の遺構である。本遺構面の多くは、第2、第3遺構面にまで達している。これらの遺構は、近世以降、水田に造成され、通称「島畑」は姿を消したようである。

付 章

第1節 久宝寺南地区第1調査区出土動・植物遺体の同定について

(財)大阪文化財センター 山口 誠治

1. はじめに

今回の発掘調査で縄文時代及び弥生時代中期末に位置する土層と同時期に形成された溝や土境から検出された動・植物遺体を同定したので報告する。これらの遺体は、遺跡の微小地域の植生を示すものとして重要である。

なお、同定方法としては、現在の動・植物の標本との比較により分類形態的生態的性質に一致することにより行った。

2. 同定結果

同定結果は、動・植物別にまとめて、表1、2に掲げた。同定したのは、次の12科15属16種である。

[動物遺体]

イノシシ科	Suidae	イノシシ属	<i>Sus</i>
シカ科	Cervidae	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>

[植物遺体]

菌類

サルノコシカケ科	Polyporaceae	ミダレタケ?	<i>Trametes Kusanoana</i>
----------	--------------	--------	---------------------------

被子植物 (単子葉植物)

イネ科	Gramineae	イネ	<i>Oryza sativa</i>
カヤツリグサ科	Cyperaceae	スゲ属	<i>Carex</i> sp.

被子植物 (双子葉植物)

クルミ科	Juglandaceae	クルミ属	<i>Juglans</i> Linn.
クワ科	Moraceae	カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>
タデ科	Polygonaceae	タデ属	<i>Polygonum</i> sp.

バラ科	Rosaceae	ミゾソバ	<i>Polygonum thunbergii</i>
		ウメ	<i>Prunus mume</i>
		モモ	<i>Prunus persica</i>
トチノキ科	Hippocastanaceae	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i>
ブドウ科	Vitidaceae	ブドウ属	<i>Vitis</i> sp.
		ノブドウ属	<i>Ampelopsis</i> sp.
ウリ科	Cucurbitaceae	マクワウリの仲間	<i>Cucumis melo</i>
		ヒョウタンの仲間	<i>Lagenaria</i> sp.

表1 動物遺体同定結果一覧表

トレンチ名	地区名	遺構名	層名	時期	同定結果
D	d-2 の3	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカの右下顎骨1個
D	e2-2		黒色炭混り土	弥生時代中期末	二ホンジカの角片2個 左腕骨片1個
D	f-1021	高台7	黒色粘土	弥生時代中期末	二ホンジカの右上腕骨1個
D	e-2 の4		黒色土	弥生時代中期末	二ホンジカの糞1個
D	e1の4	高台6西	黒色土	弥生時代中期末	二ホンジカの右下腕骨片1個
D	D VII 803		黒色粘土層	弥生時代中期末	二ホンジカの左上腕骨片1個
D	c3の4	溝1	黒色土	弥生時代中期末	二ホンジカの左上腕骨片1個
D	d-2 の1	高台2西帯	黒色粘質土	弥生時代中期末	二ホンジカの左上腕骨片1個
D	d203	高台3上	黒色砂質土	弥生時代中期末	イノシシの右中足骨片1個
D	d203	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカ左中足骨片1個
D	D VII 10	高台6南帯土墩	黒色砂粘質土	弥生時代中期末	二ホンジカ角片可動歯片1個
D	c-3 の3	溝込	黒色粘土	弥生時代中期末	二ホンジカの脛骨可動歯片1個 上腕骨片1個
D	d-2 の3	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカの右中足骨片
D	d-2 の3	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカの右上顎骨片
D	d-2 の3	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカの右下顎骨片
D	d-2 の3	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカの右下顎骨片 (P., P., P., M., M., M., 残存)
D	d-2 の3	高台3		弥生時代中期末	二ホンジカの左大腿骨片
D	f10 の1	高台7	黒色粘土層	弥生時代中期末	二ホンジカの左上腕骨片
D	D VII 42 の2	高台4北側	黒青色粘土	弥生時代中期末	二ホンジカの角片
D		高台3 土墩内		弥生時代中期末	二ホンジカ左下顎骨片 (M., M., M., 残存)

表2 植物遺体回収結果一覧表

トレンチ名	地区名	遺構名	層名	時期	同定結果
B			細文陶ペース	縄文時代	タテ隔2個 スゲ腐2個
B			細文瀬土	縄文時代	タテ隔 386個
D	c3-4	高台1 P17		弥生時代中期末	モモ核1個
D		SE1内		弥生時代中期末	モモ核2個
D	D VIIe1の1	SD3	淡黄色粗砂	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核2個
D	e-1の3	高台6南側	黒色シルト質土	弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核2個
D	D VIIe2の2		黒色砂凝結質土	弥生時代中期末	モモ核2個
D	D VIIe2		黒色砂凝結質土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核1個
D	e-1の3、4	高台6 下階游		弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VIIe-2の4	SE2, SK7の南側	黒色炭灰まじり、焼土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核2個
D	D VIIe1の1		黒色砂凝り粘質土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	10の1		黒色凝砂粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VII9の2・4		青灰色粗砂	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VIIc-3の3	高台1東側土壇(SK10)	黒色炭灰焼土まじり土	弥生時代中期末	クルミ屑2個 サルノコシカケ科ミダレタケ? 1個 トチノキの果皮7個
D	d202	落込	黒色粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VIIc3の4	高台1南裾 高台2東裾	黒色砂凝粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	e1の3	高台6	赤黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ核2個
D	D VIIr-10の3	高台7西階	黒灰色砂質土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核1個
D	e-2の2	円形落込SK7西側	黒色土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VIIe1の4		黒色土	弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核1個
D	i-9の2		青灰色粗砂層	弥生時代中期末	モモ核半分
D	D VIIc-2の2		黒色砂凝粘土	弥生時代中期末	クルミ屑半分に割れたもの1個
D	D VIIr10の3	高台西裾	黒灰色粘質土	弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核1個
D	g-8, f-1, 9, 10	河川3	淡灰色粗砂	弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核1個
D	D VIIc2の2	SE2	黒色炭埋り土、焼土	弥生時代中期末	クルミ屑半分に割れたもの1個
D	全区		黒色粘土(第7面最上層)	弥生時代中期末	モモ核2個 半分に割れたモモ核6個
D	e-2の2			弥生時代中期末	モモ核2個
D	c202		黒色炭埋り層	弥生時代中期末	モモ核3個 半分に割れたモモ核1個
D		高台6		弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核1個
D	e1の3	高台6東裾	黒色凝砂粘土	弥生時代中期末	モモ核4個 半分に割れたモモ核1個
D	e1の4	高台6	赤黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D IIIe1の4	高台6上	黒灰色粘質土	弥生時代中期末	モモ核2個
D		SE2		弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核2個
D	e2-2		黒色炭埋り土	弥生時代中期末	モモ核10個 半分に割れたモモ核3個

表2 植物遺体同定結果一覧表

トレンチ名	地区名	遺構名	層名	時期	同定結果
D	D VIIc2		黒色砂礫粘質土	弥生時代中期末	モモ核13個 半分に割れたモモ核2個
D	e-1 の4	高台6 西端	黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	c3d4	溝1	黒色土層	弥生時代中期末	モモ核1個 半分に割れたモモ核1個
D	e1d4	高台6	黒色砂礫粘土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核1個
D	e-1 の1	SE1	黒色有機質粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VIIb2の1	SD 2 (高台2 西溝)	黒色砂粘質土	弥生時代中期末	モモ核1個
D	D VIIc3の4	高台1上	黒色粘質土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核1個
D	c2-4	SE 2内	黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ核2個 半分に割れたモモ核4個
D	e1d1	SD 3	黒色粗砂粘土	弥生時代中期末	モモ核2個
D	D VIIg-2 の2		黒色砂礫粘質土	弥生時代中期末	ウメの核1個 半分に割れたウメ核1個
D-1		竪込1		弥生時代中期末	炭化米7個 ブドウ属16個 ノドウ属7個 ミソソバ4個 カナムグラ12個 マクワウ
				弥生時代中期末	りの仲間 110個 ヒョウタン76個
D-1	d-1	サヌカイト留り	黒色粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D-1		第6面 サヌカイト留り		弥生時代中期末	モモ核1個
D-1	e-1		黒色粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D-1	d-10, d-1	高台上部	黒色粘土 (第6面)	弥生時代中期末	モモ核1個
D-2		第6面上部1		弥生時代中期末	炭化米3668個 タデ属5個 ブドウ属3個
D-2		第7面上部①	黒色土 (第2層)	弥生時代中期末	炭化米 14536個
D-2	e-2	第7面上部海端	黒灰色粘土	弥生時代中期末	モモ核半分2個
D-2	f-2	第7面ピット内	黒色土	弥生時代中期末	モモ核2個
D-2	e-2	土堀内	第2～3層	弥生時代中期末	イネ283個
D-2	e-2	土堀内	第2層	弥生時代中期末	モモ核2個 半分に割れたモモ核2個
D-2		第7面上部①	黒色土 (灰層)	弥生時代中期末	モモ核1個
D-2		土堀1内		弥生時代中期末	モモ核19個
D-2		土堀1②		弥生時代中期末	炭化米4217個
D-2	e-2	第6面	黒色粘土	弥生時代中期末	モモ核1個
D-2	e-3	第7面上部7	黒色粘土 (灰層)	弥生時代中期末	ヒョウタンの仲間6個
D-2		第6面		弥生時代中期末	モモ核1個
D-2	f-2	土堀③	黒色粘土 (灰層)	弥生時代中期末	モモ核2個
D-2	e-2	第6面	黄色粘土	弥生時代中期末	モモ核2個
D-2	f-2	第6面	黒色粘土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核1個
D-2	f-2		黒色土 (第6面)	弥生時代中期末	半分に割れたモモ核1個
D-2		第7面上部⑥	黒色粘土	弥生時代中期末	モモ核片1個

動物遺体に関しては保存状態が悪く、保存処理をしてやっと形状がわかった状態である。検出されたものの大半がニホンジカの骨格部位であった。又、植物遺体に関しては、現場で土壌から水洗選別されていたが保管が悪く、大半は乾燥標本としてポリエチレン製袋に入れてあった。

同定した植物遺体のうち木本は、クルミ属、ウメ、モモ、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ属である。草本は、イネ、スゲ属、カナムグラ、タデ属、マクワウリの仲間、ヒョウタンの仲間である。なお、木本や草本の中で食用になる植物は、イネ、クルミ属、ウメ、モモ、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ属、マクワウリの仲間、ヒョウタンの仲間である。栽培植物は、イネ、ウメ、モモ、マクワウリの仲間、ヒョウタンの仲間である。カナムグラは史前帰化植物の一つで、人里の雑草として知られる。水生植物及び好湿性植物はイネ、スゲ属、タデ属である。

3. まとめ

以上の同定結果から大半が栽培植物であることがわかった。これにより、人間活動が盛んに行われていたことがわかる。特に炭化米が 18494個と非常に大量に検出されたことは、稲作が盛んに行われていたことを実証している。また、人里植物の種子の存在は近くに住居が存在しているであろうことを物語っている。又、炭化米については、佐藤敏也氏の古代米の計測結果を参考として出土米のうち100個を取り出して計測した結果、炭化米の長さ平均4.9mm、幅2.7mm、比率（長／幅）1.81であった。この平均から出土米に現れるパターンは、佐藤敏也氏の分類のIBパターン（粒長3.7～5.3mm未満、粒幅2.1～2.8mm未満）に位置し、いわゆる栽培稲（*Oryza sativa* L.）の一亜種の日本型（*Oryza sativa japonica* KATO）に分類される。それから、栽培植物として知られるモモ核も形態変化について小清水卓二氏によって調査され、出土するモモを4変種、栽培モモ、ノモモ、コダイモモ、スパイモモに分類し、それぞれの形態の長さ、幅、厚さを測定している。その測定結果によると栽培モモが長さ2.9cm、幅2.1cm、厚さ1.6cm、ノモモが長さ2.1cm、幅1.9cm、厚さ1.5cm、コダイモモが長さ1.9cm、幅1.5cm、厚さ1.3cm、スパイモモが長さ2.6cm、幅1.8cm、厚さ1.4cmとなっている。そこで今回出土したモモ核で完全な形態で残存していた80個体について計測をした結果、その平均値が長さ2.3cm、幅1.9cm、厚さ1.5cmと中型でやや丸いノモモ（*Prunus persica* ver. *subspontanea* Makino）に分類できた。

以上のように形態の特徴から分類が可能と考えられるが、個体差が大きいのですんなりと種名を決定するのは危険である。ここでは今後の検討課題として可能性が大きいとしておきたい。

さて、動物遺体のニホンジカとイノシシに関しては、食用とされたものの残りがすであろう。又、これらの遺体の狩猟は、生産活動の中ではかなり補助的なものであったと考えられる。

〔参考文献〕

- (1) 大井次三郎著 1983 「新日本植物誌 顕花篇」 至文堂
- (2) 牧野富太郎著 1982 「牧野 新日本植物図鑑」 北隆館
- (3) 小清水卓二 1963 「古代日本の住居跡から出土する桃核について」 P.559~568
『近畿古文化論攷』 榎原考古学研究所編 吉川弘文館
- (4) 佐藤敏也著 1971 「日本の古代米」 雄山閣
- (5) 内田亨著 1983 「増補 動物系統分類の基礎」 北隆館

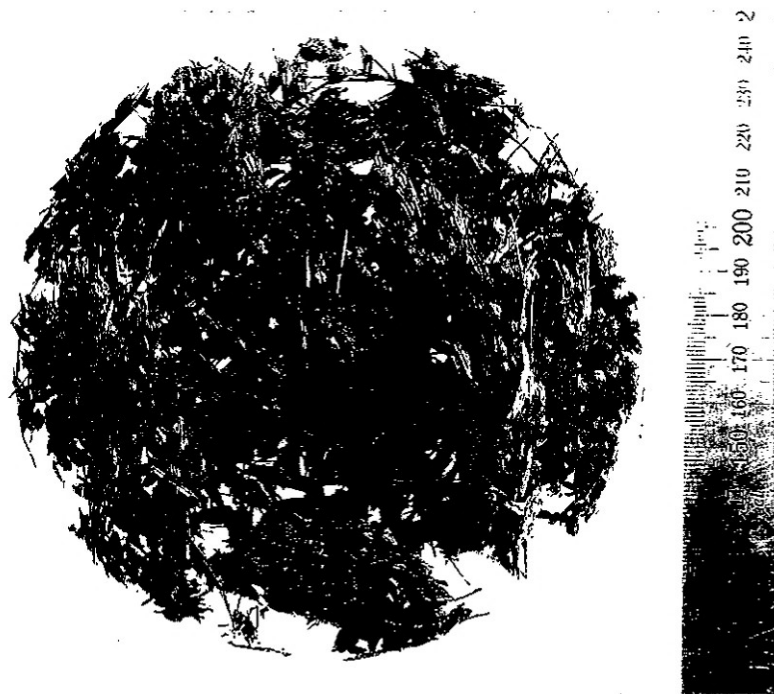


図1 D-2 トレンチ第7遺構面土塊-15出土 稻穂



図2 稻穂の拡大 (×1.5)

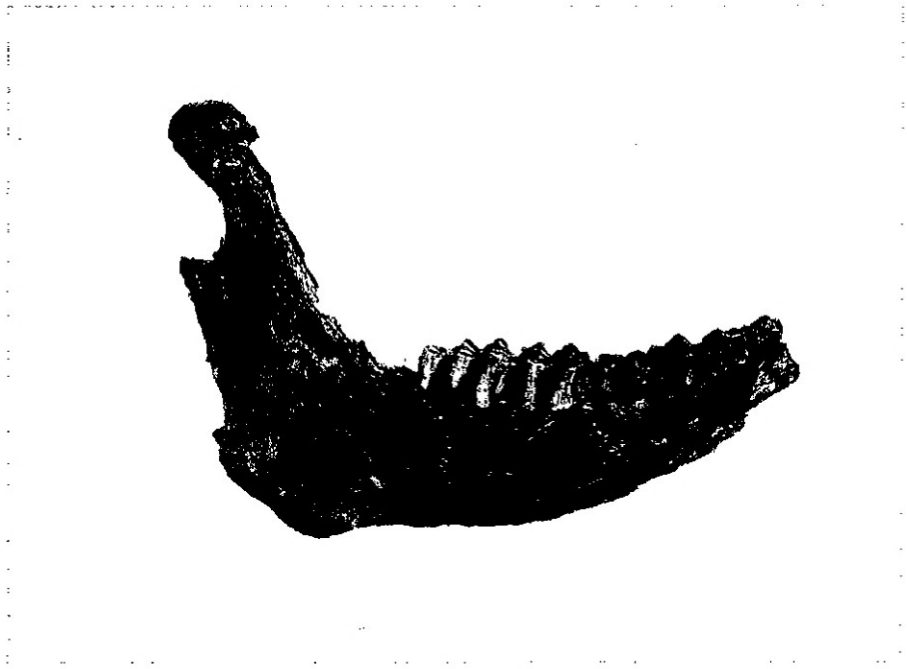


図4 ニホンジカの右下顎骨



図3 稲束の一部分 (×1.5)



図5 ニホンジカの左大腿骨片

第2節 久宝寺遺跡南地区第1調査区出土の石器

京都大学大学院 森本 晋

1. B、Cトレンチ

Bトレンチから出土した石器は石鏃2点、石槍1点、石剣1点、石小刀2点、石核1点、剥片1点の計8点で、いずれもサヌカイト製である。

S1は、平基式石鏃であり、B-1 弥生第3遺構面上面の出土。長さ26mm、幅14mmで、最大幅位置がかなり上の方にあり、その長さに対する割合は先端から71%である。厚さは、2.7mmで、幅厚比（幅/厚さ）は5.3となり、かなり薄手である。先行剥離面、主剥離面ともに残る。先行剥離面もポジ面である可能性がある。基縁の整形は極厚形細部調整を粗く施すのみなので、さらに長手の石鏃の基部欠損品であるかもしれない。自然面はない。

S2は、凹基式石鏃で、e-10の2高まり部出土。著しく水磨を受けており、剥離痕間の稜線も不明瞭となっている。磨滅の度合からみてかなり流されてきたものと思われる。

S3は、石槍でB-2の溝より出土。長さ86mm、幅32mm、厚さ11.6mm。最大幅位置の長さに対する割合は先端から69%である。表面の中央から右斜面にかけて縦に長く先行剥離面が残る。また、裏面には同じく縦に長く丸みを帯びた主剥離面が残る。左縁は、中・下部に平形深形表面細部調整と薄形深形裏面細部調整、やや浅い薄形深形裏面細部調整を施し、先端部には、薄形深形表面細部調整とやや浅い薄形深形裏面細部調整を施す。右縁は、平形深形階段状表面細部調整と平形侵形裏面細部調整、薄形深形階段状裏面細部調整を施す。基部は、平形深形表面細部調整、ごく浅い厚形深形階段状表面細部調整と薄形深形階段状裏面細部調整、厚形深形階段状裏面細部調整を施す。基部の最終段階の細部調整は裏面側が後であるが、左・右縁の最終段階の細部調整は優位の面がない。細部調整はやや雑な印象を与えるが、左右の縁辺の側面観は規則的になっている。基部の表面右の一部と裏面のごく一部に付着物が残る。

S4、S5は石小刀である。S4はB-4（拡）弥生時代前期-中期包含層出土。残存長67mm、幅19mm、厚さ6.3mm、幅厚比は3.0で薄形である。復原内湾度は10%。先端わずかに表面ヨコオレ、基端表面ヨコタキオリで、基部上端を少し傷損する。内湾する刃部の側に小突起を作り出しているが、突起の作り出しに角度の大きな細部調整を用いてはいない。突起と反対側の縁辺が凹むが、これは平形侵形細部調整の打点部が抉れたもので意図的な整形ではなさそうである。上縁は平形侵形両面細部調整の後に一部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。下縁も平形侵形両面細部調整の後に一部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。先行剥離面、主剥離面は残存しない。縁辺の潰れや磨滅は認められない。

S5はB-4 弥生時代前期遺構面上層出土、先端は下側からのタテオレののち先から下縁へのタテオレ、基端は上縁からのタテオレで欠損している。残存長79mm、幅17mm、厚さ5.4mm、幅厚比は3.2で薄形である。現状での内湾度は5%である。上縁は平形侵形両面細部調整の後に、や

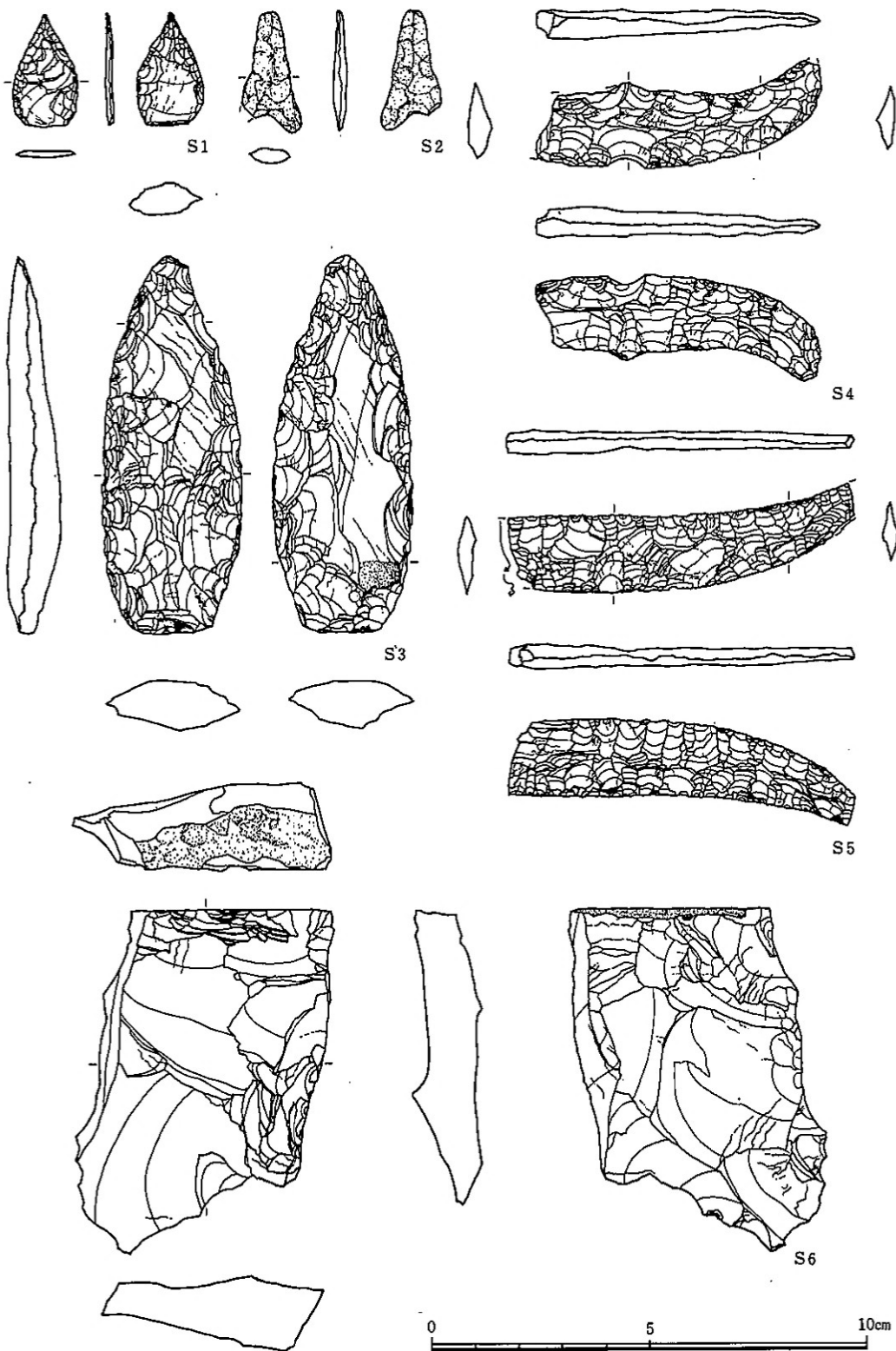


図1 Bトレンチ出土の石器(1)

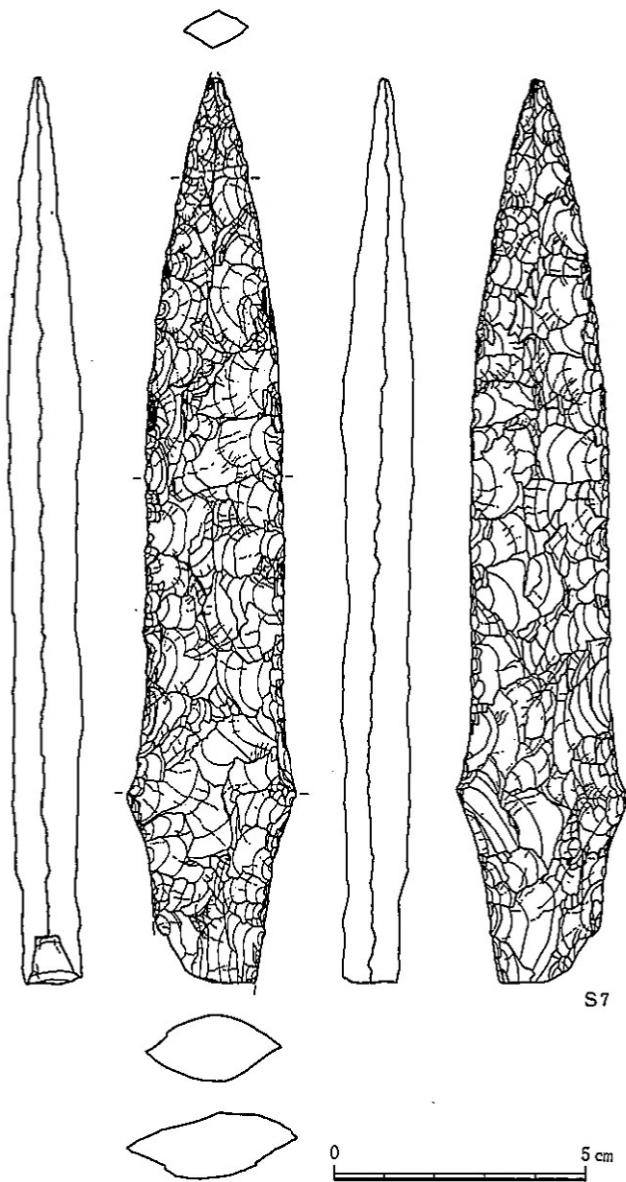


図2 Bトレンチ出土の石器(2)

に細部調整を集中して作りだしているものではない。長さは183mm、幅が34mm、厚さ14.4mmで、少し水磨を受けている。左縁は、薄形侵形両面細部調整の後に部分的に、薄形深形階段状表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、ごく浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は薄形侵形両面細部調整の後に部分的に、薄形深形階段状表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、ごく浅い薄形深形階段状表面細部調整、ごく浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施している。側縁の磨り落としは認められない。

やや浅い平形深形表面細部調整、一部にやや浅い平形深形裏面細部調整を施す。下縁は平形侵形両面細部調整の後に、部分的でやや浅い平形深形表面細部調整、部分的でやや浅い平形深形階段状裏面細部調整を施す。基部近くの上・下縁を弱く磨り落として刃潰しを行っている。

S6は石核で、B-4 弥生時代前期遺構面上層出土。剝離作業面が2面、表裏にある。薄形の石核で、打面数は3である。打面の内訳は自然面打面が1面：打面1(幅46mm×厚さ14mm)、折面状の剝離面打面が2面(幅62mm×厚さ18mm：打面2、幅57mm×厚さ11mm：打面3)。石核角は主な剝離痕で見ると打面1が70°、打面2が80°、打面3が70°と75°である。

S7は石剣で、C VIII b1の偽礫混じり暗褐色砂層出土、基端部を右タテオレで欠損するがほぼ完形である。刃部と柄部は左右の突起によって分けられている。刃部はゆるやかに内湾した後、ゆるやかに外湾して先端に至る。突起は特

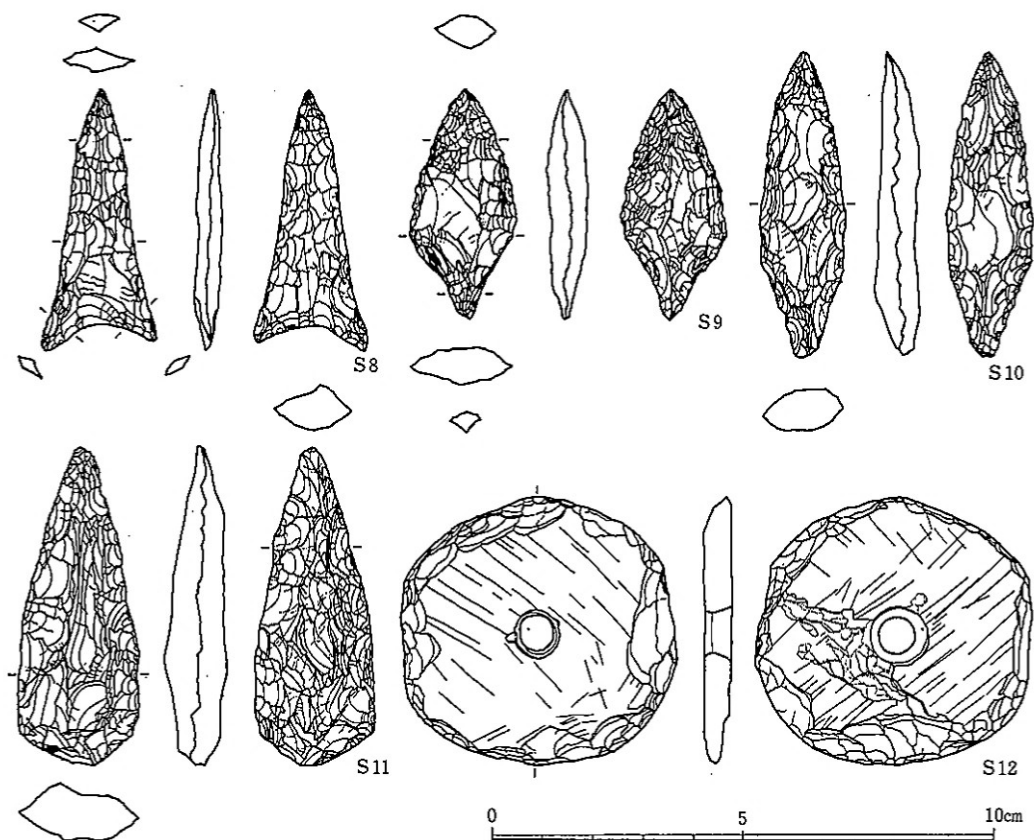


図3 Cトレンチ出土の石器

Cトレンチから出土した石器は石鏃3点、石槍1点、紡錘車1点の計5点である。

S8は、凹基式石鏃でc-4（拡）弥生時代第2遺構面掘り下げ時出土。長さ52mm、幅23mm、厚さ4.9mm。最大幅位置の割合は95%で、基部挟り度は21%である。

S9は、有茎式石鏃で南西コーナー釜場の黒色砂混じり粘土層出土。長さ45mm、幅21mm、厚さ7.7mm、最大幅位置の割合は57%である。茎挟り度は左右の幾何平均で8%である。先行剥離面、主剥離面ともに残るが、自然面はない。

S10は、有茎式石鏃で、DWa4の3第1号墓第2号主体部北方横出土。長さ61mm、幅17mm、厚さ8.9mmで最大幅位置の割合は57%である。ただ最大幅位置付近では幅の変化が少ない。先行剥離面、主剥離面ともに残さない。

S11は、石槍でC-4（拡）弥生時代第2遺構面Y-6号周溝墓東側周溝内土器堆積出土。長さ63mm、幅24mm、厚さ12.0mmで幅厚比が2.01とかなり厚く、ごろごろとした感じを与える。

S12は、2号方形周溝墓マウンド肩部出土の紡錘車で、緑色片岩製。56mm×54mmで厚さは5.4mm。石庖丁等の再加加工品の可能性もあるが、再加加工品であるという証拠はない。周縁に両面から細部調整を加えている。側面のごく一部に研磨した面を持つが、これは研磨後に細部調整を加えた可能性がある。穿孔は両面から行っているが、裏面からの割合が大きい。

2. Dトレンチ

Dトレンチから出土した石器は、未製品も含めて石鏃13点、石槍1点、石剣6点、石錐5点、石小刀1点、削器1点、ノッチ1点、ピエス・エスキエ3点、石庖丁2点、砥石4点である。他に細部調整のある剥片が7点、石核が3点、剥片が最大長3 cm以上のもの108点、3 cm未満のもの8710点あり、全体で8865点である。

S13はD-2 e-2 黒色土出土の有茎式もしくは凸基式の石鏃で、長さ57mm、幅22mm、厚さ8.4mm。最大幅位置の割合は70%、茎の挟り度は左右の幾何平均で8.6%である。表面左下に先行剥離面が残り、裏面中央部に主剥離面が残る。自然面はない。左縁には薄形深形裏面細部調整を施し、上部に平形侵形表面細部調整とやや浅い薄形深形階段状表面細部調整、中・下部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁には平形侵形表面細部調整と薄形深形細部調整を施す。最終段階の細部調整は、左縁は裏面側から行っているが、右縁は面による優位がない。

S14は石鏃でD w1f1の2 黒色土出土。長さ49mm、幅17mm、厚さ7.3mm。表面基部中央に平坦な自然面を有する。先行剥離面、主剥離面ともに残らない。左縁には平形侵形両面細部調整と一部にやや浅い薄形深形表面細部調整を施す。右縁には平形侵形両面細部調整を施す。基部にはさらに両面とも右縁に厚形深形細部調整とごく浅い極厚形深形階段状細部調整を加えている。この調整以外は最終段階の細部調整は両面とも左縁が後である。

S15はd2-1黒色砂混じり土層出土の有茎式石鏃で石錐として再利用している。形は左右対象ではない。長さ38mm、幅16mm、厚さ7.5mm。茎挟り度の左右幾何平均は16%である。裏面中央部に主剥離面が残る。自然面はない。先端部の両側縁に潰れがみられる。刃部左縁には一部階段状の薄形侵形表面細部調整と薄形深形両面細部調整、右縁には薄形侵形表面細部調整、一部階段状の厚形深形表面細部調整と薄形深形細部調整を施す。茎部は左右縁とも薄形侵形表面細部調整、薄形深形裏面細部調整を施す。

S16は有茎式石鏃で、f-1の4 黒色粘土層出土。長さ55mm、幅14mm、厚さ7.2mm。長幅比が4.0とかなり細長い。茎は左右対称ではないが、挟り度の左右幾何平均は、12%である。先行剥離面、主剥離面ともに残らない。自然面はない。左右縁とも薄形侵形表面細部調整と部分的にごく浅い薄形深形階段状細部調整、平形から薄形の侵形裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は左、右縁とも表面が後である。

S17はe2の4 黒色砂混じり粘土層出土の有茎式石鏃。長さ49mm、幅25mm、厚さ6.9mm。茎挟り度の左右幾何平均は、13%である。先行剥離面、主剥離面ともに残存せず、自然面もない。刃部左縁は一部階段状の平形侵形両面細部調整と部分的にやや浅い平形深形階段状細部調整を施す。刃部右縁は平形侵形両面細部調整とやや浅い平形深形階段状細部調整を施す。茎左縁は平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、ごく浅い薄形深形細部調整を施す。茎右縁は平形侵形両面細部調整、一部階段状のやや浅い薄形深形表面細部調整、ごく浅い薄形深形裏面細部調整を施す。刃部、茎部ともに最終段階の細部調整は右縁が後である。茎側縁の磨り落としは認められない。

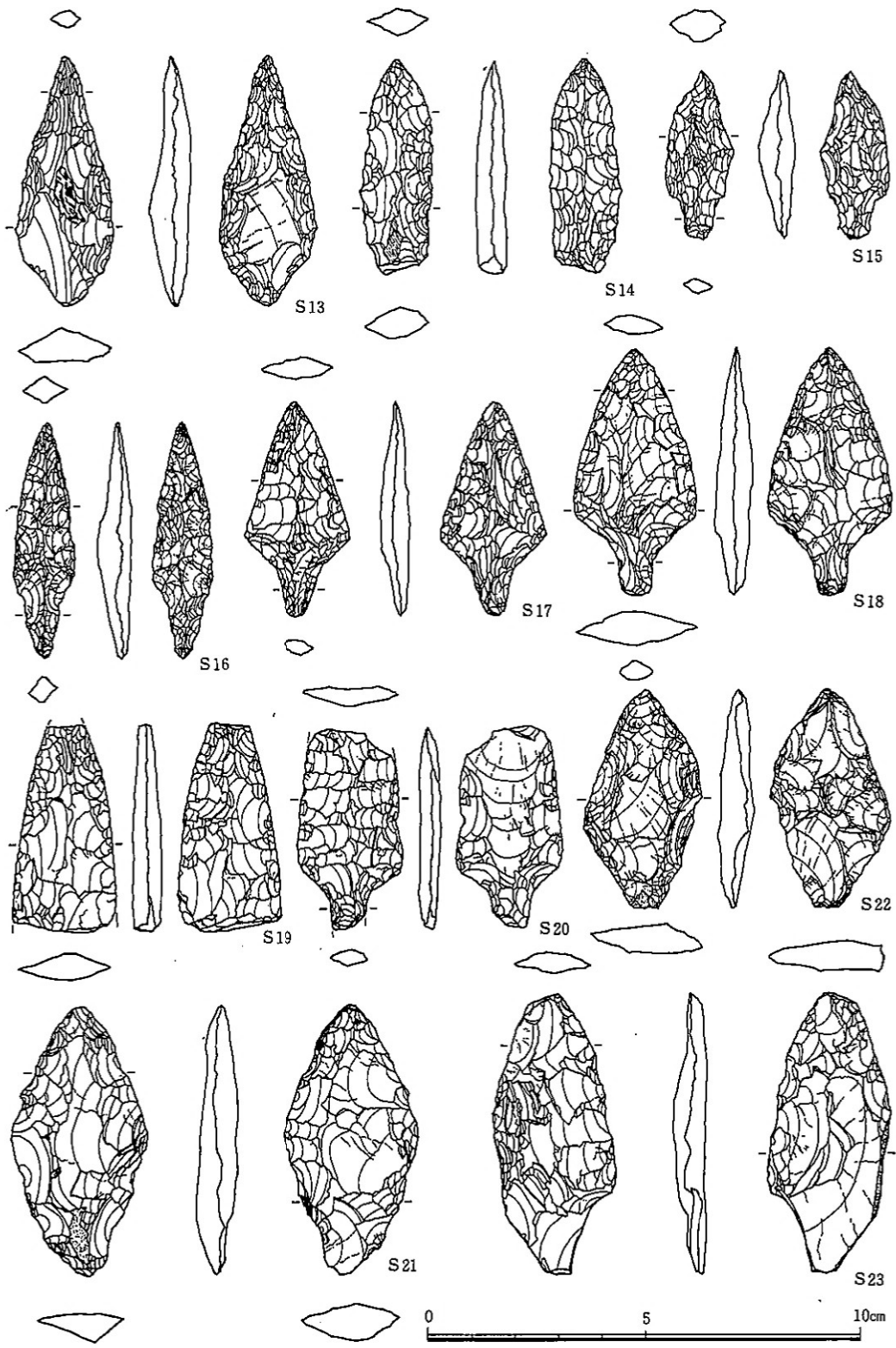


図4 Dトレンチ出土の石器(1)

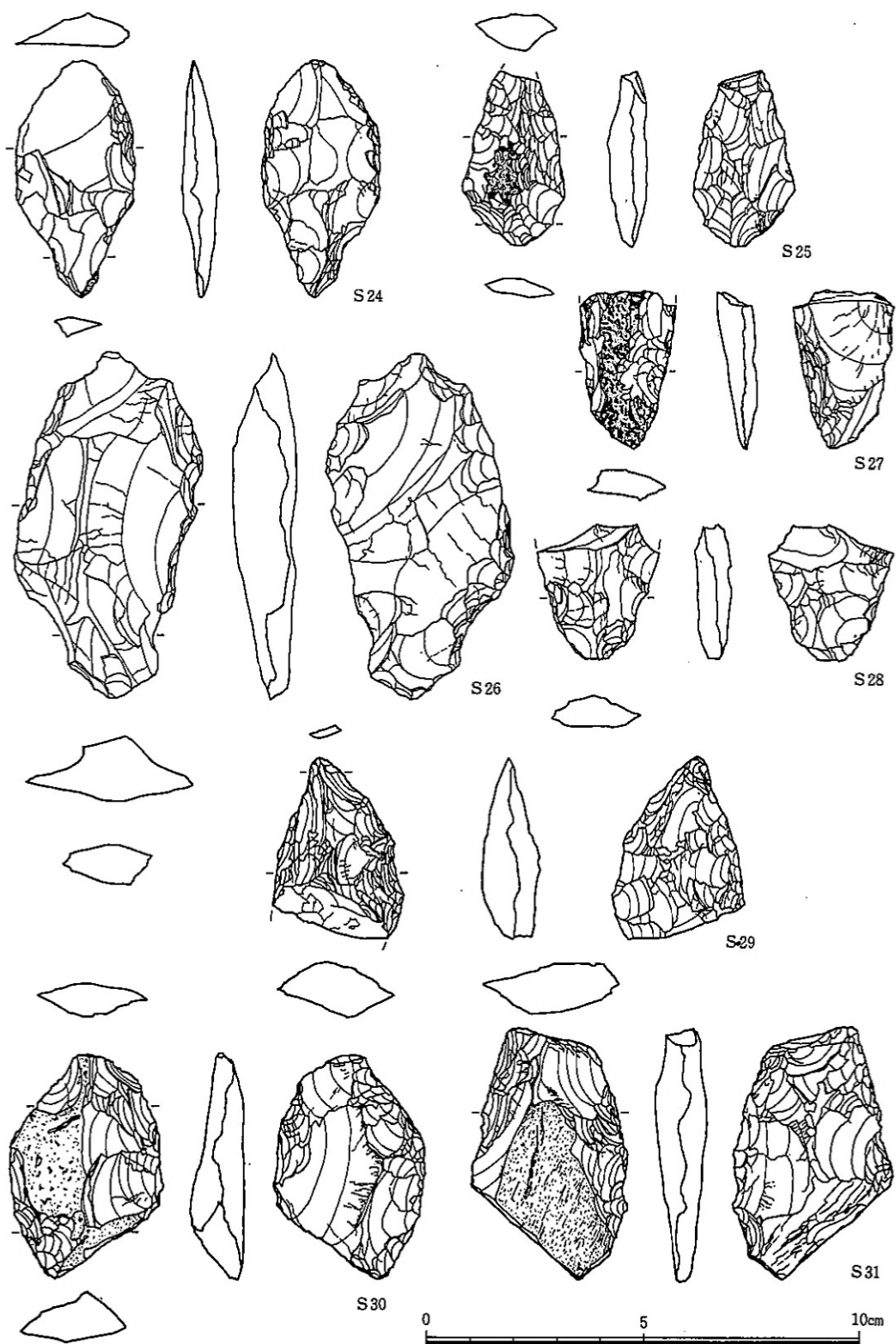


図5 Dトレンチ出土の石器(2)

S 18は有茎式石鏃で、D VII f1の2 青灰色粘土層大溝最下部出土。長さ58mm、幅29mm、厚さ8.2mm。茎挟り度の左右幾何平均は15%である。先行剝離面、主剝離面ともに残らない。自然面はない。刃部左縁は平形侵形両面細部調整、平形深形階段状表面細部調整、ごく浅い平形深形階段状細部調整を施す。刃部右縁は平形侵形両面細部調整、平形深形階段状表面細部調整、やや浅い平形深形階段状裏面細部調整を施す。茎左縁は薄形侵形表面細部調整と平形侵形裏面細部調整を施す。茎右縁は薄形侵形両面細部調整、ごく浅い薄形深形裏面細部調整を施す。ごくわずかであるが水磨している。

S 19はf-1の3・4 黒色シルト質粘土層出土。石鏃もしくは石槍、石剣の先端部片で、残存長48mm、残存幅23mm、厚さ6.8mm、左縁は平形侵形表面細部調整、一部に平形深形階段状表面細部調整、一部にごく浅い裏面深形細部調整、ごく浅い裏面深形細部調整を施す。右縁は平形侵形表面細部調整、一部階段状の平形侵形裏面細部調整、ごく浅い薄形深形表面細部調整、一部にごく浅い平形深形階段状細部調整を施す。最終段階の細部調整は右縁が後である。

S 20はD-2 出土の有茎式石鏃で先端部を欠失する。これは裏面中央へ先からはいる極めて長い平形侵形孤立細部調整によるもので、石鏃のもとの厚さを残している部分はない。残存長46mm、幅24mm、残存厚4.8mm。茎挟り度の左縁は17%である。茎は若干縁部を磨り落としているようである。

S 21はd-2の1 土壌1 黒色土層出土。尖基式もしくは有茎式石鏃の未製品で、長さ62mm、幅31mm、厚さ8.5mm。表面の基部よりに平坦な自然面が残る。左縁は平形侵形裏面細部調整を施し、右縁は薄形深形裏面細部調整と一部にやや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。また、左右縁ともに上半部に平形深形表面細部調整、下半部に厚形深形表面細部調整を施す。

S 22はe-1の3 黒色土出土。石鏃の未製品で、長さ50mm、幅26mm、厚さ8.0mm。主剝離面は残らない。表面基部の一番下に自然面が残る。左縁は平形侵形両面細部調整と平形深形表面細部調整を施し、右縁は薄形深形表面細部調整と平形侵形裏面細部調整を施す。

S 23はe-2の4 円形落込南側黒色土層出土。石鏃の未製品で、長さ64mm、幅27mm、厚さ6.6mm。先端面と左側面に自然面が残る。左縁は平形侵形表面細部調整と一部に平形深形階段状表面細部調整を施し、上部に平形から薄形の深形裏面細部調整を施す。右縁は部分的に階段状の平形侵形表面細部調整を施し、上部、中部に平形侵形裏面細部調整を施す。

S 24はD VII c3の4 高台1 上、黒色粘質土層出土。有茎式石鏃の未製品で、長さ55mm、幅27mm、厚さ8.4mm。基端右側面に自然面が残る。平面形はかなり整っている。左縁の細部調整は表面側は下半部にしか施していない。表面は部分的に階段状の平形侵形細部調整と一部に薄形深形細部調整を施し、裏面は平形侵形細部調整を施した後、下半部に薄形深形階段状細部調整、一部にごく浅い薄形深形階段状細部調整を施す。

S 25はD VII d2の4 高台4 上、黒色粘質土出土。尖基式石鏃の未製品。残存長40mm、幅24mm、厚さ8.8mm。表面中央に自然面を残す。左縁は平形侵形裏面細部調整、上部に薄形侵形表面細部

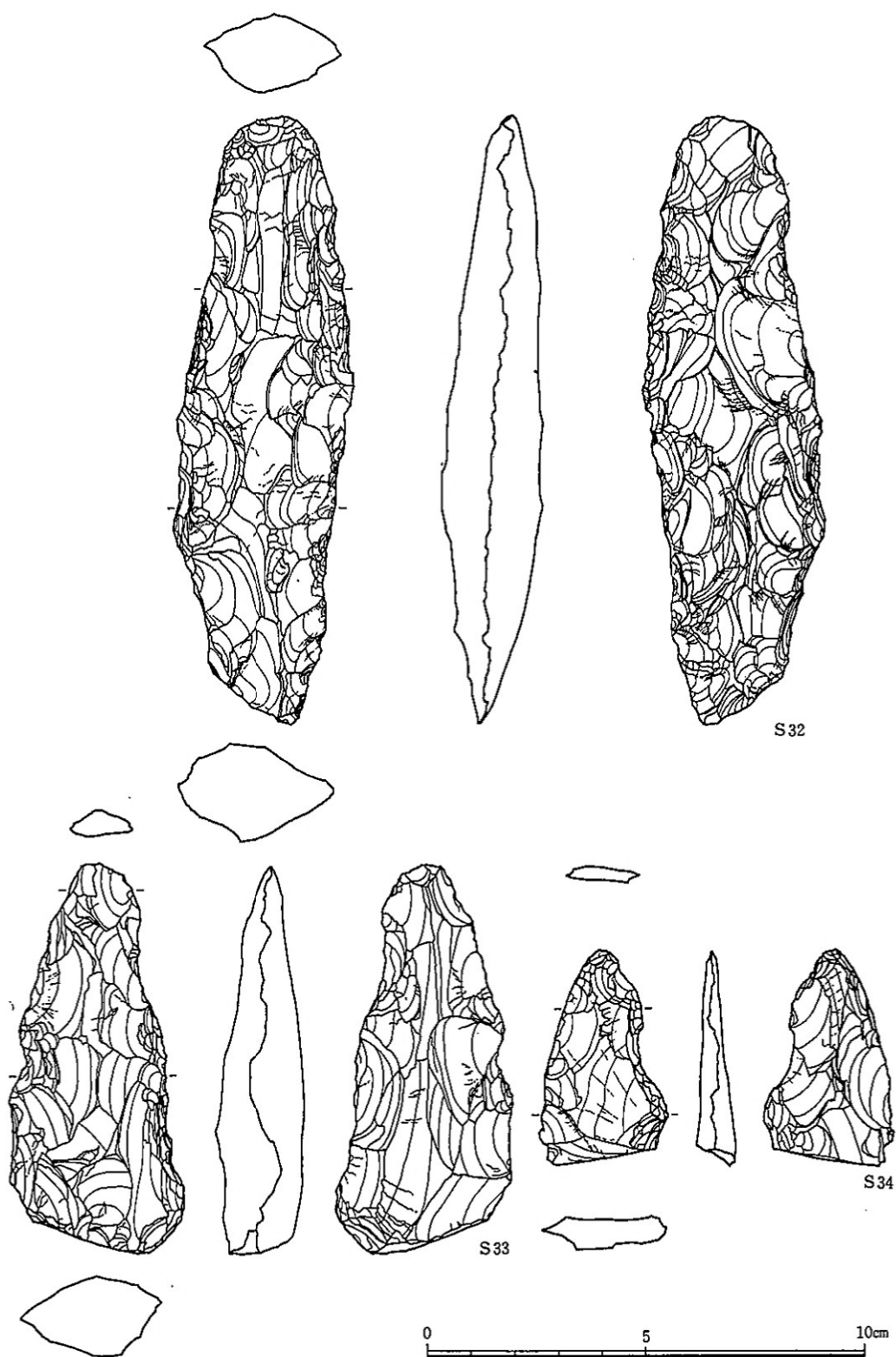


図6 Dトレンチ出土の石器(3)

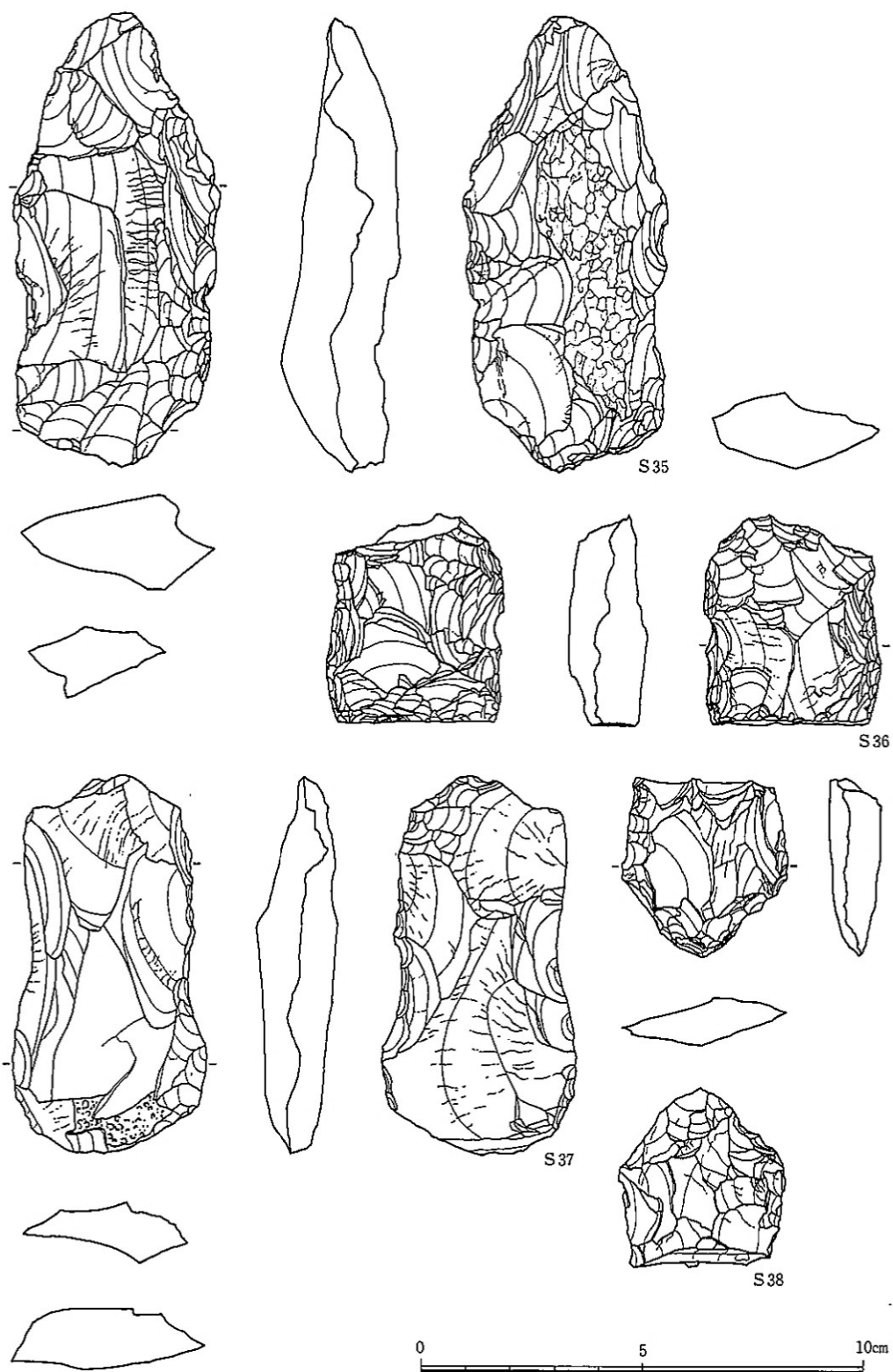


図7 Dトレンチ出土の石器(4)

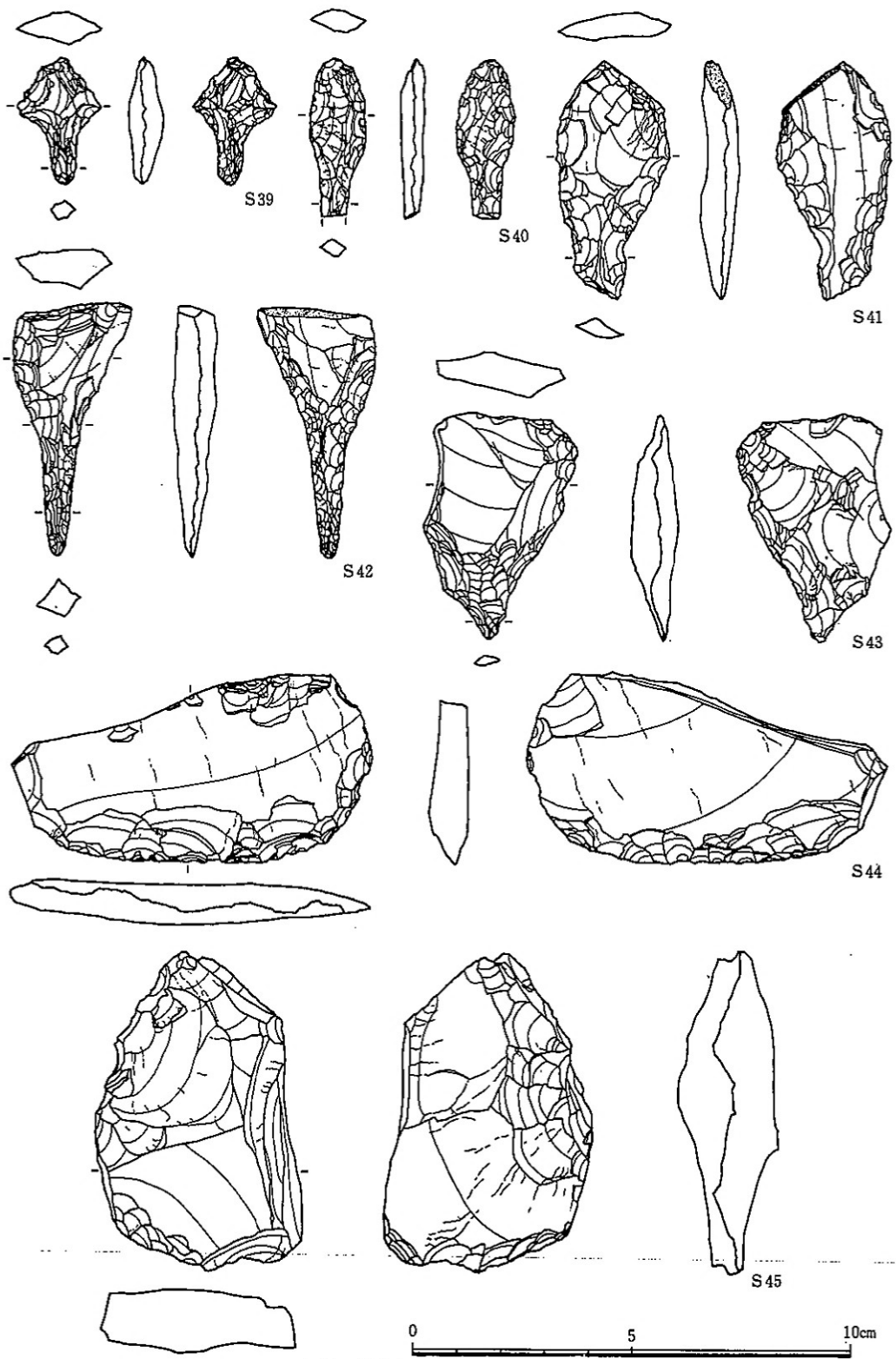


図8 Dトレンチ出土の石器(5)

調整を施す。右縁は平形侵形裏面細部調整、上部に一部階段状の薄形侵形表面細部調整、下部に薄形深形表面細部調整を施す。

S 26はD VII c3の4 高台 1 上、黒色粘質土層出土。有茎式石鏃の未製品。粗い細部調整を施すだけだが茎を作り出すものとも考えられる。長さ79mm、幅39mm、厚さ14.4mm。自然面はない。表面への細部調整は左右縁とも中央部のごく浅い厚形深形階段状細部調整ぐらいしかない。裏面細部調整は左縁上部に薄形深形からやや浅い厚形深形の細部調整、右縁上部に平形深形細部調整を施す。基部は裏面に左縁は薄形深形細部調整、ごく浅い薄形深形階段状細部調整を施し、右縁は厚形深形階段状細部調整を施す。基端部にやや浅い厚形深形裏面細部調整を施す。

S 27はe 1の1・2 井戸 1の東側黒色土層出土。石鏃か石槍の未製品の基部。残存長36mm、残存幅23mm、残存厚6.2mm。表面中央に自然面が残る。左縁に一部階段状の薄形深形表面細部調整を施し、右縁には平形侵形表面細部調整、やや浅い平形深形階段状裏面細部調整を施す。

S 28はD VII c3の4 高台 1 上、黒色粘質土層出土。石鏃か石槍の未製品の基部と思われる。残存長31mm、残存幅28mm、厚さ7.9mmで基端面に自然面が残る。左縁は平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、基部よりに薄形深形裏面細部調整を施す。右縁は平形侵形両面細部調整と一部にやや浅い薄形深形階段状細部調整を施す。細部調整は概ね左縁が後である。

S 29はD VII e1の1 S D - 3 淡黄色粗砂層出土。削器か。一端が折面となっている。最大長41mm、最大幅30mm、最大厚11.8mm。図上での左縁に薄形侵形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、一部にやや浅い平形深形階段状細部調整を施す。右縁は薄形侵形表面細部調整、平形深形裏面細部調整、薄形深形階段状表面細部調整を施す。

S 30はD - 2 全区第 7 面黒色粘土出土。石鏃の未製品か。長さ52mm、幅39mm、厚さ11.4mm。表面左斜面と基端右側面にかなり水磨した自然面を残す。左縁は平形深形裏面細部調整、上部に薄形深形表面孤立細部調整、下部に薄形深形表面細部調整を施す。右縁は平形侵形表面細部調整を施し、部分的に平形深形階段状表面細部調整と平形深形裏面細部調整を加える。

S 31はc 2 - 3、d 2 - 2 落込出土。石鏃の未製品か複刃削器。最大長60mm、最大幅36mm、最大厚11.7mm。基端の左に自然面が残る。左縁には平形侵形裏面細部調整、上部に薄形深形階段状表面細部調整とやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁は下部ほど浅い平形侵形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。

S 32はD VII d2の1、S D - 2 黒色砂混じり粘質土出土。石剣の未製品である。長さ138mm、幅39mm、厚さ22.4mm。ごろごろとした感じで、表面中央に先行剥離面が、裏面先端部に主剥離面が残る。右縁下部の中ほどの縁辺が潰れてなめらかになっている。左縁は薄形侵形両面細部調整と主に下半部にやや浅い厚形深形階段状裏面細部調整を施し、右縁は薄形両面細部調整と部分的な薄形深形階段状表面細部調整、薄形深形階段状裏面細部調整、部分的でやや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は面による優位はない。

S 33はD - 1 d - 10第 6 面黒色粘土層マウンド部内出土。石槍の未製品であると思われる。縁

辺は不規則なままである。長さ89mm、幅37mm、厚さ19.6mm。基端面に自然面を残す。左縁は薄形侵形両面細部調整、右縁は薄形侵形両面細部調整、薄形から厚形で一部階段状の深形裏面細部調整、下半部にやや厚い厚形深形表面細部調整を施す。表面に下から平形深形細部調整を施している。最終段階の細部調整は面による優位がない。

S34はd-2の1粘質土層下高まり3-1区盛土内出土。尖頭器未製品の先端部。残存長49mm、残存幅29mm、残存厚8.8mm。左縁は平形深形両面細部調整、右縁は平形侵形両面細部調整を施す。細部調整は右縁が後である。

S35はD-1 d-1第6面黒色粘土層出土。尖頭器の未製品または石核。流水の影響を受けて磨滅した剝片を素材とし、先端部と基部の一部に細部調整を施している。ごく一部の面は特に磨滅が著しい。長さ103mm、幅47mm、厚さ21.1mm。表面の中央部と基端面の一部に自然面が残る。左縁は薄形侵形表面細部調整、厚形深形表面細部調整を施し、右縁は薄形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整を施す。端面へ裏面からやや浅い極厚形深形階段状細部調整を施している。細部調整は裏面が後である。

S36は1 2-2 黒色砂質土層出土。石剣の未製品を再加工したものか。長さ47mm、幅39mm、厚さ16.8mm。自然面はない。裏面の右側に主剝離面が残る。上端は打点中央の表面ヨコタキオリであるが、裏面への細部調整によって切られている。左縁は平形侵形表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、一部階段状の薄形深形裏面細部調整、ごく浅い厚形深形階段状表面細部調整、やや浅い厚形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は平形侵形両面細部調整、やや浅い極厚形深形階段状裏面細部調整、一部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。基縁表面は、極厚形縁上に平形侵形細部調整、平形深形階段状細部調整、やや浅い平形深形階段状細部調整、ごく浅い平形深形階段状細部調整を施す。基縁裏面は平形深形階段状孤立細部調整で一部縁が潰れている。裏面に上から平形深形細部調整を施している。

S37はD-1 d-1第6面溝状遺構黒色粘土層出土。石剣の未製品の破損品か石核。表面の大半と裏面の一部が流水の影響を受けて磨滅している。表面で磨滅していないのは上部の面だけで、この面は折面の可能性がある。残存長85mm、幅44mm、厚さ17.5mm。細部調整はおおまかで、右縁は薄形から厚形の深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整を施し、右縁は平形侵形両面細部調整を施す。

S38はD-1全区黒色粘土上面出土。石剣の基部か。残存長41mm、幅38mm、厚さ11.4mm。左縁は一部階段状の平形侵形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、平形深形表面細部調整、平形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は薄形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、一部にやや浅い平形深形階段状裏面細部調整を施す。下縁には一部階段状の平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、一部階段状のごく浅い厚形深形表面細部調整、右側にごく浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。全体に丁寧に作りだしている。最終段階の細部調整は右縁が後である。

S39はD VII d2の2 高台4上、黒色砂混じり粘土出土の石錐である。石鏃とするには、石鏃と

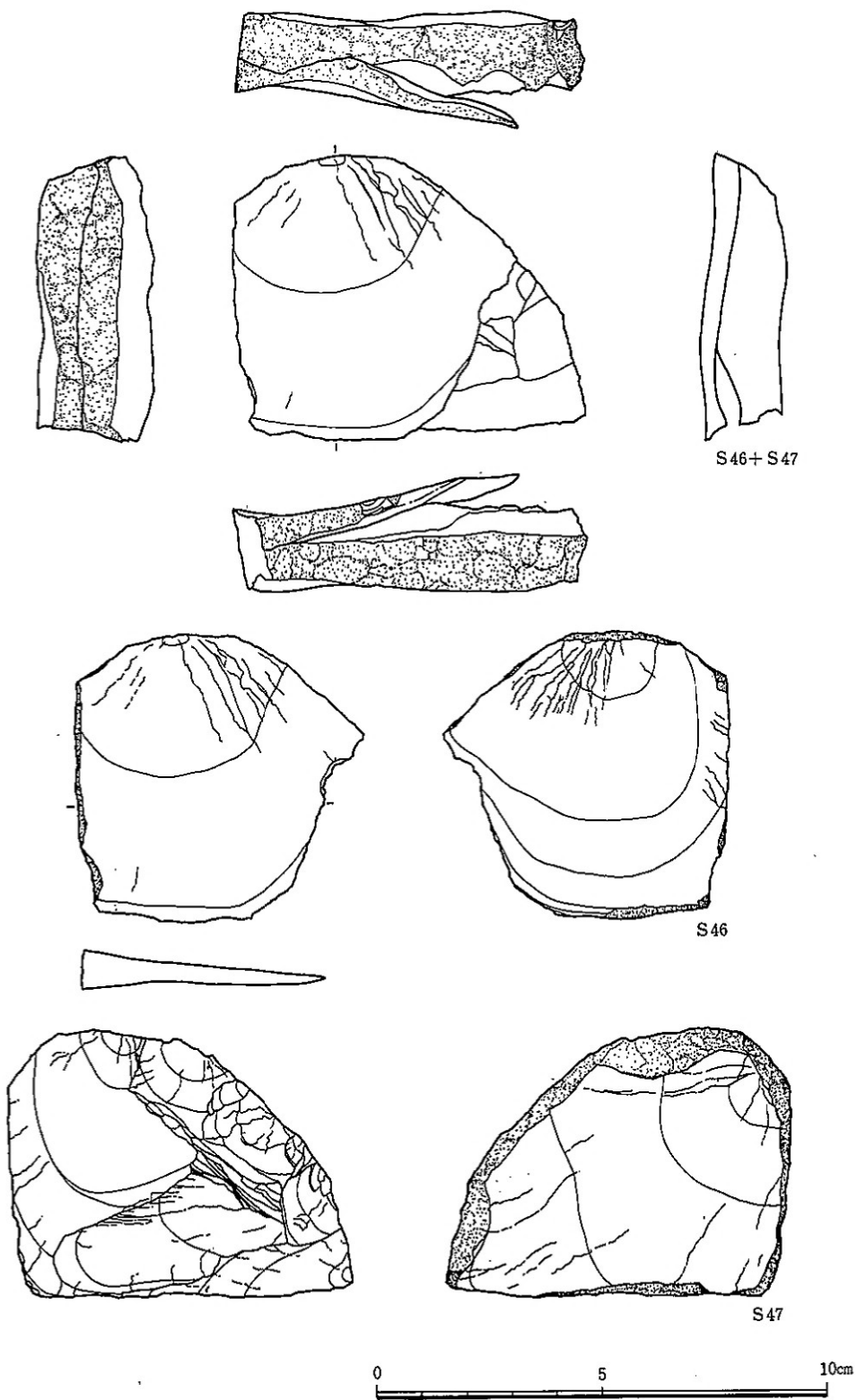


図9 Dトレンチ出土の石器(6)

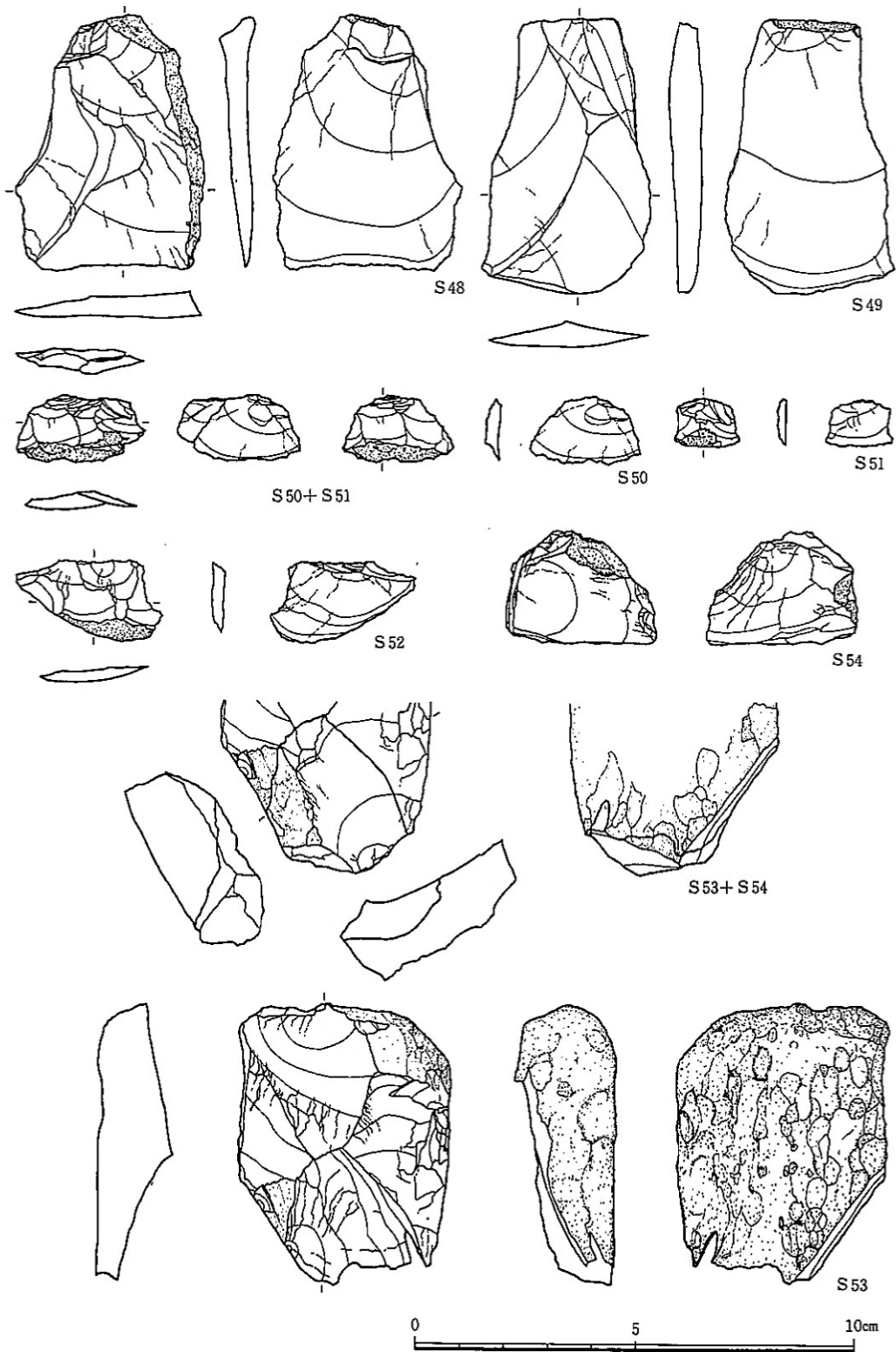


図10 Dトレンチ出土の石器(7)

したときに刃部にあたる部分の細部調整が急角度すぎる。長さ28mm、幅19mm、厚さ7.5mm。錐部は幅6.2mm、厚さ5.7mmで磨滅痕はない。自然面はない。裏面頭部に主剝離面が残る。頭部は左縁に一部階段状の平形侵形表面細部調整とやや浅い厚形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整と部分的にごく浅い薄形深形裏面細部調整を施し、右縁に平形侵形表面細部調整とやや浅い極厚形深形表面細部調整、平形深形裏面細部調整とやや浅い厚形深形裏面細部調整を施す。錐部には左縁に薄形侵形表面細部調整、一部にごく浅い厚形深形階段状表面細部調整、極厚形浅形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整を施す。右縁には薄形侵形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、ごく浅い極厚形深形階段状裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は全体的に表面側からである。

S40は石錐でD VIIe1の4高台6上、南落込黒色炭混じり有機質土層出土。主剝離面が頭部に小さく残る。頭部は上縁に平形侵形表面細部調整を施し、左縁に平形侵形表面細部調整、薄形深形裏面細部調整、一部にごく浅い薄形深形階段状細部調整を施す。頭部右縁は厚形深形表面細部調整、薄形深形裏面細部調整を施す。錐部は左縁に厚形深形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整を施し、右縁に薄形侵形表面細部調整、厚形深形裏面細部調整を施す。

S41はD-2e-3第7面土層7黒色粘土層出土。石錐の未製品か。長さ54mm、幅26mm、厚さ8.5mm。先行剝離面、主剝離面ともに残る。頭端面に平坦な自然面が残る。左縁は上部に平形深形表面細部調整、平形深形階段状裏面細部調整、中部にごく浅い平形深形裏面細部調整、下部に薄形侵形表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、平形深形裏面細部調整を施し、右縁は平形から薄形の深形表面細部調整、上部に薄形深形表面細部調整、中・下部に薄形侵形表面細部調整を施す。最終段階の細部調整は左縁は面による優位がないが、右縁は表面が後である。

S42はD-1第6面サマサイト溜り水洗捕集の石錐。長さ57mm、幅25mm、厚さ9.7mm。頭部に先行剝離面、主剝離面ともに残る。頭端面に平坦な自然面が残る。頭部上端の急角度の縁辺に薄い剝離が入り、現状では極厚形深形階段状表面細部調整になっている。頭部は左縁に薄形深形両面細部調整、右縁に厚形深形裏面細部調整を施す。錐部は左・右縁とも厚形侵形両面細部調整を施す。

S43はD VII f1の1黒色砂混じり粘土層出土。石錐か。特に錐部を厚く作り出しているという感じではない。長さ52mm、幅33mm、厚さ11.2mm。先行剝離面、主剝離面ともに残る。左縁は下半部に薄形深形表面細部調整、やや浅い厚形深形表面細部調整を施し、中・下部に平形侵形裏面細部調整を施す。右縁は平形侵形裏面細部調整、一部階段状の薄形深形裏面細部調整、上部に薄形深形表面細部調整、下部に一部階段状の薄形侵形表面細部調整を施す。微小な細部調整を除いて概ね裏面の細部調整が後である。錐部の磨滅は認められない。

S44はDe-2の2土層サンプル水洗選別。両面調整削器。少し水磨している。最大長82mm、最大幅42mm、最大厚8.3mm。先行剝離面、主剝離面ともに大きく残る。

S45はe-2の1青灰色粘土下黒色土層上面出土。石核か。表面の一部の面が水磨している。

最大長74mm、最大幅44mm、最大厚21.7mm。素材の打面の全体に自然面が残る。主剝離面は大きく残るが、クラックがあり2面に分かれている。石核であるとする、剝離作業面が2面でそれぞれから1枚ずつ剝離しているだけである。

図9に示したのは接合資料である。

S46、S47ともにD VII d2-3高台3上3区黒色砂混じり粘質土出土。S46は裏面が主剝離面だけから構成されており、剝離作業面再生剝片であろう。剝離角は110°。最大長87mm、最大幅65mm、最大厚16.4mm。先行剝離面にはS47を剝離した剝離痕をはじめ6つの大きな剝離痕が残るが、そのいずれもが石核から剝離し得る最大長の方向に打撃したものではない。それに対しS46は取り得る最大長方向に打撃している。石核としての打面は剝離作業面側からみると、1/4円形で86×16mmあり、自然面である。石核角は、S47剝離痕から右廻りに60°、80°、70°、75°、75°である。剝離順はこの順ではない。打撃による力が途中で先行剝離面側にぬけた剝離が3つ続きガタガタしてしまった剝離作業面を大きく取り去ったものと思われる。

S47は最大長67mm、最大幅59mm、最大厚9.0mm。打面は39×7mm。打面上に打撃痕が残る。バルブが発達しており、末端はヒンジフラクチャーぎみに終わる。打面、1側面、底面が自然面である。

S48、S49はS46、S47と同一母岩と考えられ、同じくD VII d2の3高台3上3区黒色砂混じり粘質土出土の剝片である。S48は最大長60mm、最大幅44mm、最大厚8.1mm。打面は自然面打面で、14×4mm、剝離角は90°である。末端はフェザーで終わる。主剝離面は平坦に近い面である。

S49は最大幅64mm、最大幅38mm、最大厚7.8mm。打面は自然面打面で、22×5mm。剝離角は110°である。末端はヒンジフラクチャーで終わる。主剝離面はかなり平坦な面である。

S50～S52はD VII e2の2黒色砂混じり粘質土出土の剝片で、いずれも細部調整時に生じた剝片であろう。S50とS51が接合する。

S50は最大長25mm、最大幅15mm、最大厚3.6mm。打面は剝離面打面で、6×2mm、剝離角は115°である。末端はフェザーで終わり、バルブが発達する。背面の1/4が自然面である。

S51は最大長15mm、最大幅11mm、最大厚2.3mm。打面は点状打面である。末端はフェザーで終わり、バルブは拡散する。背面の1/10ほどに自然面が残る。

S52は前2者と同一母岩と思われる。最大長35mm、最大幅19mm、最大厚3.7mm。打面は多面調整打面で25×4mm、末端はヒンジフラクチャーぎみのフェザーで終わり、バルブは拡散する。背面の1/5が自然面である。

S53、S54はD-2eの2、eの3第6面黒色土層上面T.P.+4.4m出土。

S53は薄形の石核で、最大長70mm、最大幅55mm、最大厚22.4mmである。素材は75×52×25mm程度の直方体に近い礫と考えられ、自然面は少し水磨し、突出部に小さな爪形がみられる。自然面は1端面、1側面、裏面全体、剝離作業面の一部に残存する。剝離作業面は1面で、打面は4つある。それらを図上、右まわりに上から順に打面1～打面4と呼ぶ。打面1はかなり凹凸のある

自然面打面で50×19mm。石核角80°。主な剥離は2回行っている。打面2は自然面打面で50×13mm、石核角70°だが良好な剥片は剥離できていない。打面3は剥離面打面で27×16mm、石核角65°。主な剥離は1回行っており、剥離痕末端はステップで終わる。打面4は剥離面打面で36×15mm。S54が剥離されており、石核角は60°。打面使用順は打面1→打面1→打面3→打面2、打面4である。

S54は最大長38mm、最大幅27mm、最大厚15.5mm。末端はヒンジフラクチャーを呈する。厚くて短い剥片で、この剥離失敗で石核を放棄したものであろう。

S55・S56はいずれもD VIIe1の1高台6上南落込黒色炭混じり有機質土層出土の剥片で、接合する。

S55は最大長38mm、最大幅23mm、最大厚3.1mm。剥離面打面で剥離角は130°。末端はフェザーで終わる。

S56は最大長38mm、最大幅14mm、最大厚2.3mm。剥離面打面であるが打面が小さく剥離角は不詳。末端はフェザーで終わる。

S57は石核でd-2の1高まり3-2区盛土内粘質土下出土。サヌカイト製であるがかなり風化しており、弥生時代の遺物でない可能性がある。最大長72mm、最大幅70mm、最大厚21mm。盤状剥片状の剥片の打面部を折り取り、うすい剥離4枚以上を石理方向に主剥離面に加え、素材側面側の面を剥離作業面にして3枚程度横に剥離する。側面を剥離作業面にしてネガ面を敲くのは郡家今城遺跡C地点のD23、G21に似る。ただし、これらでは1枚しか剥離していない。

S58はc-3の4黒色土層上面出土の石庖丁で緑色片岩製である。右側の破片である。紐孔あけは裏面からのほうが少し強い。線状痕はめだたず、敲打痕は残っていない。刃部には光沢があり、磨滅で少し凹む。

S59はD-1 d-1黒色粘土層出土の石庖丁で緑色片岩製である。紐孔はひとつ残存しており、紐ずれが観察できる。表面の紐孔の右と右下、裏面の中央部に敲打痕が残る。線状痕ははっきりしない。背潰れはかなり著しい。刃部も左の方が少し潰れる。潰れの凹部での距離は30.7mmである。左上の角も折面にかけて少し潰れている。

S60からS63は砥石である。

S60はDトレンチ0266出土。裏面は破断。4周を研磨しており、上面はきれいに磨滅している。全面に煤が付着。

S61はD1トレンチ1118出土。6面ともよく磨滅している。下面に煤が付着。砂岩製。

S62はDトレンチ0923出土。上・下面は破断。裏面は凹みがあり、裏面に煤が付着。砂岩製。

S63はDトレンチ0703出土。4周とも良く磨滅。表裏両面には打撃痕があり、全面に煤が付着。

Dトレンチでは剥片等が詰まったピットが2ヶ所検出されたが、包含層中にも剥片が集中して出土した部分があった。そのためピット内や集中部分の土を全部採集し、5mm、1mmのフルイを使用して水洗いによって小型遺物の選別をした。これらの遺物を水洗捕集による遺物と呼ぶ。集

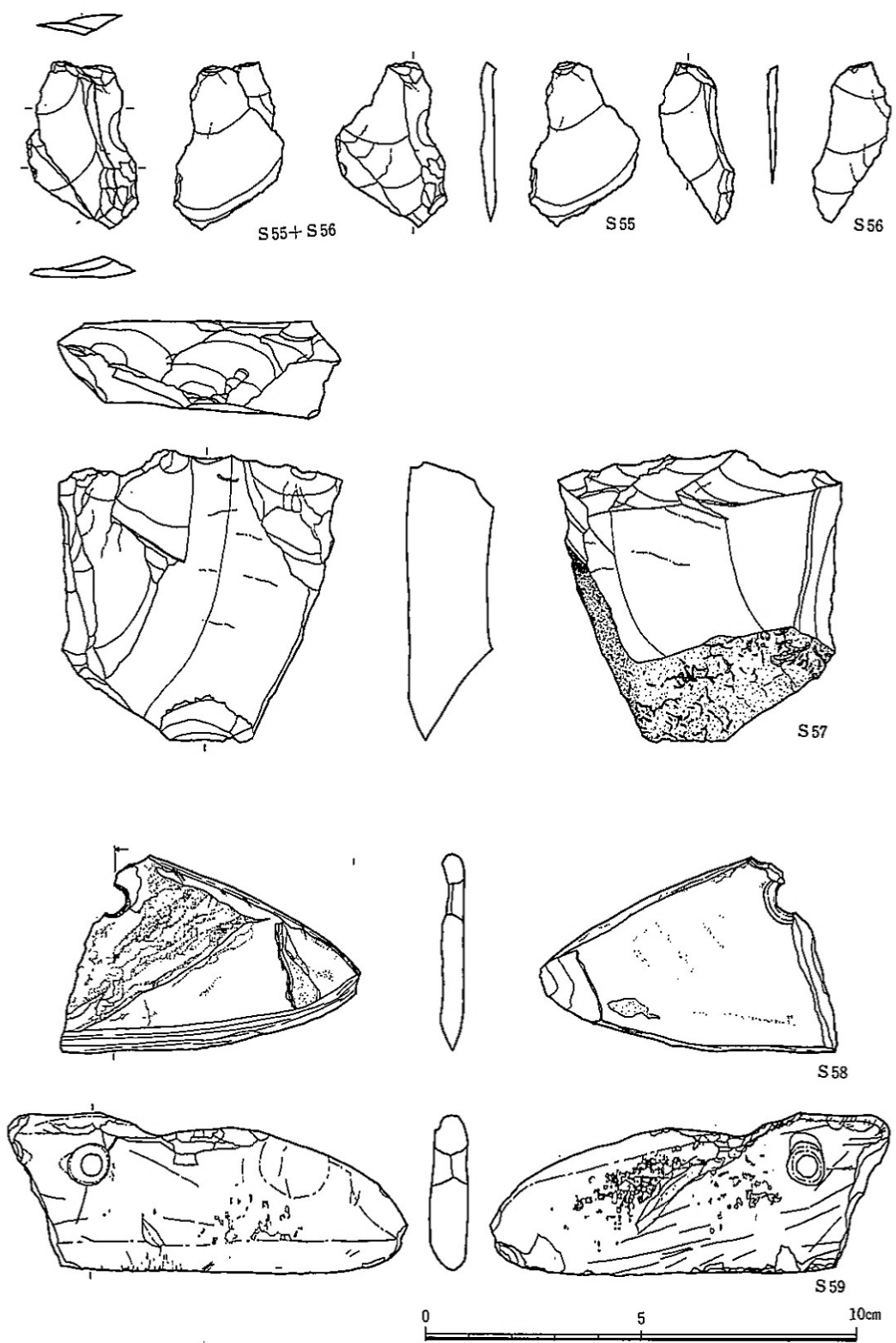


図11 Dトレンチ出土の石器(8)

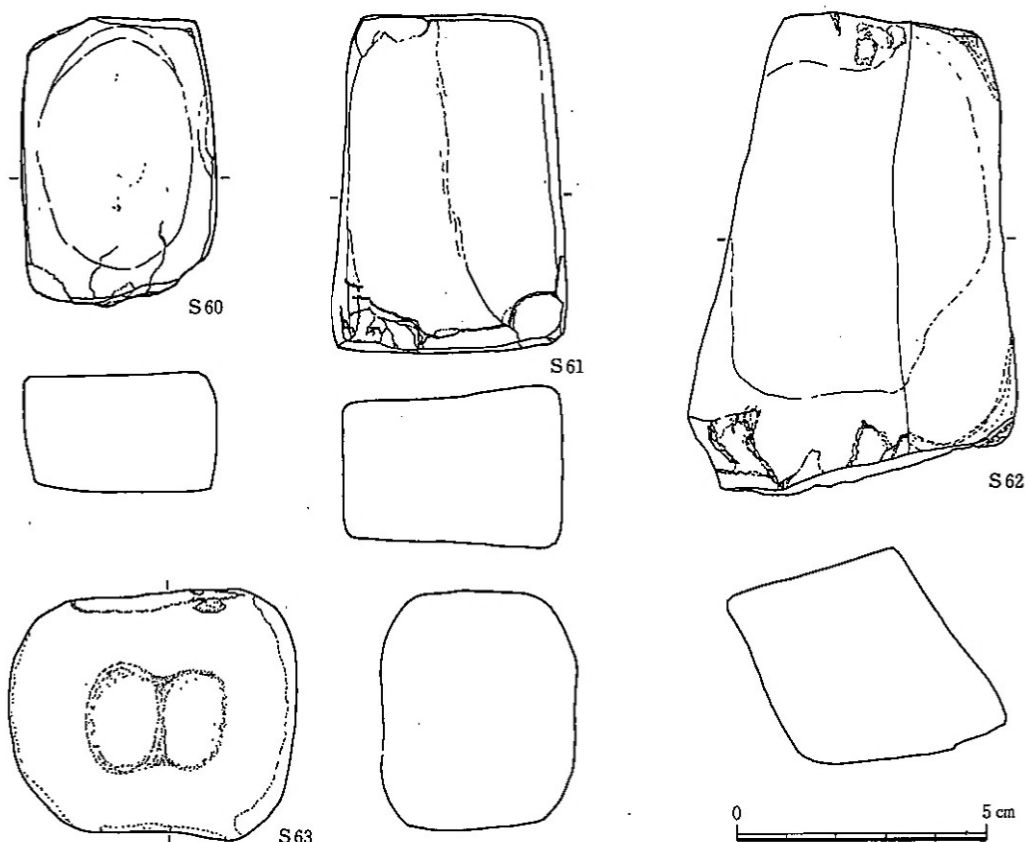


図12 Dトレンチ出土の石器(9)

中部分以外の包含層や他のピットについても対照資料としていくつかの部分の土を水洗いしたが、ごくわずかししか剥片を含まず、遺物相互の比較を可能にするほどの点数は得られなかった。

サヌカイト集積ピット1(以下ピット1と略す)は、D VII f1の4区にあり(X=-2454.65, Y=-8396.84)、上層と下層に分けて埋土が採集されている。サヌカイト集積ピット2(以下ピット2と略す)はD VII f1の2区にあり(X=-2454.53, Y=-8397.65)、ピット1から約82cm離れている。検出面はピット1よりも高い。ピット1、ピット2ともに内部は剥片等が詰まっている状態で、隙間を埋める程度にしか土を含んでいない。水洗捕集された遺物のうち石器以外のものには、小さな土器片、骨片、種子類があるが、種子類の量はピット1とピット2では異なり、検出面の差とあわせて、廃棄の時間差を示唆する。出土石器の内訳を表1に示す。ピット2からは石器ないし石器の未製品が出土しているのに対し、ピット1からは剥片しか出土していない。

図13にピット2出土の主な石器を示す。

S64は石鏃の未製品と思われる。長さ57mm、幅31mm、厚さ5.3mm。表面中央にやや内湾し、少し水磨した自然面が大きく残る。裏面には大きく主剝離面が残る。左縁は上部にやや浅い薄形深形表面細部調整、中部・下部にやや浅い平形深形表面細部調整を施し、上部から中部は打面部を切り取る平形深形裏面細部調整を施す。右縁は先端部に平形深形表面細部調整、上部から中部に

表1 サマカイト集積ピット出土遺物

	ピット1 上層	ピット1 下層	ピット1 計	ピット2	計
石鏃				1	1
石鏃未製品				2	2
石小刀未製品				1	1
15mm以上	6	7	13	74	87
剝片					
10~15mm	31	6	37	187	224
5~10mm	136	166	302	756	1058
5mm未満	750	962	1712	2910	4622
剝片計	923	1141	2064	3927	5991

表2 5mm以上の剝片の統計測定(各欄とも左上:平均、左下:変異係数、右上:最大値、右下:最小値)

	最大長	最大幅	最大厚	長幅比	長厚比	幅厚比
ピット1上層	8.1mm 61mm	5.1mm 55mm	0.96mm 10.8mm	1.76 5.0	10.10 35.0	5.93 16.7
173点	63.4% 5mm	89.3% 2mm	96.4% 0.2mm	32.4% 1.0	44.2% 3.8	38.0% 1.7
ピット1下層	7.3mm 29mm	4.5mm 24mm	0.96mm 4.0mm	1.81 6.0	8.60 25.0	5.12 10.0
179点	45.0% 5mm	57.1% 1mm	50.2% 0.2mm	40.9% 1.0	41.2% 2.9	40.7% 0.9
ピット1計	7.7mm 61mm	4.8mm 55mm	0.96mm 10.8mm	1.78 6.0	9.34 35.0	5.52 16.7
352点	56.2% 5mm	76.9% 1mm	76.6% 0.2mm	37.1% 1.0	43.8% 2.9	40.0% 0.9
ピット2	8.7mm 56mm	5.5mm 55mm	1.07mm 15.9mm	1.69 6.0	9.38 30.0	5.81 20.0
1017点	61.2% 5mm	70.5% 1mm	84.6% 0.2mm	32.2% 1.0	43.4% 2.8	43.5% 1.2

表3 ピット1上層

最大長 (mm)	最大幅 (mm)											計
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	
60~65											1	1
55~60												
50~55												
45~50												
40~45												
35~40												
30~35												
25~30					1							1
20~25			1	1								2
15~20		2										2
10~15	6	23	2									31
5~10	88	48										136
計	94	73	3	1	1						1	173

表4 ピット1下層

最大長 (mm)	最大幅 (mm)											計
	0 5	5 10	10 15	15 20	20 25	25 30	30 35	35 40	40 45	45 50	50 55	
60 ~ 60												
55 ~ 60												
50 ~ 55												
45 ~ 50												
40 ~ 45												
35 ~ 40												
30 ~ 35												
25 ~ 30					1							1
20 ~ 25		1	1	2								4
15 ~ 20		1	1									2
10 ~ 15		6										6
5 ~ 10	111	55										166
計	111	63	2	2	1							179

表5 ピット1全体

最大長 (mm)	最大幅 (mm)											計
	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
60 ~ 65											1	1
55 ~ 60												
50 ~ 55												
45 ~ 50												
40 ~ 45												
35 ~ 40												
30 ~ 35												
25 ~ 30					2							2
20 ~ 25		1	2	3								6
15 ~ 20		3	1									4
10 ~ 15	6	29	2									37
5 ~ 10	199	108										302
計	205	136	5	3	2						1	352

表6 ピット2

最大長 (mm)	最大幅 (mm)											計
	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
60 ~ 65												
55 ~ 60								1			1	2
50 ~ 55							1	2				3
45 ~ 50						1		1				2
40 ~ 45												
35 ~ 40						1						1
30 ~ 35				1		1						2
25 ~ 30		1	1	1	3							6
20 ~ 25		2	11	7								20
15 ~ 20	1	13	23	1								38
10 ~ 15	14	157	16									187
5 ~ 10	468	288										756
計	483	461	51	10	3	3	1	4			1	1017

表7 ピット1上層

幅厚比 長幅比	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	計	
	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0		
6.0 ~ 7.0																						1
5.0 ~ 6.0	1																					
4.0 ~ 5.0																						
3.0 ~ 4.0		2	1	3		1	1			2												10
2.0 ~ 3.0		2	7	13	8	9	2		2	1												44
1.0 ~ 2.0		2	11	22	25	21	11	15		8			1		1	1						118
計	1	6	19	38	33	31	14	15	2	11			1		1	1					173	

表8 ピット1下層

幅厚比 長幅比	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	計	
	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0		
6.0 ~ 7.0	2																					2
5.0 ~ 6.0	1																					1
4.0 ~ 5.0	1																					1
3.0 ~ 4.0		3	4	1																		8
2.0 ~ 3.0	4	6	12	15	5	7	4	1														56
1.0 ~ 2.0		3	20	25	24	13	7	9	5													111
計	8	12	36	41	29	20	11	10	5													179

表9 ピット1計

幅厚比 長幅比	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	計	
	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0		
6.0 ~ 7.0	2																					2
5.0 ~ 6.0	2																					2
4.0 ~ 5.0	1																					1
3.0 ~ 4.0		5	5	4		1	1			2												18
2.0 ~ 3.0	4	8	19	28	13	16	6	1	2	1												100
1.0 ~ 2.0		5	31	47	47	34	18	24	5	8			1		1	1						229
計	9	18	55	79	62	51	25	25	7	11			1		1	1					352	

表10 ピット2

幅厚比 長幅比	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	計	
	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0		
6.0 ~ 7.0		1	1																			2
5.0 ~ 6.0	2	1	1																			4
4.0 ~ 5.0																						
3.0 ~ 4.0	3	14	3	5	6	5	1			2												39
2.0 ~ 3.0	2	26	53	57	22	22	16	5	6	6		1										216
1.0 ~ 2.0	4	30	78	152	140	116	71	67	21	44	9	9	5	2	4	1				3	756	
計	11	72	136	214	198	143	88	72	27	52	9	10	5	2	4	1				3	1017	

表11 ピット1

背面 打面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)
自然面	5					1		6	16.7
剝離面	4		1					5	13.9
2面調整	1							1	2.8
多面調整	3		1					4	11.1
点状	10		3					13	36.1
欠損	6	1						7	19.4
計	29	1	5	0	0	1	0	36	
割合(%)	80.6	2.8	13.9			2.8			100.0

表12 ピット2

背面 打面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)	
自然面	5		4					2	11	5.1
剝離面	26	2	6	1	1			1	37	17.1
2面調整	6		1						7	3.2
多面調整	18	1	6					1	26	12.0
点状	59	2	8	1	1				71	32.7
欠損	37	3	11	4	7	1	2		65	30.0
計	151	8	36	6	9	1	6	217		
割合(%)	69.6	3.7	16.6	2.8	4.1	0.5	2.8		100.0	

表13 De-2の2土壤サンプル

背面 打面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)
自然面	9		1					10	5.6
剝離面	15		4		1			20	11.1
2面調整	1		1					2	1.1
多面調整	38	1	7				2	48	26.7
点状	32		5				1	38	21.1
欠損	42	1	12	1	2		4	62	34.4
計	137	2	30	1	3	0	7	180	
割合(%)	76.1	1.1	16.7	0.6	1.7		3.9		100.0

表14 D-1第6面サヌカイト溜り

背面 打面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)	
自然面	24	3	5	1	1			2	36	9.6
剝離面	25	1	11	1	1			1	40	10.7
2面調整	11								11	2.9
多面調整	47	2	12	2	1	1	4		69	18.4
点状	58	1	14	3		1	1		78	20.8
欠損	82	6	29	5	9	4	6		141	37.6
計	247	13	71	12	12	6	14	375		
割合(%)	65.9	3.5	18.9	3.2	3.2	1.6	3.7		100.0	

表15 剝片の末端の形状

資料体 末端形状	ピット1		ピット2	
	上層	下層	計	
フェザー	66.9%	69.6%	68.1%	64.4%
ステップ	30.8%	28.3%	29.6%	33.3%
ヒンジ	2.4%	2.2%	2.3%	2.3%

表16 剝片の残存部位別点数

		ピット1								
凡例	打面	2	0	2	21	16	2	22	167	
		4	3	0						
	表面	9	2	3	19					
左	右				80					
		ピット2								
	末端	1	1	3	18	56	18	51	570	
		2	3	5						
		14	8	23	16					
					228					

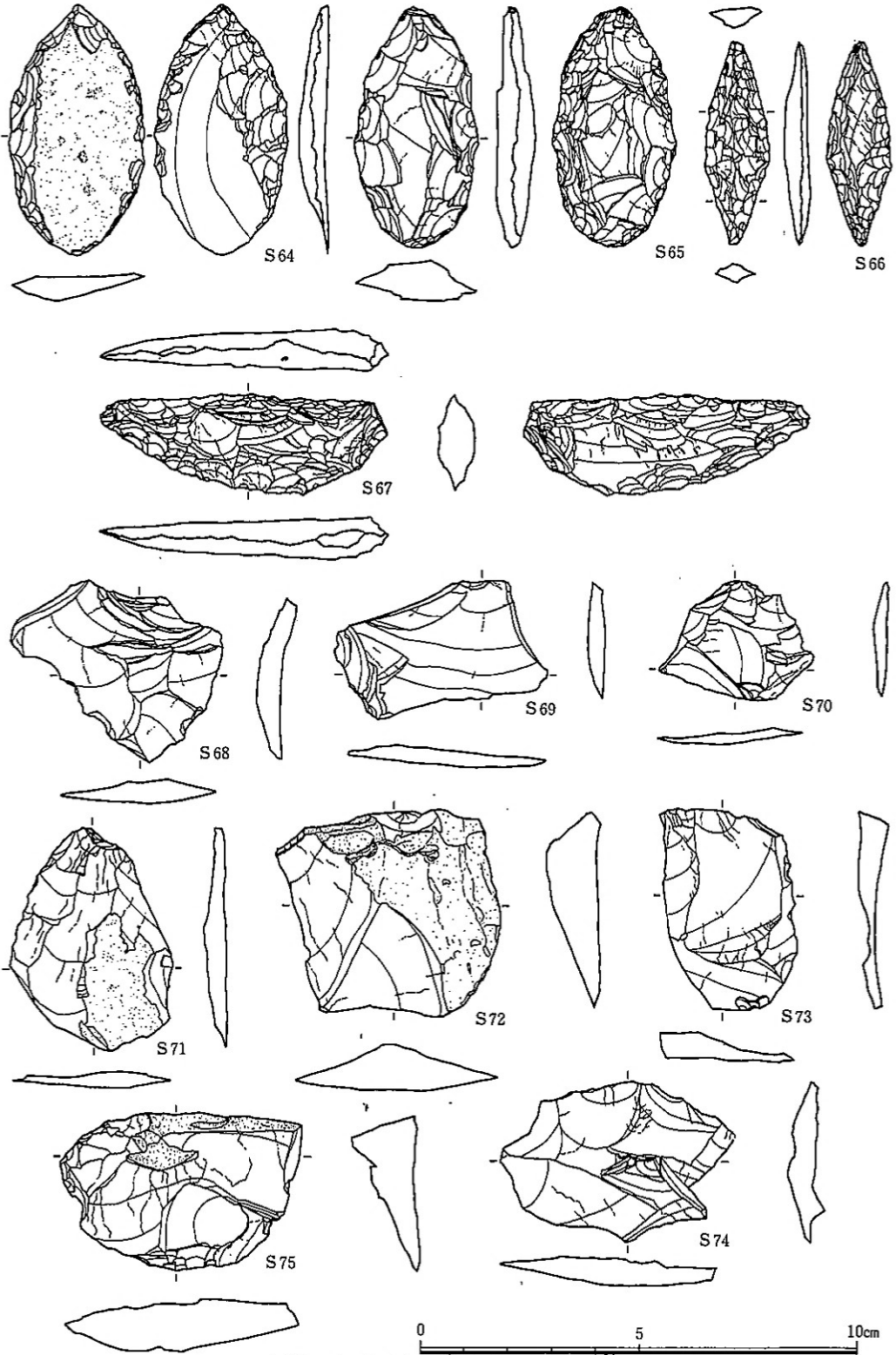


図13 サヌカイト集積ピット2出土の石器

平形深形両面非連続細部調整、下部にごく浅い薄形深形表面細部調整を施す。最終段階の細部調整は裏面が後である。素材の変形度は大きくないが、側面観はそれほど不規則ではない。

S 65は石鏃の未製品であろう。長さ54.7mm、幅28.4mm、厚さ8.3mm。頭端に小さく自然面が残る。先行剥離面、主剥離面ともに残る。左縁は平形深形階段状表面細部調整、薄形深形裏面細部調整を施す。右縁は薄形深形表面細部調整、平形深形階段状裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は左縁は裏面が後が多いが、右縁は面による優位がない。側面観は不規則である。

S 66は有茎式石鏃である。長さ46mm、幅14mm、厚さ5.6mm。先行剥離面が残るが、主剥離面は残らない。刃部左縁は平形深形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、薄形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。茎部左縁は平形侵形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は平形侵形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、薄形浅形表面細部調整を施す。茎部に磨り落としは認められない。最終段階の細部調整は刃部は右縁が後、茎部は表面が後が主となっているようである。

S 67は石小刀の未製品と考えられる。長さ65.9mm、幅22.2mm、厚さ8.8mm。基端部に自然面が残る。先行剥離面が残存しているかどうかは決めがたいが、主剥離面は残る。縁辺は不規則である。Ⅳ期に石小刀が存在することを証明する資料である。

S 68からS 75は剝片のうち最大長が3 cmを越えるものを示した。

S 68は最大長47.8mm、最大幅38.0mm、最大厚5.8mm。打面は22×3 mmの多面調整打面で、剝離角は115°。パルプが発達する。末端はフェザー。

S 69は最大長49.0mm、最大幅28.0mm、最大厚5.5mm。打面は41×4 mmの2面調整打面で、剝離角は135°。パルプはあまり発達しない。末端はフェザー。

S 70は最大長35.6mm、最大幅27.0mm、最大厚3.6mm。打面は口唇状を呈する剝離面打面で、6×2 mm、剝離角は155°。パルプは拡散する。末端はフェザー。

S 71は最大長51.0mm、最大幅35.6mm、最大厚5.3mm。背面の1/3に平坦な自然面を残す。打面は点状。末端はフェザー。

S 72は最大長56.6mm、最大幅54.2mm、最大厚12.1mm。背面の半分と打面全体に自然面が残る。打面は自然面打面で47×3 mm、剝離角は125°。末端はフェザー。

S 73は最大長50.0mm、最大幅30.8mm、最大厚9.3mm。側面の残存部分全体に自然面が残る。打面は欠損する。

S 74は最大長54.0mm、最大幅35.9mm、最大厚6.6mm。自然面はない。打面は多面調整打面で、26×2 mm、剝離角は105°。末端はステップ。

S 75は最大長56.0mm、最大幅36.7mm、最大厚15.5mm。打面は自然面打面で、37×16mm、剝離角は70°。末端はフェザー。

次いで剝片全体について検討する。剝片はピット1に2064点、ピット2に3927点ある。剝片の

大きさ別の割合をみるとピット1は上層より下層の方が小さな剥片が多くなっている。これは統計測度(表2)をみても明らかである。ピット1下層は大型の剥片が少なく、法量の最大値が上層と比べて小さくなっている。

長さとの幅の相関表を表3~6に示す。形をみるために長幅比と幅厚比で相関表を作成する(表7~10)。ピット1の上層と下層では長幅比の差はないが、幅厚比にみるように上層の方が薄いものが多い。ピット1とピット2の間には差がみられない。

最大長10mm以上で判断が可能である剥片を、打面の種類と背面の構成で分類し計数する(表11、12)。ピット1を上層と下層に分けると資料数が充分ではないので、全体をひとつとしてピット2と比較する。打面の分類は、自然面打面、剝離面打面、2面調整打面、多面調整打面、点状打面、打面欠損の5種類に分類した。打面欠損率はピット1が19.4%、ピット2が30.0%で、ピット2の剥片の方が打面を欠損しているものが多い。背面構成は、大分県岩戸遺跡の報告に準じて主剝離の方向との関係から、7種類に分類した。ピット2の方が多様な背面構成をしている。

剥片の末端の形状はフェザー、ヒンジ、ステップの3分類を行った。末端の分類はかなり主観的なもので特に資料が小さいと判断が困難になる。判断が可能であったもののなかでの割合は、表15ようになる。ピット1の上層下層、ピット2で差は認められない。いずれもわずかのヒンジフラクチャーの剥片を含むが、残りは約3分の1がステップ、約3分の2がフェザーである。

自然面を持つ剥片の割合はピット1で9.9%、ピット2で13.2%である。微小な剥片が多く、観察が困難なことを考えると大差ないと判断すべきであろう。

最大長5mm以上の剥片の残存部位別の点数について表16に示す。完形のもの割合は、ピット1が47.4%、ピット2が56.0%である。打面側と判断した剥片が少ないのは、打面部の破片か、ステップエンドの剥片かの判断が難しく、多くをステップの剥片と認定したためである。認定上の誤差を評価するために剥片の左右について検討する。表面を手前、打面側を上にした時の左側の破片が104点、右側の破片が109点であり、左右に関しては認定はかなり正確であろう。

包含層の剥片集中心部分については2群の資料が得られている。一方はD1トレンチ井戸2上層の資料で焼土や土器片とともに剥片等が出土したものである。これを資料3と呼ぶ。今一方はD1トレンチで検出したもので、資料4と呼ぶ。資料3は842点、資料4は1648点である。資料3、資料4ともに石器を含む部分の土を確実に全量採集しているとはいえない。また水洗い後の遺物捕集を非熟練者が行ったために、ごく小さな遺物については捕集もれがあるようである。これは、最大長5mm未満の剥片がピット1では1712点、ピット2では2910点得られているのに対し、資料3では395点、資料4は226点しか得られていないところから推察される。打面と背面別の点数を表13、表14に示す。

ピット1、ピット2はいずれも細部調整によって生じた剥片等を捨てるために掘られたものと考えられる。ただし、ピット1には剥片だけが捨てられているのに対し、ピット2には、細部調整の対象となった素材剥片や未製品も捨てられているという差が認められる。ピット2の剥片の

背面構成が多様であるのは、ピット1と比べて大型の剥片を多く含んでいるためと考えられる。

〔参考文献〕

- 芹沢 長介編 1978 『岩戸』
富成哲也・大船孝弘 1978 『郡家今城遺跡発掘調査報告書—旧石器時代遺構の調査—』
森本 晋 1983 「喜志遺跡' 80—3 区の石器」 (『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要・VI』 pp.31—46)